RZ550e / RZ500e / RZ350e

取扱説明書

車を運転する前の準備	車を運転する前に知っておいていただきたいこと	1
車を運転するときに知ってほしいこと	車を運転するときの基本的な操作	2
時間帯や天候に合わせた運転と装備	周囲が暗くなったときや雨天、寒冷時の運転	3
快適装備と便利な室内装備の使いかた	エアコンや便利な室内装備の使いかた	4
メーター／ディスプレイの機能と表示される情報	走行に関する情報を表示する計器類の見方	5
安全運転を支援する機能	安全運転支援機能や SRS エアバッグの設定	6
通信で安心、快適、便利を支援するしくみ	通信による安心、快適／便利なサービス	7
車のお手入れ	車のお手入れ／メンテナンスの方法	8
困ったときの対処方法	故障したときや、緊急時などの対処	9
車の仕様、諸元、装備	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報	10
さくいん	アルファベット順で検索 五十音順で検索	

はじめに

はじめに 8
イラスト目次 11

1 車を運転する前の準備

1-1. 専用のフロアマットを正しく使う

専用のフロアマットを正しく使う 22

1-2. EV システムについて知っておいてほしいこと

EV システムの特徴 24
EV システムの注意 27
電気自動車運転のアドバイス ... 32
走行可能距離 34

1-3. EV システムの充電

充電に関する装備について 35
普通充電ケーブルについて 39
普通充電コネクターのロック・アンロック 43
接続可能な外部電源について ... 45
充電方法について 49
充電に関するアドバイス 52
充電の前に知っておいていただきたいこと 54
普通充電のしかた 58
急速充電・V2H 充電／V2H 給電のしかた 66
タイマー充電機能を使う 72
バッテリープレコンディショニングを使う 80
マイルームモードを使う 85

1-4. EV システムの外部給電

DC 外部給電システムについて 87
DC 外部給電システムの使い方 88
AC 外部給電システムについて 96

1-5. 日常点検整備

日常点検整備の目的 108

1-6. 子どもを乗せて安全にドライブするための準備

子どもを車に乗せる 109
子どもにあったチャイルドシートを選んで取りつける 110

1-7. 車に乗る／降りる

キーの種類 124
スマートエントリー＆スタートシステム 128
デジタルキー 133
ドアの開閉 136
ドアのロック／ロック解除 140
イモビライザーシステム 144
オートアラーム 145
窓の開閉 151

1-8. 荷物を積む

車両への荷物の積み込み 155

1-9. 正しい運転姿勢をとる

シートの調整 175
シートベルトの着用 179
ハンドルとミラーの位置調整 . 182

2 車を運転するときに知ってほしいこと

2-1. EV システムの始動と停止

EV システムの始動 194
EV システムを停止 198

2-2. 運転のしかた

安全に走行するには 199
シフトポジションの使用目的 . 202
シフトポジションを切りかえる 203
インタラクティブマニュアルドライブについて（RZ550e） 208
車を発進する 211
車両の運動状態を音で運転者へ伝える 212

右左折や車線変更するときの操作 213
回生ブレーキ力の切りかえ 215

2-3. 車の停めかた
車を停めるときに確認すること 216
停車する 217
駐車する 218

3 時間帯や天候に合わせた運転と装備

3-1. 周囲が暗いときの運転
ヘッドランプの使用 224
自動的にロービームとハイビームを切りかえる 229

3-2. 日差しやランプがまぶしいときの運転
サンバイザーを使う 238
インナーミラーのまぶしさを軽減させる（自動防眩タイプ装着車） 239
デジタルインナーミラーのまぶしさを軽減させる（鏡面ミラーモード） 240

3-3. 雨の日の運転
雨の日の運転の注意 241
雨の日の視界の確保 242

3-4. ウィンドウやミラーが曇ったときの運転
フロントウインドウガラスの曇りを取る 247
リヤウィンドウの曇りを取る . 248
ドアミラーの水滴や霜を取る . 249

3-5. 寒冷時の運転
寒くなる前の準備 250
寒冷時の運転で知っておくこと 252

3-6. 霧や山道で見通しが悪いときの運転
マルチウェザーライトの点灯 . 254
リヤフォグランプの点灯 256
ホーン（警音器）を鳴らす 258

3-7. 走行特性を切りかえる
走行モードの機能 259
走行モードを切りかえる 261

3-8. 一時的にブレーキが保持される
ブレーキホールド 262

4 快適装備と便利な室内装備の使いかた

4-1. お好み設定
マイセッティング 266

4-2. ドライビングポジションを登録する
運転席への乗り降りをしやすくする（パワーイージーアクセスシステム） 268
ドライビングポジションの登録／呼び出し／解除 269

4-3. 車内の温度／環境を調整する
室内環境を自動で調整する（レクサスクライメイトコンシェルジュ） 273
エアコンの使い方 274
ステアリングヒーターのはたらき 283
シートヒーター／輻射ヒーターのはたらき 284
シートベンチレーターのはたらき 286
調光パノラマルーフの使い方 . 287

4-4. 室内を明るくする
室内灯の使い方 292

4-5. 室内の装備を使う
収納装備の位置 296
室内の快適性をさらに向上させるための装備 301
アクセサリーコンセント（AC100V 1500W）・非常時給電システム 313

4-6. ラゲージルームの使いかた
デッキフックを使う 323

ネットフックを使う.....324
買い物フックを使う.....325
デッキボード 326
トノカバーを収納する.....328

5 メーター／ディスプレイの機能と表示される情報

5-1. メーターの機能と表示

警告灯／表示灯 332
計器類の見方 338

5-2. ディスプレイの機能と表示

マルチインフォメーションディスプレイの表示.....343
ヘッドアップディスプレイの表示 345
ディスプレイの表示内容.....347

5-3. ディスプレイの表示設定を変更する

インストルメントパネル照明の明るさを調整する.....355
ヘッドアップディスプレイの設定を変更する 356

6 安全運転を支援する機能

6-1. 安全運転サポート機能の特徴

運転を補助する装置の一覧....360
ソフトウェアアップデートを確認する（Lexus Safety System +／アドバンスト ドライブ[渋滞時支援]） 367
Lexus Safety System + ...370
運転者の状態をカメラで検知して自動的に注意喚起する..380

6-2. 安全運転サポート機能を使う

衝突する前に注意を促してブレーキを掛ける 382
車線内中央の走行維持のハンドル操作を支援する.....393
車線変更するときのハンドル操作を支援する 398
車線からのはみ出しを警告で防ぐ 402
作動対象に近づきすぎないようにブレーキやハンドルの操作を支援する 407
低速時に交差点などで交差する車を検知して音と画面で知らせる 413
自車の発進が遅れていることを知らせる 416
標識の見逃し防止をサポートする 418
最適な車間距離を保って追従走行する 422
一定の車速で走行する.....433
運転者の異常時に自動的に車線内で自車を停車させる.....438
高速道路／自動車専用道路の渋滞時に運転をサポートする 441
後方にいる車両を検知して車線変更を支援する.....446
後方にいる作動対象を検知して音や画面で知らせたりドアの開放をキャンセルしたりして安全な降車を支援する 452
低速時に障害物との接近を検知して音と画面で知らせる..458
低速時に後方の接近車両を検知して音と画面で知らせる..467
低速時に後方歩行者の接近を検知して音と画面で知らせる 474
低速時に障害物との接近を検知してブレーキをかける.....479
Advanced Park メインスイッチを押して駐車操作を支援する 492
後方にいる車両の接近を知らせる 530
至近距離の後方車両を検知して対処法を提案する.....533
接近している後方車両へ注意をうながす 537

停車中に追突の可能性が非常に高い場合にブレーキをかける 540
プラスサポートを使用する（販売店装着オプション） 543
急なアクセル操作による加速の抑制（販売店装着オプション） 546
交差点で右折時に対向車を検知して音と画面で知らせる（販売店装着オプション） ... 549
アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、EV システム出力を抑制する 550
急発進および後退速度を抑制する 551

6-3. 事故による乗員の被害を少なくする
事故の衝撃から乗員を守る 552

7 通信で安心、快適、便利を支援するしくみ

7-1. ITS Connect
ITS Connect の概要 562
ITS Connect アイコンの見方 565
ITS Connect 割り込み表示による通知／案内／注意喚起 .. 566

8 車のお手入れ

8-1. 外装のお手入れ
洗車 574

8-2. マットクリア塗装のお手入れ
マットクリア塗装の概要（マットクリア塗装設定車） 581
マットクリア塗装の洗車のしかた（マットクリア塗装設定車） 586
マットクリア塗装のよくあるご質問（マットクリア塗装設定車） 588

8-3. 内装のお手入れ
室内を清掃する 591
合成皮革部分のお手入れをする 593

8-4. 消耗品の点検
ボンネットを開ける..... 594
ウォッシャー液を補充する 596
エアコンフィルターのお手入れ 597

8-5. タイヤのメンテナンス
タイヤのメンテナンス..... 601
タイヤの点検項目..... 602
タイヤ空気圧警報システムのはたらき 604
タイヤ空気圧の点検..... 613
ガレージジャッキを使ったジャッキアップ 615
タイヤをローテーションする . 617
タイヤの交換 618

9 困ったときの対処方法

9-1. 走行中のトラブルに対応する
走行中にトラブルが発生したときの対応 629

9-2. メーターに警告灯が点灯／点滅または警告メッセージが表示された
警告灯が点灯／点滅した 634
ディスプレイに警告メッセージが表示された 644

9-3. EV システムが始動できない
EV システムの正しい始動方法に従っても始動できない..... 663
室内灯やヘッドランプが暗く EV システムが始動できない 665
室内灯やヘッドランプが点灯せず EV システムが始動できない 671
ホーンの音が小さく EV システムが始動できない..... 672
ホーンの音が鳴らず EV システムが始動できない..... 673

9-4. タイヤがパンクした

タイヤパンク応急修理キットでの補修方法 674

9-5. ドアが開かない、ロックできない

キーをなくした 685

電子キーを使ってドア／窓を操作できない 686

ドア開スイッチでドアを開けることができない.....693

リヤドアが内側から開けられない 696

バックドアが開かない.....697

9-6. 正常に EV システムが使用できない

充電リッドが開かない.....698

正常に充電できないとき 699

正常に急速充電・V2H 充電／V2H 給電できない.....701

充電インレットから充電コネクターが抜けない.....704

普通充電ケーブルのコントロールユニット上のインジケーターが点灯・点滅した.....706

タイマー充電機能が正常に作動しない 707

9-7. EV システムの外部給電が使用できない

DC 外部給電システムが正常に作動しないときは.....709

正常に AC 外部給電できないときは 711

9-8. 正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは

正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは.....713

9-9. 室内装備の表示灯が点灯または点滅した

おくだけ充電®（ワイヤレス充電器）の充電トレイ上の作動表示灯が点滅した.....716

9-10. 車を移動できないとき

EV システム警告メッセージが表示され、車が動かない.....718

トランスミッションから異常な音がする 719

レッカー車を使用したけん引 .720

車両運搬車を使用する.....723

他車を使用したけん引.....724

ぬかるみや砂地、雪道から抜け出す 729

9-11. 販売店に連絡する前にチェックしてほしいこと

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない 730

パワースイッチが自動的に OFF になった.....731

オーバーヒートした.....732

電装品が使えない、スイッチを押しても動かない.....735

点灯しないライトがある.....736

9-12. 災害時に車中泊避難する

車中泊が必要なときは.....739

10 車の仕様、諸元、装備

10-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（オイル量など）.....742

10-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能概要 746

設定変更方法 747

車両カスタマイズ設定一覧 748

10-3. 初期設定

初期設定が必要な項目.....768

10-4. フリー／オープンソースソフトウェア
フリー／オープンソースソフトウェア情報 769
補足 770
さくいん 776

はじめに

本書に掲載している情報

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

■ 本文の記号の意味

各記号とその意味は次のとおりです。

-  警告

  お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

-  注意

  お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

- 1 2 3… 手順番号

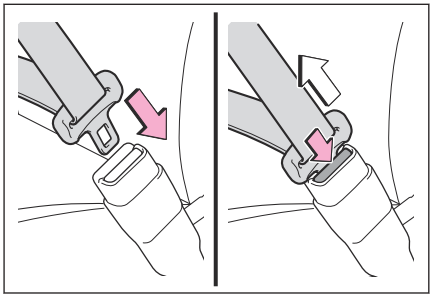
  操作／作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

-  知識

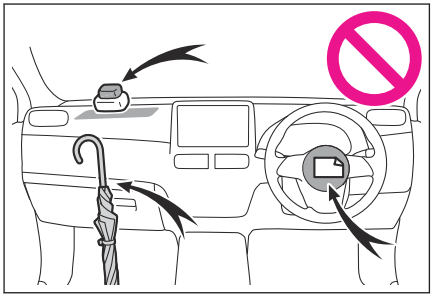
  機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

■ イラスト上の記号の意味

各記号とその意味は次のとおりです。



- 押す、まわすなど、していただきたい操作を示しています。
- フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



- 説明の対象となるもの／場所を示しています。
- してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

安全なドライブのために

⚠ 警告

- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節といった運転から注意がそれることをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

⚠ 警告

- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者といった周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

G-Link によるデータの取り扱い

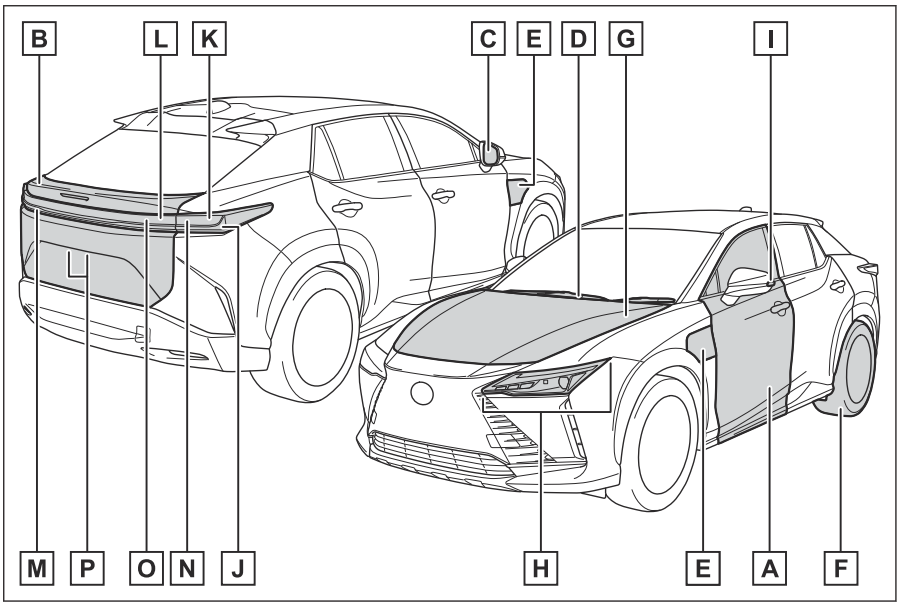
お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イラスト目次

外観

知識

走行に関わる外装のランプバルブ（交換方法：→P.738）



A **ドア** **P.136**
ロック／ロック解除 P.140
ドアの開閉 P.136
ドアガラスの開閉 P.151
メカニカルキーでのロック／ロック解除 P.688
警告メッセージ P.644
B **バックドア** **P.156**
ロック／ロック解除 P.163
車内から開ける P.163
車外から開ける P.156
警告メッセージ P.644
C **ドアミラー** **P.190**

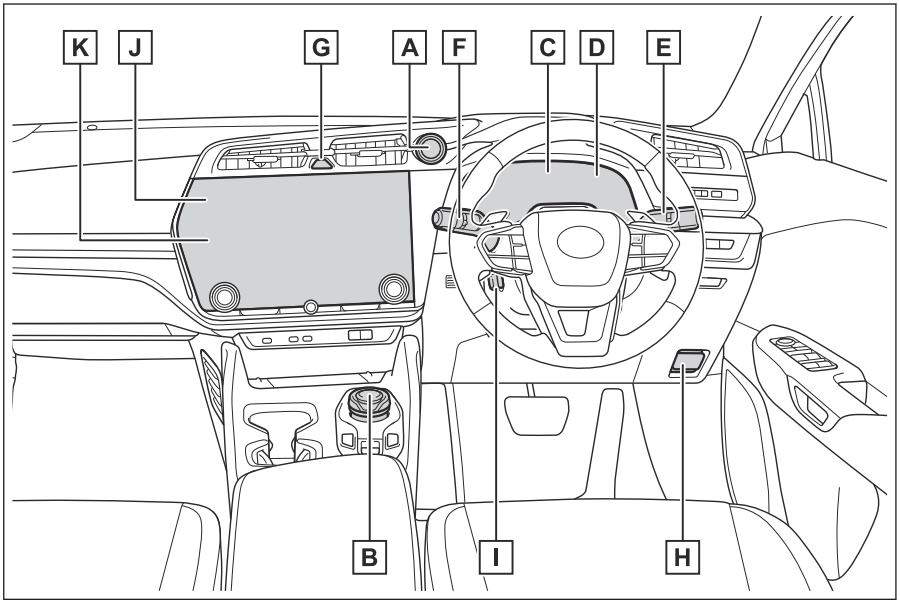
鏡面の角度調整 P.190
ミラーの格納 P.191
調整位置の登録 P.269
曇りを取る（ミラーヒーター） P.249
D **ワイパー P.242**
冬季の注意 P.250
凍結防止（ウインドシールドデアイサー） P.253
洗車時の注意 P.579
E **充電ポート P.35**
充電方法 P.49
DC 外部給電システム P.87
F **タイヤ P.601**
サイズ／空気圧 P.614,744
冬用タイヤ／タイヤチェーン P.250
点検／ローテーション／タイヤ空気圧警報システム P.601,602,604,617
パンク時の対処 P.674
G **ボンネット P.594**
開け方 P.594
オーバーヒート時の対処 P.732
警告メッセージ P.644
H **ヘッドランプ／車幅灯／LED デイタイムランニングランプ／コーナリングランプ／方向指示灯 P.224**
I **サイド方向指示灯 P.213**
J **尾灯／制動灯 P.224**
緊急ブレーキシグナル P.360
K **リヤ方向指示灯 P.213**
L **後退灯**
シフトポジションを R にする P.203
M **尾灯 P.224**
N **制動灯**

緊急ブレーキシグナル P.360

O **リヤフォグランプ**

P **番号灯** P.224

インストルメントパネル



A **パワースイッチ** **P.194**

EV システムの始動／モード切りかえ P.194,196

EV システムの緊急停止 P.630

EV システムが始動できないときの対処 P.663

警告メッセージ P.644

B **ダイアル式シフト** **P.202,208**

シフトポジションの切りかえ P.203

けん引時の注意 P.720,723,724

C **メーター** **P.338**

見方／明るさの調整 P.338,355

警告灯／表示灯 P.332

警告灯点灯時の対処 P.634

D **マルチインフォメーションディスプレイ** **P.343**

表示内容 P.343

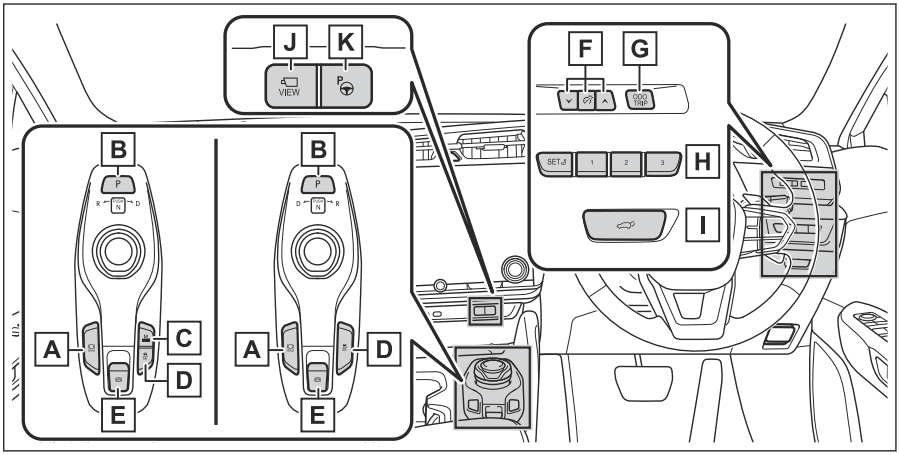
エネルギーモニター P.347

警告メッセージ表示時の対処 P.644

E **方向指示レバー／ランプスイッチ** **P.213,224**
ヘッドランプ／車幅灯／尾灯／番号灯／LED デイタイムランニングランプ P.224
マルチウェザーライト P.254,256
リヤフォグランプ
F **ワイパー＆ウォッシャースイッチ** **P.242**
使い方 P.242
ウォッシャー液の補充 P.596
警告メッセージ P.644
G **非常点滅灯スイッチ** **P.629**
H **ボンネット解除レバー** **P.594**
I **ハンドル位置調整スイッチ** **P.182**
調整方法 P.182
調整位置の登録 P.269
J **オートエアコン** **P.274**
操作方法 P.275
リヤウインドウガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） P.248
K **オーディオ**[*1]

*1: 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

スイッチ類



A ブレーキホールドスイッチ..... P.262

B P ポジションスイッチ P.203

C M モードスイッチ★ P.208

D VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF スイッチ..... P.360

E パーキングブレーキスイッチ..... P.218

かける／解除する P.218

冬季の注意..... P.252

警告ブザー／警告メッセージ..... P.644

F インストルメントパネル照度調整スイッチ P.355

G ODO／TRIP スイッチ P.342

H ポジションメモリースイッチ..... P.269

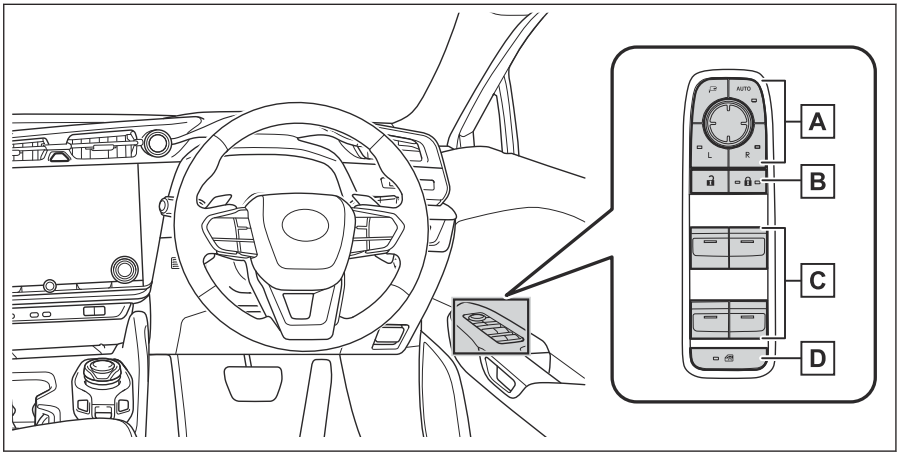
I パワーバックドアスイッチ..... P.163

J カメラスイッチ*1

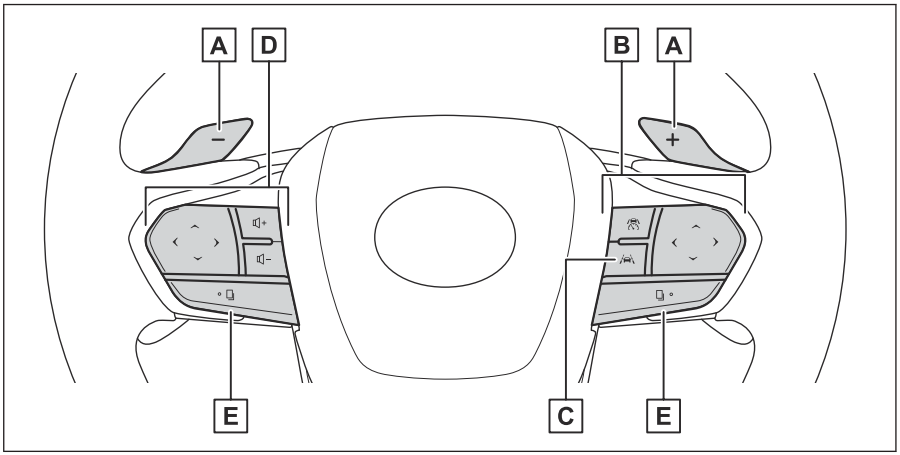
K Advanced Park（駐車支援システム）メインスイッチ P.492

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

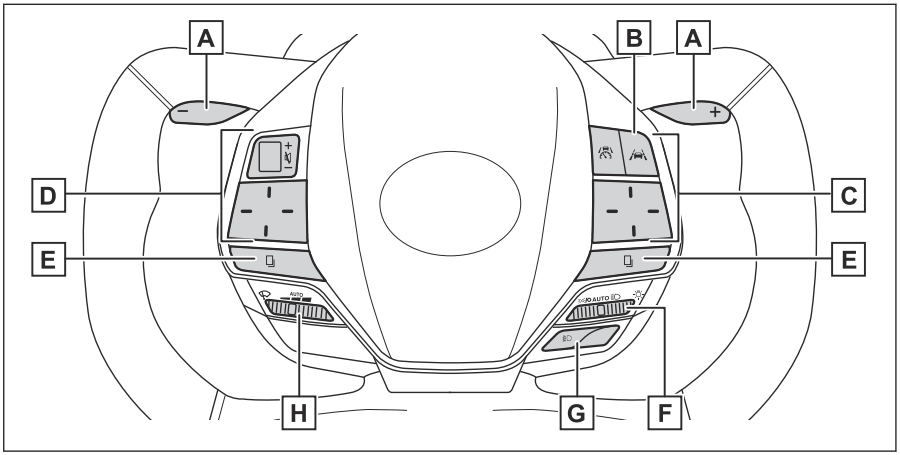
*1: 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



A ドアミラースイッチ P.190
B ドアロックスイッチ P.141
C パワーウインドウスイッチ..... P.151
D ウインドウロックスイッチ..... P.153

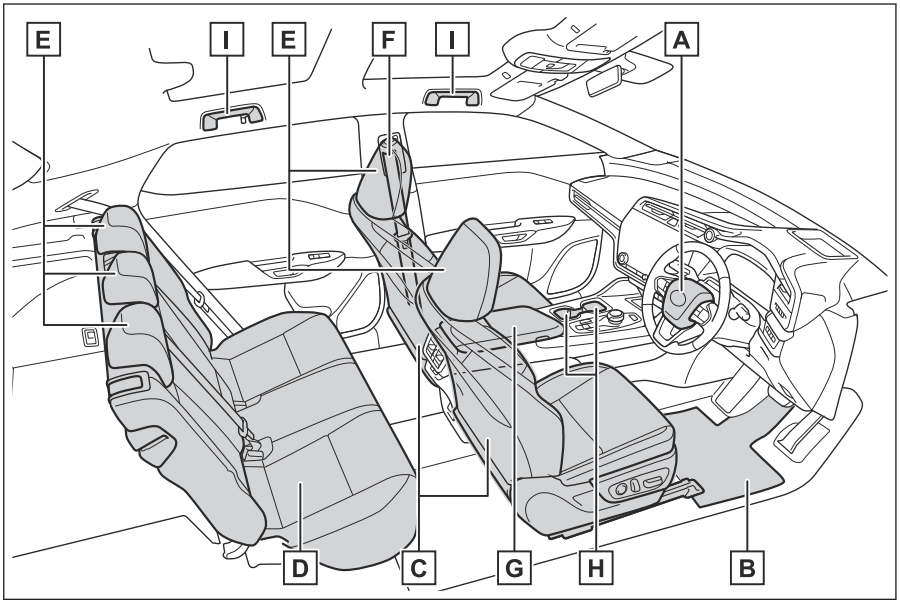


A パドルシフトスイッチ P.215
B クルーズコントロールスイッチ..... P.422,433
レーダークルーズコントロール..... P.422
C LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ..... P.393
D オーディオ操作スイッチ／電話スイッチ／トークスイッチ P.347
E 機能切りかえスイッチ P.347



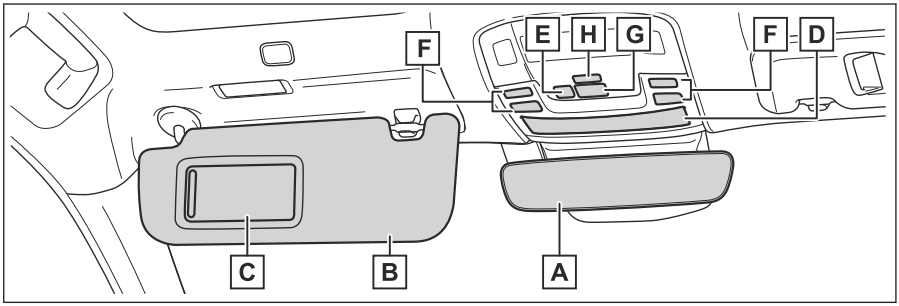
A パドルシフトスイッチ P.215
B LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ P.393
C クルーズコントロールスイッチ P.422,433
レーダークルーズコントロール P.422
D オーディオ操作スイッチ／電話スイッチ／トークスイッチ P.347
E 機能切りかえスイッチ P.347
F ヘッドランプスイッチ P.224
G マルチウェザーライトスイッチ／リヤフォグランプスイッチ P.254,256
H ワイパー速度切りかえスイッチ P.242

室内



A SRS エアバッグ P.552
B フロアマット P.22
C フロントシート P.175
D リヤシート P.176
E ヘッドレスト P.176
F シートベルト P.179
G コンソールボックス P.299
H カップホルダー P.299
I アシストグリップ P.311

天井



A デジタルインナーミラー P.182

B サンバイザー*1 ..... P.238

C バニティミラー P.312

D 小物入れ P.298

E 調光スイッチ★ P.287

F インテリアランプ／パーソナルランプ*2 ..... P.293,294

G ヘルプネットスイッチパネル*3

H インテリアランプドア連動スイッチ P.294

*1: やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.112)



★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

*2: 図はフロントですが、リヤにも装着されています。

*3: 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

1 車を運転する前の準備

1-1. 専用のフロアマットを正しく使う
専用のフロアマットを正しく使う 22
1-2. EV システムについて知っておいてほしいこと
EV システムの特徴 24
EV システムの注意 27
電気自動車運転のアドバイス ... 32
走行可能距離 34
1-3. EV システムの充電
充電に関する装備について 35
普通充電ケーブルについて 39
普通充電コネクターのロック・アンロック 43
接続可能な外部電源について ... 45
充電方法について 49
充電に関するアドバイス 52
充電の前に知っておいていただきたいこと 54
普通充電のしかた 58
急速充電・V2H 充電／V2H 給電のしかた 66
タイマー充電機能を使う 72
バッテリープレコンディショニングを使う 80
マイルームモードを使う 85
1-4. EV システムの外部給電
DC 外部給電システムについて 87
DC 外部給電システムの使い方 88
AC 外部給電システムについて . 96
1-5. 日常点検整備
日常点検整備の目的 108
1-6. 子どもを乗せて安全にドライブするための準備
子どもを車に乗せる 109
子どもにあったチャイルドシートを選んで取りつける 110
1-7. 車に乗る／降りる
キーの種類 124
スマートエントリー＆スタートシステム 128
デジタルキー 133
ドアの開閉 136
ドアのロック／ロック解除 140
イモビライザーシステム 144
オートアラーム 145
窓の開閉 151
1-8. 荷物を積む
車両への荷物の積み込み 155
1-9. 正しい運転姿勢をとる
シートの調整 175
シートベルトの着用 179
ハンドルとミラーの位置調整 . 182

専用のフロアマットを正しく使う

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

⚠ 警告

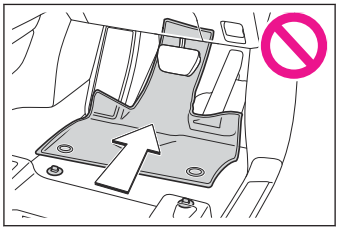
- 運転席にフロアマットを敷くときは、レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

フロアマットを固定する

⚠ 警告

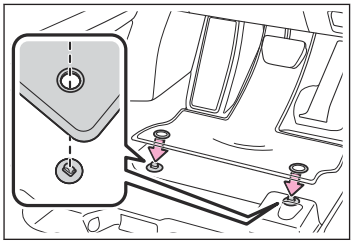
運転する前に次のことを確認してください。

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う



- EV システム停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

1 **固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込みます。**



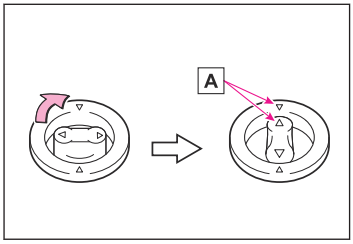
⚠ 警告

固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。

2 **固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定します。**

△マーク A を必ず合わせてください。

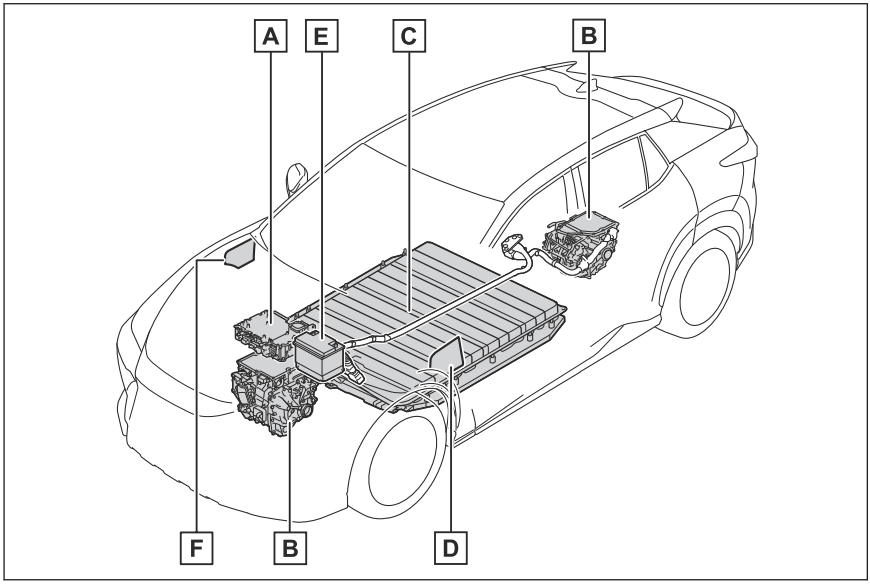
固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。



EV システムの特徴

電気自動車は、従来の車両とは大きく異なります。駆動用電池に充電された電気で電気モーターを駆動させることで、走行します。 電気自動車は電気を使用して走行するため、CO_2（二酸化炭素）や、NOx（窒素酸化物）などを排出せず、環境に優しい自動車です。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ESU：Electricity Supply Unit（車載充電器・DCDC コンバータ内蔵）

B 電気モーター（駆動モーター）（フロント／リヤ★）／インバーター（フロント／リヤ★）

C 駆動用電池

電気モーターに電気を供給します。

D 急速充電ポート

E 補機バッテリー

SRS エアバッグ、ヘッドライト、ワイパーなどのさまざまなシステムに電力を供給します。

F 普通充電ポート

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

この回生ブレーキ機能を活用して駆動用電池に電気を蓄えることで、走行できる距離をのばすことができます。

充電について

- 充電に関する装備について（→P.35）
- 普通充電ケーブルについて（→P.39）
- 接続可能な外部電源について（→P.45）
- 充電の前に知っておいていただきたいこと（→P.54）
- 充電方法について(→P.58, 66)
- 正常に充電できないときは(→P.699, 701)

知識

■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトポジションが D で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトポジションが D で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ 補機バッテリーの充電について

補機バッテリーは、EV システムが作動しているとき、または駆動用電池の充電中に、駆動用電池から充電されます。車両を長時間使用しないと、補機バッテリーの電力が自然放電のために低下する場合があります。 この場合は、正しい手順に従って、対処してください。(→P.690)

■ 車を長期間使用しないとき

- 車を長期間使用しない場合は、駆動用電池が極端に充電不足になるのを防ぐため、1 ヶ月に一度は駆動用電池を充電してください。
- 車を長期間使用しない場合は、補機バッテリーあがりを低減する目的で、駆動用電池の電力で補機バッテリーを充電します。その場合、冷却ファンが作動することがありますが、異常ではありません。
- 車両に普通充電ケーブルを接続したまま長期間放置すると、システムチェックなどの制御が働くことにより、補機バッテリーの電力消費量が増加します。普通充電ケーブルを接続しておく必要がないときは、車両から取りはずしておいてください。

■ 駆動用電池の充電について

- 駆動用電池が低下すると、駆動用電池充電警告灯が点灯または点滅し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 必要に応じて駆動用電池を充電してください。駆動用電池が電欠になると、走行ができなくなります。 駆動用電池の残量が少なくなっているときは、できるだけ早く充電してください。

■ 電気自動車特有の音と振動について

電気自動車は READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のようにエンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かな

い場合があります。安全のため、駐車時は確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。

EV システム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- 運転席のドアが開いたときに車両の前方から聞こえるブレーキシステムの操作音
- モータールームもしくはラゲージルーム（AWD 車）からのモーター音
- EV システム始動時および停止時に車両モータールームから聞こえるリレーの音
- 次のような場合は、“コトン”、“カチッ” などのリレー作動音が駆動用電池から聞こえます。
  - EV システムが始動または停止したとき
  - 充電が開始または終了するとき
  - 急速充電を使用して駆動用電池を充電した後、初めて車両を運転するとき
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる作動音
- ラジエーターから聞こえる冷却ファンの作動音
- 空調システム（空調コンプレッサー、送風機モーターなど）の作動音

■ メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずレクサス販売店にご相談ください。

特に廃車する場合は、レクサス販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

車両接近通報装置

走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で通報音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

■ 車両接近通報装置について

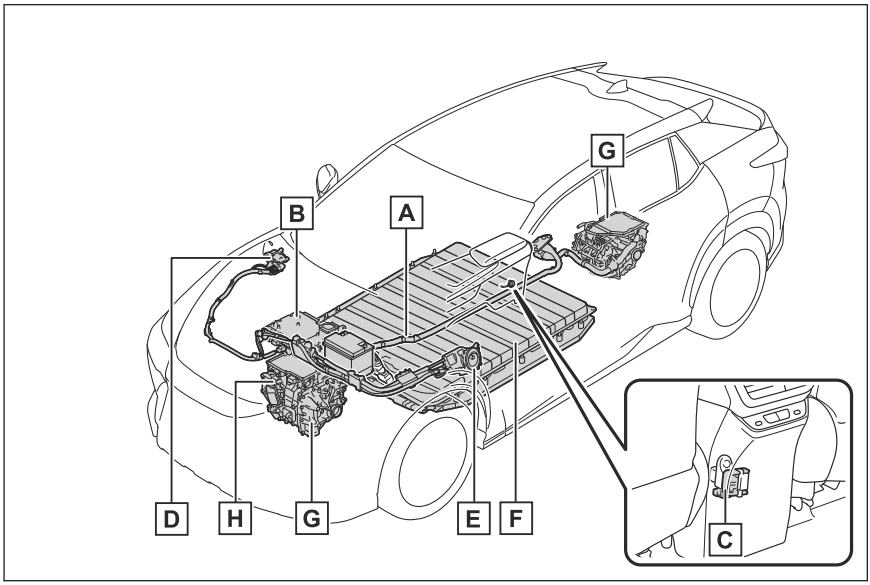
次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

EV システムの注意

EV システムには、駆動用電池・ESU・オレンジ色の高電圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（公称約 355.2V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。ご使用前に、ここで説明している内容をよくお読みいただき、正しく取り扱ってください。なお、高電圧部位には、取り扱い上の注意喚起のため⚠ 表示を含んだラベルが貼付されています。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A 高電圧ケーブル（オレンジ色）

B ESU：Electricity Supply Unit（車載充電器・DCDC コンバータ内蔵）

C サービスプラグ

D 普通充電インレット

E 急速充電インレット

F 駆動用電池

G 電気モーター（駆動モーター）（フロント／リヤ★）／インバーター（フロント／リヤ★）

H エアコンコンプレッサー

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や電気製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 駆動用電池（リチウムイオン電池）について

駆動用電池には寿命があります。駆動用電池の容量（蓄電能力）は、ほかの充電式電池と同様に時間の経過や使用状況にともない低下します。低下の程度は運転のしかた、充電のしかたなど、お車の使用状況や環境（外気温等）により大きく異なります。

これらはリチウムイオン電池本来の特性であり、不具合ではありません。なお、電池の容量が低下すると走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

容量低下を抑えるためには、P.56 の“駆動用電池の容量低下について”に記載されていることを心がけてください。

■ 極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－ 30 ℃以下）、EV システムが始動できなくなることがあります。

その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ 適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

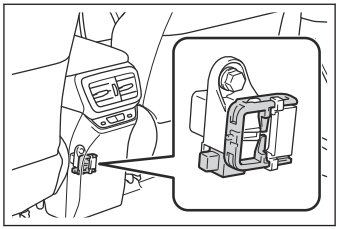
⚠ 警告

■ 高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。

次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 高電圧部位にふれないでください。特に走行後は高温になっており危険です。
- サービスプラグが床下の駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、レクサス販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



⚠ 警告

■ 事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため、安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、EV システムを停止する
- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対にさわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない

  駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない

  万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。
- 火気や高温のものを絶対に近付けない

  電解液に引火するおそれがあり危険です。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する

  水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪（FF 車）または 4 輪（AWD 車）が接地した状態でけん引しない

  電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.721）
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、駆動用電池が損傷している可能性があります。できるだけ早く車両を離れてください。

  この場合は、レクサス販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。軽度な事故であっても、駆動用電池や周辺部位が損傷している可能性がありますので、事故にあった場合は、レクサス販売店で駆動用電池の点検を受けてください

■ 駆動用電池について

- この車両には、リチウムイオンバッテリーが搭載されています。
- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、レクサス販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。

  適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
  - 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

⚠ 警告

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、レクサス販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 電気自動車は走行時にエンジン音がないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 車両床下に強い衝撃を受けたときは、すぐに安全な場所に停車し下まわりを点検してください。

  床下に駆動用電池の液もれや損傷が見られる場合、絶対に車両にふれず、すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。また、床下に異常が見られない場合でも、駆動用電池が損傷している可能性がありますので、車両床下に衝撃を受けた場合には、レクサス販売店で駆動用電池の点検を受けてください。

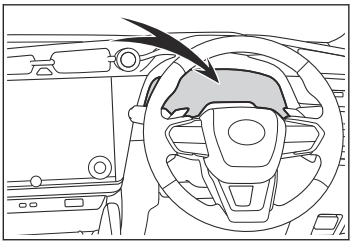
■ 改造について

車高を下げると、床下にある駆動用電池が衝撃を受けやすくなり、電池を損傷し、発火や車両火災などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。車高を下げる改造は絶対に行わないでください。

緊急停止システム

→P.633

警告メッセージ



EV システムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示された画面の指示に従ってください。(→P.644)

知識

■ 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

EV システムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

■ 駆動用電池が電欠になったとき

駆動用電池が電欠で EV システムが始動できないときは、駆動用電池充電警告灯が消灯するまで、十分に充電（普通充電または急速充電[V2H 充電]）してから再始動してください。

電気自動車運転のアドバイス

従来の車両とは異なり、電気自動車が走行を続けると電力消費率は低下します。高速道路での運転または平均車速の高い運転を続けた場合、走行できる距離が短くなる可能性があります。 駆動用電池の残量が低下しているときは、表示された走行可能距離に頼りすぎたり、高速道路を運転したりしないでください。適度な車速で走行すると、電力消費を抑えることができます。経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

シフトポジションの操作

- 信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましょう。
- 駐車するときは、シフトポジションを P にしましょう。
- シフトポジションを N にしても、電費向上の効果はありません。N では、駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

エコドライブモード／レンジモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、電費の向上につながります。（→P.259）

レンジモードを使用すると、電費を向上させる走行制御（車速制限／最大駆動力制限／前後駆動力配分最適化など）にかわり、エアコン（暖房／冷房）を OFF にします。レンジモードでクルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールが作動したときは、車速の上限が 100km/h になるため、設定速度にならない場合があります。レンジモードでは航続可能距離の最大化につながります。*1 （→P.259）

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは電費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分な電気消費を抑えることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

*1：RZ550e：M モード（→P.208）選択時は、レンジモードを使用しても、車速制限／最大駆動力制限機能は無効化されます。

エアコンの ON／OFF

- 必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分な電力消費を抑えることができます。

  夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り、電費向上につながります。

  冬季：過剰または不要な暖房は避けましょう。ヒーターを使いすぎないことも電費向上に効果的です。

- レクサスクライメイトコンシェルジュを使用すると、空調が自動的に快適な状態に制御され、余分な電力消費を抑えることがができます。（→P.273）

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、電費悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では電力消費量が大きくなります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、電費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。

走行可能距離

メーターに表示される走行可能距離は、現在どのくらい走行が可能かの目安を示しており、表示の距離を実際に走行できない場合があります。

表示値

メーターには、駆動用電池の残量や状態から十分な走行性能が出せる値を推定して表示しています。(→P.338) 低温時には、駆動用電池残量が残っていても、走行距離がなくなる場合があります。早めに充電してください。

走行できる距離を伸ばすためのヒント

走行できる距離は、運転のしかた／道路状況／天候や気温／電装品の使用状況／乗員数などに大きく左右されます。

次のことに気を付けて運転していただくと、より走行できる距離を伸ばすことが可能です。

- 車間距離を十分にとり、不要な加減速をしない
- むだな加減速をくり返さない
- 走行中は、一定の速度で走行することを心がける
- エアコンを適切に使用し、過剰または不要な冷房・暖房は避ける
- 指定されたサイズのタイヤを使用し、タイヤの空気圧を適正に維持する
- 不要な荷物を積まないように心がける

充電が完了したときの表示について

車両の充電が正しく完了したかどうかは、次のことで確認できます。

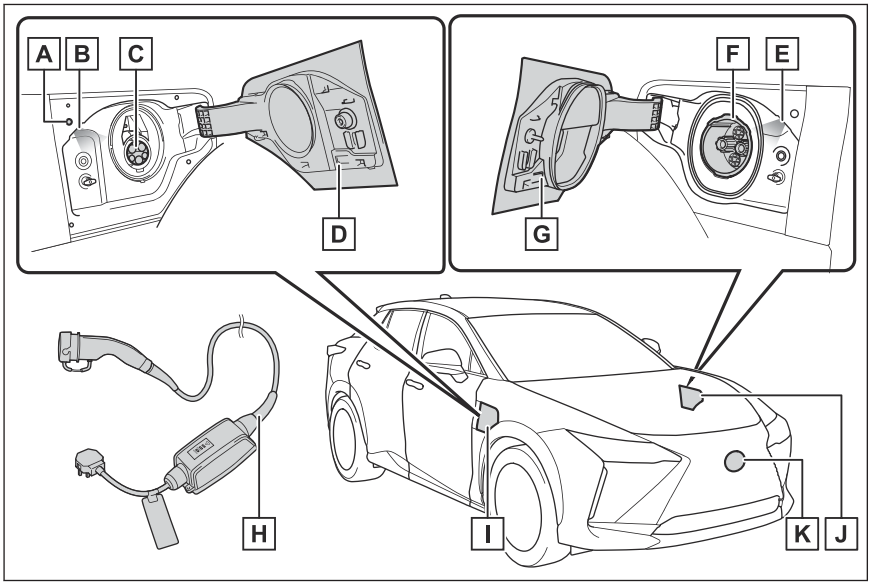
- 普通充電ポートの充電インジケーターが消灯する
- パワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイに“充電結果の お知らせ 充電完了しました”と表示される (→P.53)
- フロントエンブレムが消灯する (→P.35)

接続する電源やタイマー充電機能の使用に関わらず、上記のことが確認できれば正しく充電されています。

充電に関するメッセージについて：→P.649

充電に関する装備について

充電装備と名称



A 充電インジケーター（→P.37）
B 普通充電インレット照明
C 普通充電インレット
D 普通充電リッド（→P.36）
E 急速充電インレット照明
F 急速充電インレット
G 急速充電リッド（→P.36）
H 普通充電ケーブル★（→P.39）
I 普通充電ポート
J 急速充電ポート
K フロントエンブレム

知識

■ フロントエンブレム

充電中はフロントエンブレムが点灯します。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

充電リッドの開閉

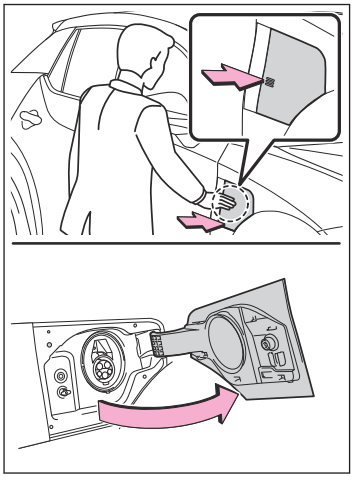
普通充電リッドと急速充電リッドの開閉操作は同様です。

■ 充電リッドの開け方

ドアを解錠することで、充電リッドをアンロックする。(→P.140)

充電リッドの車両後端（図に示す位置）を押し、充電リッドを開ける。

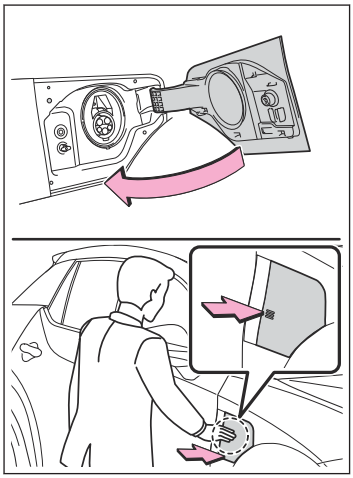
押して手を離すと、充電リッドが少し開きます。その後、手で全開にします。



■ 充電リッドの閉め方

充電リッドを閉め、充電リッドの車両後端（図に示す位置）を押す

ドアを施錠すると、充電リッドもロックされます。



知識

■ 充電リッドのロックについて

- 次のような場合には、充電リッドがロックされます。
  - ワイヤレスリモコンでドアを施錠する
  - スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠する

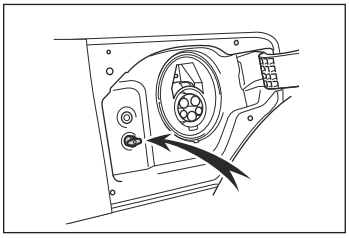
- メカニカルキーでドアを施錠する
- ドアロックスイッチでドアを施錠する

● ドアのセキュリティ機能で施錠された場合、充電リッドが閉まっていれば、連動してロックされます。(→P.140)

● ドアが施錠されている状態で、充電リッドを閉めた場合は、充電リッドがロックされません。その場合は、ドアを再度施錠することで、充電リッドをロックすることができます。

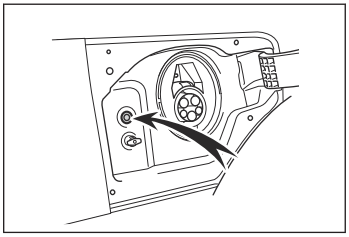
● 普通充電コネクターがロックされると、急速充電リッドもロックされます。

■ リッドリフターについて



充電リッドを閉める前に、リッドリフターが押し込まれている状態だと、充電リッドが閉まりません。その場合は、ドア解錠状態でリッドリフターを押して飛び出ている状態にしてから、充電リッドを閉めてください。

■ 充電リッド開閉検知スイッチ部について

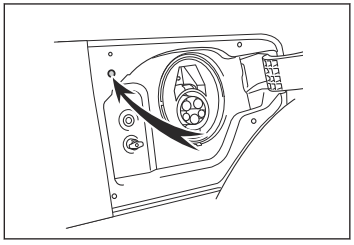


充電リッドが開いているときは、充電リッド開閉検知スイッチ部（図に示す位置）にふれないよう注意してください。誤ってふれると、車両が充電リッドの開閉状態を誤表示したり、充電コネクターが正常にロック・アンロック出来なくなるおそれがあります。

■ 充電リッドが開かないとき

→P.698

充電インジケーター



充電インジケーターは、普通充電ポートにのみ搭載されています。

点灯・点滅パターンの変化により、次のように充電に関する状況をお知らせします。

点灯・点滅パターン	車両の状況
点灯	● 充電中(1) ● 外部給電中(2)(3) ● 駆動用電池ヒーター（→P.49）の作動中
点滅（通常）(4)	充電スケジュール（→P.75）が登録されている状態で、普通充電ケーブルを車両に接続したとき
速い点滅(4)	電源または車両の異常などにより充電、または給電が停止（→P.699）したとき
遅い点滅(5)	AC 外部給電(2)の開始操作後の AC 外部給電準備中

(1) 充電が終了したら、消灯します。
(2) AC 外部給電システムについては、P.96 を参照してください。
(3) DC 外部給電システムについては、P.87 を参照してください。
(4) 一定時間点滅したあと、消灯します。
(5) 一定時間点滅したあと、点灯します。

普通充電ケーブルについて★

普通充電ケーブルの機能や正しい取り扱い方法などについて説明しています。

⚠ 警告

■ 普通充電ケーブル・コントロールユニットを取り扱うとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットの分解・修理・改造をしない

  普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常が認められた場合は、ただちに使用を中止してレクサス販売店にご連絡ください。
- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットに強い衝撃を与えたり落としたりしない
- 普通充電ケーブルを無理に折り曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、引きずるなどの負担をかけない
- 普通充電ケーブルを鋭利なもので傷付けたりしない
- 電源プラグの端子を折り曲げたり異物を付けたりしない
- 普通充電コネクター・電源プラグを水に浸けない
- 普通充電ケーブルを熱器具等の高温物に近付けない
- 普通充電ケーブル・電源プラグコードに負荷をかけない（コントロールユニット・普通充電コネクターに普通充電ケーブルを巻き付けるなど）
- コンセント・電源プラグに負荷がかかる状態で使用したり、放置したりしない（コントロールユニットが接地せず、宙吊りになっているなど）

⚠ 注意

■ 普通充電ケーブルの取り扱いに関する注意

次のことをお守りください。お守りいただかないと、普通充電ケーブルや普通充電インレットの故障につながるおそれがあります。

- 普通充電コネクターは、斜めになったり傾いたりしないよう、普通充電インレットにまっすぐ挿し込む
- 普通充電コネクターを挿し込んだあとは、普通充電コネクターに無理な力をかけたり、こじったりしない。また、体や荷物などをぶつけないように注意する
- 普通充電ケーブルを踏んだり、つまずいたりしないように注意する
- 普通充電コネクターを取りはずす前に、普通充電コネクターがアンロックされていることを確認する（→P.43）
- 普通充電ケーブルを取りはずしたあとは、すみやかに所定の位置に片付ける
- 普通充電コネクターを取りはずしたあとは、充電リッドを確実に閉める

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

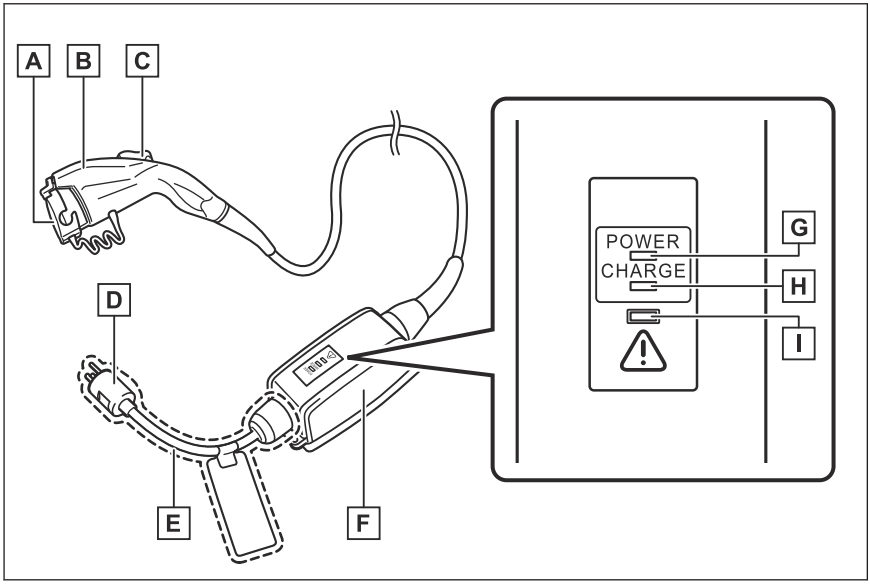
■ 普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき

→P.58

■ 寒冷時の注意

寒冷時は、普通充電ケーブル・電源プラグコードが通常より固くなることがあるため、固くなった状態で無理な力をかけないでください。普通充電ケーブル・電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

各部の名称



A 普通充電コネクターキャップ
B 普通充電コネクター
C ロック解除ボタン
D 電源プラグ
E 電源プラグコード
F コントロールユニット
G 電源インジケーター（→P.41）
H 充電インジケーター（→P.41）
I エラーインジケーター（→P.41）

安全機能について

普通充電ケーブルに取り付けられているコントロールユニットは、次のような安全機能を備えています。

■ 漏電検知機能

充電中に漏電を検知すると、自動的に電気を遮断し、漏電による感電や火災などを未然に防ぎます。

漏電検知機能により電気が遮断された場合は、エラーインジケーターが点滅します。

（電気が遮断された場合の対処方法については、P.706 を参照してください）

■ 自動チェック機能

漏電検知機能の作動に問題がないか、充電開始前に自動でシステムチェックが実施されます。

システムチェックの結果、漏電検知機能の異常が検出されると、エラーインジケーターの点滅でお知らせします。（→P.41）

■ 温度検知機能

電源プラグに温度検知機能が搭載されており、充電中、コンセント側のゆるみなどにより電源プラグ部が発熱した場合に、充電電流を制御することで発熱を抑制します。

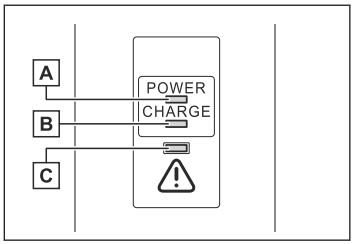
■ 車両との通電の条件

電源プラグがコンセントに挿してあっても、普通充電コネクターが車両に接続されていないと、普通充電コネクターに通電されない構造になっています。

コントロールユニット上のインジケーターについて

■ 各インジケーターの働き

3 つのインジケーターで、それぞれ次の状態を示します。



A 電源インジケーター

コントロールユニットに通電しているときに点灯します。

B 充電インジケーター

充電中に点灯します。

C エラーインジケーター

漏電が発生したとき、またはコントロールユニットに異常が発生したとき点滅します。

知識

■ 普通充電ケーブルのコントロールユニット上のインジケーターが点灯・点滅した

→P.706

普通充電ケーブルの点検・お手入れ

安全にお使いいただくために、日常的に次の事項を点検してください。

⚠ 警告

■ 日常点検について

定期的に次のことを確認してください。

点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットに破損などがないこと
- コンセントに破損がないこと
- コンセントの挿し込みがゆるくなっていないこと
- 充電中に電源プラグが極端に熱くならないこと
- 電源プラグの刃が変形していないこと
- 電源プラグにほこり等の汚れがないこと

  電源プラグはコンセントから抜いて点検してください。また、点検の結果、普通充電ケーブルに異常が見つかった場合は、ただちに使用を中止して、レクサス販売店にご相談ください。

■ 普通充電ケーブルのお手入れについて

汚れたときは固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でから拭きしてください。

なお、水洗いは絶対に行わないでください。普通充電ケーブルを水洗いすると、充電時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 長期間普通充電ケーブルを使用しないとき

電源プラグをコンセントから抜いておいてください。電源プラグやコンセントにほこりがたまり、過熱や発火の原因となります。

また、普通充電ケーブルは水気がない場所で保管してください。

普通充電コネクターのロック・アンロック

普通充電中の充電コネクターの取り外しや、第三者による充電ケーブルの持ち去りなど、いたずらの防止に寄与することができます。

普通充電コネクターをロック・アンロックするには

普通充電コネクターは、普通充電インレットに挿し込んだ状態において、ドアの施錠状態・解錠状態に連動してロック・アンロックされます。

■ ロックするときは

普通充電インレットに普通充電コネクターを挿し込んだ状態で、ドアを施錠すると、普通充電コネクターがロックされます。

ドアが施錠されている状態で、普通充電コネクターを挿し込んだ場合は、自動的にロックされます。

■ アンロックするときは

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンなどでドアの解錠操作をすると、普通充電コネクターがアンロックされます。

知識

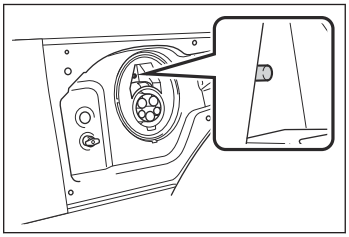
■ 普通充電コネクターのロック機能について

- 普通充電コネクターをロック・アンロックくり返し操作すると、普通充電コネクターのロックシステムがシステムを保護するために、一時的に作動しないことがあります。この場合は、普通充電コネクターを普通充電インレットに再び接続する前に、少し待ってください。
- 普通充電コネクターのロック機能は、普通充電ケーブルの盗難防止を保証するものではありません。また、すべてのいたずら行為に効果を発揮するものではありません。

■ AC 外部給電システム（→P.96）を使用するとき

普通充電コネクターと同様に、ヴィークルパワーコネクタをロック・アンロックすることもできます。

■ 普通充電インレットに普通充電コネクターを挿し込めないとき



コネクターロックピンが出ていないか確認してください。

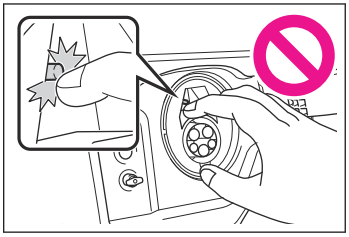
コネクターロックピンが出ている場合は、コネクターアンロック操作をしてコネクターロックピンが出ていない状態にしてください。

■ 普通充電コネクターをアンロックできないとき

→P.704

⚠ 警告

■ 普通充電インレットに普通充電コネクターを接続するとき



コネクターロック部に手を入れないでください。コネクターロックピンに挟まれ、けがをするおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 普通充電コネクターをロックするとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、コネクターロックシステムの故障の原因となります。

- 普通充電コネクターがこの車両に適合していることを確認する

  異なるタイプの普通充電コネクターや、挿入部が破損・変形した普通充電コネクターなどは、ロックできない可能性があります。

- 普通充電コネクターを挿し込んだあとは、普通充電コネクターに無理な力をかけない

  普通充電コネクターを取りはずすときは、必ずコネクターをアンロックしてください。

接続可能な外部電源について

この車両を充電するための外部電源は、ここで説明する要件を備えている必要があります。充電作業を行う前に、あらかじめ次の事項をご確認ください。

⚠ 警告

■ 電気事故についての警告

車両の充電を行うときは、必ず本書に記載されている注意事項をお守りください。

必要要件を満たしていない電源を使用したり、記載されている禁止事項を守らずに充電を行ったりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知識

■ 契約電力について

自宅の電源で充電する際は、契約電力[*1] をご確認ください。

200V 電源で充電する場合は、100V 換算での契約容量が必要となります（例えば 200V 電源で 16A の場合、100V 換算で 32A となります）。必要な電力に応じた契約電力でないと、充電時にブレーカーが作動する場合があります。

■ 充電環境について

- 必要な電力に対応した普通充電器（スタンド）、または車両に搭載された普通充電ケーブルを使用して、充電を行ってください。
  - 200V 電源で 30A に対応した普通充電器（スタンド）を使用した場合、約 6kW で充電されます。
  - 200V 電源で 16A に対応した普通充電器（スタンド）または普通充電ケーブルを使用した場合、約 3kW で充電されます。
- 自宅で普通充電器（スタンド）を使用して充電するには、普通充電器（スタンド）の設置が必要です。普通充電器（スタンド）の設置については、販売業者にお問い合わせください。

電源について

■ 200V 電源を使用する場合

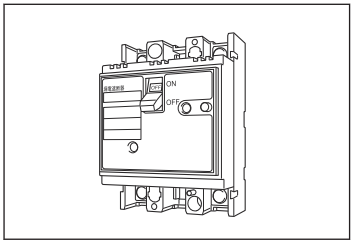
- 200V の充電用コンセントには、必ず専用回路を設置してください。
- AC200V で 16A（100V 換算で 32A）の電流が流れてもブレーカーが作動しない（電流が遮断されない）コンセントに接続してください。[*2]

*1: 電力会社との電気契約の変更が必要になる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

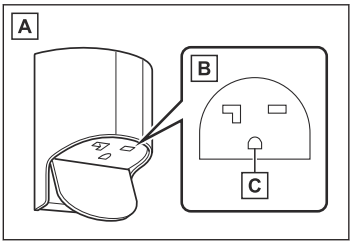
*2: 電力会社との電気契約の変更が必要となる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

● 分岐回路内に専用の漏電遮断器が設置されていることを確認してください。

もし設置されていない場合は、必ず設置した上で車両の充電を行ってください。*1



● BEV／PHEV 専用コンセントに接続してください。



A BEV／PHEV 専用コンセントの例

推奨コンセント型式：

パナソニック製 WK4322（200V）

B 200V コンセント極配置*2

JIS C 8303

2 極 接地極（アース）付コンセント

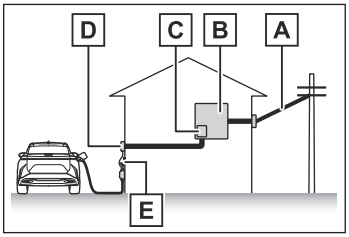
20A 250V

C 接地極（アース）

知識

■ 自宅の電源（コンセント）と普通充電ケーブルを使用して充電するとき（200V 電源の使用時）

より安全に充電を行うために、次のような充電設備を設置することをおすすめします。*3



A 電線

B 分電盤

C 分岐専用回路内高速高感度形漏電遮断器

万一、漏電が発生したときに住宅全体が停電する可能性を低減します。また、漏電発生時における人体への影響を最小限に抑えることができます。

D BEV／PHEV 専用コンセント（→P.45）

BEV／PHEV 専用コンセントは日々の使用に対する耐久性が確保されており、充電中に電源プラグがコンセントから脱落するのを防ぎます。

E フック

*1: 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。

*2: 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

*3: 手元スイッチを使うと、スイッチ操作でコンセントへの電気が遮断できるため、電源プラグの抜き挿しをより安全に行うことができます。

普通充電ケーブルのコントロールユニットをフックに引っかけることにより、コンセントや電源プラグに荷重がかからないようにしてください。

⚠ 警告

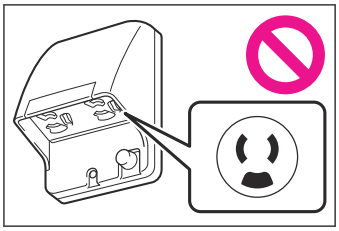
■ 電源についての警告

充電時に使用する外部電源については、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

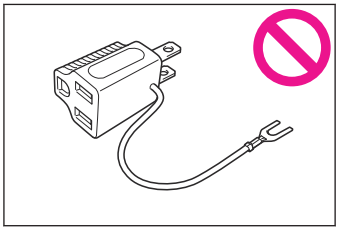
- 安全のため、必ず接地極（アース）付きのコンセントに接続してください。
- 必ずブレーカーおよび漏電遮断器が設置されたコンセントを使用してください。

  ブレーカーがないと、ショートなど異常時の過電流に対して安全を確保できません。
- 抜止形のコンセントは耐久性が十分ではない場合があるため、充電用コンセントとしては常用しないでください。



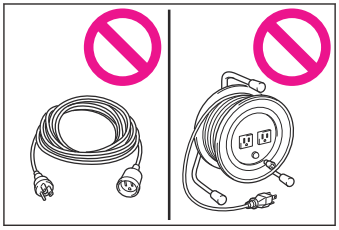
- コンセントと電源プラグは、必ず直接接続してください。

  コンセントとのあいだに分岐アダプターを接続したり、変換アダプターなどを接続したりしないでください。



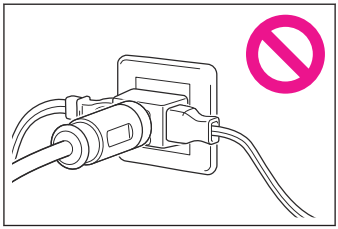
- 必ず普通充電ケーブルで届く範囲のコンセントに接続し、延長コードは使用しないでください。

  延長コードを使用すると、異常発熱や漏電検知機能（→P.41）が働かなくなるなどの原因になります。



⚠ 警告

- 分岐用コンセントには接続しないでください。



充電方法について

この車は、次の方法で駆動用電池を充電することができます。

充電方法の種類

■ 普通充電(→P.58)

AC コンセントと普通充電ケーブル、または普通充電器（スタンド）などで行う充電方法です。

充電スケジュールを設定することで、ご希望の日時に充電を行うことも可能です。(→P.72)

■ 急速充電(→P.66)

CHAdeMO(チャデモ)*1 規格に準拠した急速充電器（スタンド）を使用して行う充電方法です。普通充電にくらべて短時間で駆動用電池を充電できます。

■ V2H(→P.66)

車両と V2H 機器双方向に電源供給することを「V2H（ヴィーツーエッチ）」といいます。V2H 機器から車両へ充電を行うことを「V2H 充電」、V2H 機器を経由して車両から自宅へ電源供給することを「V2H 給電」といいます。

このシステムを使用するには、V2H 機器*2 が必要です。（車両には付属していません）

V2H の詳細については、各 V2H 機器の取扱説明書などをご確認いただくか、V2H 機器の製造元へお問い合わせください。

充電に連携する機能について

この車両には、充電に連携する各種の機能が搭載されています。

■ マイルームモード（→P.85）

車両に充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力*3 で、車両のエアコンやオーディオなどの電装品を使用できます。

■ 駆動用電池ヒーター

外気温が低い場合、車両に充電ケーブルが接続されていると、駆動用電池が一定以上の温度になるように、自動で昇温します。

- 車両から充電ケーブルをはずす、または普通充電ケーブルを接続したまま、およそ 3 日が経過すると、システムが自動で停止します。

*1：CHAdeMO は一般社団法人チャデモ協議会が提案する商標名です。

*2：車両から自宅へ電力を供給するために、車両から取り出した DC（直流）電力を AC（交流）電力に変換する機器。一般社団法人電動車両用電源供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2H DC 版に準拠し、一般社団法人チャデモ協議会の認証を受けたもの

接続確認済みの V2H 機器一覧はトヨタ自動車の Web サイトでご確認いただけます。一覧に記載のない機器は動作未確認のため車両及び V2H 機器が動作しない場合があります。

*3：状況により、駆動用電池の電力が消費される場合があります。

● 充電スケジュールが登録されているとき（→P.72）は、充電開始時刻に合わせて作動します。

■ 駆動用電池冷却

駆動用電池の温度が高いとき、車両に普通充電ケーブルが接続されていると、駆動用電池を冷却し、保護します。

高速道路で高い速度で連続運転するときや急速充電中などの場合には、作動することがあります。

● 高速道路で高い速度で連続運転するときや急速充電中などの場合には、作動することがあります。

● 普通充電のみ：センターディスプレイの“充電”で“電池冷却”が ON に設定されているときに作動します。（→P.767）OFF にすると、走行状況に応じて駆動用電池の出力を制限される場合があります。

知識

■ 急速充電中のマイルームモード使用について

→P.85

■ 普通充電について

普通充電は、急速充電にくらべて駆動用電池への負荷が少ないため、駆動用電池を長持ちさせることができます。

■ 駆動用電池ヒーターについて

● 充電中以外でも作動する場合があります

● 駆動用電池ヒーターの作動中は、充電インジケーターが点灯します。

● 駆動用電池ヒーターが作動すると、駆動用電池の残量が低下するため、駆動用電池の残量を補うために再度充電を行うことがあります。

■ 駆動用電池冷却について

● 駆動用電池冷却の待機中、または作動中のときは、充電インジケーターが点灯します。

● 駆動用電池冷却は、最大で約 30 分作動します。

● 駆動用電池の残量が少ないときは、駆動用電池が高温であっても、駆動用電池冷却が作動しない場合があります。

● 駆動用電池冷却の作動中に次の操作を行うと、駆動用電池の冷却作動が停止します。

- ボンネットを開けたとき
- パワースイッチを OFF 以外にしたとき
- シフトポジションを P 以外にしたとき
- 駆動用電池の残量が一定未満になったとき

● 駆動用電池冷却は、駆動用電池と外部電源からの電力を利用します。

- 駆動用電池冷却の作動中は、駆動用電池残量が一定の幅で増減し、通常充電時のように駆動用電池残量が増加しません。
- 駆動用電池冷却の作動中も、充電器（スタンド）からは充電中と認識されます。

  よって、充電時間に応じて課金される充電器（スタンド）では、駆動用電池冷却の作動中にも課金が発生します。

充電に関するアドバイス

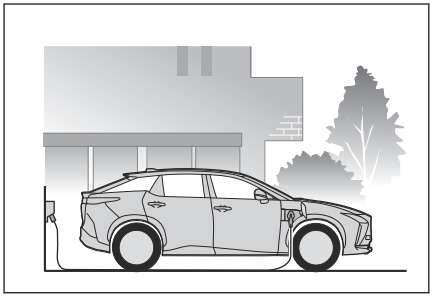
この車両の充電機能を活用する方法や、充電に関する情報の確認方法などを説明しています。

上手に充電するには

出発前・ドライブ中など、車両の状況に応じて充電機能を使い分けると便利です。

■ お出かけの前に

電気自動車を使用するために、お出かけの前には普通充電で駆動用電池を充電しましょう。(→P.58)



■ ドライブの途中で

ドライブ中に駆動用電池の残量が少なくなったら、最寄りの充電設備で駆動用電池を充電しましょう。

■ 帰宅したら

次回のドライブのために、駆動用電池を充電しておきましょう。

充電スケジュールを登録しておけば、深夜・早朝などのご希望の時間に駆動用電池を充電できます。なお、充電スケジュールは、毎日、またはご希望の曜日の同じ時刻に、自動で充電されるように設定することも可能です。(→P.72)

充電に関する情報を確認するには

車両のマルチインフォメーションディスプレイで、充電に関する各種の情報を確認できます。

■ 充電中は



充電中にパワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開けると、現在の充電状態と

充電完了までに必要な時間の目安[*1] が一定時間表示されます。

駆動用電池の残量や外気温、充電器（スタンド）の仕様、外部電源の供給電圧などの条件により、実際の充電時間や充電電力とは異なることがあります。

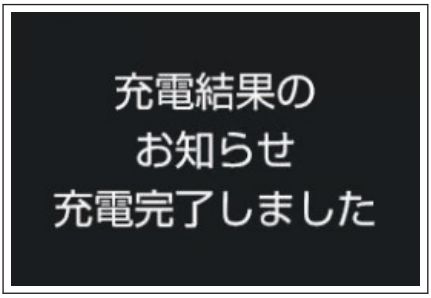
充電電流が小さくなり、充電時間が長くなると、充電完了するまでの時間が表示されない場合があります。

■ 充電が終わったあとは

充電終了後、パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開けると、充電結果についてのメッセージが一定時間表示されます。

また、充電停止となる操作をしたときや、充電できない状況が発生した場合などには、メッセージが表示されます。

表示されたメッセージの指示に従って、それぞれ必要な操作を行ってください。(→P.649)



知識

■ 充電中のメーター表示について

充電中にパワースイッチを ON にしたあと、マイルームモードを選択しない状態が約 100 秒間続くと、パワースイッチが自動で OFF になります。

*1: V2H 充電中は、充電完了までに必要な時間の目安は表示されません。

充電の前に知っておいていただきたいこと

充電を行う前に、必ず次の事項をご確認ください。

知識

■ 安全機能について

- 車両に充電ケーブルが接続されているときは、パワースイッチを操作しても EV システムを始動することはできません。
- READY インジケーターが点灯しているときに充電ケーブルを接続すると、EV システムは自動的に停止し、走行できなくなります。

⚠ 警告

■ 充電、V2H 充電／V2H 給電するときの警告

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、充電または給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。

- 充電または給電時、充電器（スタンド）、充電ケーブル、V2H 機器に近付かないでください。

  充電または給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 充電または給電中は車内にとどまらないでください。

  充電または給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ものを取るときなどに、車内に入り込まないでください。

  充電または給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■ 車両に充電ケーブルが接続されているとき

シフトポジションを P から切り替えないでください。

万一、充電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションが P からほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 充電に関する留意事項

この車は一般家庭用の AC コンセントに接続して駆動用電池を充電できます。ただし、一般的な電気製品と次の点が大きく異なるため、取り扱いを誤ると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 200V での普通充電時は、長時間にわたって大電流が流れる（→P.45）
- お客さまの充電環境によっては、充電作業が屋外で行われる

⚠ 注意

■ 充電に関する留意事項

充電作業は、本書で説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

⚠ 注意

- お子さまなど、不慣れな方だけで充電作業を行わないでください。
  また、普通充電ケーブルは幼児の手の届かない場所で保管してください。
- 充電器（スタンド）または、V2H 機器で充電する場合は、機器の使用手順に従って作業を行ってください。

普通充電・急速充電・V2H 充電／ V2H 給電前の重要確認事項

必ず次の点をご確認ください。

- パーキングブレーキが確実にかかっていること（→P.218）
- パワースイッチが OFF になっていること（→P.198）
- ヘッドランプ・非常点滅灯・室内灯などのランプ類が消灯していること
  ランプ類が点灯していると、それらの機器に電力が消費され、充電時間が長くなります。

普通充電ケーブルの点検

充電の前に、普通充電ケーブル各部の状態に異常がないかご確認ください。（→P.42）

知識

■ 充電中は

- 車両の状態により、充電が開始されるまでの時間が異なる場合がありますが、異常ではありません。
- 充電中は、空調システムおよび駆動用電池冷却の作動にともない、駆動用電池付近から音が聞こえることがあります。
- コントロールユニットの表面が温かくなることがありますが、異常ではありません。
- 電波の状況によっては、ラジオに雑音が入ることがあります。

■ 普通充電・急速充電・V2H 充電／V2H 給電について

普通充電と急速充電・V2H 充電／V2H 給電を同時に行うことはできません。2 つある充電インレットの両方に充電ケーブルを接続しても、いずれか一方のみで充電されます。

■ 公共の普通充電器（スタンド）で充電するとき

充電スケジュールの設定状態を確認してください。

- 充電スケジュールが登録されているときは一時的に OFF にするか、“今すぐ充電”を ON にしてください。（→P.76, 77, 78）
- 充電スケジュールが ON になっていると、普通充電ケーブルを接続しても充電が開始されません。また、充電が開始しなくても、普通充電ケーブルを接続したことで課金される場合があります。

■ **駆動用電池の容量低下について**

駆動用電池は使用していくうちに、徐々に電池容量が低下していきます。低下する割合は車の使い方、使用環境により異なります。電池容量の低下を抑えるために、次のことを心がけてください。

- 満充電状態での高温炎天下での駐車は極力避ける
- 走行中にひんぱんな急加速、急減速をしない
- 最高車速付近での走行を控える
- 充電は走行開始前に満充電になるよう、タイマー充電（→P.72）を活用する
- ひんぱんな急速充電は避ける

なお、電池の容量が低下すると走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

■ **充電後に駆動用電池の残量が低下するとき**

次の場合、システムの保護のために、充電完了後の駆動用電池の残量が通常よりも少なくなる（満充電後の走行可能距離が短くなる）*1 ことがあります。

- 気温が低い、または高い環境で充電したとき
- 高負荷走行の直後、かつ炎天下で充電したとき

上記に該当しないのに、充電完了後の駆動用電池残量が大幅に低下したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ **駆動用電池への充電量が減少するとき**

エアコンの使用、または駆動用電池ヒーターの作動等により駆動用電池への充電電力が小さくなった場合、駆動用電池への充電量もしくは駆動用電池残量が減少することがあります。

■ **充電時間が長くなるとき**

次のような場合は、充電時間が通常より長くなることがあります。

- 低温または高温の環境下にあるとき
- 高負荷走行の直後などで駆動用電池の温度が高いとき
- 車両の電力消費量が大きいとき（ヘッドランプが点灯しているときなど）（→P.224）
- マイルームモード（→P.85）を使用しているとき
- 充電中にボンネットを開いたとき
- 充電中に停電したとき
- 充電器（スタンド）、V2H 機器で供給電力を調整しているとき
- 外部電源の供給電圧が低下したとき
- 車両を長期間放置したことなどにより、補機バッテリーの充電量が低下したとき
- 車両の充電電流設定で充電電流上限を変更したとき（200V での普通充電時のみ）（→P.61）
- 駆動用電池ヒーター（→P.49）が作動したとき

*1 : この場合、駆動用電池の残量表示が満充電になっていても、通常よりも早く残量が低下します。

- 充電前に駆動用電池冷却（→P.50）が作動したとき
- 接続先のコンセントなどに問題があるとき
- ひんぱんに急速充電をくり返したとき
- 車両の急速充電電力設定で充電電力上限を変更したとき（急速充電時のみ）
- 充電関連部品の温度が高いとき

■ 普通充電電力について

使用する普通充電器（スタンド）、または普通充電ケーブルによっては、充電電力が制限される場合があります。

100V 電源での充電は、充電電力が小さいため、充電時間が長くかかります。

また、100V 電源での充電時に、外部電源の供給電圧低下などにより充電電力が低下した場合、充電を停止する可能性があります。

200V 電源での充電をおすすめします。

普通充電のしかた

ここでは、普通充電ケーブルを使用して普通充電する手順を説明しています。充電設備を利用する際は、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法もご確認ください。充電スケジュールが登録されているときは、“今すぐ充電”を ON にしてから充電を実施してください。(→P.78, 77)

⚠ 注意

■ 普通充電関連部品を取り扱うとき

普通充電関連部品の損傷を防ぐため、取り扱いの際は次のことをお守りください。

- 充電を中断・終了するときは、電源プラグを抜く前に普通充電コネクターを抜く。
- 普通充電ケーブルを抜くときは、普通充電コネクターがアンロックされていることを確認する。
- 普通充電コネクターの保護キャップを無理に引っ張らない。
- 充電中に普通充電コネクターを揺するなど振動を与えない

  充電を停止することがあります。
- 普通充電インレットに普通充電コネクター・ヴィークルパワーコネクタ以外のものを挿し込まない。
- 電源プラグをコンセントに抜き挿しするときは、必ず電源プラグ本体を持って操作する。
- ケーブルが引っかかったり、絡んだ状態から無理に引っ張らない

  絡んだ場合は、ほどいてから使用してください。
- 普通充電インレットの分解・修理・改造などをしない

  修理が必要な場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

充電前の重要確認事項

→P.55

充電するときは

1 **普通充電ケーブルを用意する**

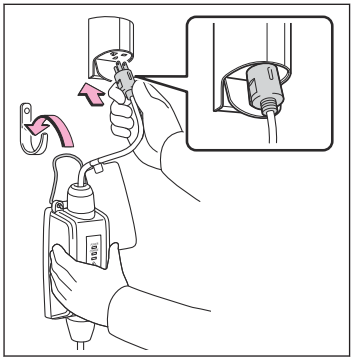
2 **普通充電ケーブルの電源プラグを外部電源のコンセントに挿し込む**

必ず電源プラグ本体を持って、確実に奥まで挿し込んでください。

手元スイッチがある場合は、スイッチを ON にしてください。

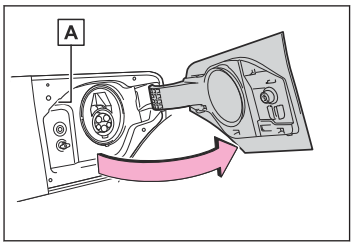
コントロールユニット上の電源インジケーターが点灯していることを確認してください。（点灯していないときは、P.41 を参照してください）

コンセントや電源プラグへの負荷を軽減するために、電源プラグを挿しているときは、ひもなどを使って、コントロールユニットをフック等に引っかけて使用してください。

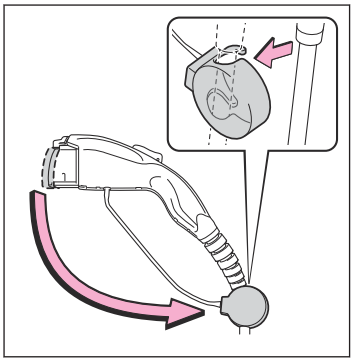


3 **車両のドアを解錠して、普通充電リッドを開ける（→P.36）**

普通充電リッドを開けると、普通充電インレット照明（A）が点灯します。



4 **普通充電コネクターの保護キャップをはずし、ケーブルにかけて固定する**

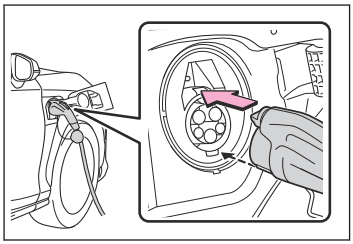


5 **普通充電コネクターを普通充電インレットに挿し込む**

普通充電コネクターの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで挿し込みます。

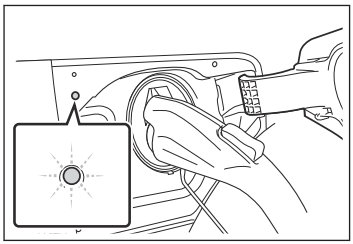
“ カチッ” という音がして、普通充電コネクターが確実に接続されたことを確認してください。

ドアを施錠すると普通充電コネクターがロックされます。



ドアが施錠されている状態で、普通充電コネクターを挿し込んだ場合は、自動的にロックされます。(→P.43)

6 **充電ポートの充電インジケーターが点灯していることを確認する**



充電インジケーターが点灯していないときは、充電が開始されていません。(→P.37)

充電インジケーターが通常の速さで点滅しているときは、充電スケジュールが登録されています。(→P.72)

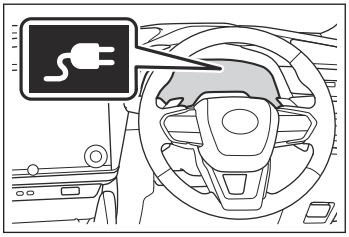
充電時にコントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅したときは、P.706 の記載を確認し、対処してください。

充電が完了すると、充電インジケーターが消灯します。

充電完了前に何らかの理由により充電が停止したときも、充電インジケーターが消灯します。その場合は、P.699 の記載をご確認ください。

知識

■ 普通充電コネクターが接続されているとき



普通充電コネクターが接続された状態でドアを開けるまたはパワースイッチを ON にすると、メーターの充電コネクター接続表示灯(プラグ形状)が点灯し、充電コネクターが接続されていることをお知らせします。

■ 普通充電コネクターの接続後に充電ポートの充電インジケーターが点滅したとき

充電スケジュール（→P.72）が登録されている状態になっており、充電を開始することができません。充電スケジュールをキャンセルして充電を開始したいときは、次のいずれかの操作を行ってください。

- “今すぐ充電” を ON にする(→P.78, 77)
- 充電インジケーターが通常の速さで点滅しているあいだに、接続した普通充電コネクターを取りはずして、すぐに接続し直します。この操作をすると、充電電流と充電量上限の設定が一時的に初期設定になります。(→P.61)

■ 普通充電インレットに普通充電コネクターを挿し込めないとき

→P.43

■ 安全機能について

普通充電コネクターを普通充電インレットに挿し込んだ状態でも、ロック解除ボタンを押しているあいだは、充電が開始されません。

なお、充電中に数秒程度ロック解除ボタンを押し続けると充電が中止されます。充電を再開したいときは、いったん普通充電コネクターを抜いてから再度、普通充電コネ

クターを挿し直して、充電ポートの充電インジケーターが点灯することを確認してください。

■ 充電時間が長くなるとき

→P.56

■ 200V での充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は

センターディスプレイで、充電電流の上限値を次のように変更することができます。*1

1. にタッチする
2. "車両カスタマイズ"にタッチする
3. "充電"にタッチする
4. "充電電流"にタッチする
5. ご希望の値にタッチする

充電時の最大電流が選択した電流以下に制限されます。*2

充電電流の上限値を変更しても、充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は、接続した電源が充電に必要な要件を満たしているか確認してください。(→P.45)

充電電流の設定は充電中でも変更可能ですが、反映されるまでに時間がかかる場合があります。

充電中に充電電流の設定を変更すると、家屋の照明がちらついたり、ブレーカーが落ちる可能性があります。

■ 充電量上限設定のしかた

センターディスプレイで、充電時の充電量の上限を次のように変更することができます。

充電量上限で設定した値は普通充電、急速充電共通です。

1. にタッチする
2. "車両カスタマイズ"にタッチする
3. "充電"にタッチする
4. "充電量上限"にタッチする
5. ご希望の値にタッチする

急速充電中に変更した場合、充電器（スタンド）のタイムアウトにより、満充電せずに途中で停止することがあります。

■ 充電電流と充電量上限の設定を一時的に初期設定に変更したいとき

普通充電コネクターを接続してから約 15 秒以内に取りはずし、すぐに接続し直すと、充電電流と充電量上限の設定を一時的に初期設定に変更することができます。

また、充電スケジュールが登録されている状態で、充電インジケーターが通常の速さで点滅しているときにこの操作を行うと、"今すぐ充電"が ON になります。(→P.60)

*1: カスタマイズ設定で充電電流の設定を変更しても、100V 充電時の最大電流は 6A から変更されません。

*2: 充電電流を制限すると、充電完了までの時間は長くなります。

■ 普通充電インレット過熱保護

充電コネクターの接点への異物混入などにより、温度が上昇して溶損してしまうことを防ぐために、普通充電インレット部に温度センサを搭載しています。

一定の温度上昇が検知されると、速やかに充電を停止します。その後、パワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P.644)

⚠ 警告

■ 充電するときの警告

充電するときは、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず充電に必要な要件を満たす電源に接続する（→P.45）
- 充電前に普通充電ケーブル・電源プラグ・コンセントに変形・破損・水分・腐食・ほこり等の異物がないことを確認する
- 充電前に普通充電インレットに変形・破損・腐食・ほこり等の異物がないか、または雪・氷が付着していないことを確認する

  付着している場合は、普通充電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 挿し込みがゆるくなったコンセントは使用しない
- 過熱するおそれがあるため、普通充電ケーブルを束ねたり巻いたりした状態で充電しない
- 普通充電コネクター・普通充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（針金など）でふれたり、手でふれたり、異物でショートさせたりしない
- 屋外では必ず防雨形コンセントを使用する

  防雨スイッチプレートを確実に閉めてください。閉まらない場合は、新しいプレートに交換してください。
- 充電を中断するときは、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法に従う
- 充電中に発熱・発煙・異臭・異音などを発見したときは、ただちに充電を中止する
- コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグは挿さない
- 雨や雪の中で充電を行うときは、ぬれた手で電源プラグの抜き挿しを行わない。また、コンセントや電源プラグをぬらさない
- 落雷の可能性がある天候のときは充電を行わない
- 普通充電ケーブルをドアやバックドアで挟まない
- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットを車両で踏まない
- 電源プラグはコンセントにいっぱいまで挿し込む
- 普通充電コネクターと普通充電インレットとのあいだに、変換アダプターを接続しない
- 必ず普通充電ケーブルで届く範囲のコンセントに接続し、延長コードは使用しない

⚠ 警告

- 普通充電システムを使用するときは、ボンネットを閉める

  冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなど回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 普通充電ケーブルの接続後、どこかに巻き付いていないか確認する
- 普通充電ケーブルを接続しても、コントロールユニット上の電源インジケーターが点灯しない場合は、すぐに普通充電ケーブルを取りはずしてください。

■ 充電時にコントロールユニット上のエラーインジケーターが点灯・点滅したときは

電源経路に漏電が発生しているか、普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常がある可能性があります。

P.41 の記載内容を確認し、対処してください。対処してもエラーインジケーターが消灯しない場合は、ただちに充電を中止し、普通充電ケーブルを取りはずして、レクサス販売店にご連絡ください。そのまま充電を続けると、思わぬ事故の発生や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

■ 車載充電器について

モータールームに車載充電器があります。車載充電器については、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 充電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、ふれないでください。
- 分解・修理・改造しないでください。修理が必要な場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ 充電時の注意

普通充電インレットに電源プラグを挿し込まないでください。

普通充電インレットが故障するおそれがあります。

■ 自家用発電機の使用について

充電用電源に自家用発電機は使用しないでください。

安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、充電が停止したりするおそれがあります。

充電が継続できる場合でも、モータールーム付近から音が聞こえることがあります。

■ 充電設備について

電力設備などが併設された環境では、ノイズにより安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、充電が停止するおそれがあります。

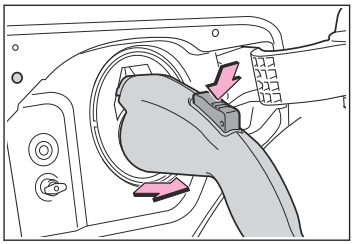
充電したあとは

1 **車両のドアの解錠操作をして、普通充電コネクターをアンロックする**
(→P.43)

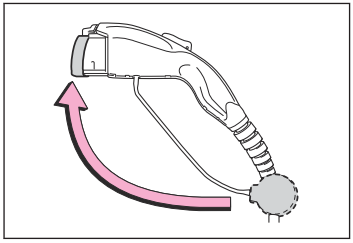
ドアの解錠操作をすると、普通充電インレット照明が点灯します。

2 **ロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、普通充電コネクターを取りはずす**

充電中（充電インジケーターの点灯中）にロック解除ボタンを押すと、充電が停止します。

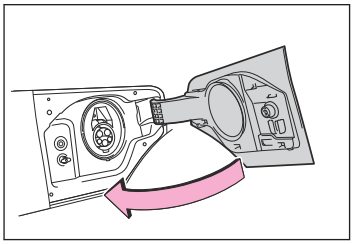


3 **普通充電コネクターの保護キャップを取り付ける**



4 **普通充電リッドを閉める**

普通充電リッドをロックするときは、車両のドアを施錠します。（→P.36）

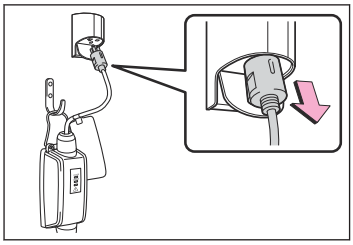


5 **長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜く**

必ず電源プラグ本体を持って抜いてください。

取りはずした普通充電ケーブルは、すみやかに片付けてください。（→P.65）

電源プラグを挿したままにするときは、1 ヶ月に 1 回は電源プラグに汚れやほこりがないか点検してください。



知識

■ 周囲の温度が低温または高温のとき

充電が完了して駆動用電池残量計（→P.338）が満充電の状態になっていても、パワースイッチを ON にすると残量表示がわずかに低下することがありますが、異常ではありません。

■ メーター操作で充電停止するとき

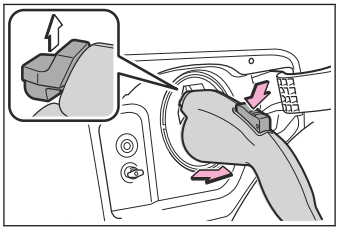
1. マルチインフォメーションディスプレイに充電状態が表示されているときに、メーター操作スイッチのを長押しする
2. "はい"を選択する

充電が停止します。

■ 普通充電コネクターをはずすとき

ロック解除ボタンを押して、レバーが上がることを確認してから普通充電コネクターを手前に引いてください。

普通充電コネクターがロックされている場合は、アンロックしてからはずしてください。(→P.43)



■ 普通充電コネクターをアンロックできないとき

→P.704

⚠ 警告

■ 充電後の警告

長期間使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。

電源プラグやコンセントにほこり等の汚れがたまると、故障や火災などが発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 充電後の注意

- 普通充電ケーブルは幼児やお子さまの手の届かない場所で保管してください。
- コンセントから電源プラグを取りはずしたあとは、普通充電ケーブルをほこりや水などがかからない安全な場所に保管してください。

  普通充電ケーブルを足や車両で踏んだりすると、普通充電ケーブルや電源プラグが損傷する原因となります。
- 普通充電インレットから普通充電コネクターを取りはずしたあとは、必ず充電リッドを閉めてください。

  充電リッドを開けたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。

急速充電・V2H 充電／V2H 給電のしかた

ここでは、急速充電・V2H 充電／V2H 給電の手順を説明しています。

充電設備を利用する際は、急速充電器（スタンド）および V2H 機器の取り扱い方法をご確認ください。

⚠ 警告

■ 急速充電器（スタンド）・V2H 機器を使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- CHAdeMO 規格に準拠し、一般社団法人チャデモ協議会の認証を受けた急速充電器（スタンド）を使用してください。
- 電動自動車用充放電システムガイドライン V2H DC 版に準拠し、一般社団法人チャデモ協議会の認証を受けた V2H 機器を使用してください。
- 30m をこえるケーブルを使用しないでください。

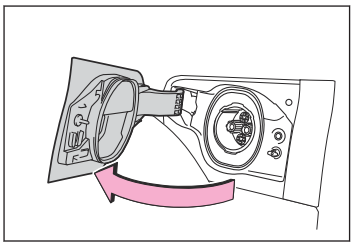
急速充電・V2H 充電／V2H 給電前の重要確認事項

→P.55

急速充電・V2H 充電／V2H 給電するときは

1 **車両のドアを解錠して、急速充電リッドを開ける（→P.36）**

2 **急速充電リッド（車両の左側）を開けると、急速充電インレット照明が点灯します。**

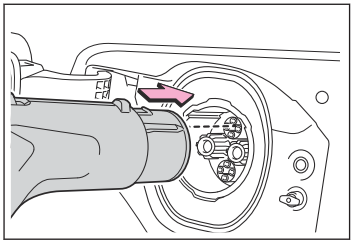


3 **急速充電コネクターを急速充電インレットに挿し込む**

“カチッ” という音がして、急速充電コネクターが確実に接続されたことを確認してください。

急速充電コネクターの形状や取り扱い方法などは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイプにより異なります。

急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。



4 **急速充電器（スタンド）・V2H 機器を操作して急速充電・V2H 充電／V2H 給電を開始する**

具体的な開始方法については、急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従ってください。

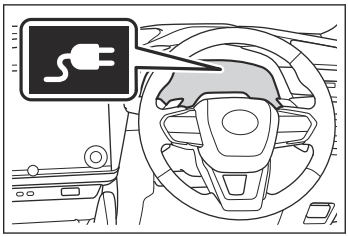
システムチェックが実施されたあと、急速充電・V2H 充電／V2H 給電が開始されます。

急速充電・V2H 充電／V2H 給電を中断したいときは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、停止してください。

知識

■ 急速充電器（スタンド）・V2H 機器に接続されているとき

急速充電器（スタンド）・V2H 機器に接続された状態でドアを開けるまたはパワースイッチを ON にすると、メーターの充電コネクター接続表示灯（プラグ形状）が点灯し、充電コネクターが接続されていることをお知らせします。



■ 充電時間が長くなるとき

→P.56

■ 急速充電器（スタンド）・V2H 機器に車両異常があるようなメッセージが表示されたとき

急速充電器（スタンド）・V2H 機器に車両異常があるようなメッセージ（例えば、“車両に異常がみつかりました”、“車両故障発生” など）が表示されても、車両の異常ではなく、急速充電器（スタンド）・V2H 機器と車両間の通信異常である可能性があります。

この場合、急速充電コネクター端子故障（接点不良）などが考えられます。

車両に異常がない場合は、急速充電器（スタンド）の管理者に連絡するか、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。

■ 急速充電器（スタンド）に表示される充電時間について

急速充電器（スタンド）によっては実際の充電時間より多めの充電時間が表示されることがありますが、故障ではありません。

■ 急速充電・V2H 充電／V2H 給電中は

- マルチインフォメーションディスプレイで、現在の充電状態を確認することができます。

  ただし、V2H 充電中の充電時間は表示されません。
- 急速充電器（スタンド）での充電中、急速充電器（スタンド）に表示される充電時間と、実際の充電時間とは異なる場合があります。
- 急速充電中・V2H 充電／V2H 給電中は、ノイズの発生によりラジオが聞こえなくなる場合があります。

- 満充電に近づくと充電速度が低下して、充電完了までの時間が長くなります。
- 急速充電器（スタンド）の仕様により、満充電になる前に充電停止する場合があります。
- 駆動用電池の残量・外気温・充電器（スタンド）の仕様などの条件により、充電完了までの時間が変化する、または充電量上限まで到達する前に充電が停止する場合があります。
- 駆動用電池の容量の低下を防ぐため、ひんぱんな急速充電は避けることをおすすめします。
- 急速充電が終了したあとは、ほかの利用者のため、すみやかに急速充電スペースから移動してください。
- 寒冷時など、駆動用電池が冷えているときに急速充電・V2H 充電を行うと、モータールームから蒸気が出たり、ボンネットに結露ができたりします。駆動用電池の昇温時に発生した熱が雪や氷、霜を蒸発させるためで、故障ではありません。
- 満充電時に充電量を補正しているため、駆動用電池残量が 100%を表示しない場合があります。
- 急速充電時、満充電付近において、充電量の補正により駆動用電池残量が 100%となり、充電停止する場合があります。
- 駆動用電池残量の上限設定がある V2H 機器では、車両の上限設定を解除してください。車両で設定した充電量上限まで到達する前に充電が停止する場合があります。

■ 停電時の V2H 機器の利用について

V2H 機器の中には、停電時に機器起動のため、車両から電源供給を必要とするものもあります。その場合、DC 外部給電システム（→P.87）を使うことにより、車両の補機バッテリーから機器起動のための電力を供給することで、停電時にも電源供給を行うことができます。

停電時の V2H 機器の利用については、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。

■ 急速充電電力設定のしかた

センターディスプレイで急速充電電力の上限を変更することができます。

1. にタッチする
2. "車両カスタマイズ"にタッチする
3. "急速充電電力"にタッチする
4. ご希望の値にタッチする

充電時の最大電力が選択した電力以下に制限されます。“MAX”を選択した場合、車両が充電可能な最大電力で充電されます。

■ 充電量上限設定のしかた

→P.61

■ 急速充電電力設定と充電量上限の設定が変更できないとき

充電インジケーターが緑色に点滅しているときに、接続した急速充電コネクターを取りはずしてすぐに接続し直すと、急速充電電力設定と充電量上限の設定が初期設定に変更されます。

また、次回充電するときはカスタマイズした設定に戻ります。

⚠ 警告

■ 急速充電・V2H 充電／V2H 給電するときの警告

充電するときは、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 急速充電器（スタンド）・V2H 機器・急速充電インレットに破損箇所がないか確認する

  急速充電インレットに破損箇所がある場合は絶対に急速充電・V2H 充電／V2H 給電を行わず、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
- 急速充電コネクター・急速充電インレットの端子に手をふれたり、異物でショートさせたりしない
- 急速充電インレットに急速充電コネクター以外のものを挿し込まない
- 急速充電コネクター・急速充電インレットの端子に、金属製の鋭利なもの（針金や針など）でふれない
- ケーブルが折れ曲がったり、重いものの下敷きになったりしていないことを確認する
- 急速充電コネクターと急速充電インレットは、必ず直接接続する

  急速充電コネクターと急速充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。
- 急速充電・V2H 充電／V2H 給電を中断するときは、急速充電器（スタンド）の取り扱い方法・V2H 機器に付属している取扱説明書に従う

  急速充電中・V2H 充電／V2H 給電中に発熱・発煙・異音・異臭などを発見したときは、ただちに急速充電・V2H 充電／V2H 給電を中止してください。
- 急速充電コネクター・急速充電インレットに異物がないか、または、雪・氷が付着していないか確認する

  付着している場合は、急速充電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 落雷の可能性がある天候のときは急速充電・V2H 充電／V2H 給電を行わない

  急速充電中・V2H 充電／V2H 給電中、雷に気付いたときは、車両およびケーブルにさわらないでください。
- 急速充電インレットの端子部が濡れないようにする
- 急速充電システムまたは V2H 充電／V2H 給電システムを使用するときは、ボンネットを閉める

⚠ 警告

冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなど回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ 急速充電コネクターを接続するとき

- 急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って急速充電コネクターを接続してください。急速充電コネクターが正しく接続されていない場合、システムがコネクターの接続を認識できず、EV システムを始動できてしまうことがあります。
- 急速充電中・V2H 充電／ V2H 給電中に、急速充電インレットから急速充電コネクターを取りはずさないでください。急速充電器（スタンド）・V2H 機器を操作して充電を停止した後、急速充電インレットから急速充電コネクターを取りはずしてください。

⚠ 注意

■ 急速充電・V2H 充電／V2H 給電するとき

必ず急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、急速充電・V2H 充電／V2H 給電を行ってください。誤った取り扱いをすると、車両や急速充電器（スタンド）・V2H 機器などを損傷するおそれがあります。

急速充電・V2H 充電／V2H 給電したあとは

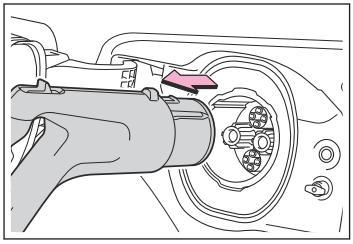
1 **急速充電器（スタンド）・V2H 機器を操作して充電を停止する**

2 **急速充電コネクターを取りはずす**

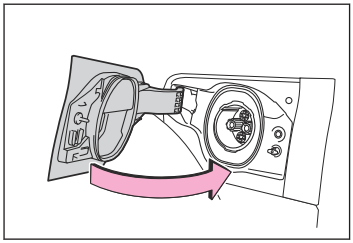
急速充電コネクターの形状や取り扱い方法などは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイプにより異なります。

急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。

取りはずした急速充電コネクターは、もとの位置にもどしてください。



3 **急速充電リッドを閉める**



知識

■ 急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに“充電システム 確認のため 充電リッドを 閉めてください 取扱書を確認”が表示されたとき

→P.652

■ 充電停止ボタンで充電停止するとき

1. マルチインフォメーションディスプレイに充電状態が表示されているときに、メーター操作スイッチの を長押しする



2. "はい"を選択し、"OK"を押すと、充電が停止します。

   接続した急速充電コネクターを取りはずしてすぐに接続し直すと、充電停止ボタンで充電停止できなくなります。解除するには急速充電コネクターを抜いてください。

■ 急速充電コネクターをアンロックできないとき

→P.704

■ 急速充電・V2H 充電をしたあと

充電量上限で設定した値まで充電しても、急速充電器（スタンド）・V2H 機器に表示される充電量が実際の充電量より低く表示されることがあります。

⚠ 警告

■ 急速充電・V2H 充電／V2H 給電後の警告

急速充電・V2H 充電／V2H 給電完了後、EV システムを始動する前に、必ず急速充電コネクターを車両の急速充電インレットから取り外してください。

もしコネクターが接続されたままの車両を発進させると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 急速充電・V2H 充電／V2H 給電後の注意

急速充電インレットから急速充電コネクターを取りはずしたあとは、必ず急速充電リッドを閉めてください。

タイマー充電機能を使う

充電スケジュールを登録しておくことで、ご希望の時刻に普通充電を実施することができます。

知識

■ 日時設定について

充電スケジュールは、車両の時計に従って動作します。

日時設定が誤っていると、タイマー充電機能が正しく作動しなくなります。

充電スケジュール設定でできること

充電スケジュールを登録する際は、次の各機能の設定が可能です。

■ 充電モードの選択

次の 2 種類から充電モードを選択できます。

- 開始

  設定した時刻に普通充電が開始され、満充電になると充電が終了します。

- 開始・終了

  設定した開始時刻と終了時刻に従って普通充電を実施します。

■ 繰り返し設定

ご希望の曜日を選択することで、繰り返し充電が行われるように設定できます。充電を実施したい曜日を 1 つ以上選択してください。ただし、普通充電器(スタンド)の仕様により、満充電になったあと動作しないことがあります。

■ 今すぐ充電の ON・OFF

充電スケジュールの登録内容を変更することなく充電を行いたいときは、“今すぐ充電” を ON にすることで、充電スケジュールが一時的に無効になり、普通充電コネクター接続後、普通充電を開始することができます。

充電スケジュールが登録されており、かつ今すぐ充電が ON の時に普通充電コネクターを取り外した場合、今すぐ充電が OFF になります。

■ 次回充電予定

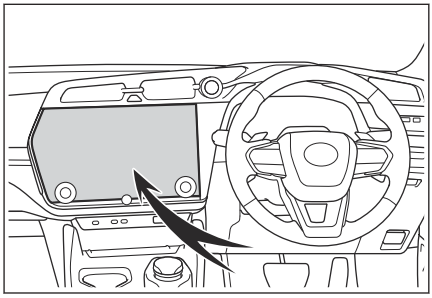
登録済みの充電スケジュールのうち、現在時刻以降で最も近い充電スケジュールを「次回充電予定」と呼びます。

充電スケジュールは、次回充電予定に従い、普通充電を実施します。

充電スケジュールを登録するには

センターディスプレイで充電スケジュールを登録できます。「今すぐ充電」のみ、マルチインフォメーションディスプレイでも設定できます。

センターディスプレイでの設定操作：→P.75



知識

■ タイマー充電機能について

- 走行中に充電スケジュールの設定操作を行うことはできません。
- 充電スケジュールは、最大で 15 件まで登録できます。
- 充電モードを“開始・終了”に設定し、開始時刻と終了時刻を同時刻に設定した場合、開始時刻から 24 時間充電を実施します。
- タイマー充電機能は、急速充電時・V2H 充電／V2H 給電時には使用できません。

■ タイマー充電機能を正しく作動させるために

次のことをご確認ください。

- 時刻・曜日が正しく設定されていること*1
- パワースイッチが OFF になっていること
- 充電スケジュールの登録後に普通充電コネクターを接続すること

  普通充電コネクターを接続した時点の充電スケジュールを基に、充電の開始時刻が決定されます。
- 開始時刻よりも前に普通充電コネクターを接続すること

  充電モードを“開始”に設定したときは、設定した開始時刻を過ぎてから普通充電コネクターを接続すると、次の充電スケジュールが参照されます。

  充電モードが”開始・終了”の場合は、開始時刻を過ぎてから普通充電コネクターを接続すると、すぐに充電を開始し、終了時刻まで充電を実施します。
- 普通充電コネクターの接続後、充電ポートの充電インジケーターが点滅することを確認する（→P.37）
- 電力遮断機能（タイマー機能を含む）を持つコンセントで使用しない

  常に電力が供給されているコンセントを使用してください。タイマー機能などで電力が遮断されるコンセントでは、設定されている時間帯に電力が遮断されるため、意図どおりに充電が行われない場合があります。

■ 普通充電コネクターが車両に接続されたままの状態のとき

- 充電モードを“開始”に設定したときは、連続する複数の充電スケジュールが登録されていても、充電完了後に普通充電コネクターを取りはずして再接続するまで、

*1：時計や日付の設定のしかたについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

次の充電は実施されません。また、駆動用電池が満充電のときは、充電は実施されません。

- 充電モードを“開始・終了”に設定したときは、満充電となる前に終了時刻に到達した場合、終了時刻以降で最も近い充電スケジュールを次回充電予定に更新して、満充電となるまで充電を繰り返し実施します。

■ スマートフォンとの連携について

G-Link サービスご契約のお客様は、アプリで充電設定の変更を行うことができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 充電スケジュールが無効になるとき

充電スケジュールの待機中に次の操作を行ったときは、充電スケジュールを一時的にキャンセルして、充電を開始します。

- リモートエアコンシステムを作動させたとき
- マイルームモード（→P.85）を開始したとき
- “今すぐ充電”を ON にしたとき(→P.77, 78)
- 充電スケジュールを一時的にキャンセルする操作を行ったとき（→P.60）

■ 駆動用電池ヒーター（→P.49）／駆動用電池冷却（→P.50）について

駆動用電池の温度によっては、充電スケジュールの待機中に駆動用電池ヒーターまたは駆動用電池冷却機能が作動し、充電インジケーターが点灯する場合があります。

センターディスプレイでの設定操作*1

充電スケジュールに関する設定操作は、充電スケジュール画面上で行います。

“充電スケジュール”画面を表示するには

1 **パワースイッチを ON にする*2**

2 **メインメニューのにタッチし、“充電スケジュール”にタッチする**

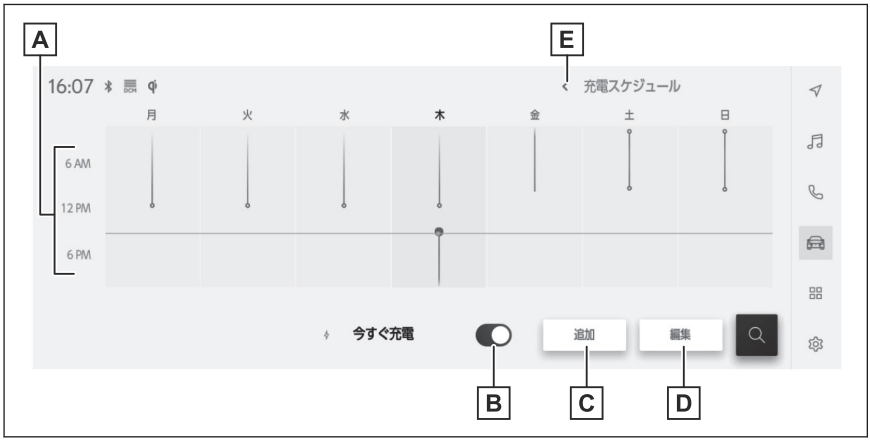
“充電スケジュール”画面が表示されます。



*1: マルチメディアの詳しい操作方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

*2: ACC では充電スケジュールの設定操作を行うことはできません。

“充電スケジュール” 画面の見方



A 充電スケジュール

1 週間の範囲で、登録済みの充電スケジュールが連続する線の形で一覧表示されます。

B “今すぐ充電” ボタン

タッチすると “ 今すぐ充電” が ON になります。(→P.77)

C 追加ボタン

充電スケジュールを新規登録するときにタッチします。(→P.75)

D 編集ボタン

登録済みの充電スケジュールの内容を変更・削除したいときにタッチします。(→P.76)

E もどるボタン

タッチすると、"充電スケジュール"画面が終了します。

充電スケジュールを登録するには

1 **“充電スケジュール” 画面を表示する (→P.74)**

2 **“追加” にタッチする**

“タイマー設定を追加” 画面が表示されます。

3 **充電モードを選択する**

“ 開始設定” または “ 開始／終了設定” にタッチします



4 **画面を操作して、ご希望の時刻を設定する**

充電モードが“ 開始設定” のときは普通充電を開始する時刻を、“ 開始／終了設定” のときは普通充電を開始および終了したい時刻を設定します。

5 **繰り返し設定を有効にしたい曜日を選択し、“OK” にタッチする**

複数の曜日に対して、繰り返し設定を ON にすることも可能です。

チェックボックスを選択するたびに、選択した曜日の繰り返し設定の ON／OFF が切りかわります。

6 **すべての設定が終了したら、“保存” にタッチする**

充電スケジュールが登録され、" 充電スケジュール"画面にアイコンが追加されます。

充電スケジュールの ON/OFF を切りかえるには

1 **“充電スケジュール” 画面を表示する（→P.74）**

2 **“編集” にタッチする**

“タイマー設定リスト” 画面が表示されます。

3 **画面に表示されているリストの中から、ON/OFF を切りかえたい充電スケジュールの行の または にタッチします。**

ON/OFF を切りかえたい充電スケジュールが画面上に表示されていないときは、リスト表示を上下にスクロールして、対象の充電スケジュールを表示させます。

ボタンを選択するたびに充電スケジュールの ON/OFF が切りかわります。



充電スケジュールの登録内容を変更するには

1 **“充電スケジュール” 画面を表示する（→P.74）**

2 “編集”にタッチする

“タイマー設定リスト”画面が表示されます。

3 “タイマー設定リスト”画面の“編集”にタッチする



4 画面に表示されているリストの中から、登録内容を変更したい充電スケジュールにタッチする

- 登録内容を変更するときは：

  “充電スケジュールを登録するには”（→P.75）の手順 3 以降の操作要領で、ご希望の設定内容に変更する

  設定を変更すると、"充電スケジュール"画面のアイコン表示もかわります。

- 登録内容を削除するときは：

  “削除”にタッチする

  削除を確認するメッセージが表示されます。

  “削除”をタッチして、選択した充電スケジュールを削除します。

  充電スケジュールを削除すると、スケジュール上のアイコンも削除されます。

“今すぐ充電”を ON にするには

1 “充電スケジュール”画面を表示する（→P.74）

2 “今すぐ充電”のボタンにタッチする

ボタンを選択するたびに、“今すぐ充電”の ON/OFF が切りかわります。

設定の終了後、車両に普通充電コネクターを接続すると、普通充電が開始されます。（→P.58）

上記の方法でも“今すぐ充電”を ON にできないときは、充電インジケーターが通常の速さで点滅しているあいだに、接続した普通充電コネクターを取りはずして、すぐに接続し直すと“今すぐ充電”が ON になります。

また、この操作をすると、充電電流と充電量上限の設定が一時的に初期設定になります。（→P.61）

“次回充電予定”を表示するには

パワースイッチを OFF にする

設定された充電スケジュールに従って、次回充電予定が表示されます。*1



"OK"ボタンにタッチした場合：次回充電予定画面を閉じます。

"今すぐ充電"ボタンにタッチした場合：今すぐ充電が ON になります。

知識

■ 充電スケジュールをすべて OFF にしたとき

“充電スケジュール” 画面上にアイコンは表示されません。

“タイマー設定リスト” 画面で ON にすることで、アイコンが表示されます。

■ 充電スケジュールの設定操作が中断されるとき

車両が次の状態になると、充電スケジュールの設定操作が中断されます。

- 設定を確定する前にパワースイッチを操作したとき
- 車両が走行し始めたとき
- 充電スケジュール設定よりも優先度が高い画面が表示されたとき

■ 充電中に充電スケジュールを変更したとき

充電スケジュールを変更すると、次回充電予定が更新され、充電が停止することがあります。充電スケジュール変更後は、次回充電予定をご確認ください。

充電を継続したい場合は、” 今すぐ充電” を ON にしてください。

注意

■ 設定操作を行うとき

EV システムが停止した状態で設定操作を行うときは、補機バッテリーあがりにご注意ください。

マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作

“今すぐ充電” を ON にするには

1 パワースイッチを OFF にする

*1: メニュー内の ACC カスタマイズのスイッチが OFF に設定されていないと、エンディング画面が表示されません。その場合は、センターディスプレイの設定内容を確認してください。

マルチインフォメーションディスプレイにエンディング画面が表示されます。(充電スケジュールの待機中にドアを開けた場合にも、同様の画面が表示されます。)

2 **マルチインフォメーションディスプレイに表示された“はい”の位置のステアリングスイッチを押してください。**

設定の終了後、車両に普通充電コネクターを接続すると、普通充電が開始されます。(→P.58) *1

上記の方法でも“今すぐ充電”を ON にできないときは、充電インジケーターが通常の速さで点滅しているあいだに、接続した普通充電コネクターを取りはずして、すぐに接続し直すと”今すぐ充電”が ON になります。

また、この操作をすると、充電電流と充電量上限の設定が一時的に初期設定になります。(→P.61)

*1 : 充電スケジュールが登録されており、かつ今すぐ充電が ON の時に普通充電コネクターを取り外した場合、 今すぐ充電が OFF になります。

バッテリープレコンディショニングを使う

バッテリープレコンディショニングを急速充電の実施前にあらかじめ設定することで駆動用電池の温度を充電に最適な状態に調整します。駆動用電池を充電に最適な温度にすることにより充電時間を短縮できます。

- 駆動用電池の温度を調整するときに電力を使用するため航続距離が短くなることがあります。
- 駆動用電池の充電量が低いときはバッテリープレコンディショニングを使用できないことがあります。

バッテリープレコンディショニング設定でできること

バッテリープレコンディショニングの設定では、次の機能の設定が可能です。

■ バッテリープレコンディショニング(→P.80)

ON にするとバッテリープレコンディショニングを開始して駆動用電池の温度を調整します。

■ ナビ連携バッテリープレコンディショニング(→P.81)

ナビゲーションシステムにて目的地に急速充電所を設定したとき、到着予想時刻に合わせて自動的にバッテリープレコンディショニングを ON にします。

- ナビの目的地設定方法や、急速充電所によっては作動しない場合があります。
- 交通状況、走り方によって到着時までに温度調整が完了しない場合があります。

■ バッテリープレコンディショニング予定(→P.81)

出発時間を設定しておくことで出発時間に合わせて事前に駆動用電池の温度を調整します。

この機能により、駆動用電池はより高速な充電速度に対応できるようになります。

バッテリープレコンディショニングの ON/OFF を切りかえるには

1 パワースイッチを ON にしてメニュー画面を表示する

2 マルチメディア画面のにタッチしてメニュー画面を表示する

3 “バッテリープレコンディショニング” にタッチする

4 “共通設定” にタッチする

5 “バッテリープレコンディショニング” を ON にする



ボタンをタッチするたびに“バッテリープレコンディショニング”の ON・OFF が切りかわります。

ナビ連携バッテリープレコンディショニングの ON/OFF を切りかえるには

1 パワースイッチを ON にしてメニュー画面を表示する

2 マルチメディア画面の にタッチしてメニュー画面を表示する

3 “バッテリープレコンディショニング”にタッチする

4 “共通設定”にタッチする

5 “ナビ連携バッテリープレコンディショニング”を ON にする



ボタンをタッチするたびに“ナビ連携バッテリープレコンディショニング”の ON・OFF が切りかわります。

ナビ連携バッテリープレコンディショニングが ON のときに、ナビゲーションシステムで目的地に急速充電所を設定すると、バッテリープレコンディショニングが自動的に ON になります。

バッテリープレコンディショニング予定を設定するには

時刻・曜日設定について

“バッテリープレコンディショニング予定”は、マルチメディアに表示される時刻と曜日に従って実行されます。

“バッテリープレコンディショニング予定”を設定しようとしたときに、時刻と曜日が正しい設定になっているか確認し、誤っている場合は必ず修正してください。

時刻と曜日が誤っていると、“バッテリープレコンディショニング予定” が正しく作動しなくなります。

マルチメディアの詳しい操作方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

バッテリープレコンディショニング予定を登録するには

1 パワースイッチを ON にしてメニュー画面を表示する

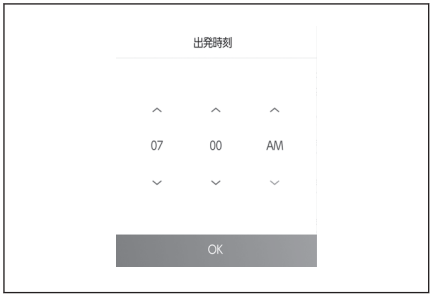
2 マルチメディア画面のにタッチしてメニュー画面を表示する

3 “スケジュール にタッチする

4 “追加” にタッチする



5 画面を操作して、ご希望の時刻を設定し “OK” にタッチする



6 繰り返し設定を有効にしたい曜日を選択し “OK” にタッチする



チェックボックスを選択するたびに、選択した曜日の繰り返し設定の ON・OFF が切りかわります。

7 すべての設定が終了したら、保存にタッチする

バッテリープレコンディショニング予定の設定を切りかえるには

1 パワースイッチを ON にしてメニュー画面を表示する

2 マルチメディア画面の にタッチしてメニュー画面を表示する

3 “バッテリープレコンディショニング” を ON にする

4 “スケジュール” にタッチする

5 表示されているリストの中から、ON/OFF を切りかえたいプレコンディショニング設定のボタンをタッチする



ON·OFF を切りかえたいプレコンディショニング設定が画面上に表示されていないときは、リスト表示を上下にスクロールして、プレコンディショニング設定を表示させます。

ボタンを選択するたびにプレコンディショニング設定の ON・OFF が切りかわります。

バッテリープレコンディショニング予定の登録内容を変更するには

1 パワースイッチを ON にしてメニュー画面を表示する

2 マルチメディア画面の にタッチしてメニュー画面を表示する

3 “スケジュール” にタッチする

4 “編集” にタッチする



5 **画面に表示されているリストの中から、登録内容を変更したいプレコンディショニング設定にタッチする**



- 登録内容を変更するときは：“バッテリープレコンディショニング予定を登録するには”の手順 5 以降の操作要領で、ご希望の設定内容に変更する
- 登録内容を削除するときは：“削除”にタッチする削除を確認するメッセージが表示されます。

  “削除”をタッチして、選択した充電スケジュールを削除します。

マイルームモードを使う

車両に充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力により、エアコンやオーディオなどの電装品を使用することができます。

マイルームモードを開始するには

1 **車両に充電ケーブルを接続して充電を開始する**

普通充電するとき：→P.58

急速充電するとき：→P.66

2 **充電の実施中にパワースイッチを ON にする**

センターディスプレイにマイルームモードの設定画面が自動表示されます。

3 **“はい”を選択する**

マイルームモードが開始され、車内でエアコンやオーディオなどが利用可能になります。

マイルームモードを使用しないときは、“いいえ”を選択します。

マイルームモードを停止するときは、パワースイッチを OFF にします。

急速充電が完了すると、マイルームモードは自動的に停止します。

知識

■ 充電中のメーター表示について

充電中にパワースイッチを ON にしたあと、マイルームモードを選択しない状態が約 100 秒間続くと、パワースイッチが自動で OFF になります。

■ マイルームモードの使用中は

次のようなことが起こる場合があります。

- 駆動用電池の残量が下限に達すると、マイルームモードが自動的に停止する

  その場合は、駆動用電池の残量が増えるまでエアコンなどを操作できなくなります。いったんパワースイッチを OFF にし、駆動用電池の残量が回復したあとで、マイルームモードを使用してください。
- 駆動用電池の充電時間が長くなる
- 電波の状況によっては、ラジオに雑音が入る
- 普通充電中・充電完了後は、車載充電器が搭載されているモータールーム周辺が温かくなることがあります。
- パワーステアリング警告灯（黄色）及び EV システム異常警告灯が点灯することがありますが、異常ではありません。

■ 急速充電中のマイルームモード使用について

急速充電中にマイルームモードを使用するときは、使用しないときと比べて、充電完了時の充電量が低下します。

また、外気温が低く湿度が高い環境での急速充電は、エアコンが車内の除湿を優先するため、充電完了時の充電量がさらに低下する場合があります。充電量を優先する場合は冷房・除湿機能を OFF にしてください。(→P.247, 275)

■ **駆動用電池が満充電の状態でマイルームモードを使用するとき**[*1]

駆動用電池が満充電の状態でマイルームモードを使用すると、駆動用電池量の電力が消費されることがあります。その場合は、再度充電を行うことがあります。

⚠ 警告

■ **マイルームモードの使用上の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。システムの自動停止等により車室内が高温または低温になり、熱中症／脱水症状／低体温症になるおそれがあります。また、ワイパーなどが使用できる状態になるため、誤操作による事故につながるおそれもあります。
- 車両の周囲の安全を十分に確認してから使用してください。

*1：充電器（スタンド）の仕様により、満充電になったあとに動作しないことがあります。

DC 外部給電システムについて

ご使用前に、必ずここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しく取り扱ってください。

DC 外部給電システムについて

車両に外部給電器*1 を接続することで、車両から外部へ給電*2 を行います。

車両の補機バッテリーから機器起動のための電力を供給することで、停電時にも給電を行うことができます。

このシステムを使用するには、外部給電器*1 が必要です。(車両には付属していません)

知識

■ スマートフォンとの連携について

G-Link サービスご契約のお客様は、アプリで DC 外部電源供給システムに関する情報を確認したり、一部の操作を行ったりすることができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

*1: 車両から電気製品へ電力を供給するために、車両から取り出した DC（直流）電力を AC（交流）電力に変換する機器。一般社団法人電動車両用電力供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版に準拠し、一般社団法人チャデモ協議会の認証を受けたもの。

接続確認済みの外部給電器一覧はトヨタ自動車の Web サイトでご確認いただけます。一覧に記載のない給電器は動作未確認のため車両及び外部給電器が動作しない場合があります。

*2: 車両側の出力定格は DC9kW です。ただし、接続する外部給電器の出力定格以上は出力されません。

DC 外部給電システムの使い方

DC 外部給電作業は、ここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

DC 外部給電作業前の重要確認事項

必ず、次の点をご確認ください。

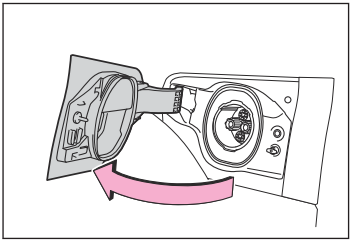
- 普通充電を行っていないこと
- AC 外部給電を行っていないこと
- AC 外部給電または V2H 給電を行っていないこと
- パーキングブレーキがかかっていること（→P.218）
- パワースイッチが OFF になっていること（→P.198）
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

  輪止めの使用をおすすめします。輪止めはレクサス販売店で購入することができます。
- ボンネットが閉まっていること
- シフトポジションが P になっていること
- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと

DC 外部給電を開始するときは

1 **車両のドアを解錠して、急速充電リッドを開ける（→P.36）**

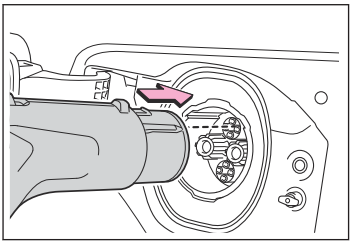
急速充電リッド（車両の左側）を開けると、急速充電インレット照明が点灯します。



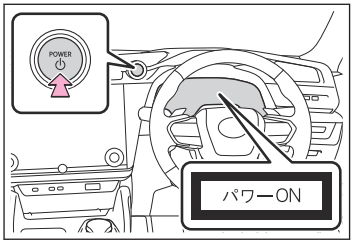
2 **外部給電コネクターを急速充電インレットに挿し込む**

“ カチッ” という音がして、外部給電コネクターが確実に接続されたことを確認してください。

外部給電コネクターの形状や取り扱い方法などは、外部給電器により異なります。外部給電器の取扱説明書に従って、作業を行ってください。



3 **ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを押して ON にする（パワースイッチを 1 回もしくは 2 回押す*1）（→P.196）**



マルチインフォメーションディスプレイに”パワー ON” と表示されていることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押すと、EV システムが始動してしまい、DC 外部給電システムが使用できません。

ON にしたあとは、シフトポジションを変更しないでください。シフトポジションが P でないと、DC 外部給電システムを使用できません。

4 **始動操作に関するアドバイス画面が表示されたときは、↩ を押して前の画面にもどす**

一定時間、メーター操作スイッチを操作しないと、始動操作に関するアドバイス画面が再表示されます。

その場合は、そのつど↩ を押して前の画面にもどしてください。

センターディスプレイで外部給電の設定が行えます。
センターディスプレイでの操作：

5 **を押す**

6 **”外部給電” を押す**

外部給電モードの選択画面が表示されます。



7 **”EV 給電モード” を押す**

外部給電モードの選択画面上に、給電時間の目安が表示されます。*2

駆動用電池の残量が低下しているときは、EV 給電モードを選択できません。

*1: ACC カスタマイズ機能の設定状態により異なります。

*2: 使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の給電時間が異なる場合があります。



8 **操作ガイド画面の表示に従う**

9 **外部給電器で開始操作をする**

外部給電器に付属の取扱説明書に従い、操作してください

外部給電器によっては、パワースイッチが OFF になり、給電が停止することがあります。

その場合は、再度手順 3 から開始操作を行ってください。

10 **接続した電気製品の電源を ON にする**

DC 外部給電中は、センターディスプレイの表示で、現在の給電状況をお知らせします。

知識

■ DC 外部給電システムの使用中は

- シフトポジションを P からほかのシフトポジションに切り替えることはできません。
- 外部給電器の出力上限以上の電力を使用した場合、外部給電器が出力を制限したり、給電を停止したりすることがあります。
- 車両側の定格出力以上の電力を使用した場合、車両が給電を停止することがあります。
- 駆動用電池の残量・外気温・DC 外部給電器の仕様などの条件により、車両側の定格出力以下の電力を使用した場合でも、給電を停止することがあります。
- スマートエントリー＆スタートシステムでドアを解錠・施錠することはできません。
- ワイヤレスリモコンでドアの解錠・施錠をすることができます。使用する電気製品から発生するノイズにより、正常に作動しない場合があります。
- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが見つかりません キーの所在を 確認してください”と表示されたりすることがあります。
- 気温が低いときまたは高いときは、出力を制限または停止することがありますが、異常ではありません。

  その場合は、使用する電気製品を減らしてください。
- 走行中は DC 外部給電システムを使用できません。

- 使用する電気製品によっては、周囲のテレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- 炎天下など、車内が高温になる状態で使用すると、システムを保護するために DC 外部給電システムが自動で停止することがあります。

  その場合は、いったん外部給電コネクターを取りはずしてから、車両を日陰に移動するなどして車内の温度を下げ、再度、DC 外部給電を開始してください。
- 特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、DC 外部給電システムを使用できないことがあります。

  その場合は、いったん外部給電コネクターを取りはずしてからしばらく走行するなどして、駆動用電池を暖めてから使用してください。
- DC 外部給電システム使用中はエアコン・アクセサリーコンセントを使用することができます。
- DC 外部給電システムを開始した時点で、いったんエアコンが OFF になります。DC 外部給電中にエアコンを使用したい場合は、エアコンの操作スイッチを操作してエアコンを作動させてください。*1
- 外部給電器に車両に異常があるようなメッセージ（例えば、「車両に異常が見つかりました」、「車両故障発生」など）が表示されても、車両の異常ではなく、外部給電器と車両間の通信異常である可能性があります。

  この場合、外部給電コネクターの端子故障（接点不良）などが考えられます。外部給電器に付属の取扱説明書を確認してください。

⚠ 警告

■ DC 外部給電システムを使用するときの警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、給電時に車両火災や感電事故などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しない

  使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。
- 洗車は行わない
- ボンネットが閉まっていることを確認する
- モータールーム内に顔や手を近付けない。

  冷却ファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 可燃物や危険物を車両の近くに置かない
- 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しない
- 破損した外部給電器・コード・電源プラグ・コンセントは使用しない

*1：DC 外部給電システムの使用中にエアコンを使用すると、マルチインフォメーションディスプレイまたはセンターディスプレイに表示される外部給電可能時間と実際の給電時間が異なる場合があります。

⚠ 警告

使用中は不要な荷重がかからないようにし、コードなどを足や車両で踏まないようにしてください。

- 給電を開始する前に、接続した電気製品の電源が OFF になっていることを確認する

  電源が ON になっていると、電気製品が突然作動するおそれがあります。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しない
- お子さまなど、不慣れな方だけで作業を行わない
- 外部給電コネクターと急速充電インレットは、必ず直接接続する

  外部給電コネクターと急速充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。
- 落雷の可能性がある天候のときは DC 外部給電システムを使用しない

  使用中、雷に気付いたときには DC 外部給電システムを停止してください。
- 急速充電インレットに急速充電コネクター・外部給電コネクター以外のものを挿し込まない
- 外部給電器に破損箇所がないか確認する
- 外部給電コネクター・急速充電インレットに異物がないか、または雪・氷が付着していないか確認する

  付着している場合は、外部給電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 急速充電インレットの端子部がぬれないようにする
- 外部給電コネクター・急速充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（ピンや針金など）を挿し込まない
- DC 外部給電中に発熱・発煙・異臭・異音などを発見したときは、ただちに DC 外部給電を中止する

■ 車両に給電ケーブルが接続されているとき

ダイヤル式シフトを操作しないでください。

万一、給電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションが P からほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ DC 外部給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。

- 給電時は、外部給電器、給電ケーブルに近付かないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 給電中は車内にとどまらないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 警告

■ 接続する電気製品について

給電を行うときは、必ず本書および接続する外部給電器や使用する電気製品に付属の取扱説明書に記載されている注意事項をお守りください。

記載されている禁止事項を守らずに給電すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 接続する外部給電器について

必ず電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版（→P.87）に準拠し、一般社団法人チャデモ協議会の認証を受けた外部給電器を接続してください。

それ以外の外部給電器を使用すると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ショートや故障を防ぐために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や外部給電器が損傷したりするおそれがあります。

- 急速充電インレットの分解・修理・改造などをしないでください。

  修理が必要な場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- ケーブルを損傷するおそれがあるので、使用中は急速充電リッドでケーブルを挟まないでください。
- 外部給電コネクターを急速充電インレットに抜き挿しするときは、過度の負荷をかけないでください。

  挿し込み不足の原因になります。
- 給電中に外部給電コネクター・ケーブルに物をのせたり、引っかけたりしないでください。
- 給電中に外部給電コネクター・ケーブルを引っ張ったり、過度の負荷をかけたりしないでください。
- 給電中に外部給電コネクター・ケーブルに異常な発熱を感じたらすぐに使用を中止してください。

■ 車から離れるとき

盗難を防止するため、ドアが確実に施錠されたことを確認してください。

DC 外部給電に関する情報の表示

DC 外部給電システムの使用中は、マルチインフォメーションディスプレイまたはセンターディスプレイに外部給電中画面が表示され、外部給電可能時間[*1]などの情報を確認することができます。

*1：表示される時間は 400W（急速充電インレットにおける電力）消費時の目安であり、電気製品の使用状況や、使用環境などにより実際の給電時間と異なる場合があります。



DC 外部給電を停止するときは

1 **使用している電気製品の電源を OFF にする**

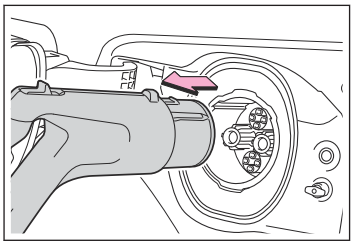
2 **外部給電器を停止させる**

外部給電器に付属の取扱説明書に従い、操作してください。

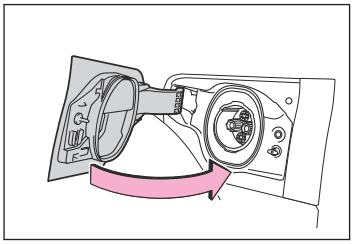
パワースイッチを OFF にしても給電を停止できます。

3 **外部給電コネクターを取りはずす**

外部給電コネクターの形状や取り扱い方法などは、外部給電器により異なります。外部給電器に付属の取扱説明書に従って、作業を行ってください。



4 **充電リッドを閉める**



知識

■ DC 外部給電後、マルチインフォメーションディスプレイに“充電システム確認のため充電リッドを閉めてください取扱書を確認”が表示されたとき

「急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに“充電システム 確認のため 充電リッドを閉めてください取扱書を確認”が表示されたとき」の手順に従い、処置してください。(→P.652)

■ 外部給電コネクターをアンロックできないとき

「急速充電コネクターをアンロックできないとき」の手順に従い、処置してください。(→P.704)

⚠ 注意

■ DC 外部給電システムの故障を防ぐために

給電を停止するときは、使用している電気製品の電源を切ってから停止してください。

■ DC 外部給電システムを使用したあとは

- 外部給電コネクターを急速充電インレットから取りはずすときは、過度の負荷をかけないでください。
- 急速充電インレットから外部給電コネクターを取りはずしたあとは、必ず急速充電リッドを閉めてください。

  急速充電インレットを開けたままにすると、急速充電インレットに水や異物が入り、故障につながるおそれがあります。

AC 外部給電システムについて

普通充電インレットに給電用コネクター（ヴィークルパワーコネクタ）*1 を取り付け、外部給電開始操作を行うことで、AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用することができるシステムです。車両から屋外での外部給電が可能という点で一般家庭のコンセントと異なるため、取り扱いには注意が必要です。ご使用前に、必ずここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しく取り扱ってください。AC 外部給電を使用している場合は、アクセサリーコンセントを使用することができません。

AC 外部給電モードについて

■ EV 給電モード

駆動用電池に蓄えられている電力を使用して AC 外部給電を行います。外部給電可能な駆動用電池の残量を下まわると、外部給電を終了します。

使用するときの重要確認事項

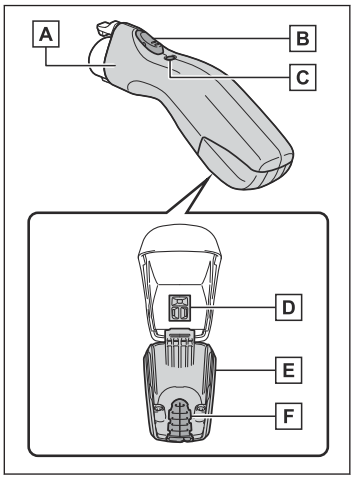
必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

- 急速充電を行っていないこと
- DC 外部給電または V2H 給電を行っていないこと
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

  輪止めの使用をおすすめします。輪止めはレクサス販売店で購入することができます。
- ボンネットが閉まっていること
- パーキングブレーキがかかっていること
- シフトポジションが P になっていること
- パワースイッチが OFF になっていること
- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと

*1：安全にお使いいただくために、レクサス純正ヴィークルパワーコネクタを使用してください。

ヴィークルパワーコネクタ各部の名称



A ヴィークルパワーコネクタ
B ロック解除ボタン
C 電源スイッチ
D 車外コンセント
E 防水カバー
F 防水ゴム

AC 外部給電システムを使用するには

1 **ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを ON にする（パワースイッチを 1 回もしくは 2 回押す*1）**（→P.196）

マルチインフォメーションディスプレイに”パワー ON”と表示されていることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯した場合、AC 外部給電システムが使用できません。

ON にしたあとは、シフトポジションを操作しないでください。シフトポジションが P でないと、AC 外部給電システムを使用できません。

2 **センターディスプレイの にタッチする**

3 **“外部給電”にタッチする**

4 **外部給電モードを選択する***2

外部給電モードの選択画面上に、外部給電可能時間の目安が表示されます。*3

EV 給電モードを選択した場合：操作ガイドの画面の表示に従ってください。



*1: ACC カスタマイズ機能の設定状態により異なります。

*2: 駆動用電池の残量が低下しているときは、EV 給電モードを選択できません。

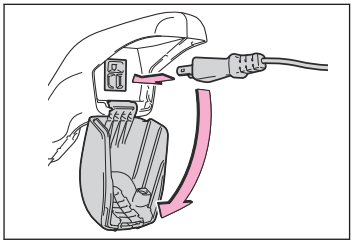
*3: 使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の外部給電可能時間が異なる場合があります。

5 **ヴィークルパワーコネクタを用意する**

ヴィークルパワーコネクタに異常がないことを確認してください。(→P.106)

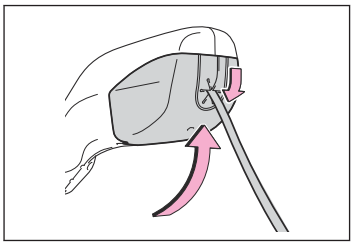
6 **ヴィークルパワーコネクタの防水カバーを開け、使用する電気製品の電源プラグを車外コンセントに接続する**

電源プラグは奥までしっかり挿し込んでください。(→P.100)



7 **防水ゴムに電源コードを通し、防水カバーを閉じる**

防水カバーがロックされたことを確認してください。(→P.102)



8 **普通充電リッドを開ける(→P.36)**

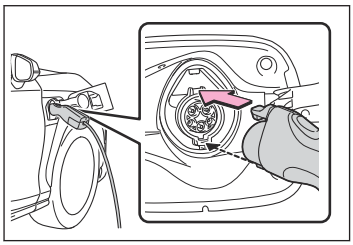
普通充電リッドを開けると、普通充電インレット照明が点灯します。

9 **ヴィークルパワーコネクタを普通充電インレットに接続する**

ヴィークルパワーコネクタの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで挿し込み、“カチッ” という音がして、確実に接続されたことを確認してください。

ドアを施錠するとヴィークルパワーコネクタがロックされます。

ドアが施錠されている状態で、ヴィークルパワーコネクタを挿し込んだ場合は、自動的にロックされます。

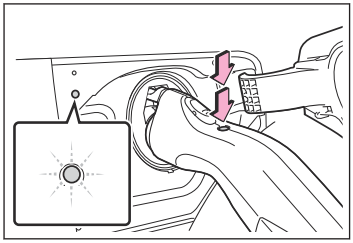


10 **ヴィークルパワーコネクタの電源スイッチを 2 回連続で押す**

充電ポートの充電インジケーターが点灯します。(→P.37)

電源スイッチを 2 回連続で押す間隔が 3 秒以上空いたり、2 回よりも多く押したりした場合は、AC 外部給電は開始されません。

充電インジケーターは一定時間点滅する場合があります。点滅中は AC 外部給電が開始されていないため、点灯にかわるまでお待ちください。(AC 外部給電が開始されないときは：→P.711)



11 **充電インジケーターが点灯したら、接続した電気製品の電源を ON にする**

AC 外部給電中は、マルチインフォメーションディスプレイまたはセンターディスプレイの表示で、現在の外部給電状況をお知らせします。

知識

■ 外部給電モードの選択画面の表示方法

次の手順でも外部給電モードの選択画面を表示することができます。

1. 普通充電リッドを開け、ヴィークルパワーコネクタを普通充電インレットに接続する
2. ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にする（パワースイッチを 1 回もしくは 2 回押す*1）（→P.196）

マルチインフォメーションディスプレイに “パワー ON” と表示されていることを確認してください。

AC 外部給電を停止するときは

1 **使用している電気製品の電源を OFF にする**

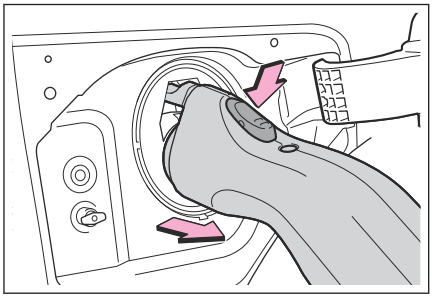
2 **車両のドアの解錠操作をして、ヴィークルパワーコネクタをアンロックする（→P.43）**

ドアを解錠すると、充電インレット照明が点灯します。

3 **ロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、ヴィークルパワーコネクタを取りはずす**

パワースイッチが自動で OFF になります。

ロック解除ボタンを押すだけでも、AC 外部給電は停止します。また、パワースイッチを押して、AC 外部給電を停止することもできます。



4 **車外コンセントから電源プラグを取りはずす**

ヴィークルパワーコネクタと電気製品を片付けてください。

5 **充電リッドを閉める**

充電リッドをロックするときは、車両のドアを施錠します。（→P.36）

*1：ACC カスタマイズ機能の設定状態により異なります。

電気製品の電源プラグを接続するとき

電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。

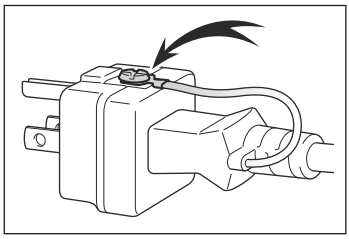
電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

- **防水カバーを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む**

  電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

  次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

  - 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり挿し込めない
  - 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある



アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。

AC 外部給電に関する情報の表示

AC 外部給電システムの使用中は、マルチインフォメーションディスプレイやセンターディスプレイに外部給電中画面が表示され、外部給電可能時間[*1] などの情報を確認することができます。

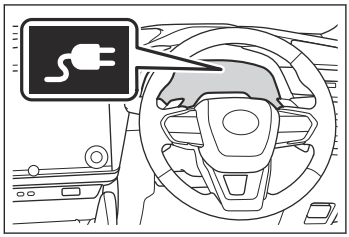


*1 : 表示される時間は 400W 消費時の目安であり、電気製品の使用状況や、使用環境などにより実際の外部給電可能時間が異なる場合があります。

知識

■ ヴィークルパワーコネクタが接続されているとき

ヴィークルパワーコネクタが接続された状態でドアを開けるまたはパワースイッチを ON にすると、メーターの充電コネクター接続表示灯(プラグ形状)が点灯し、ヴィークルパワーコネクタが接続されていることをお知らせします。



■ AC 外部給電システムについて

- AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合は、他の電気製品と併用しないでください。
- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合は、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- AC 外部給電を開始した時点で、いったんエアコンが OFF になります。AC 外部給電中にエアコンを使用したい場合は、エアコンの操作スイッチを操作して、エアコンを作動させてください。*1

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

*1 : AC 外部給電中にエアコンを使用すると、マルチインフォメーションディスプレイやセンターディスプレイに表示される外部給電可能時間と実際の外部給電時間が異なる場合があります。

■ スマートフォンとの連携について

G-Link サービスご契約のお客様は、アプリで AC 外部電源供給システムに関する情報を確認したり、一部の操作を行ったりすることができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ AC 外部給電システムの使用中は

- スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。
- ワイヤレスリモコンでドアの施錠・解錠をすることができます。使用する電気製品から発生するノイズにより、正常に動作しない場合があります。
- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが見つかりません”と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。
- 給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプを消灯したいときは、P.224 を参照してください。

■ AC 外部給電中のいたずらなどを防ぐために

普通充電コネクターと同様に、ヴィークルパワーコネクタを接続した状態でドアを施錠すると、ヴィークルパワーコネクタをロックできます。(→P.43)

■ ヴィークルパワーコネクタをアンロックできないとき

→P.43

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

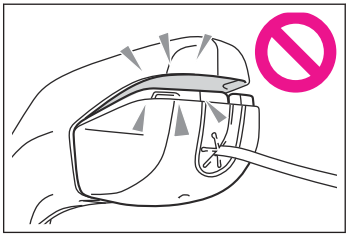
- レクサス純正ヴィークルパワーコネクタを使用してください。
- 給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。
- お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。また、ヴィークルパワーコネクタは幼児の手の届かない場所で保管してください。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをヴィークルパワーコネクタの端子・コンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- ヴィークルパワーコネクタの改造・分解・修理・塗装などはしないでください。修理についてはレクサス販売店にご相談ください。
- コンセントに液体やほこりが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

⚠ 警告

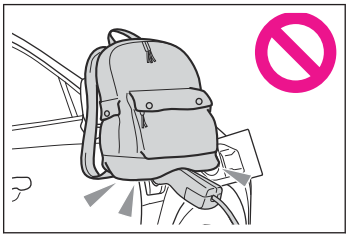
- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。
- 車外コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグを挿さない

  すでに電源プラグが挿してあり、抜く必要がある場合は、まずパワースイッチを OFF にし、ヴィークルパワーコネクタを車両から取りはずしたあと、電源プラグを抜いてください。
- 車外コンセントに電源プラグを接続したあとは、防水カバーを閉じる

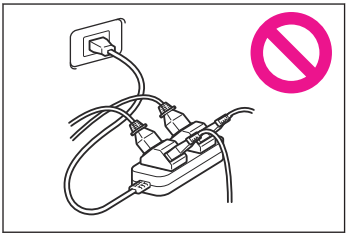
  確実にロックがかかるまで閉じてください。防水カバーがロックできないような大きな電源プラグは使用しないでください。



- ヴィークルパワーコネクタの上に重量物を置いたり、ものを引っかけたりしない



- コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。
  - コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない



  - コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す
- アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。

⚠ 警告

- 電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、ヴィークルパワーコネクタを交換してください。交換についてはレクサス販売店にご相談ください。
- コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する用途として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- コンセントの使用中は車両から離れないでください。
- 落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。
- 洗車は行わないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
- 燃えやすいものの近くに停めて使用しないでください。
- 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。
- 破損したヴィークルパワーコネクタ・コード・電源プラグ・コンセントは使用しない

  使用中は不要な荷重がかからないようにし、コードなどを足や車両で踏まないようにしてください。
- ヴィークルパワーコネクタと普通充電インレットは、必ず直接接続する

  ヴィークルパワーコネクタと普通充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。
- 普通充電インレットに普通充電コネクター・ヴィークルパワーコネクタ以外のものを挿し込まない
- ヴィークルパワーコネクタに破損箇所がないか確認する
- ヴィークルパワーコネクタ・電源プラグ・車外コンセントに変形・破損・水分・腐食・ほこり等の異物がないことを確認する
- ヴィークルパワーコネクタ・普通充電インレットに変形・破損・腐食・ほこり等の異物がないか、または雪・氷が付着していないか確認する

  付着している場合は、ヴィークルパワーコネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- ヴィークルパワーコネクタの端子部がぬれないようにする

⚠ 警告

- ヴィークルパワーコネクタの端子・車外コンセント・普通充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（針金など）でふれたり、手でふれたり、異物でショートさせたりしない
- ヴィークルパワーコネクタの車外コンセントに水や液体・雪がかからないようにする
- AC 外部給電中は、ヴィークルパワーコネクタを無理に引き抜かない

  車両やヴィークルパワーコネクタの破損、感電の原因となります。
- AC 外部給電中に発熱・発煙・異臭・異音などを発見したときは、ただちに AC 外部給電を中止する

■ AC 外部給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。

- 給電時は、ヴィークルパワーコネクタに近付かないでください。

  給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 給電中は車内にとどまらないでください。

  給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。

  給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■ 接続する電気製品について

- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

■ 電源周波数について

- 工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。

  コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。

  電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。

  車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

⚠ 警告

- 特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■ ヴィークルパワーコネクタを取り扱うとき

- 強い衝撃を与えたり落としたりしない
- 水にぬれたときや汚れがあるときは、乾いた布でふく
- 水洗いしたり、水やほかの液体に浸けたりしない

  水やほかの液体に浸けた場合は使用しないでください。
- シールなどを貼り付けない
- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしない
- お子さまにはさわらせない
- 対応していない、ほかの車両には接続しない

■ ご使用前の点検について

次のことを確認してください。点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヴィークルパワーコネクタに破損などがないこと

  異常がある場合はただちに使用を中止して、レクサス販売店にご連絡ください。
- 電源プラグに破損・変形などがないこと

  異常がある場合はただちに使用を中止してください。
- 車外コンセントに汚れや破損などがないこと

■ ヴィークルパワーコネクタを清掃するとき

- 水洗いによる清掃は行わないでください。ヴィークルパワーコネクタ内部に水が浸入すると、使用時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ヴィークルパワーコネクタが汚れたときは、固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でからぶきしてください。
- ガソリン等の溶剤・酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。

■ 車載充電器について

- モータールームに車載充電器があります。車載充電器については、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 給電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、ふれないでください。
- 分解・修理・改造しないでください。修理が必要な場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ ショートや故障を防ぐために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- 使用中はヴィークルパワーコネクタを揺するなどの不要な振動を与えないでください。

  外部給電を停止することがあります。
- 晴天であっても、防水カバーを確実に閉めた状態で使用してください。
- ヴィークルパワーコネクタを挿し込んだあとは、ヴィークルパワーコネクタに無理な力をかけたり、こじったりしない。また、体や荷物などをぶつけないように注意する
- ヴィークルパワーコネクタを抜くときは、ヴィークルパワーコネクタがアンロックされていることを確認する。
- 普通充電インレットの分解・修理・改造などをしない

  修理が必要な場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

■ ヴィークルパワーコネクタをロックするとき

→P.43

■ AC 外部給電システムを使用したあとの注意

- 必ず電気製品の電源を切ってから、ヴィークルパワーコネクタを取りはずしてください。

  電気製品の電源を OFF にしないまま、先に車両からヴィークルパワーコネクタを取りはずすと、電気製品が正常に終了せず、電気製品の故障につながるおそれがあります。
- 普通充電インレットからヴィークルパワーコネクタを取りはずしたあとは、必ず充電リッドを閉めてください。充電リッドを開けたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。
- 車両から離れる際は、ドアを確実に施錠したことを確認してください。

■ ヴィークルパワーコネクタを使用しないとき

衝撃やほこりから保護するため、すみやかに車両から取りはずして保管してください。

なお、長期間使用しないときは、水気がなく、直射日光があたらない場所に保管してください。

日常点検整備の目的

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊“メンテナンスノート”を参照してください。

異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

子どもを車に乗せる

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.110)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P.109）・ウインドウロックスイッチ(→P.153）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ／ボンネット／バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

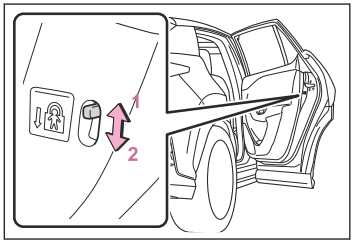
⚠ 警告

■ お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、P.110 を参照してください。

車内からリヤドアを開けられないようにする（チャイルドプロテクター）

ロック側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 ロック解除します。
2 ロックします。

子どもが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアをロック側にしてください。

□ 知識

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアをロック解除して車外のドアハンドルのドア開スイッチを押してドアを開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、ドアハンドルのドア開スイッチを押してドアを開きます。

子どもにあったチャイルドシートを選んで取りつける

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。

  レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。レクサス販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：→P.110

チャイルドシートを使用するときは：→P.111

シート位置別チャイルドシートの適合性について：→P.113

チャイルドシートの取り付け方法：→P.118

- シートベルトで固定する：→P.119
- ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：→P.121
- トップテザーアンカレッジを使用する：→P.122

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢／体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。

⚠ 警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください。（→P.113）本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

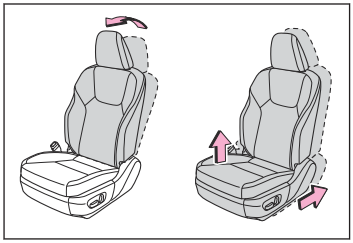
■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- 背もたれを可能な限り起こす

  前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

⚠ 警告

■ チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

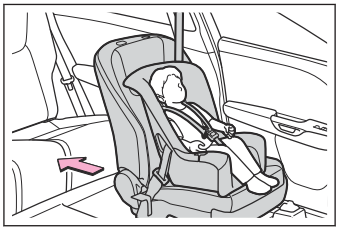
● やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



● やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



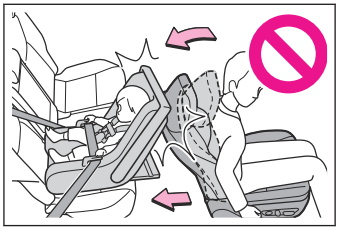
● チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア／シート／フロントピラー／リヤピラー／ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



● ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

⚠ 警告

- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

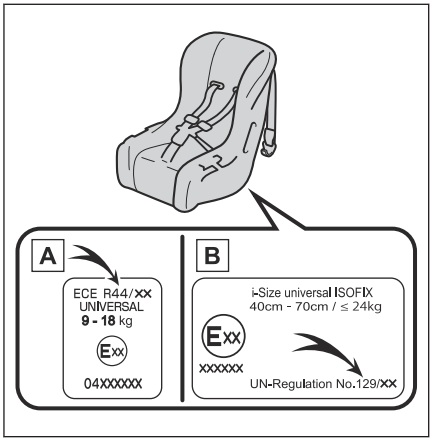
シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.114）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.117）次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 **チャイルドシートの規格を確認する UN(ECE) R44[*1] または、UN(ECE) R129[*1] に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。**

*1：UN(ECE) R44、UN(ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

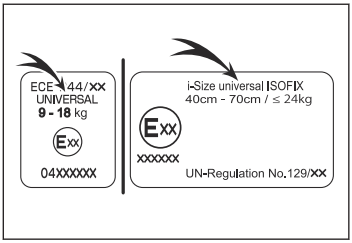


法規番号の表示例

A UN(ECE) R44 認可マーク*1 対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

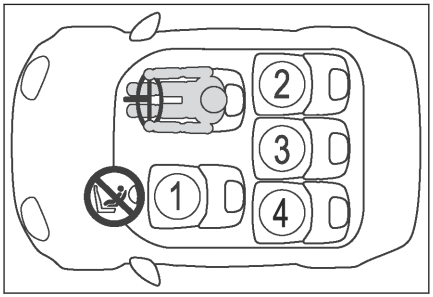
B UN(ECE) R129 認可マーク*1 対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 **チャイルドシートのカテゴリーを確認するチャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。**



- ユニバーサル「universal（汎用）」
- セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- リストリクティッド「restricted（限定）」
- ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」

シート位置別チャイルドシートの適合性

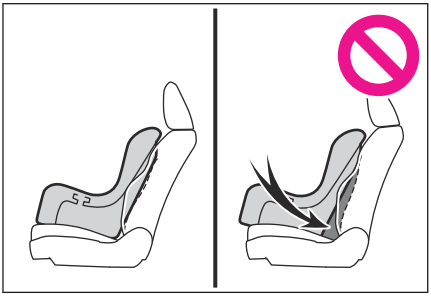


*1: 表示されているマークは、商品により異なります。

① (1)(2)(3)	UF (4)
② (2)(3)	U L
③ (2)(3)	U
④ (2)	U L

(1) シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

(2) 背もたれを可能な限り起こしてください。前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



(3) ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

(4) チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF 車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.117）に記載されたチャイルドシートに適しています。



i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。



トップテザーアンカレッジが装備されています。



やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1／L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1／R2X／R2／R3）	×	R1、R2X、R2、R3	×	R1、R2X、R2、R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X／F2／F3）	×	F2X、F2、F3	×	F2X、F2、F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2／B3）	B2、B3 シートベルト固定のみ	B2、B3	×	B2、B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート

治具	使用の向き・形状・大きさ
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

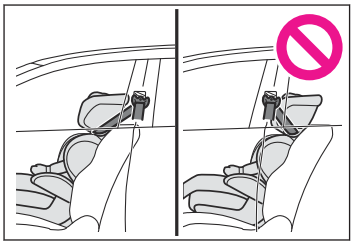
推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置			
			①	②	③	④
レクサス純正 NEO G-Child i-Size	身長：～83cm (体重：～13kg)	うしろ向き	×	○	×	○
	月齢 15 か月以上かつ、身長:76～100cm (体重：～18kg)	前向き	×	○	×	○
レクサス純正 NEO G-Child Junior	身長：100～150cm (体重：15～36kg)	前向きのみ	×	○	×	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。

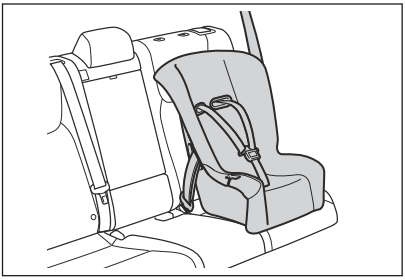
● シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。

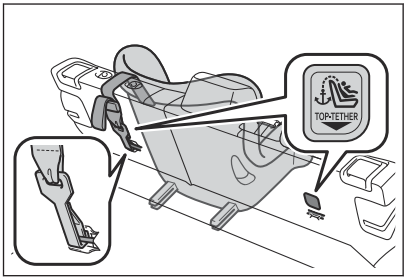


● ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.119
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.121

固定方法		ページ
テザーベルトを固定する		P.122

チャイルドシートをシートベルトで固定する

シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→P.113, 114)

1 **やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。(→P.111)**

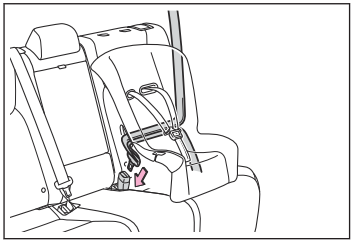
2 **背もたれを可能な限り起こす**

前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 **ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.176)**

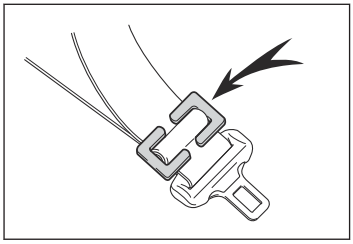
4 **チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする**

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



5 **チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する**

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



6 **取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。**（→P.120）

チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

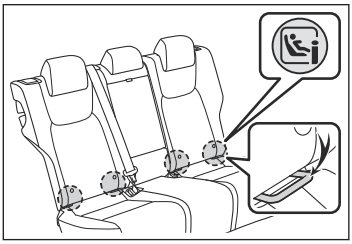
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

ISOFIX ロアアンカレッジについて



この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すボタンがシートに付いています)

ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない(または必要な情報が表の中にない)場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→P.113, 117)

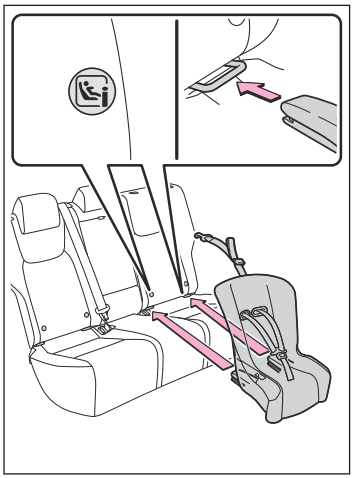
1 **背もたれを可能な限り起こす**

前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれと チャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 **ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。****(→P.176)**

3 **チャイルドシートをシートに取り付ける**

チャイルドシートのコネクタ(取り付け金具)をロアアンカレッジに取り付けます。取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 **取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.120）**

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

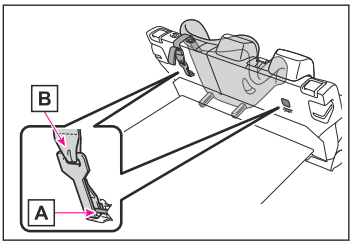
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

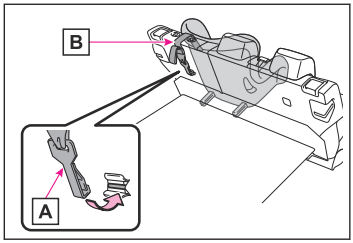
1 **チャイルドシートとヘッドレストがあたるときは、ヘッドレストをはずす（→P.176）**

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

2 **トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める**

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→P.120）

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A フック
B テザーベルト

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

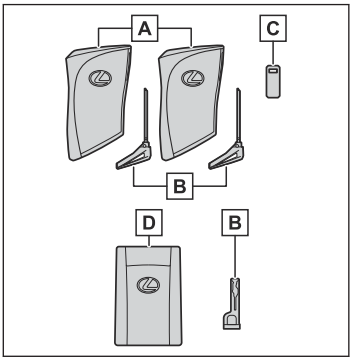
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトは、必ずチャイルドシートを取り付けたシートのトップテザーアンカレッジに掛けてください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P.128）
- ワイヤレス機能の作動（→P.141）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

D カードキー

スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P.128）

⚠ 注意

■ キーの故障を防ぐ

以下のことに注意してください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしないでください
- 温度の高いところに長時間放置しないでください
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしないでください
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしないでください
- 分解しないでください
- 電子キー表面にシールなどを貼らないでください
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かないでください
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けないでください

■ 電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.685

⚠ 注意

■ 電子キーを紛失したとき

→P.685

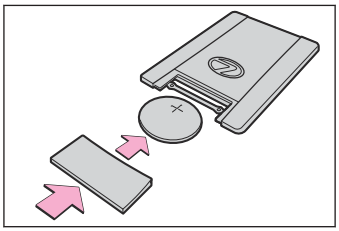
■ カードキーの取り扱い

- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。
- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
  - 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
  - シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
  - シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

知識

■ カードキーの取り扱い

- カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。
- 電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



- カードキーは非防水です。

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ **電池の消耗**

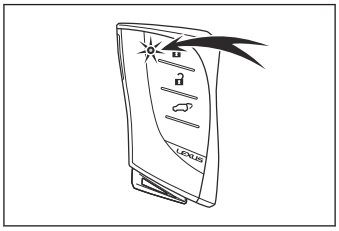
- 電池の標準的な寿命は 1～2 年です（カードキーの電池は 1～1 年半で消耗します）。
- 電池残量が少なくなると、EV システムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
  - スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
  - 作動範囲が狭くなった
  - 電子キーの LED が点灯しない
- 電池はお客様自身で交換することができます（→P.686）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、レクサス販売店での交換をおすすめします。
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを保管しないでください。
  - TV
  - パソコン
  - 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
  - 電気スタンド
  - 電磁調理器
- スマートエントリー＆スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。
- 電池の消耗を抑えるため、車両周辺に長時間いるときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にすることをおすすめします。（→P.142）

■ **節電機能**

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによるロック解除に時間がかかる場合があります。またイルミネーテッドエントリーシステムが作動しない、接近時オートアンロック機能によるロック解除が作動しない場合があります。
  - 車の周辺に電子キーを一定時間以上放置した
  - 数日間スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった
- 14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外でのロック解除ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーでロック解除してください。

■ 電子キーの節電モード



● 節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの を押しながら、 を２回押し、電子キーのインジケータが４回光ると節電モードになります。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。電子キーのいずれかのスイッチを押すと、節電モードが解除できます。

● 長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■ 電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。

この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。

■ キー登録本数の確認

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

■ 電子キーの取り扱い

JP

・本機は電波法の認証に適合しています。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

00

電波キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

・電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

・技適マークと認可番号はケースを取り外した際、確認が可能です。

スマートエントリー＆スタートシステム

⚠ 警告

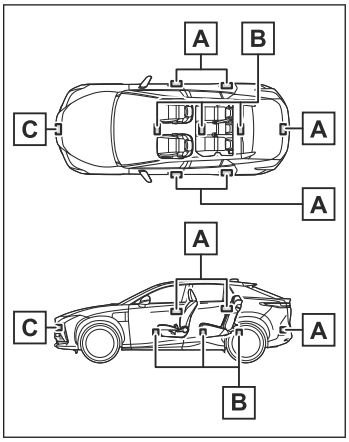
■ 電波がおよぼす影響（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナからの影響）

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.128）から 22cm 以内に植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

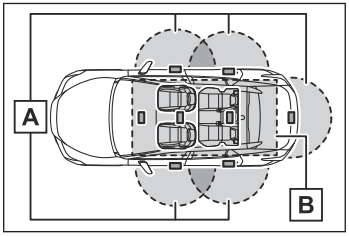
知識

■ アンテナの位置



A 車外アンテナ
B 車室内アンテナ
C 車外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアのロック／ロック解除時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B EV システム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ 警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P.644）

警告音のみが鳴る場合は次のような状況と対処方法です。

● 車外から「ピー」と 5 秒間鳴る

状況：いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムでロックしようとした

対処方法：全ドア閉めたあと、再度ロックしてください。

● 車内から「ポーン、ポーン」と鳴り続ける

状況：運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）

対処方法：パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P.686）

● 電子キーの電池が消耗しているとき

● 近くにテレビ塔や発電所／ガソリンスタンド／放送局／大型ディスプレイ／空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

● 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

- アルミ箔などの金属の貼られたカード
- アルミ箔を使用したタバコの箱
- 金属製の財布やかばん
- 小銭
- カイロ
- CD や DVD などのメディア

● 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

● 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
  - 無線機／携帯電話／コードレス式電話などの無線通信機器
  - 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
  - パソコンや携帯情報端末（PDA など）
  - デジタルオーディオプレーヤー
  - ポータブルゲーム機器
● リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき
● 充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合
● コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー＆スタートシステムでドアをロック／ロック解除できない場合は、次の方法を試してください。

● ドアハンドルに電子キーを近付けて操作する
● ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でもロック／ロック解除できない場合は、メカニカルキーを使用してください。（→P.688）

また、スマートエントリー＆スタートシステムで EV システムが始動できない場合は、P.664 を参照してください。

■ ご留意いただきたいこと

● 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
  - ドアのロック／ロック解除時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
  - EV システム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネル／トノカバー／フロア上、またはドアポケットなどに置かれている
● インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ないでください。電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外からロックでき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
● 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でもロック／ロック解除できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外はロック解除しません。
● 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、EV システムを始動できることがあります。
● 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアがロック／ロック解除することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、ロック解除されても約 30 秒後に自動でロックします）
● ワイヤレスリモコンなどでのロック時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでのロック解除ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用するとロック解除できます）
● 手袋を着用しているとロック／ロック解除しないことがあります。

- ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。
- 電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときにロック／ロック解除をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
  - キーを車両から約 2 m以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
  - キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.127）
- 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアをロックすると警報は止まります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、ロック解除しないことがあります。センサーにふれロック解除したことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあると、ロック解除に時間がかかることがあります。

■ 降車オートロック機能[*1] についてご留意いただきたいこと

- 車内に人が乗っている場合でも、車内に電子キーがないときは降車オートロック機能が作動します。ロックしたくないときは、降車オートロック機能を非作動にしてください。（→P.142）

  乗員を残してロックするとオートアラームが作動することがあります。
- 洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。
- すべてのドアを閉めたあと（パワーバックドア閉作動中も含む[*2]）に次の操作をすると、降車オートロック機能が解除されます。
  - ブレーキペダルを踏んだ時
  - パワースイッチを押したとき
  - 降車オートロック機能以外でロック／ロック解除したとき

    降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドアを開閉（パワーバックドア閉作動開始も含む[*2]）してください。
- 電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。
- 降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。[*2]
- すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。[*2]

*1：レクサス販売店での設定変更が必要です。

*2：パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能（→P.142）の設定を有効にしている場合は同様にご留意ください。

- 電池残量が少ないときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。
- 降車オートロック機能を非作動（→P.142）にするとき、ブザーがなる前に次の操作をすると、降車オートロック機能は非作動になりません。
  - いずれかのドアを開けたとき
  - ブレーキペダルを踏んだ時
  - パワースイッチを押したとき

    降車オートロック機能を非作動にするには、いずれかのドアを開閉した後、操作をやり直してください。
- 降車オートロック機能を非作動（→P.142）にするときは、ロックされていないドアのドアハンドルを握ってください。
- 降車オートロック機能を非作動（→P.142）にするときにブザーが鳴らない場合は、電子キーの位置を確認してから再度ドアハンドルを握ってください。

■ 長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。
- 電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。（→P.127）

■ システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.752）

デジタルキー ★

スマートフォンに専用のデジタルキーアプリをインストールすることで、スマートフォンを車両の電子キーの代わりとして利用できます。また、デジタルキーアプリを使って、家族や友人などとのあいだで、デジタルキーを共有することもできます。

本書では、デジタルキーについての基本的な情報のみを記載しています。システム全体の説明や、デジタルキーをお使いいただく上での注意事項やアプリのインストール方法などについては、デジタルキーの Web サイトの説明を必ずご覧の上、正しくご使用ください。

URL：https://toyota.jp/digital_key/

QR コード：

知識

■ デジタルキーの取り扱い

JP

・本機は、電波法の基準に適合しています。
・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

00

デジタルキーの使用条件

デジタルキーを使用するためには、G-Link に契約したうえで、デジタルキー契約が必要となります。デジタルキー契約はレクサス販売店でのみ行うことができます。

契約は有償（無料期間有）です。詳細は販売店にお問い合わせください。

ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客さまのご負担となります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

すべてのスマートフォンでの動作を保証している訳ではありません。対応機種・OS バージョンについては、デジタルキーの Web サイトをご覧ください。

デジタルキーの注意事項

- デジタルキーは本書に記載された使用方法および注意事項を守ってご利用ください。

  デジタルキーは以下の場合などでは使用できなくなることがあります(詳細は、https://toyota.jp/digital_key/をご確認ください)。そのため、電子キーを常に携行することを推奨いたします。

  - スマートフォンが故障した場合
  - スマートフォンとサーバーが通信できない場合
  - スマートフォンのバッテリー残量が無くなった場合
  - システムメンテナンス等により一時的にサービスが停止している場合
- スマートフォンのバッテリー残量がなくなると、デジタルキーとしての使用もできなくなります。スマートフォンのバッテリー残量が少ない場合はお出かけ前に必ず充電してください。
- デジタルキーは、スマートエントリー＆スタートシステムに関連するシステムです。そのため、車両のカスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを無効にしているときは、デジタルキーも使用できなくなります。
- 電波環境によりデジタルキーが不作動になる場合があります。（デジタルキーの Web サイト参照）
- お客様が車両を売却するときはデジタルキーを必ず削除してください。削除方法はデジタルキーの Web サイトを参照ください。
- 14 日間以上、車両の操作が無い場合はデジタルキーが自動では接続されません。その際は一度、運転席のドアハンドルに触れて下さい。
- サーバーメンテナンス期間はサービスを一部停止させて頂く場合があります。ただし、登録済みのデジタルキーは一定期間ご利用いただけます。
- デジタルキーアプリで車両に登録したスマートフォンは、車両の電子キーと同様にドアの施錠／解錠や EV システムの始動などが可能になるため、スマートフォンの車内への置き忘れや盗難などには特にご注意ください。

  万一、スマートフォンを紛失した、または盗難にあった場合は、クルマのディスプレイでデジタルキーを削除またはデジタルキーの設定を無効にしてください。または、ただちにレクサスオーナーズデスク、レクサス販売店にご相談ください。
- 点検や修理などでレクサス販売店にお越しの際は、電子キーを必ずご持参ください。
- デジタルキーのみでは車両への接近時の照明の点灯、パワーバックドアのクローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能、スマートエントリー＆スタート

システムの降車オートロック機能・接近時オートアンロック機能など一部の機能を使用できません。

ドアの開閉

⚠ 警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

- すべてのドアを確実に閉め、ロックしてください。
- 走行中はドア内側のドア開スイッチを押さないでください。

  特に、運転席はドアがロックになっていてもドアが開く可能性があるため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、車内からドアが開くことを防ぐために、チャイルドプロテクターを使用してください。

■ ドアを開閉するときの留意事項

ドアを閉めるときは、少し勢いをつけて閉めてください。手で押すようにドアを閉めると、完全に閉まらないおそれがあります。

ドアを開閉するときは、周囲の状況を確認し、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。特に次のような場所では、予期せぬ動きにも対処できるように注意してください。

- 傾斜した場所
- ドアと壁などのあいだが狭い場所
- 強風が吹いている場所

知識

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアをロックしようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度ロックしてください。

■ 半ドア走行時警告ブザー

全ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴り、開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ リヤシートリマインダー機能

- リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、1 回目の通知として、次の操作を行ってからパワースイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

  また 2 回目の通知として、ドアをロックしたときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーと非常点滅灯が数秒作動します。
  - リヤドアを開閉したあと約 15 分以内に EV システムを始動した。
  - EV システムが始動している状態でリヤドアを開閉した。

ドアをロックする前にリヤドアを開けた場合は、ドアをロックしても 2 回目の通知は作動しません。ただし、リヤドアを開けてから 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しない場合があります。

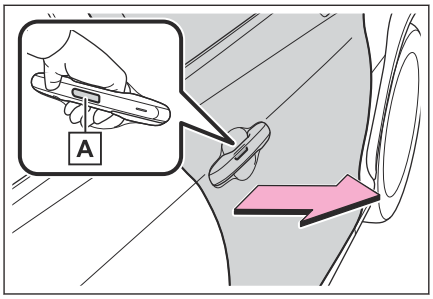
- リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため使い方によっては、リヤシートに荷物を置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。
- リヤシートリマインダーの作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.752)

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.749)

ドアを開く

▶ 車外



ドアがロックされているとき：

電子キーを携帯して、ドアハンドルのドア開スイッチ[A]を押してドアを開きます。

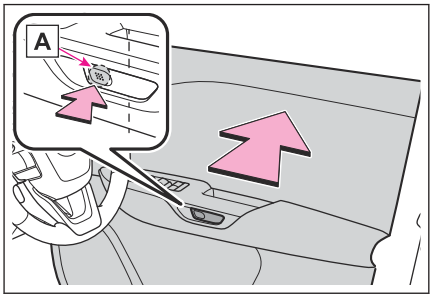
電子キーが検知エリア内にある状態で、ドアハンドル裏面のドア開スイッチ[A]を確実に押してください。

ドアがロック解除されているとき：

ドアハンドルのドア開スイッチ[A]を押してドアを開きます。

ドアハンドル裏面のドア開スイッチ[A]を確実に押してください。

▶ **車内**



運転席ドア：

ドアがロックになっていても、ドア開スイッチ[A]の前側を押すとドアが開きます。

ドアがロック解除されると、ドアロックインジケーターが消灯します。

運転席以外のドア：

ドアロックスイッチを押してロック解除し、ドア開スイッチ[A]の前側を押すとドアが開きます。

ドアがロック解除されると、ドアロックインジケーターが消灯します。

知識

■ 車内のドア開スイッチが作動する条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- 車速が 4km/h 未満で、パーキングブレーキがかかっている
- 車速が 4km/h 未満で、ブレーキペダルを踏んでいる
- シフトポジションが P の位置にある

■ 車内からドアを開けるときは

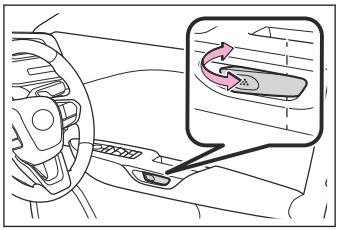
ドア開スイッチを押してドアを開けてください。

半ドア状態になった場合は、ドア開スイッチを 2 回押してドアを開けてください。

■ 車内の手動リリースハンドルについて

車内のドア開スイッチは、手動でドアを開けることもできます。

ドア開スイッチを押すと電動操作でドアが開き、ドア開スイッチを 2 回引くと手動リリースハンドルとしてドアを開けることができます。



■ ドア開スイッチでドアを開けることができない

→P.693

ドアのロック／ロック解除

知識

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、全てのドアの手動リリースハンドルの作動が有効になります。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■ 作動の合図

ロック解除を、ブザーと非常点滅灯の 2 回点滅で知らせます。

ロックを、ブザーと非常点滅灯の 1 回点滅で知らせます。

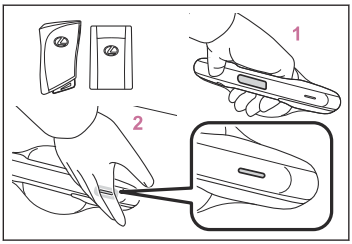
■ ロック解除操作のセキュリティ機能

ロック解除操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的にロックされます。

スマートエントリー＆スタートシステムを使った操作

スマートエントリー＆スタートシステムでドアをロック／ロック解除する

必ず運転者が電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯してください。



1 ハンドルを握ってロック解除します。

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

ロック操作後 3 秒間はロック解除できません。

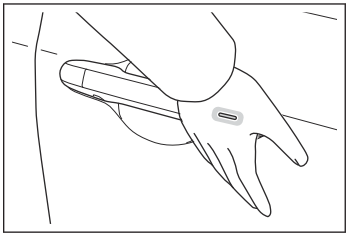
2 ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれロックしてください。

必ずロックされたことを確認してください。

ロックするとオートアラームが設定されます。

知識

■ ドアハンドル表面のロックセンサーを指でふれてもロックできないとき

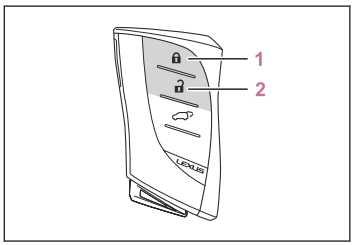


手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。

ワイヤレスリモコンを使った操作

ワイヤレスリモコンでドアをロック／ロック解除する



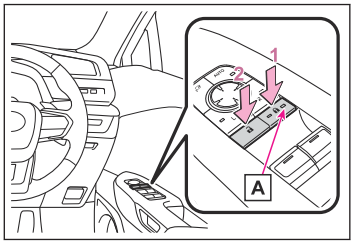
1 全ドアをロックします。

必ずロックされたことを確認してください。

2 全ドアをロック解除します。

ドアロックスイッチを使った操作

ドアロックスイッチでドアをロックする／ロック解除する



1 運転席：全ドアを施錠する

運転席以外：ドアを施錠する

ドアロックインジケーター A が点灯します。

2 運転席：全ドアを解錠する

運転席以外：ドアを解錠する

ドアロックインジケーター A が消灯します。

知識

■ 降車オートロック機能*1

次の手順で車から離れることで、自動でロックすることができます。

*1: レクサス販売店での設定変更が必要です。

1. 電子キーを携帯して降車し、すべてのドアを閉める
2. 電子キーの作動範囲内（→P.128）でブザーが“ ピピッ” と鳴るまで待機する
   降車オートロック待機状態になります。
3. 降車オートロック待機状態になったら、電子キーの作動範囲から離れる
   すべてのドアがロックされ、作動の合図でお知らせします。（→P.140）
   約 1 分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

■ パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能

パワーバックドアの閉作動中*1 にも、降車オートロック機能の手順ですべてのドアをロックすることができます。*2

■ 降車オートロック機能を一時的に非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ ピッピー”と鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を一時的に非作動にした場合、次の操作のあとドアを開閉することで作動可能状態にもどります。

- ドアをロック／ロック解除する
- EV システムを始動する

■ 接近時オートアンロック機能*2

次の条件を満たしているときに、電子キーの作動範囲内に電子キーがあるとドアをロック解除することができます。

- すべてのドアが閉まっている
- すべてのドアがロックされている

■ 接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にするには

すべてのドアが閉まっている状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ ピッピー”と鳴るまでドアハンドル表面のロックセンサー部にふれ続けることで、接近時オートアンロック機能を非作動にすることができます。

接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にした場合、EV システムを始動することで作動可能状態にもどります。

■ ロック解除するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムでロック解除できるドアの設定を切りかえることができます。

1. パワースイッチを OFF にします。
2. キー表面のインジケーターが消灯しているときに 🔒 ボタンと同時に、🔓 または  のいずれかを約 5 秒間押し続けます。

*1: バックドアグリップを使用したときは、機能は作動しません。

*2: レクサス販売店での設定変更が必要です。

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	ロック解除できるドア
 車外：“ピピッ”（3 回）	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみロック解除
	運転席以外のドアハンドルを握ると全席ロック解除
 車外：“ピピッ”（2 回）	いずれかのドアハンドルを握ると全席ロック解除

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンでロック解除し、ドアを開閉してください。（ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再びロックされオートアラームが設定されます）オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P.146）

■ **カスタマイズ機能**

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.749）

車速感応オートドアロック

車速が約 4km/h 以上になると全ドアが施錠されます。

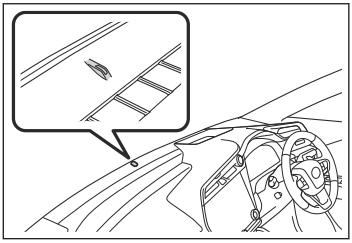
クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能の働き

→P.164

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外では EV システムを始動できません。 車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。 このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリーまたは ON にするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- ロックされたドアまたはバックドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずにロック解除されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）
- 傾斜センサーが車両の傾きを検知したとき

G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合メールやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。G-Link サービスの詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

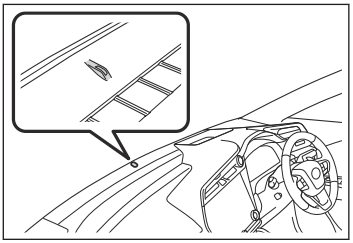
オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアをロックする前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには



ドア・バックドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってロックします。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはバックドアをロック解除する
- パワースイッチを ACC または ON にするか、EV システムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■ オートアラームの設定について

ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームは設定できます。

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ G-Link（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、ロックのし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れを、メールやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。

  うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

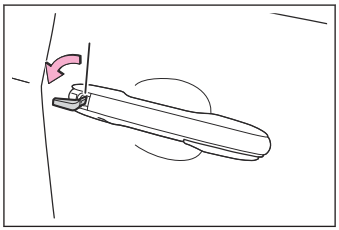
- リモート確認機能によって、ドアの開閉やロックの状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどをスマートフォンアプリで確認できます。

G-Link サービスの詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

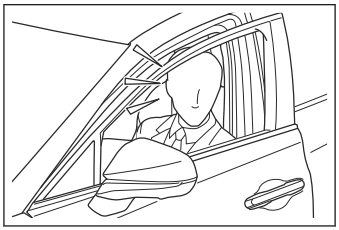
■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

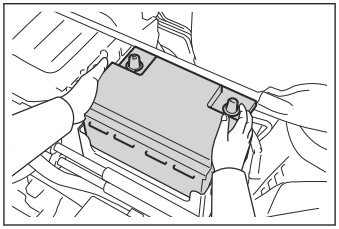
- メカニカルキーを使ってドアをロック解除したとき



- 車内に残った人が、ドア・バックドア・ボンネットを開けたり、ロック解除したとき



● ロック後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.665）



■ オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアがロックされることがあります。

● 車内に残った人がドアをロック解除し、オートアラームが作動したとき
● オートアラーム作動中に車内に残った人がドアをロック解除したとき
● 補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

⚠ 注意

■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入・傾斜センサー

侵入・傾斜センサーの検知について

● 侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。
● 傾斜センサーは、車両の傾きの変化を検知するセンサーです。けん引などで車が盗難される場合などを検知します。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

侵入・傾斜センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。（→P.145）

侵入・傾斜センサーを停止する

車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入・傾斜センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 **センターディスプレイのショートカット画面表示スイッチ をタッチします。（→P.275）**

2 “セキュリティセンサー”をタッチします。

操作したシンボルが白色に変わり、侵入／傾斜センサーが停止します。

もう一度タッチすると、侵入／傾斜センサーは再びセットされます。

侵入／傾斜センサーを OFF／ON にするたびに、センターディスプレイのシンボルが変化します。

知識

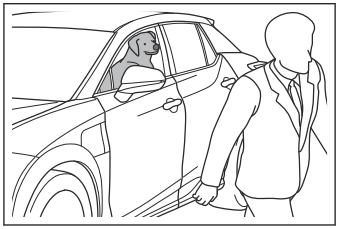
■ 侵入・傾斜センサーの作動・停止について

- 侵入・傾斜センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入・傾斜センサーを停止したあとにパワースイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンによるロック解除操作を行うと、侵入・傾斜センサーは復帰します。
- オートアラームの設定を解除するたびに侵入・傾斜センサーは復帰します。

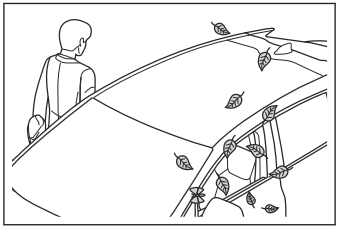
■ 侵入センサーについての留意事項

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

- 車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合

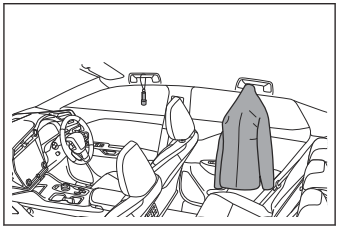


- ドアガラスなどが開いている場合、次のものを検知することがあります。

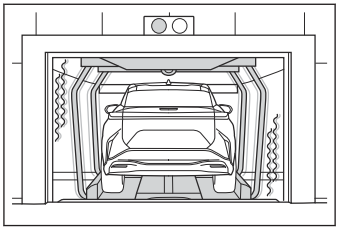


  - 室内に入った落ち葉・虫・風など
  - 他車の侵入センサーなどが発する超音波
  - 室外の歩行者の動き
- 蛾やハエなど小さな虫が車内にいる場合

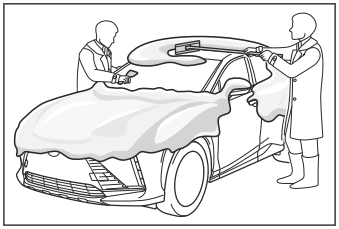
● マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



● 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき



● 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき



● 高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき

● ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

■ 傾斜センサーについての留意事項

次のような場合、傾斜センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、傾斜センサーを停止してからアラームを設定してください。

● フェリー・トレーラー・列車などで運搬するとき

● 立体駐車場に駐車したとき

● 車両移動をともなう洗車機を使用するとき

● タイヤ空気圧が少ないとき

● ジャッキアップするとき

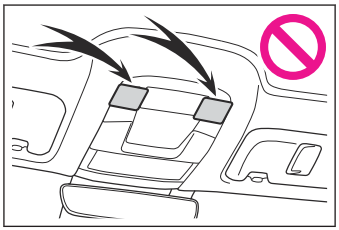
● 地震や路面陥没が起きたとき

● ルーフキャリアにスキー板やスノーボード等を積んだり、荷降ろしするとき

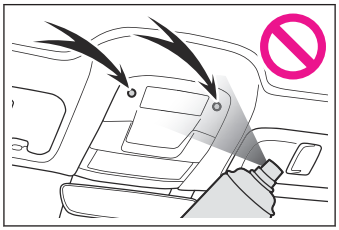
⚠ 注意

■ 侵入センサーを正しく作動させるために

● センサーの穴はふさがないようにしてください。



● センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。



● 運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

窓の開閉

⚠ 警告

次のことを必ず守ってください。運転者は、乗員の操作を含むすべての窓の開閉操作について責任があります。

- 子どもには窓の操作をさせないでください。子どもの誤った操作によって、子どもや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、子どもが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。
- 窓を開閉するときは、乗員の手／腕／頭／首などを挟んだり巻き込んだりしないか確認してください。

  特に子どもへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯して子どもも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

■ パワーウィンドウの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ EV システム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間は窓を開閉できます。

ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 音声対話サービスでの操作★

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

- すべての席の窓の開閉
- 各席の窓の開閉

（ウインドウロックスイッチが OFF のときのみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.754）

安全な窓の開閉を補助するための機能

次のような機能により、安全な窓の開閉を補助します。

- 挟み込み防止機能

  窓を閉めているときに、窓枠と窓ガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 巻き込み防止機能

窓を開けているときに、異物が窓ガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

● 窓開警告ブザー

パワースイッチが OFF で窓が開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

⚠ 警告

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手／腕／頭／首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、窓が完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。

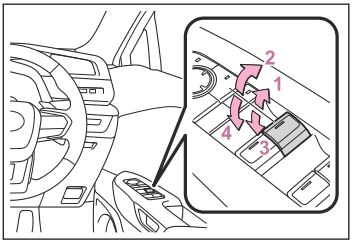
  指などを挟まないか注意してください。

■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手／腕／服などを巻き込ませたりしないでください。
- 乗員の手／腕／服などを巻き込まないか注意してください。巻き込み防止機能は、窓が完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。

パワーウィンドウスイッチを使った操作

パワーウィンドウスイッチで窓を開ける／閉める



1 パワーウインドウスイッチを途中まで上げます。

スイッチを上げているあいだ、窓ガラスが閉まります。

2 パワーウインドウスイッチを完全に上げます。

自動で窓ガラスが閉まります。

途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

3 パワーウインドウスイッチを途中まで押します。

スイッチを押しているあいだ、窓ガラスが開きます。

4 パワーウインドウスイッチを完全に押します。

自動で窓ガラスが開きます。

途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ワイヤレスリモコンを使った操作

ワイヤレスリモコンを使って窓を開閉できます。*1

知識

オートアラームがセットされているときに、ワイヤレスリモコンで窓を閉めると、オートアラームが作動することがあります。

⚠ 警告

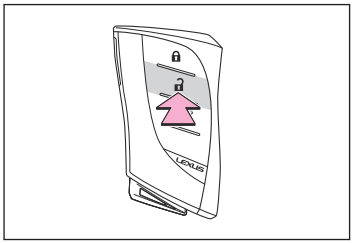
ワイヤレスリモコンを使って窓を操作するときは、窓に人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人が窓に挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

ワイヤレスリモコンで窓を開ける

ワイヤレスリモコンでロック解除と同時に窓を開けることができます。*1

ワイヤレスリモコンのロック解除スイッチを押し、そのまま保持します。

全ドアがロック解除し、窓が開きます。

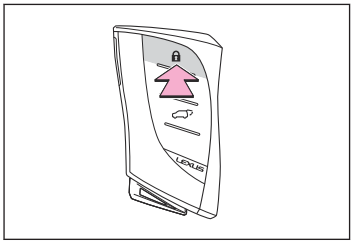


ワイヤレスリモコンで窓を閉める

ワイヤレスリモコンでロックと同時に窓を閉めることができます。*1

ワイヤレスリモコンのロックスイッチを押し、そのまま保持します。

全ドアがロックし、窓が閉まります。



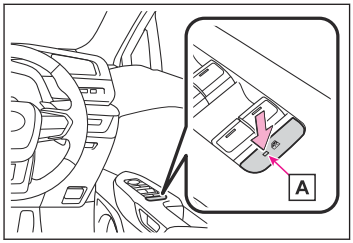
誤って窓を開けられないようにする

ウインドウロックスイッチは子供が誤って窓を開閉することを防止するための機能です。

*1：レクサス販売店での設定が必要です。

ウインドウロックスイッチを押します。

スイッチを押すと、インジケーターAが点灯し、運転席以外の窓が非作動になります。



車両への荷物の積み込み

ラゲージルームに荷物を積むときの注意

⚠ 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積まないでください。引火するおそれがあります。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル／アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- シートの背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- 後席シートの背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。
- 後席シートの背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。

  乗員用には設計されていません。

  乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
  - 運転席の足元
  - 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
  - トノカバー
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物は、すべてしっかりと安定させてください。
- ルーフレール装着車：ルーフレールには直接荷物を置かないでください。

  荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 荷物の重量／荷重のかけ方の注意

- 荷物を積みすぎないでください。
- できるだけ荷重を均等にかけてください。

  荷重を不均等にかけると、各タイヤに異なる荷重がかかります。さらに、ハンドルの操作性やブレーキ制御の低下により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ ルーフレールを使用するときは（ルーフレール装着車）

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

- 車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。
- 車両の大きさ（全長、全幅）を超える荷物を積まないでください。
- 走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。
- ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。

  高速走行や急加速、急旋回、急ブレーキといった急な操作は避けてください。車両を適切に操作できなくなることで横転するおそれがあります。
- 長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、時おり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。
- 75kg 以上の荷物を積まないでください。

パワーバックドアの機能と働き

パワーバックドアは次の方法でロック／ロック解除および開閉することができます。

⚠ 警告

■ 走行する前に

次のことを必ずお守りください。

- 走行前にパワーバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
- パワーバックドアが完全に閉まっていないと、走行中にパワーバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。

  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはパワーバックドアの開閉操作をさせないでください。

  不意にパワーバックドアが動いたり、閉めるときに手／腕／頭／首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

次のことを必ずお守りください。

- 走行中はパワーバックドアを閉めてください。

  開けたまま走行すると、パワーバックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

  急ブレーキ／急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーバックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。

⚠ 警告

- パワーバックドアを開ける前に、パワーバックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでパワーバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- パワーバックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。

  パワーバックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、パワーバックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずパワーバックドアが静止していることを確認して使用してください。
- パワーバックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- パワーバックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。パワーバックドアグリップを持ったままパワーバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- スピンドルユニットを持ってパワーバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、スピンドルユニットが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- パワーバックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手／腕／頭／首などを挟むおそれがあります。パワーバックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

■ バックドアイージークローザーについて

- パワーバックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。
- バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

■ パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、パワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所ではパワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

⚠ 警告

- 傾斜した場所では、開いたあとにパワーバックドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合は、十分注意してください。システムが異常と判断して自動作動が停止して手動操作に切りかわり、パワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあります。
  - 自動作動中、パワーバックドアが障害物に干渉したとき
  - EV システム停止中でパワーバックドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON にしたり EV システムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき
- パワーバックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手／腕／頭／首などを挟むおそれがあります。パワーバックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

■ 挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、パワーバックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

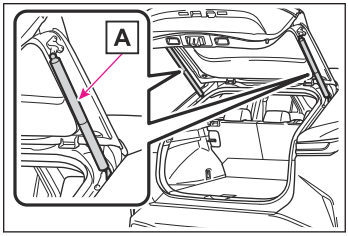
■ クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能／ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能 *1 について

バックドアから離れると自動でバックドアが閉まり始めます。

周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

⚠ 注意

■ スピンドルユニットに関する注意



パワーバックドアにはパワーバックドアを支えるためのスピンドルユニット A が取り付けられています。

スピンドルユニット A の損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片／ステッカー／粘着材といった異物をスピンドルユニットに付着させない

*1：レクサス販売店での設定変更が必要です。

⚠ 注意

- パワーバックドアにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■ パワーバックドアやバックドアイージークローザーの故障の防止

次のことをお守りください。お守りいただかないと、パワーバックドアやバックドアイージークローザの故障につながるおそれがあります。

- バックドアイージークローザーの作動中は、パワーバックドアに無理な力をかけないでください。
- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるパワーバックドアの貼り付きがないことを確認してください。
- パワーバックドア左右端部のセンサーを刃物のような鋭利なもので傷付けないように注意してください。

  センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■ クローズ＆ロック機能*1 について

クローズ＆ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。

正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。

またパワーバックドアが完全に閉じロックされると、すべてのドアがロックされたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

車から離れるときは、ドアロックアンサーバックを確認し、全ドアがロックされたことを確認してください。

知識

■ ラゲージルームランプ

- パワーバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。
- パワースイッチが OFF の場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動で消灯します。

■ パワーバックドアが作動可能な条件

パワーバックドアの作動を ON にしていると、次のときに自動で開閉できます。

- パワーバックドアがロック解除されているとき

  ただし次のときは、パワーバックドアがロックされていてもパワーバックドアは作動します。

  - 電子キーを携帯して、パワーバックドアオープンスイッチを押したとき
  - カスタマイズ機能により、ワイヤレスリモコン使用時では、ロック時からでも作動できるように設定したとき

*1 : レクサス販売店での設定変更が必要です。

● パワースイッチが ON モードのとき開作動するには、上記に加え、車速が約 3km/h 以下で、次のいずれかの条件で作動します。
  - パーキングブレーキがかかっている
  - ブレーキペダルを踏んでいる
  - シフトポジションが P の位置にある

■ **パワーバックドアイージークローザー**

パワーバックドアが半ドア状態になったとき、パワーバックドアイージークローザーが作動し、パワーバックドアが自動で完全に閉まります。

パワースイッチがどの状態であっても、パワーバックドアイージークローザーは作動します。

■ **パワーバックドアの作動について**

● 作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。
● パワーバックドアの作動が OFF のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。
● パワーバックドアを自動で開いているときに、人や異物といった異常を感知すると、作動が停止します。

■ **クローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能の作動条件**

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

● クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能の作動の設定が ON のとき
● 自車のもう一つの電子キーを車室内に置いていないとき
● パワーバックドア以外のすべてのドアが閉じているとき
● ブレーキペダルを踏んでいないとき
● パワースイッチが OFF のとき
● 電子キーが作動検知エリア内にあるとき

■ **クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が正常に作動しない状況**

次のような状況では作動しないことがあります。

● スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき
● クローズ＆ロック機能が正常に作動しないとき
● クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態でバックドアからすばやく離れたとき

■ **クローズ&ロック機能**[*1] **の作動条件**

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

● 自車のもう一つの電子キーを車室内に置いていないとき
● パワーバックドア以外のすべてのドアが閉じているとき
● パワースイッチが OFF のとき

*1: レクサス販売店での設定変更が必要です。

■ **クローズ＆ロック機能*1 が正常に作動しない状況**

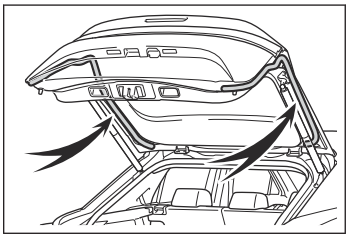
次のような状況では作動しないことがあります。

- 電子キーを持った手でパワーバックドア下部の スイッチ(→P.155)を押したとき
- 地面に置いたかばんなどに電子キーを入れたままパワーバックドア下部の スイッチ(→P.163)を押したとき
- パワーバックドア下部の スイッチ(→P.163)から離れた位置から押したとき

■ **補機バッテリーを再接続したときは**

パワーバックドアを適切に作動させるために、バックドアを手動で一度完全に閉めてロック解除操作をしてください。

■ **挟み込み防止機能**



パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。

ドアを自動で閉めているときに、挟み込みによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動します。機能が作動すると、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。

■ **カスタマイズ機能**

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.750)

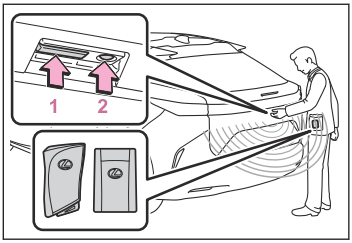
スマートエントリー＆スタートシステムを使ったパワーバックドアの操作

電子キーまたはカードキーを携帯していると、パワーバックドアのロック／ロック解除ができます。必ず運転者が電子キーまたはカードキーを携帯してください。

スマートエントリー＆スタートシステムでパワーバックドアをロック／ロック解除する

電子キーを携帯して、次の操作をします。

*1: レクサス販売店での設定変更が必要です。



1 1 を押します。

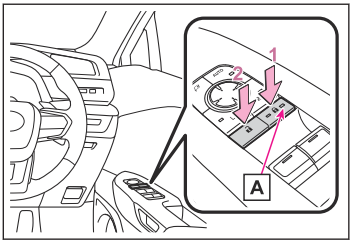
全ドアがロック解除されます。ロック操作をしてから 3 秒間はロック解除できません。

2 2 を押します。

全ドアがロックされます。必ずドアがロックされたことを確認してください。

ドアロックスイッチを使ったパワーバックドアの操作

ドアロックスイッチでパワーバックドアをロック／ロック解除する



1 スイッチを押します。

パワーバックドアを含む全てのドアがロックされます。

ドアロックインジケーター A が点灯します。

2 スイッチを押します。

パワーバックドアを含む全てのドアがロック解除されます。

ドアロックインジケーター A が消灯します。

ワイヤレスキーを使ったパワーバックドアの操作

ワイヤレス機能でパワーバックドアを開ける／閉める

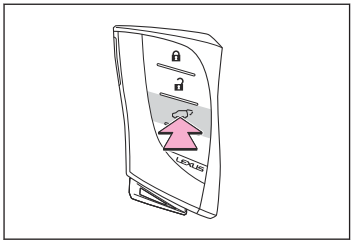
 を約 1 秒押し続けます。

パワーバックドアが開きます。

パワーバックドアロック解除時*1 に作動させることができます。

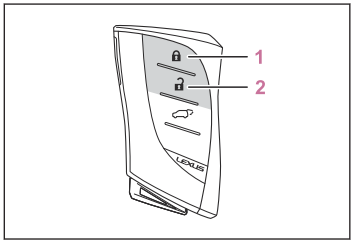
開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。

作動を停止した状態から再度、スイッチを約 1 秒間長押しすると、パワーバックドアは反転作動します。



*1: カスタマイズ機能により、パワーバックドアがロックされた状態からでも作動できるように設定できます。

ワイヤレス機能でパワーバックドアをロック／ロック解除する



1 を押します。

パワーバックドアを含む全てのドアがロックされます

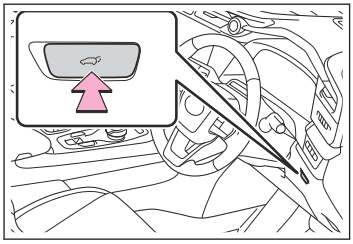
必ずパワーバックドアがロックされたことを確認してください。

2 を押します。

パワーバックドアを含む全てのドアがロック解除されます。

車内のスイッチを使ったパワーバックドアの操作

車内のスイッチでパワーバックドアを開ける／閉める



を約 1 秒押し続けます。

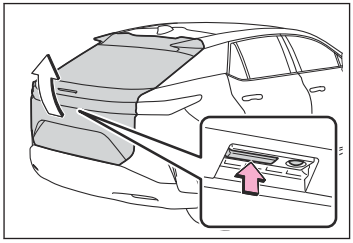
ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で開閉します。ただしパワーバックドアロック状態では、スイッチは作動しません。

開閉の作動中に を押すと、開閉の作動を停止します。

開閉の作動を停止した状態から再度、 を押すと、パワーバックドアは反転作動します。

車外のスイッチを使ったパワーバックドアの操作

バックドアオープンスイッチでパワーバックドアを自動で開ける



パワーバックドアロック解除時：バックドアオープンスイッチを押す

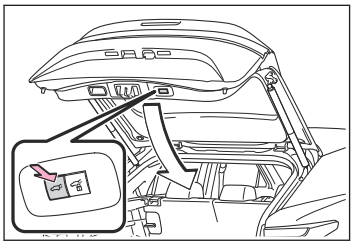
パワーバックドアロック時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを長押しする

ブザーが鳴り、パワーバックドアが自動で開きます。

パワーバックドアが開く途中でスイッチを押すと、作動を停止します。

再度スイッチを押すと、パワーバックドアは自動で開きます。

スイッチでパワーバックドアを閉める



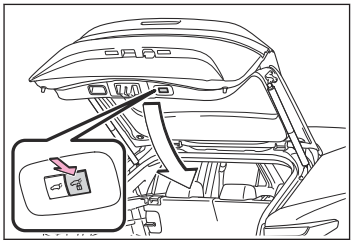
を押します。

ブザーが鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。

パワーバックドアが閉まる途中で を押すと、作動を停止します。

再度 を押すと、パワーバックドアは自動で開きます。

スイッチでパワーバックドアから離れて閉じたあと全ドアをロックする（クローズ＆ロック［ウォークアウェイ］機能）



1 **バックドア以外のすべてのドアを閉じて、電子キーを携帯してバックドア下部のスイッチを押します**

通常ブザーとは異なるブザー音が断続的に鳴り、クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。

2 **ブザーが鳴っているあいだに、バックドアから十分に離れます**

バックドアから離れたことを検知すると、作動の合図でお知らせします。バックドアから離れる方向、電子キーの位置や持ち方、周囲の状況によって正しく検知できない場合があります。

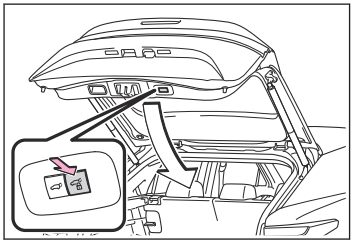
バックドア以外のすべてのドアがロックされ、バックドアも閉まると同時にロックされます。すべてのドアが閉まりロックされると、作動の合図でお知らせします。

約 30 秒間バックドアから離れなかったときは、待機状態が解除されます。再度作動させるには、手順 1 からやり直してください。

バックドアが閉作動中に電子キーを携帯してバックドアに近付くと作動が停止し、すべてのドアがロック解除され、作動の合図でお知らせします。

作動が停止した状態から再度スイッチを押すと、再びクローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。

スイッチでパワーバックドアを閉じると同時に全ドアをロックをする（クローズ＆ロック機能） *1



スイッチを押します。

パワーバックドアを閉じると同時に全ドアをロックします。

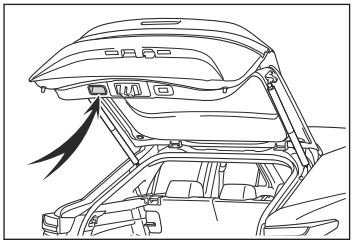
通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。閉まると同時にすべてのドアがロックされたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

パワーバックドアが閉まる途中で スイッチを押すと、作動を停止します。

再度スイッチを押すと、パワーバックドアは自動で閉まります。

パワーバックドアグリップを使ったパワーバックドアの操作

パワーバックドアグリップでパワーバックドアを自動で閉じる



パワーバックドアグリップを持ってパワーバックドアを引き下げます。

ブザーが鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。

キックセンサーを使ったパワーバックドアの操作（ハンズフリーパワーバックドア）

⚠ 注意

キックセンサーは、リヤバンパーの内側に設置されています。

ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- リヤバンパーは常にきれいにしておく

  リヤバンパーに汚れや着雪がある場合、ハンズフリーパワーバックドアが作動しなくなることがあります。

  その場合、汚れや雪を落とした後、現在の位置から車両を動かしてからハンズフリーパワーバックドアが作動するか確認を行ってください。

  それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。
- リヤバンパーに親水性コーティングといった液体を塗らない

*1：レクサス販売店での設定変更が必要です。

⚠ 注意

- リヤバンパーに草木といった動くものを近づけない

  リヤバンパーに草木といった動くものがふれる状態が長期間続くと、ハンズフリーパワーバックドアが作動しなくなることがあります。

  その場合、現在の位置から車両を動かしてからハンズフリーパワーバックドアが作動するか確認を行ってください。

  それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。
- リヤバンパーへの強い衝撃を避ける

  リヤバンパーが強い衝撃を受けると、ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しなくなるおそれがあります。

  次のような場合にハンズフリーパワーバックドアが作動しないときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
  - キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた
  - リヤバンパーに傷や破損がある
- リヤバンパーを分解しない
- リヤバンパーにステッカーを貼らない
- リヤバンパーを塗装しない
- パワーバックドアに自転車キャリアなどを取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動を OFF にする

知識

■ ハンズフリーパワーバックドアの作動可能条件

- ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動の設定が ON のとき
- 電子キーが作動範囲内にあるとき

■ ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しない状況

ハンズフリーパワーバックドアは、次のような状況では作動しないことがあります。

- 足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき
- リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間触れたとき

  リヤバンパーに一定時間触れた場合は、少し時間をおいてから再度キック操作してください。
- 人がリヤバンパーに近すぎる位置でキック操作したとき
- 電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき
- コインパーキング／ガソリンスタンド／ロードヒーター／蛍光灯といったハンズフリーパワーバックドアの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき
- 近くにテレビ塔／発電所／ラジオ放送局／大型ディスプレイ／空港があるというような、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 洗車や大雨でリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

- リヤバンパーの表面に泥／雪／氷が付着したとき
- リヤバンパーに草木といった動くものがふれる状態が長時間続いたとき
- リヤバンパーにアクセサリー用品を付けたとき

  アクセサリー用品を取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動の設定を OFF にしてください。

■ **ハンズフリーパワーバックドアが誤って作動するおそれのある状況**

ハンズフリーパワーバックドアは、電子キーが作動範囲内にあるときに誤作動するおそれがありますので、次の状況にご注意ください。

- 洗車や大雨でリヤバンパーに大量の水がかかっているとき
- リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき
- 小動物やボールのような小さい物体がリヤバンパーの下を横切ったとき
- リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき
- リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき
- リヤバンパーに足や体を触れながら車両を横切ったとき
- コインパーキング／ガソリンスタンド／ロードヒーター／蛍光灯といったハンズフリーパワーバックドアの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき
- 近くにテレビ塔／発電所／ラジオ放送局／大型ディスプレイ／空港があるというような、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- リヤバンパーの近くに草木のような物体がある場所に駐車したとき
- リヤバンパーの近くで荷物の積み降ろしをしたとき
- リヤバンパーの近くでアクセサリー用品やカーカバーの着脱作業したとき
- けん引されるとき

キックセンサーが誤って作動するのを防ぐときは、ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動の設定を OFF にしてください。

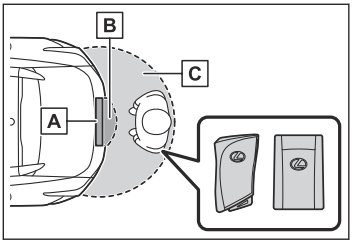
キックセンサーでパワーバックドアを開ける／閉める（ハンズフリーパワーバックドア）

⚠ 警告

ハンズフリーパワーバックドアを使用してパワーバックドアを操作するときは、次のことを必ずお守りください。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- リヤバンパーの下のスペースが狭い場合は、キック操作をしないでください。

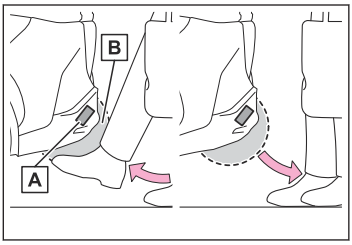
1 **電子キーを携帯し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動範囲内、かつリヤバンパーから約 50～70cm 離れた位置に立ちます。**



A キックセンサー
B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア
C スマートエントリー＆スタートシステム作動検知エリア（→P.129 ）

2 **足をリヤバンパーから約 10cm の距離になるまで近付けて、ブザーが 1 回鳴ったあと足を引く**

- 足を近づけて引く動作を 1 秒以内に行ってください。
- 足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。
- リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。
- 車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。
- ブザーが 2 回鳴った場合は、再度足を近付けて引く動作を行ってください。



A キックセンサー
B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

3 **足を引く動作をキックセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後パワーバックドアが自動で全開／全閉します。**

パワーバックドアが作動している途中で再度キック操作をすると、パワーバックドアの作動が停止します。

知識

全てのドアがロックされているときは、キックセンサーが動きを感知すると、全てのドアがロック解除されます。

キックセンサーを使ったパワーバックドアの操作（ハンズフリークローズ＆ロック［ウォークアウェイ］機能） *1

注意

キックセンサーは、リヤバンパーの内側に設置されています。

ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

*1：レクサス販売店での設定変更が必要です。

⚠ 注意

- リヤバンパーは常にきれいにしておく

  リヤバンパーに汚れや着雪がある場合、ハンズフリーパワーバックドアが作動しなくなることがあります。

  その場合、汚れや雪を落とした後、現在の位置から車両を動かしてからハンズフリーパワーバックドアが作動するか確認を行ってください。

  それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。
- リヤバンパーに親水性コーティングといった液体を塗らない
- リヤバンパーに草木といった動くものを近づけない

  リヤバンパーに草木といった動くものがふれる状態が長期間続くと、ハンズフリーパワーバックドアが作動しなくなることがあります。

  その場合、現在の位置から車両を動かしてからハンズフリーパワーバックドアが作動するか確認を行ってください。

  それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。
- リヤバンパーへの強い衝撃を避ける

  リヤバンパーが強い衝撃を受けると、ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しなくなるおそれがあります。

  次のような場合にハンズフリーパワーバックドアが作動しないときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

  - キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた
  - リヤバンパーに傷や破損がある
- リヤバンパーを分解しない
- リヤバンパーにステッカーを貼らない
- リヤバンパーを塗装しない
- パワーバックドアに自転車キャリアなどを取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動を OFF にする

知識

■ ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能[*1] 作動条件

次の作動条件をすべて満たしているときに作動します。

- ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能の作動の設定が ON のとき
- ハンズフリーパワーバックドアの作動条件を満たしているとき
- 自車のもう一つの電子キーを車室内に置いていないとき
- パワーバックドア以外のすべてのドアが閉じているとき
- パワースイッチが OFF のとき

*1：レクサス販売店での設定変更が必要です。

● 電子キーが作動検知エリア内にあるとき

■ ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能*1 が正常に作動しない状況

次のような状況では作動しないことがあります。

● スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

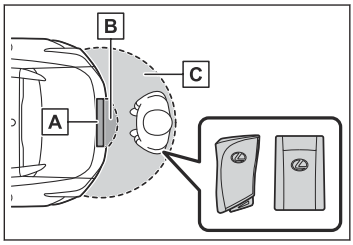
● クローズ＆ロック機能が正常に作動しないとき

● ハンズフリーパワーバックドアの機能が正常に作動しないとき

● ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態でバックドアからすばやく離れたとき

キックセンサーを使用してバックドアから離れて閉じたあと全ドアをロックする（ハンズフリークローズ＆ロック［ウォークアウェイ］機能） *1

1 電子キーを携帯し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動範囲内、かつリヤバンパーから約 50～70cm 離れた位置に立ちます。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

C スマートエントリー＆スタートシステム作動検知エリア（→P.129）

2 足をリヤバンパーから約 10cm の距離になるまで近づけて、ブザーが 1 回鳴ったあと足を引く

● 足を近づけて引く動作を 1 秒以内に行ってください。

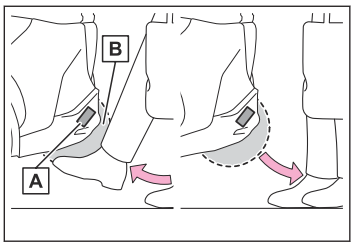
● 足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。

● リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。

● 車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。

● ブザーが 2 回鳴った場合は、再度足を近付けて引く動作を行ってください。

*1：レクサス販売店での設定変更が必要です。



A キックセンサー
B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

3 **足を引く動作をセンサーが検知すると、通常ブザーとは異なるブザー音が鳴りハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。**

4 **ブザーが鳴っているあいだに、バックドアから十分に離れる**

バックドアから離れたことを検知すると、作動の合図でお知らせします。バックドアから離れる方向、電子キーの位置や持ち方、周囲の状況によって正しく検知できない場合があります。

バックドア以外のすべてのドアがロックされ、バックドアも閉まると同時にロックされます。すべてのドアが閉まりロックされると、作動の合図でお知らせします。

約 30 秒間バックドアから離れなかったときは、待機状態が解除されます。再度作動させるには、手順 1 からやり直してください。

バックドアが閉まる途中で電子キーを携帯してバックドアに近付くと作動が停止し、すべてのドアがロック解除され、作動の合図でお知らせします。作動が停止した状態から再度ハンズフリーパワーバックドアを作動させると、バックドアは自動で閉まります。

パワーバックドア予約ロック機能の働き

パワーバックドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアのロックを予約することができる機能です。

全ドアのロックを予約する

パワーバックドア以外のすべてのドアがロックされ、パワーバックドアが閉まると同時にパワーバックドアもロックされます。

1 **パワーバックドア以外のすべてのドアを閉じます。**

2 **パワーバックドアの自動閉作動中にワイヤレスリモコンのロック操作を行う(→P.141)または、スマートエントリー＆スタートシステムによるロック操作を行う(→P.140)**

すべてのドアが閉まりロックされると、作動の合図でお知らせします。

- 予約ドアロック機能使用時、ロック操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。
- 予約ロックをしてバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が働くなど停止操作が行われると、予約ロック機能がロック解除され全てのドアがロック解除されます。

● 車から離れるときは、すべてのドアが閉まりロックされたことを確認してください。

パワーバックドア自動開停止位置調整

パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

1 **パワーバックドアをお好みの位置で停止します（→P.163）**

2 **パワーバックドア下部の スイッチを約 2 秒間押し続けます**

設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。

次回パワーバックドアを開けると、その位置でパワーバックドアが停止します。

パワーバックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどす

パワーバックドア下部の スイッチを約 7 秒間押し続けてください。

ブザーが 4 回鳴ったあと、さらに 2 回鳴ります。

次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までパワーバックドアが開きます。

リヤシートの背もたれ

レバー操作により背もたれを倒すことができます。

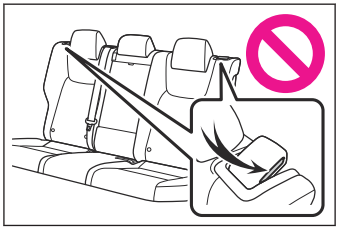
⚠ 警告

■ 背もたれを操作するとき

次のことをお守りください。

● シートに人が乗っている状態で背もたれを操作しない

● シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



■ 背もたれを前倒しするときや、前倒しした後は

次のことをお守りください。

● 走行中に前倒しをしない

● 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションを P にする

● 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない

● お子さまがラゲージルームに入ることのないよう注意する

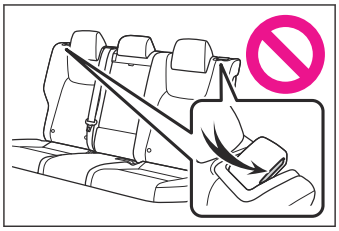
⚠ 警告

■ 背もたれをもとの位置に戻したあとは

背もたれをもとにもどした後は、次のことを行ってください。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実にシートを固定する

  背もたれが確実に固定されていないときは、レバーが赤色に見えます。赤色が見えないことを確認してください。



- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

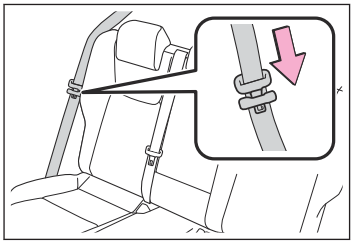
⚠ 注意

背もたれを前に倒すときは、倒す前に必ずリヤ中央席のシートベルトとバックル、アームレストを格納してください。

リヤシートの背もたれを倒す

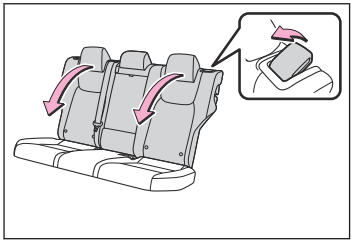
1 リヤ中央席のシートベルトとバックル、リヤアームレストを格納します。

2 シートベルトハンガーにシートベルトを格納し、プレートをハンガー穴部に挿し込む



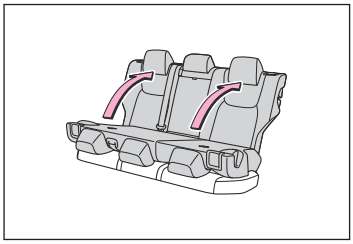
3 ヘッドレストをいちばん下まで下げます。(→P.176)

4 レバーを引いて背もたれを倒します。

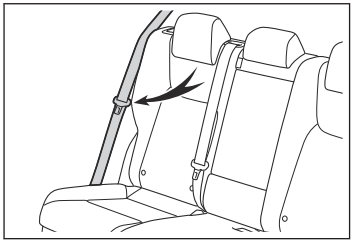


リヤシートの背もたれをもとにもどす

1　背もたれを起こし、固定します。



2　シートベルトのプレートがシートの前側にあることを確認します。

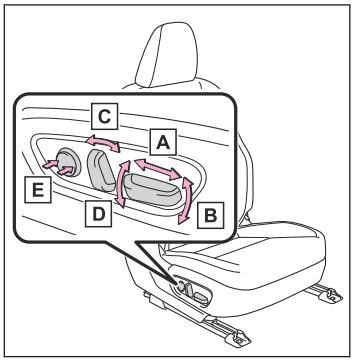


シートの調整

フロントシートを調整する

正しい姿勢がとれるように、シートの前後／上下位置などの調整をしてください。

- まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する
- ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする



A 前後位置調整
B クッション前端の上下調整
C リクライニング調整
D シート全体の上下調整
E 腰部硬さ調整（運転席のみ）

知識

■ シートを調整するとき

ヘッドレストが天井やサンバイザーなどに当たらないように注意してください。また、周囲の人やものがシートに挟まれないように注意してください。

⚠ 警告

シートを調整するときは次のことをお守りください。

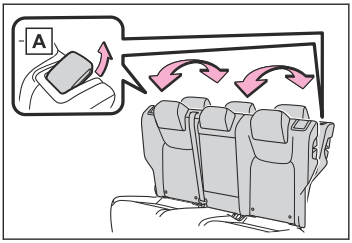
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟むおそれがあります。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるおそれがあります。

⚠ 警告

- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

リヤシートを調整する

レバーを使って、リクライニングの調整や背もたれを倒すことができます。



A リクライニング調整

⚠ 警告

背もたれを調整するときは次のことを必ずお守りください。

- 同乗者がシートにあたらないようにしてください。
- シートの間や動いている部分に手を近付けないようにしたり、体の一部が挟まれないようにしてください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるおそれがあります。

ヘッドレストを調整する

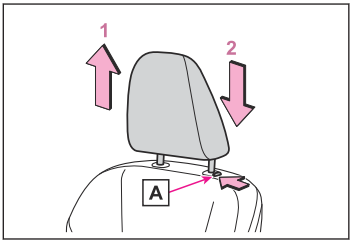
ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

⚠ 警告

次のことをお守りください。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

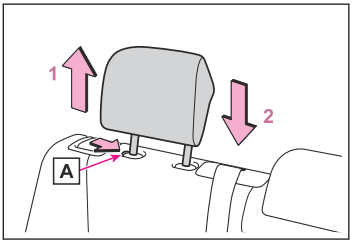
■ フロント席ヘッドレストを上下調整する



1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

■ リヤ席ヘッドレストを上下調整する

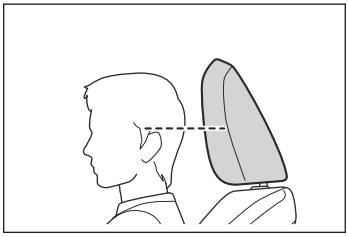


1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

□ 知識

■ ヘッドレストの高さを調整する

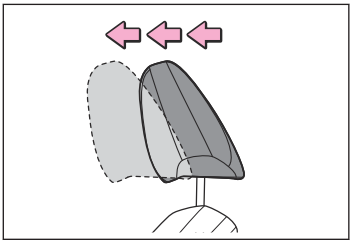


必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■ リヤ席ヘッドレストを調整する

リヤ席を使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

■ フロント席ヘッドレストの前後位置を調整する（F SPORT）

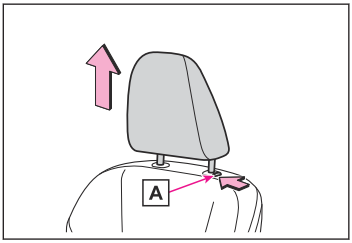


4 段階に調整できます。

いちばん前の状態からさらに前に引くと、いちばんうしろにもどります。

ヘッドレストを取りはずす

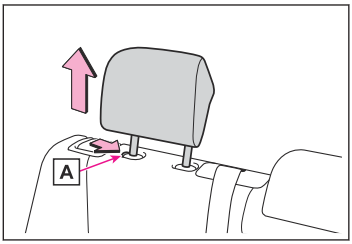
▶ フロントシート



解除ボタンAを押しながら取りはずします。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。

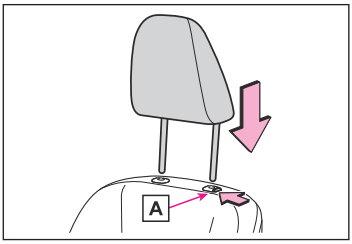
▶ リヤシート



解除ボタンAを押しながら取りはずします。

ヘッドレストを取り付ける

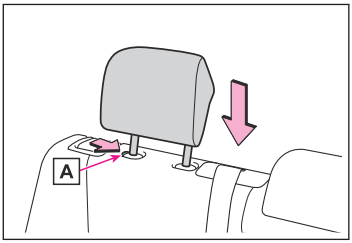
▶ フロントシート



ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。

▶ リヤシート

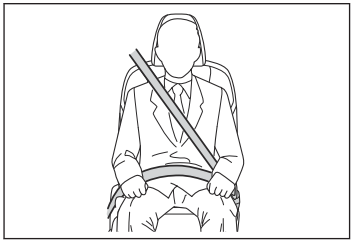


ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。

シートベルトの着用

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。



- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- シートベルトにねじれがないようにする

⚠ 警告

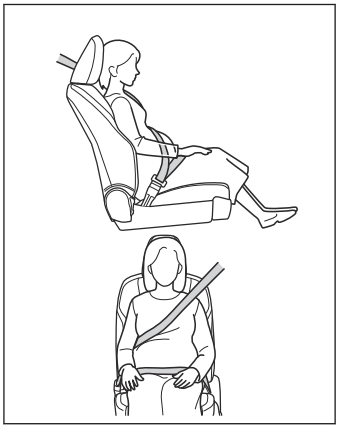
シートベルト使用に関する、次のことをお守りください。

- 全員がシートベルトを着用してください。
- シートベルトを正しく着用してください。
- シートベルトは一組につき一人で使用してください。

  子どもでも一組のベルトを複数の人で使用しないでください。
- 子どもはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させてください。
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座ってください。
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しないでください。
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用してください。
- 妊娠中の女性の場合、医師に注意事項を確認の上、必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.180)

  通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

  ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 疾患のある方の場合、医師に注意事項を確認の上、必ずシートベルトを正しく着用してください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

⚠ 警告

- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート／シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし／分解／廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- お子さまを乗せるときは、お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。

  万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

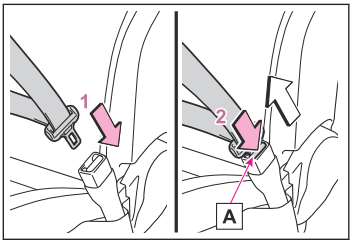
知識

■ 子どものシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さな子どもの場合は、子どもの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.110)
- シートベルトが正しい位置で着用できる子どもの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

シートベルトを着ける、はずす



1 ベルトを固定するには、「カチッ」と音がするまでプレートをバックルに挿し込みます。

2 ベルトを解除するには、解除ボタンAを押します。

知識

■ シートベルトロックを解除する方法

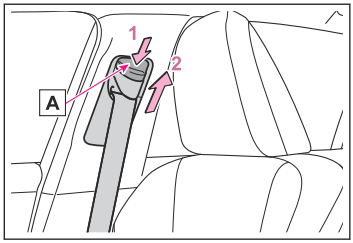
急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

⚠ 警告

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。

  うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。

フロント席のシートベルトの高さを調節する



1 解除ボタンAを押しながら、アジャスターを下げます。

2 アジャスターを上げます。

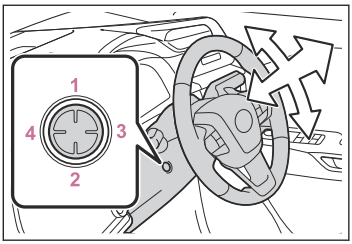
「カチッ」と音がして固定されるところまで動かしてください。

ハンドルとミラーの位置調整

ハンドルの上下／前後位置を調整する

⚠ 警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。



スイッチを押すと、ハンドルを次の方向に動かします。

1 上方へ
2 下方へ
3 手前へ
4 前方へ

知識

■ ハンドル位置調整の作動条件

パワースイッチが ACC、または ON のとき*1

■ ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.269)

■ パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切りかえ／運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルと運転席シートが動きます。(→P.268)

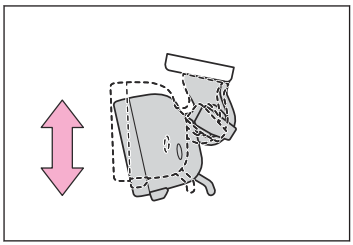
インナーミラーの位置を調整する

⚠ 警告

走行中はミラーの調整をしないでください。

運転姿勢に合わせてインナーミラーの角度を調整することができます。

鏡面ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整します。



*1: 運転席シートベルトを装着していれば、パワースイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

デジタルインナーミラーの効果と注意

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切りかえレバーを操作することで、光学ミラーモードからデジタルミラーモードに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

車両後方カメラの映像をドライブレコーダーに録画します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

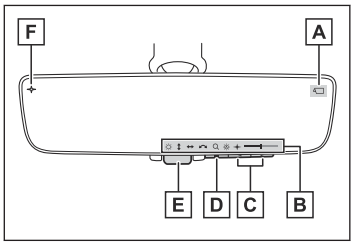
⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ デジタルインナーミラーをお使いになる前に

- 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。(→P.190)
  - 光学ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
  - デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する
- ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

デジタルインナーミラーの各部の名称



A カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

B アイコン表示エリア

調整アイコン・調整ゲージが表示されます。

C 選択／調整スイッチ

調整項目の設定を変更します。

D メニュースイッチ

調整アイコンの表示や、調整項目の移動を行います。(→P.185)

E 切りかえレバー

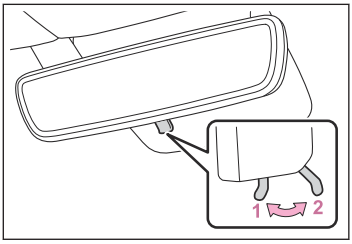
デジタルミラーモードと光学ミラーモードの切りかえを行います。

F デジタル防眩モードインジケーター

デジタルミラーモード時、防眩機能が ON に設定されていることを示します。(→P.185)

デジタルインナーミラーのモードを切りかえる

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと光学ミラーモードを切りかえることができます。



1 デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイにが表示されます。

2 光学ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。

デジタルミラーモードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

パワースイッチを ON から OFF、または ACC にすると、数秒後に表示が消えます。

デジタルミラーモードについて留意事項

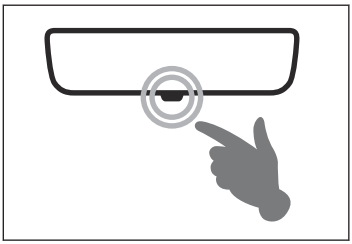
カメラに水滴やホコリが付いているなどで、ディスプレイに表示される車両後方の状態が見えにくい場合は、リヤウォッシャー（→P.246）を作動させてください。それでも見えにくい場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。

- バックドアが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- ディスプレイが反射して見えにくい場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。
- 夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - 映像の色と実際の色が異なって見える
  - 後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
  - 周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

    映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。
- デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。
- 体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、光学ミラーモードに切りかえてください。

● 主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

■ システムに異常が発生したとき



デジタルミラーモード時に、図で示すシンボルが表示されます。シンボルの表示は数秒後に消えます。

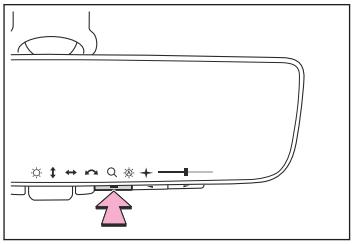
ディスプレイスイッチを操作し、光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。

デジタルインナーミラーを調整する

デジタルミラーモードの調整や機能の ON ／ OFF ができます。

1 **メニュースイッチを押す**

調整アイコンが表示されます。



2 **メニュースイッチをくり返し押して、調整したい項目（調整アイコン）を選択する**

3 **または を押して、設定を変更する**

約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を拡大／縮小することができます。

調整アイコン	設定内容
	自動防眩機能の ON／OFF を切りかえることができます。(1) ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に調整します。 パワースイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。
	デジタル防眩モードの ON／OFF を切りかえることができます。ON にすることで、夜間にディスプレイの表示映像の明るさを抑えて表示し、後続車のヘッドランプのまぶしさを抑えます。

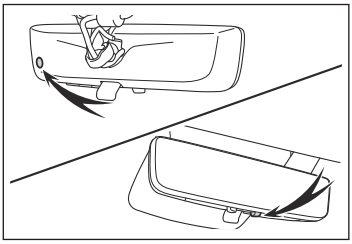
(1) 光学ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定できます。

デジタルインナーミラー調整時の留意事項

■ ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

- 約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。
- ディスプレイ表示の調整を限界値まで行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。目が疲れた場合には、光学ミラーモードに切りかえてご使用ください。
- ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。
- デジタル防眩モードは周囲が暗い場所でのみ働き、周囲の照度環境によっては映像の明るさが抑えられず、後続車のヘッドランプのまぶしさが低減できない場合があります。
- デジタル防眩モードを ON にすると、夜間のドライブレコーダーへの録画映像も暗くなります。

■ センサーの誤作動防止



センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。

⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。

  デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

  デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

デジタルインナーミラーのお手入れ

■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

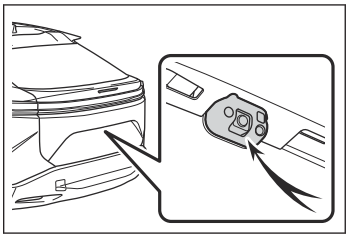
ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

■ カメラのお手入れについて

カメラレンズに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、リヤウォッシャーでカメラレンズの汚れを流してください。(→P.246)

知識

■ カメラについて



デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。

■ ウォッシャー液によるカメラ洗浄について

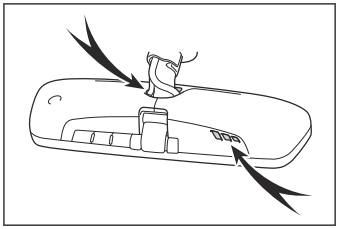
- カメラ洗浄中は、噴射されるウォッシャー液により、車両後方の状態が見えにくくなることがありますので、周囲の状況に注意して運転してください。
- カメラ洗浄後にウォッシャー液がカメラレンズ面に残った場合、夜間に後方車両のヘッドランプの高さや傾きにより、車両後方の状態が見えにくくなることがあります。この場合、光学ミラーモードに切りかえてください。

- カメラ洗浄をしても、汚れによっては完全にきれいにならない場合があります。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってください。
- カメラ洗浄は、カメラレンズ面にウォッシャー液を噴射するため、カメラ周辺に付着した氷や雪などの映り込むものについては、洗浄することができません。

⚠ 注意

■ カメラの故障や誤作動を防ぐために

- デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
  - カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。
  - カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
  - カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってください。カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、車両後方の状態を鮮明に見ることができなくなるおそれがあります。
  - カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
  - 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
  - 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。
- ミラーの通風口をふさがないでください。ミラー内部に熱がこもり、故障や車両火災につながる恐れがあり危険です。



デジタルインナーミラーが故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	光学ミラーモードに切りかえてください。
	● 夜間など暗いところで使用した ● テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ● カメラ付近の温度が高い、または低い ● 外気温が低い ● 雨天時など湿度が高い ● 太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ● 蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明の下で使用した	光学ミラーモードに切りかえてください。（カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください）
	カメラのレンズに水滴、ほこりなどの異物や汚れが付着している	● リヤウォッシャーを作動させ、カメラレンズの汚れを洗浄してください。（→P.246） ● 光学ミラーモードに切りかえてください。
ディスプレイに表示される映像がずれている	バックドアが完全に閉まっていない	バックドアを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上にが表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった	システムに異常が発生した	光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上のが消灯した		

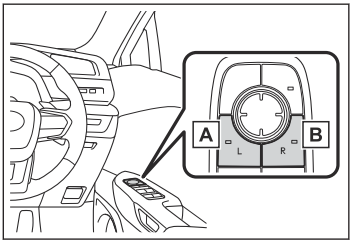
症状	考えられる原因	処置
ディスプレイ上に が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い（徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます）	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。（ミラーの温度が下がると が消えます） ミラーの温度が下がっても が消えない場合は、光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。 （メニュー／決定スイッチを約 10 秒間押し続けることで、光学ミラーモードに切りかえることができます）

ドアミラーの角度を調整する

⚠ 警告

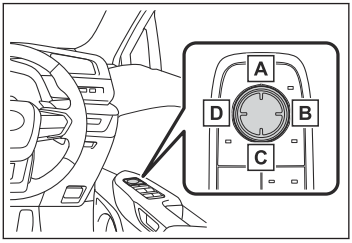
走行中はミラーの調整をしないでください。

1 **調整するミラーを選びます。**



A 左側ミラー選択
B 右側ミラー選択

2 **ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押します。**



A 鏡面を上に調整
B 鏡面を右に調整
C 鏡面を下に調整
D 鏡面を左に調整

知識

■ 鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.269)

■ リバース連動機能

ミラー選択スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチの選択が解除された状態にしてください。

後退時に下向きになる角度を調整するときはシフトポジションをRにした状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトポジションをRにするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトポジションがR以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

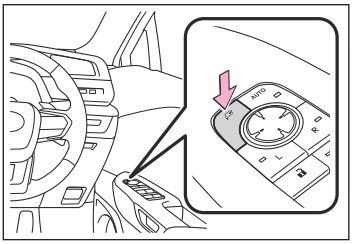
通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

■ 寒冷時にリバース連動機能を使用するとき

寒冷時にリバース連動を使用するとき、ドアミラーが凍結していると、自動で鏡面が下向きにならないことがあります。この場合、鏡面の周辺に付着している氷や雪などを取り除いてください。

ドアミラーを格納する／もどす

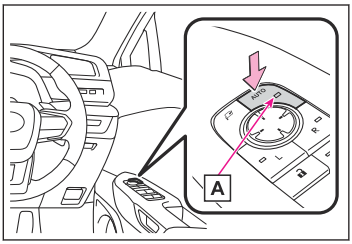
▶ マニュアル作動での格納／復帰



ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

▶オート作動での格納／復帰



スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアのロック／ロック解除に連動して、ドアミラーを自動的に格納／復帰させることができます。

ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーターAが点灯します。

もう一度ボタンを押すとマニュアル作動にもどります。

知識

■ 寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納／復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.753）

⚠ 警告

次のことをお守りください。

- ドアミラーを格納したまま走行しないでください。
- ミラーが動いているときは、手をふれないでください。手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。
- ミラーヒーターが作動しているときは、鏡面が熱くなるのでふれないでください。
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整してください。

2 車を運転するときに知ってほしいこと

2-1. EV システムの始動と停止

EV システムの始動 194
EV システムを停止 198

2-2. 運転のしかた

安全に走行するには 199
シフトポジションの使用目的 . 202
シフトポジションを切りかえる 203
インタラクティブマニュアルドライブについて(RZ550e) 208
車を発進する 211
車両の運動状態を音で運転者へ伝える 212
右左折や車線変更するときの操作 213
回生ブレーキ力の切りかえ 215

2-3. 車の停めかた

車を停めるときに確認すること 216
停車する 217
駐車する 218

EV システムの始動

EV システムを始動する

⚠ 警告

EV システムを始動するときは必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

⚠ 注意

■ EV システムを始動するとき

もし EV システムが始動しにくい場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ パワースイッチの操作

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

1 **充電ケーブルが車両に接続されていないことを確認する**

2 **パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く**（→P.218）

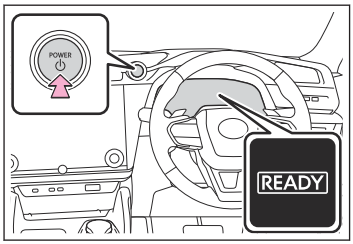
メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

3 **ブレーキペダルをしっかり踏みます。**

マルチインフォメーションディスプレイにとメッセージが表示されます。表示されないと、EV システムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されている時は、EV システムを始動できません。EV システムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。（→P.203）

4 **パワースイッチを短く確実に押します。**



短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

“READY” インジケーターが点灯すれば、EV システムは正常に始動しています。

“READY” インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでも EV システムを始動できます。

5 **“READY” インジケーターが点灯したことを確認します。**

“READY” インジケーターが消灯している状態では走行できません。

プラスサポート★をご使用の方は、P.543 も併せて参照してください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ ステアリングホイール回転角度の自動調整（異形ステアリング装着車）

停車時の状態によっては、ステアリングホイールとタイヤの向きにズレが生じる場合があります。EV システム始動時に、この向きのズレを確認し、一定値以上の差がある場合は、自動的にステアリングホイールの向きを調整します。

ステアリングホイールが回転しますので、マルチインフォメーションディスプレイに表示されるメッセージに従って、手を放してお待ちください。

ステアリングホイールの調整が終了した後、EV システムが"READY"状態となります。

■ パワースイッチ照明

状況に応じて、次のようにパワースイッチ照明が切りかわります。

- いずれかのドアが開いているとき、もしくはパワースイッチを ACC または ON から OFF にしたときは、パワースイッチ照明が暗く点灯します。
- 電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、パワースイッチ照明が明るく点灯します。
- パワースイッチが ACC、または ON のときは、パワースイッチ照明が点灯します。

■ EV システムが始動しないときは

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.144）レクサス販売店へご連絡ください。
- 車両に充電ケーブルが接続されているときは、EV システムを始動することはできません。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。
- スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動していない場合があります。（→P.128）
- メカニカルキーを使ってドアをロック解除した場合は、スマートエントリー＆スタートシステムで EV システムを始動することができません。EV システムを始動するには、P.686 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、ロックした場合（→P.141）は EV システムを始動できます。

■ 外気温が低いときは

- EV システム始動時に“READY”インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。“READY”インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。
- 極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ-30℃以下）、EV システムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ 万一、“READY”インジケーターが点灯しないときは

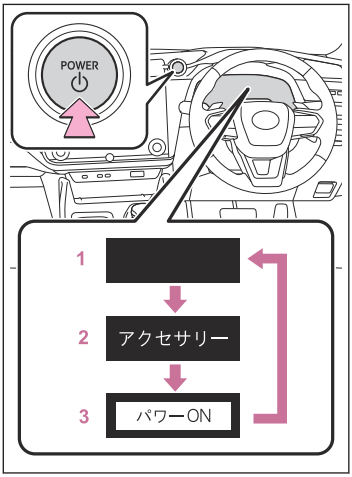
正しい手順で始動操作を行っても“READY”インジケーターが点灯しない場合は、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

■ パワースイッチの操作

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえや EV システムの始動ができない場合があります。
- パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、EV システムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

パワースイッチのモードを切りかえる

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



1 OFF*1

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC*2

オーディオなどの電装品が使用できます。メーターに“アクセサリー”が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。メーターに“パワー ON”が表示されます。

知識

■ ACC カスタマイズが OFF のとき

- パワースイッチ OFF の状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。
- 安心降車アシスト作動時、ブザー吹鳴に加え音声でも案内します。

■ 自動電源 OFF 機能

- シフトポジションが P にあるとき、数分以上パワースイッチを ACC または ON（EV システムが始動していない状態）のままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
- シフトポジションが P およびパワースイッチが ACC または ON（EV システムが始動していない状態）のときに補機バッテリーの残量が少なくなると、パワースイッチが自動で OFF になります。

*1: シフトポジションが P 以外のときは ON のままとなります。

*2: カスタマイズメニューで ON／OFF を切りかえることができます。（→P.767）

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。EV システムが作動していないときは、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

■ シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしても OFF にならないことがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。

システムが故障した場合は、すみやかにお近くのレクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

EV システム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

EV システム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”または“パワー ON”の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

EV システムを停止

EV システムを停める

⚠ 警告

走行中に EV システムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。

ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

1 **車両を完全に停止させます。**

2 **パーキングブレーキをかけます。**(→P.222)

3 **P ポジションスイッチを押します。**(→P.203)

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 **パワースイッチを押します。**

EV システムが停止し、メーター表示が消えます。(シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています)

5 **ブレーキペダルから足を離してメーターの“アクセサリー”や“パワー ON”の表示が消灯していることを確認する**

知識

■ シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしても ACC になることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。システムが故障した場合は、すみやかにお近くのレクサス販売店で点検を受けてください。

安全に走行するには

⚠ 警告

■ 運転するとき

- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。
  ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ブレーキペダルは右足で操作してください。
  左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 電気自動車は電気モーターで走行するためエンジン音がありません。そのため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 通常走行時は、走行中に EV システムを停止しないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、車両を緊急停止させてください。
- 急な下り坂では、回生ブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。
- マルチインフォメーションディスプレイに“回生ブレーキ制限中 減速時は ブレーキを踏んでください”が表示されたときは、ブレーキペダルをしっかり踏んで減速してください。(→P.662)
- 走行中はハンドル／シート／ドアミラー／インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- AWD 車：本格的なオフロード走行を目的とした車ではありません。
  - やむを得ず砂地やぬかるみを走行する際は慎重に運転していただき、連続走行をしないでください。
  - 岩石路やモーグル路の走行はしないでください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートや EV システムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- すべりやすい路面を運転するときは、急ブレーキ／急加速／急ハンドルはしないでください。タイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- すべりやすい路面を運転するときは、急激なアクセル操作、シフト操作はしないでください。回生ブレーキで、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

⚠ 警告

- AWD 車：万一脱輪し、駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

  駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 部品の損傷を防ぐために

- ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。パワーステアリングに損傷をあたえるおそれがあります。
- 段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。ディスクホイールなどに損傷をあたえるおそれがあります。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。タイヤのパンクや損傷が考えられます。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では走行しないでください。次のような重大な損傷を与えるおそれがあります。

- 電装品がショートする
- 水の侵入による駆動用電池の破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- トランスミッションフルードの量および質の変化
- 各ベアリング／各ジョイント部などの潤滑不良
- 駆動用電池に接続されている構成部品

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。

⚠ 注意

その場合はレクサス販売店へご連絡ください。

■ 事故にあったとき

駆動用電池や周辺部品が損傷すると、誤作動の原因になる可能性があります。軽度の事故であっても、レクサス販売店で点検を受けてください。

シフトポジションの使用目的

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジション	目的および状態
P	駐車または EV システムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行または M モード★(1)(→P.208)での走行

(1) M モードは、変速演出が実施されるため、通常走行とは異なる消費電力となります。電費向上のためには、通常走行を選択ください。

知識

■ シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

■ リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

⚠ 警告

すべりやすい路面を運転するときは、急激なアクセル操作、シフト操作はしないでください。車が横すべりするなどのおそれがあります。

⚠ 注意

■ シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。

安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、レクサス販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき（→P.653）
- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

■ 駆動用電池の充電

シフトポジションが N では、駆動用電池は充電されないため、N で放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

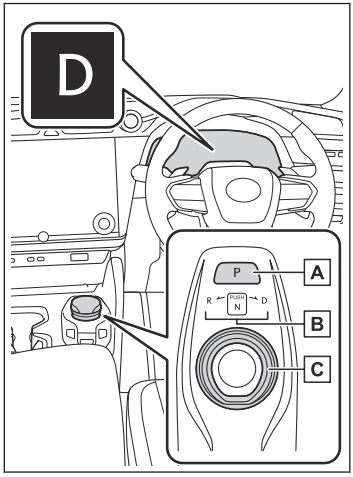
シフトポジションを切りかえる

⚠ 警告

- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。

  思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションを N にすると、EV システムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだままシフト操作をしないでください。シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

シフトポジションの切りかえ方法と表示



A P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

B シフトポジション表示灯

- メーター表示：

  現在のシフトポジションが表示されます。
- ダイヤル式シフト表示：

  現在のシフトポジションが点灯表示されます。

  ダイヤル式シフトを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

C ダイヤル式シフト

ダイヤル式シフトは、ゆっくり確実に操作してください。

N に切りかえるときは、ダイヤル式シフトを押したまま、しばらく保持します。

R または D に切りかえるときは、ダイヤル式シフトを押したまま、シフトポジション表示灯の矢印に従って左または右に回してください。

ダイヤル式シフトを操作したあとは、ダイヤル式シフトから手を離してください。ダイヤル式シフトが定位置にもどります。

P から N・D・R、および N・D・R から P へ、または D から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

知識

■ パワースイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ

- パワースイッチが OFF または ACC のときはシフトポジションの切りかえはできません。
- パワースイッチが ON で、“READY”インジケーターが消灯しているときは、Nのみに切りかえが可能です。
- “READY”インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。
- “READY”インジケーターが点滅しているときは、ダイヤル式シフトを操作しても、P から他のシフトポジションへ切りかえることはできません。“READY”インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度ダイヤル式シフトを操作してください。

■ P から他のシフトポジションに切りかえる

- ブレーキペダルをしっかり踏みながら、ダイヤル式シフトを操作します。(ブレーキペダルを踏まずにダイヤル式シフトを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません)
- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

■ シフトポジションを切りかえられなかった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- ブレーキペダルを踏まずに、P からダイヤル式シフトを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、P からダイヤル式シフトを操作したとき
- ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中に N からダイヤル式シフトを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中に N からダイヤル式シフトを操作したとき
- 走行中に、P ポジションスイッチを押した

極低速走行時は、P に切りかわることがあります

■ **シフトポジションが自動的に N に切りかわった場合**

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- 車両が前進しているときに R を選択した

  低速走行時は R に切りかわることがあります。
- 車両が後退しているときに D を選択した

  低速走行時は D に切りかわることがあります。

■ **走行中に N を選択した場合**

一定以上の速度で走行中に N を選択した場合、ダイヤル式シフトを N の位置で保持しなくても N に切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、N にかわったことを運転者に知らせます。

■ **自動 P ポジション切りかえ機能について**

次のときは、自動的にシフトポジションが P に切りかわります。

- パワースイッチが ON、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止させパワースイッチを押したとき（シフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります）*1
- シフトポジションが P 以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき
  - パワースイッチが ON
  - 運転席シートベルトを着用していない
  - ブレーキペダルを踏んでいない

  シフトポジションが P に切りかわったあと、車両を発進させるときは、ダイヤル式シフトを操作してください。
- 走行中に EV システムを緊急停止したあと、停車したとき
- シフトポジションが P 以外の状態で、補機バッテリーの電圧が低下したとき

■ **シフトポジションが P から切りかわらない場合は**

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.665 を参照してください。

⚠ 警告

■ **ダイヤル式シフトについて**

- ダイヤル式シフトのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。ダイヤル式シフトが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*1：停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

⚠ 警告

- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はダイヤル式シフトにふれないでください。

■ P ポジションスイッチについて

- 車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。

  停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチにふれないでください。

⚠ 注意

■ 車を降りるとき(運転席のみ)

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持する

次の操作を行うと、シフトポジションが P に切りかわるまでの間、自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持することができます。

1. **停車する。**
2. **ブレーキホールドシステムを OFF にする。****(→P.262)**
3. **ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでパーキングブレーキスイッチを押し続ける。(オートモードを OFF にする)**
4. **EV システムが始動しているときにダイヤル式シフトを操作し、シフトポジションを N に切りかえる**
5. **ダイヤル式シフトを定位置にもどす**
6. **ダイヤル式シフトを N の位置に操作しブザーが鳴るまで保持する**
7. **ブザーが鳴ったあと、5 秒以内にパワースイッチを押す**

   シフトポジションが N のまま EV システムが停止します。*1

   ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “N 保持中 解除するには P スイッチを 押してください” が表示されたことを必ず確認してください。

   - シフトポジションを N 以外にするには、P ポジションスイッチを押して、一旦シフトポジションを P に切りかえてください

*1: この状態を維持したい場合は、パワースイッチを操作しないでください。パワースイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります。

- 必ず EV システムが始動している状態で操作してください。EV システム停止状態では、シフトポジションを N に保持できない場合があります。

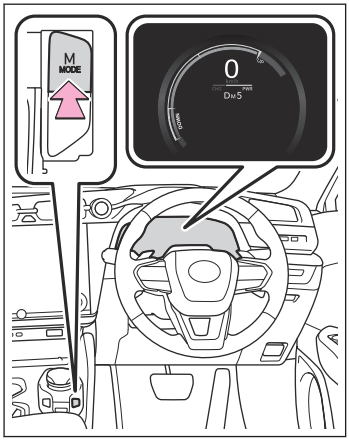
インタラクティブマニュアルドライブについて（RZ550e）

インタラクティブマニュアルドライブは、クルマの様々なデバイスを統合制御することで、ドライバーがクルマとの対話をより深められる運転体験を提供します。M モード走行では、パドルシフトを使用した仮想ギア段の変速操作が可能です。

M モードを有効にする

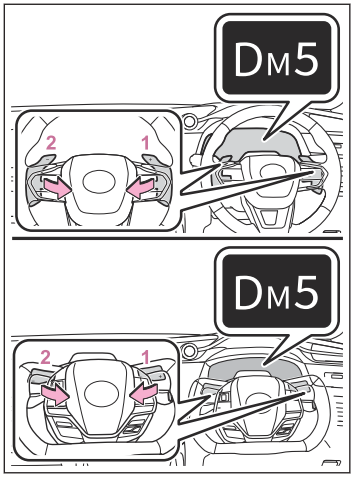
シフトポジションが D の時に M モードスイッチを押すと、M モードによる走行が可能な状態となります。

マルチインフォメーションディスプレイにシフトガイドメーター（→P.341）が表示され、ASC（→P.212）がインタラクティブマニュアルドライブサウンドに切り替わります。



M モードで変速操作をする

パドルシフトスイッチの[-]側または[+]側の操作で仮想ギア段を選択することができます。



1 シフトアップ
2 シフトダウン

パドルシフトスイッチを操作するごとに 1 速ずつ変速します。

DM1 から DM8 の中で選択した仮想ギア段に固定され、仮想ギア段がメーターに表示されます。

M モードでは、パドルシフトスイッチを操作しない限り、変速しません。

ただし、M モードであっても、次の場合は自動で変速します。

- 車速が低下した（シフトダウンのみ）

シフトガイドメーター(→P.341)のバー表示が次の場合は、パドルシフトスイッチを操作しても変速しない場合があります。

- バー表示がシフトダウン推奨エリアでのシフトアップ操作
- バー表示がおおよそ 1/2 以上の長さであるときのシフトダウン操作

⚠ 警告

■ M モードの速度範囲について

M モードでは仮想ギヤ段毎に上限の車速が決められています。 車速を上げるためには適切な仮想ギヤ段を使用してください。 お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

選択ギア段	最高速度
DM1	約 45km/h
DM2	約 75km/h
DM3	約 95km/h
DM4	約 125km/h
DM5	約 160km/h

知識

■ M モードの加減速演出について

- シフトガイドメーターがシフトダウン推奨エリアの場合、アクセルを踏んでも加速しにくい状態となります。
- アクセルを踏みながらシフトダウンした場合、駆動力が増加し車両が加速します。
- 上限車速に到達すると、加速できないことを通知するため駆動力の制限・サウンドの変化・車両振動が発生する場合があります。
- 上限車速に到達している状態かつアクセルを大きく踏み込んでシフトアップを行うと、駆動力の制限が解除され、車両が加速します。

■ 上限車速について

バーチャルパワートレーン内にガソリン車のエンジンに相当する仮想パワーソースを持っており、上限回転数を設定しています。

各ギヤ段は異なるギヤ比を持っているため、アップシフトにより上限車速が高くなります。

■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが 2 回鳴ります)

■ M モード切替制限警告ブザー

M モードは、シフトポジションが D の時にのみ使用できます。D 以外のシフトポジション選択時に M モードスイッチを押しても M モードへの切り替えはできません。(このときブザーが鳴ります)

車を発進する

1 **ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする**

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

⚠ 警告

“READY” インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

2 **パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する** (→P.218)

パーキングブレーキがオートモードのときは、自動でパーキングブレーキが解除されます。(→P.221)

3 **ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する**

上り坂で車を発進する

1 **ブレーキペダルをしっかり踏み、シフトポジションを D にする**

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。

⚠ 警告

“READY” インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

2 **パーキングブレーキをかける**

3 **ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み車を発進する**

4 **車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除する** (→P.218)

車両の運動状態を音で運転者へ伝える

ASC（アクティブサウンドコントロール）

ASC は、車室の前後から車内に向けて特殊な音を付加することで、運転者が加速や減速といった運転状態をより実感しやすくするためのシステムです。

通常走行と M モード★ではそれぞれ音色が変わります 。

知識

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.754）

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

右左折や車線変更するときの操作

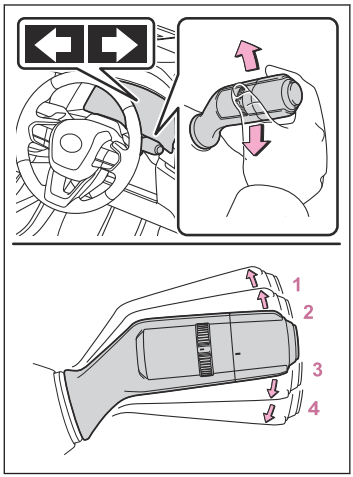
レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

知識

- パワースイッチが ON のときに作動します。
- すべての方向指示灯が点滅しているか、確認してください。

  すべての方向指示灯が点滅しているのに点滅が異常に速いときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

操作のしかた（異形ステアリング非装着車）



1 1 の位置までレバーを傾けます。

左側方向指示灯が点滅します。

2 2 の位置までレバーを傾け、離します。

左側方向指示灯が 5 回点滅します。

3 3 の位置までレバーを傾け、離します。

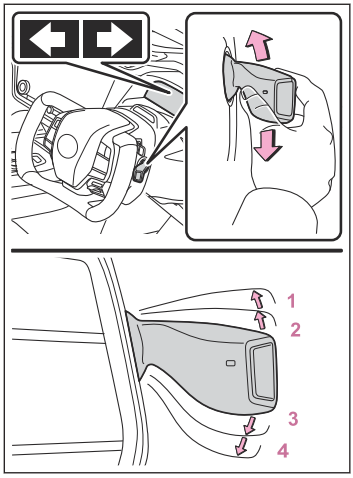
右側方向指示灯が 5 回点滅します。

4 4 の位置までレバーを傾けます。

右側方向指示灯が点滅します。

操作のしかた（異形ステアリング装着車）

レバーは操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。



1 1 の位置までレバーを傾けます。

左側方向指示灯が点滅します。

2 2 の位置までレバーを傾け、離します。

左側方向指示灯が 5 回点滅します。

3 3 の位置までレバーを傾け、離します。

右側方向指示灯が 5 回点滅します。

4 4 の位置までレバーを傾けます。

右側方向指示灯が点滅します。

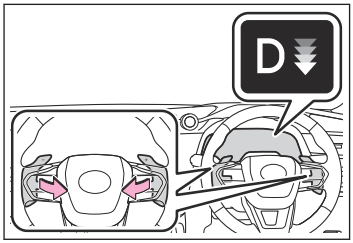
右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の 2 または 3 の位置に操作してください。レバーを 1 または 4 の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

回生ブレーキ力の切りかえ

パドルシフトスイッチの操作で、アクセルペダルを離したときまたは、ブレーキペダルを踏んだときの回生ブレーキ力を固定した走行ができます。

回生ブレーキ力を選択する



シフトポジションを D ポジションで走行中、パドルシフトスイッチの“-”側または“+”側を操作すると、回生ブレーキ力を選択する走行へ切りかわります。

パドルシフトスイッチの“-”側または“+”側の操作で回生ブレーキ力を選択することができます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの“+”側を一定時間以上保持します。

- 回生ブレーキ力は 4 段階から選択できます。
- メーター内の（回生ブレーキ力インジケーター）の▼の数が多いほど回生ブレーキ力が強くなります。

知識

■ 回生ブレーキについて

- 高速走行時は、通常の車にくらべて回生ブレーキによる減速感が小さくなります。
- マルチインフォメーションディスプレイに“回生ブレーキ制限中　減速時はブレーキを踏んでください”が表示されたときは、ブレーキペダルをしっかり踏んで減速してください。（→P.662）

車を停めるときに確認すること

駐停車するときの注意

⚠ 警告

■ 駐車するとき

- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、EV システムを停止し、ロックしてください。 “READY” インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。

  パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 炎天下では、メガネ／ライター／スプレー缶／炭酸飲料の缶といった高温になると危険なものを車内に放置しないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火したりする
  - プラスチックレンズ／プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
  - 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になったりする
- ライターを、車内の収納装備に入れておいたり、車内に落としたままにしておいたりしないでください。

  荷物を入れたりシートを動かしたりしたときに、ライターが誤作動し火災につながるおそれがあります。
- 車両のガラス部分には吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤のような容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドア／フロント／リヤドアガラスを開けたまま放置しないでください。

  直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

■ 車室内で仮眠するとき

必ず EV システムを停止してください。“READY” インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトポジションを切りかえたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車が発進して事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

停車する

1 ブレーキペダルを踏む

⚠ 警告

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなります。また、ブレーキがかかりにくく、ブレーキのかかり具合に左右のタイヤで違いが出るおそれがあります。さらに、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキの油圧システムが故障した場合は、ただちにブレーキの修理を受けてください。ブレーキシステムは 2 つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りのシステムは作動します。ただし、この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。

⚠ 注意

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける（→P.218）

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。（→P.203）

⚠ 警告

■ 停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。

  シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、“READY”インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

駐車する

1 **ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる**

2 **パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける**
(→P.218)

3 **シフトポジションを P にする**(→P.203)

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

⚠ 警告

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。

パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏みこんだときに急発進するおそれがあります。

4 **パワースイッチを押して、EV システムを停止する**

5 **ブレーキペダルからゆっくり足を離す**

6 **電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する**

坂道の途中で駐車する場合は、必要に応じて輪止め[*1] を使用してください。

パーキングブレーキの操作

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、パーキングブレーキが自動で作動します。

また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

⚠ 警告

■ 駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。 お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。 ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

*1: 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

⚠ 注意

■ 駐車するとき

車から離れるときは、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかけてください。車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■ 補機バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。(→P.690)

■ 故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■ パーキングブレーキの作動

- パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- パワースイッチが ON 以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

■ パーキングブレーキ自動解除機能

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用している
- シフトポジションが前進もしくは後退の位置にある
- EV システム警告灯やブレーキ警告灯（黄色）が消灯している

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

オートモードではシフトポジションを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

■ EV システムオフ時パーキングブレーキ自動作動機能について

下記の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

- EV システムを OFF したとき
- オートモードが ON のとき
- ブレーキ警告灯（黄色）が消灯している

■ **降車時パーキングブレーキ自動作動機能について**

下記の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

- ブレーキを踏んでいない
- 運転席のドアが開いている
- 運転席のシートベルトを装着していない
- EV システム警告灯やブレーキ警告灯（黄色）が消灯している

■ **自走式洗車機を利用するときなど「降車時パーキングブレーキ自動作動」機能を作動させずに、シフトポジション N で車から降りたいときは**

次の操作を行うと、シフトポジション N で車から降りても降車時パーキングブレーキ自動作動機能を止めることができます。

1. 停車する。
2. ブレーキホールドシステムを OFF にする。（→P.263）
3. ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。（オートモードを OFF にする）
4. シフトポジションを N にする
5. ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。

   パーキングブレーキ表示灯が点滅します。
6. 「自動 P ポジション切りかえ機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持したいときは」を操作し、機能を止める。（→P.206）

下記の条件をどれか満たしたとき、オートモード ON に戻ります。

パーキングブレーキ表示灯が消灯もしくは点灯します。

- シフトポジションを N 以外にしたとき
- パーキングブレーキスイッチを引いたとき
- EV システムを切り、再度 EV システムをかけたとき

■ **マルチインフォメーションディスプレイに「 EPB が連続で操作されましたしばらくお待ちください 」と表示されたときは**

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。 1 分程度でもとの状態にもどります。

■ **マルチインフォメーションディスプレイに「EPB 動作が途中で停止しました 」と表示されたときは**

パーキングブレーキスイッチを操作してください。 何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ **パーキングブレーキの作動音**

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキ表示灯について

● パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。

ON 以外：約 15 秒間点灯します。

● パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■ 駐車するとき

→P.218

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“EPB が ロックされています”が表示されます。（車速が 5km/h をこえたとき）

■ ブレーキ警告灯（黄色）が点灯したときは

→P.634

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.252

パーキングブレーキを自動でかける／解除する（オートモード）

■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

● シフトポジションを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

● シフトポジションを P 以外から P にすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトポジションおよび P ポジションスイッチは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

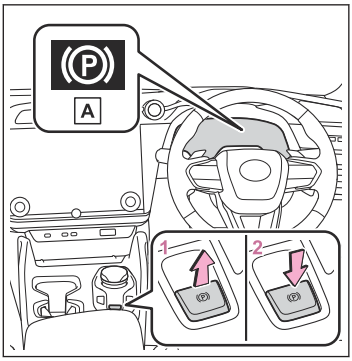
急なシフト操作を行ったときやブレーキペダルが十分に踏み込まれていないときに、オートモードが作動しない場合があります。その場合は、手動でパーキングブレーキを操作してください。（→P.222）

■ オートモードを OFF にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。

パーキングブレーキを手動でかける／解除する（マニュアルモード）

手動でパーキングブレーキをかける／解除することができます。



A パーキングブレーキ表示灯

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかけます。

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除します。

- ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。(→P.219)

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。(→P.643)

3 時間帯や天候に合わせた運転と装備

3-1. 周囲が暗いときの運転

ヘッドランプの使用..... 224

自動的にロービームとハイビームを切りかえる..... 229

3-2. 日差しやランプがまぶしいときの運転

サンバイザーを使う..... 238

インナーミラーのまぶしさを軽減させる（自動防眩タイプ装着車）..... 239

デジタルインナーミラーのまぶしさを軽減させる（鏡面ミラーモード）..... 240

3-3. 雨の日の運転

雨の日の運転の注意..... 241

雨の日の視界の確保..... 242

3-4. ウィンドウやミラーが曇ったときの運転

フロントウインドウガラスの曇りを取る..... 247

リヤウィンドウの曇りを取る. 248

ドアミラーの水滴や霜を取る. 249

3-5. 寒冷時の運転

寒くなる前の準備..... 250

寒冷時の運転で知っておくこと..... 252

3-6. 霧や山道で見通しが悪いときの運転

マルチウェザーライトの点灯. 254

リヤフォグランプの点灯..... 256

ホーン（警音器）を鳴らす.... 258

3-7. 走行特性を切りかえる

走行モードの機能..... 259

走行モードを切りかえる..... 261

3-8. 一時的にブレーキが保持される

ブレーキホールド..... 262

ヘッドランプの使用

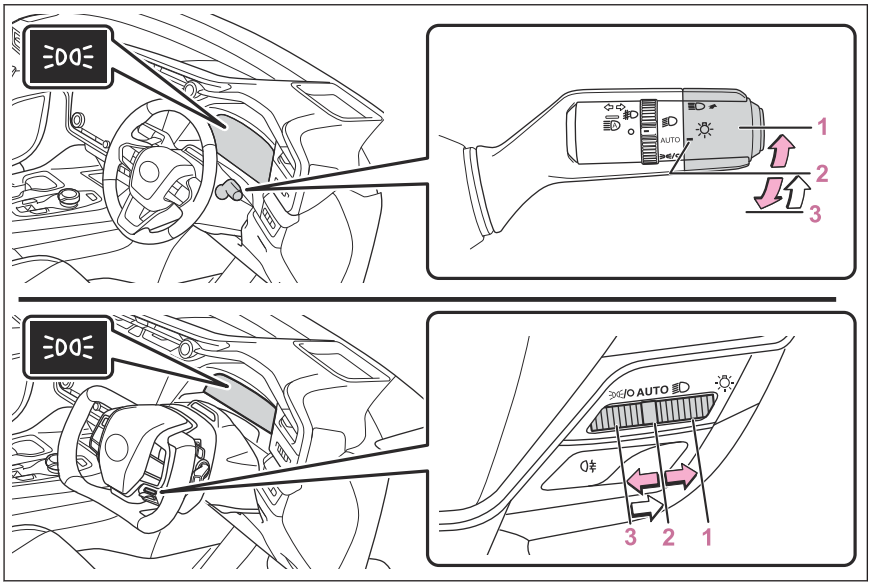
自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

⚠ 注意

EV システムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。補機バッテリーあがりにつながるおそれがあります。

点灯のしかた

次のように ☼ スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



1 ヘッドランプ／スモールランプ*1 が点灯します。

2 AUTO*2

周囲が明るいとき：LED デイタイムランニングランプ(→P.225)が点灯します。

周囲が暗いとき：ヘッドランプ／スモールランプ*1 が点灯します。

*1: スモールランプは、車幅灯／尾灯／インストルメントパネルランプを意味します。

*2: 3 の状態に切りかえるには ☼ スイッチを 3 の位置で約 1 秒保持してから、手を離します。

約 1 秒保持しないと、ランプ類の作動は 2 AUTO のまま変化しません。

3 *1

周囲が明るいとき：スモールランプ*2 が点灯します。

周囲が暗いとき：スモールランプ*2*3 が点灯します。

スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

知識

■ AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ LED デイタイムランニングランプ機能

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、EV システム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチをAUTOにすると、LED デイタイムランニングランプが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します）

LED デイタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

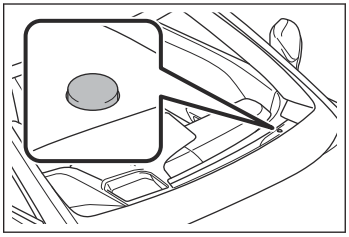
周囲の明るさに応じてスモールランプが点灯します。

■ 自動で点灯／消灯する明るさ

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。

日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ ライトセンサーの取り扱い



センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。

周囲からの光がさえぎられると、自動点灯／消灯機能が正常に働かなくなります。

*1: 3 の状態に切りかえるには スイッチを 3 の位置で約 1 秒保持してから、手を離します。

約 1 秒保持しないと、ランプ類の作動は 2AUTOのまま変化しません。

*2: スモールランプは、車幅灯／尾灯／インストルメントパネルランプを意味します。

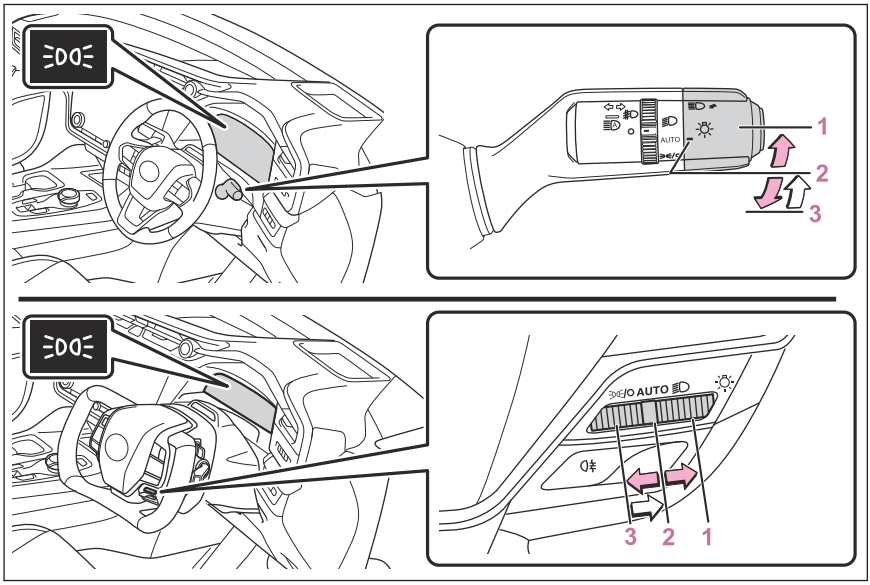
*3: 停車中から低車速での走行中にのみ点灯します。

ただし、一定の車速をこえるか、走行開始後しばらくすると自動で解除され、2AUTOでの点灯状態にもどります。

消灯のしかた

スイッチを→P.225 3 の位置で 2 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に→P.224 1 か→P.225 3 の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



→P.225 3

周囲が明るいとき：ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイタイムランニングランプ（→P.225）が消灯します。

周囲が暗いとき：ヘッドランプ・スモールランプが消灯[*1] します。

スイッチを→P.225 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に→P.224 2 AUTO の位置へ戻ります。

*1：シフトポジションが P にある、またはパーキングブレーキがかかっているときに消灯できます。
シフトポジションを P 以外にするか、パーキングブレーキを解除すると、消灯状態は解除されます。

知識

■ ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを OFF にするとすべてのランプが自動的に消灯します。再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから または の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

パワースイッチが ACC または OFF のとき、ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが AUTO 位置でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

■ 節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチを OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後すべてのランプが自動消灯します。パワースイッチを ON にすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能は一旦解除され、再度節電機能が働き約 10 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

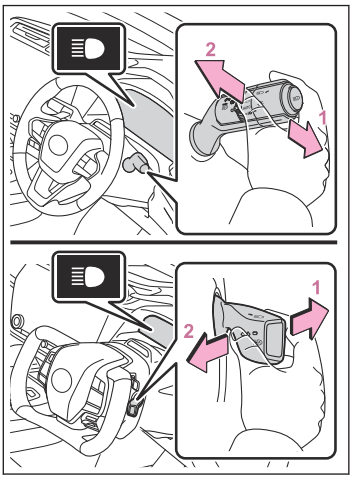
■ ドアをロック解除するとき（おむかえ照明機能）

ランプスイッチが AUTO の位置で車両周辺が暗いとき、スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアをロック解除すると、車幅灯が自動で点灯します。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.754）

ハイビームに切りかえる



1 ランプが点灯した状態で、レバー前方に倒します。

ハイビームに切りかわります。

異形ステアリング非装着車：レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

異形ステアリング装着車：レバーを手前に引くとロービームにもどります。

2 レバーを手前に引きます。

レバーを引いているあいだ、ハイビームが点灯します。

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。

レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

コーナリングランプの機能とはたらき

ヘッドランプ（ロービーム）点灯時に次の条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

- ハンドルを操作したとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- シフトポジションが R のとき

知識

■ コーナリングランプ制御

- 車速が 35km/h 以上の場合は、コーナリングランプは点灯しません。
- 点灯した状態で 30 分間経過すると、自動で消灯します。

オートレベリングシステムの機能とはたらき

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

自動的にロービームとハイビームを切りかえる

AHS（アダプティブハイビームシステム）

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

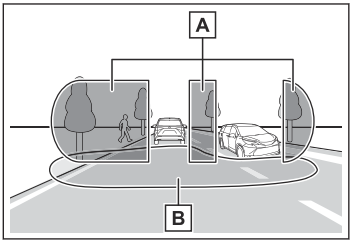
■ アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.370

システムの制御

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

  前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。

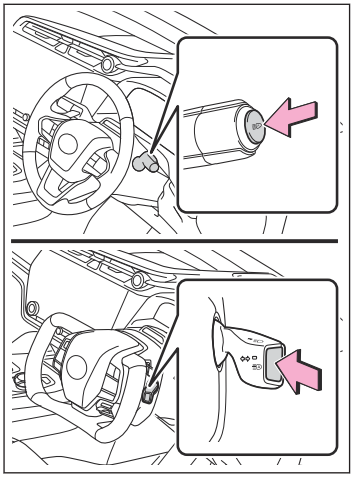


A ハイビームで照らす範囲
B ロービームで照らす範囲

- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

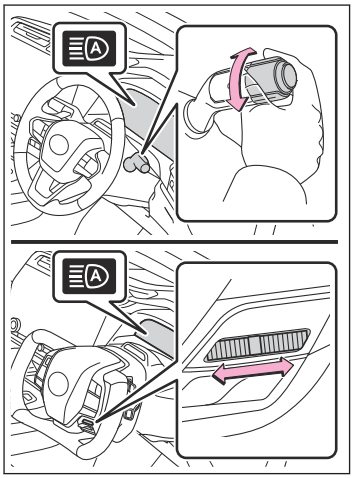
アダプティブハイビームシステムを使うには

1 **アダプティブハイビームシステムスイッチを押す**



2 **ランプスイッチを “AUTO” またはにする**

レバーがロービームの位置にあるとき、アダプティブハイビームシステムが作動し、AHS 表示灯が点灯します。



知識

■ システムの作動条件

● 次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。

- 車速が約 15km/h 以上*1
- 車両前方が暗い

● 次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわります。

- 車速が約 15km/h 以上

*1 : 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

- 車両前方が暗い
- 前方にランプを点灯した車両がいる
- 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

● 次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。

- 車速が約 12km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 前方車両の台数が多い
- 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■ 前方カメラの検知について

● 次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。

- 車両が割り込んできたとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- 前方車両が遠方を走行しているとき
- 前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のランプ類の照度が低いとき
- 前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.375

● 前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

● 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板・反射板（リフレクター）などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

● 次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

- 前方車両のランプの明るさ
- 前方車両の動きや向き
- 前方車両との車間距離
- 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
- 前方車両が二輪車のとき
- 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- 乗車人数や荷物の量

● ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

● 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

● 次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.370
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.375

■ **カスタマイズ機能**

機能の一部は、設定を変更することができます。 （→P.755）

手動制御に切りかえるには

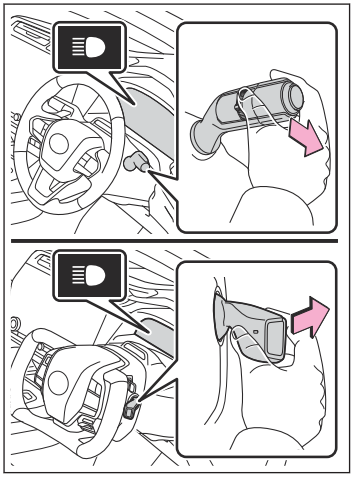
ハイビームへの切りかえ

● **レバーを前方へ押す**

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

異形ステアリング非装着車：アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

異形ステアリング装着車：アダプティブハイビームシステムにもどすには、レバーを手前に引きます。

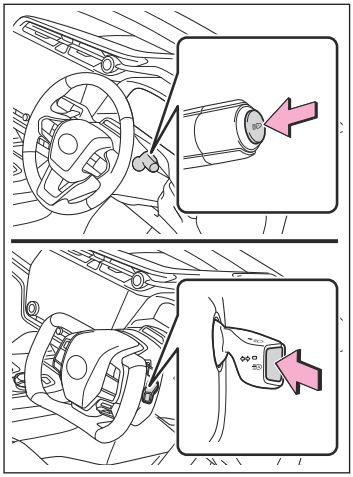


ロービームへの切りかえ

● **アダプティブハイビームシステムスイッチを押す**

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。

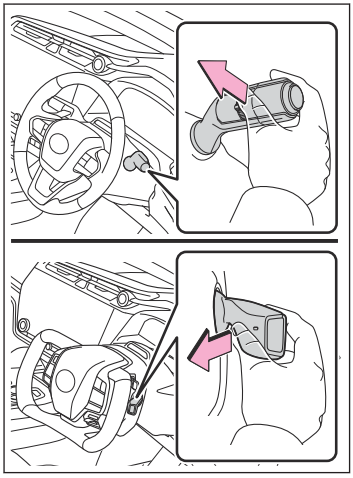


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

● **レバーを手前に引き、もとの位置にもどす**

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。



AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

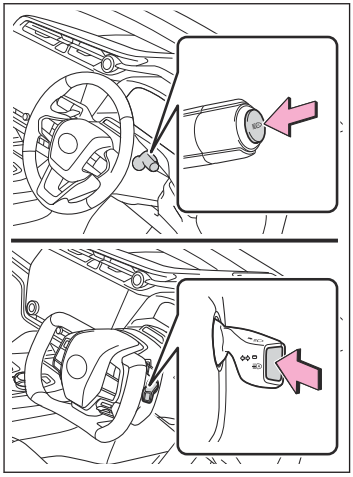
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.370

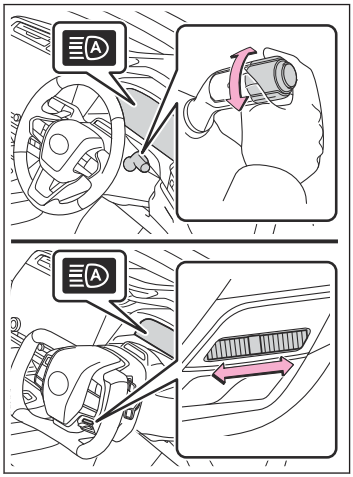
オートマチックハイビームを使うには

1 **オートマチックハイビームスイッチを押す**



2 **ランプスイッチを “AUTO” または にする**

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。



知識

■ ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

● 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 前方にランプを点灯した車両がいない
- 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

● 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 前方車両がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■ 前方カメラの検知について

● 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
- 車両が割り込んできたとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- 前方車両が遠方を走行しているとき
- 前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のランプ類の照度が低いとき
- 前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.375

● 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

● 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

● 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
- 前方車両のランプの明るさ
- 前方車両の動きや向き
- 前方車両との車間距離
- 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
- 前方車両が二輪車のとき
- 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）

- 乗車人数や荷物の量

● ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

● 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

● 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.370
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.375

手動制御に切りかえるには

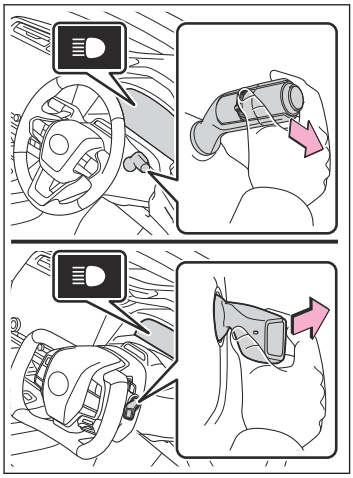
ハイビームへの切りかえ

● **レバーを前方へ押す**

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

異形ステアリング非装着車：オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

異形ステアリング装着車：オートマチックハイビームにもどすには、レバーを手前に引きます。

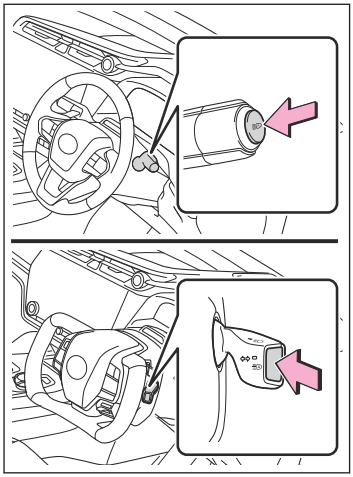


ロービームへの切りかえ

● **オートマチックハイビームスイッチを押す**

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。

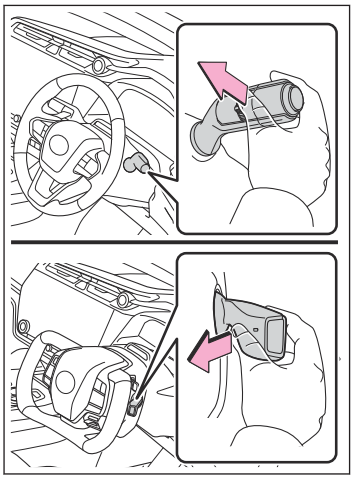


一時的なロービームへの切りかえ

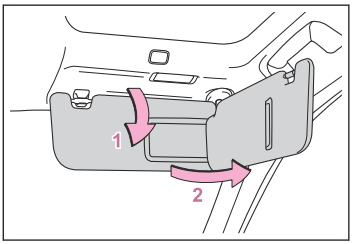
ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

● **レバーを手前に引き、もとの位置にもどす**

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



サンバイザーを使う



1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろします。
2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわします。

インナーミラーのまぶしさを軽減させる（自動防眩タイプ装着車）

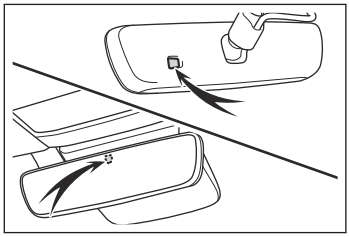
後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

パワースイッチを ON にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

知識

■ センサーの誤作動防止

センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。センサーの誤作動につながるおそれがあります。



デジタルインナーミラーのまぶしさを軽減させる（鏡面ミラーモード）

鏡面ミラーモードの自動防眩機能の ON／OFF を変更できます。

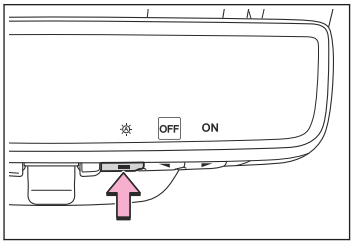
パワースイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。

1 **メニュースイッチを押します。**

設定画面が表示されます。

2 **または を押して、自動防眩機能の ON／OFF を切りかえます。**

約 5 秒以上スイッチを操作しない状態が続くと、設定画面の表示が消えます。



雨の日の運転の注意

雨の日に運転するときは、次のことに注意してください。

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

雨の日の視界の確保

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

フロントワイパーを使う

⚠ 警告

ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

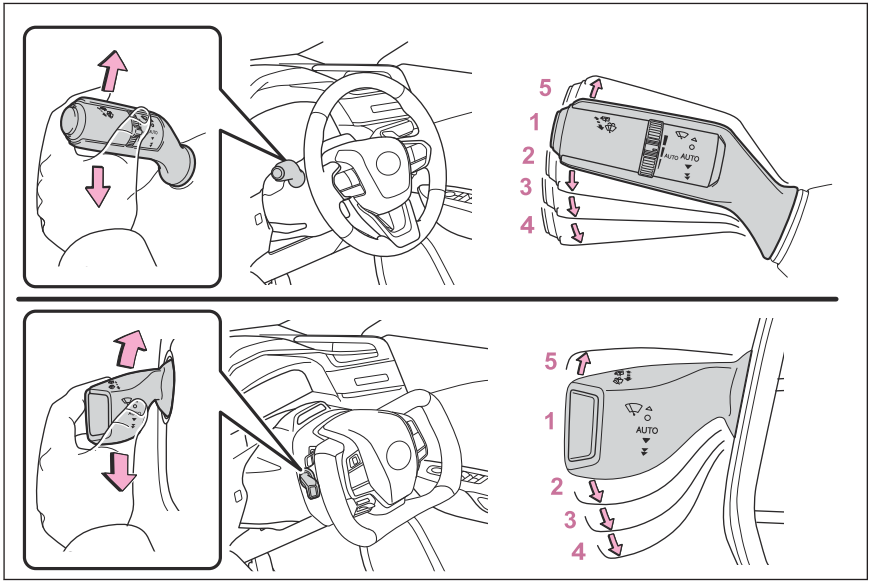
AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。

⚠ 注意

フロントワイパーを使うときは、次のことをお守りください。

- EV システムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。補機バッテリーあがりにつながるおそれがあります。
- フロントウインドウガラスが乾いているときはワイパーを使わないでください。ガラスを傷付けるおそれがあります。

次のように レバーを操作すると、ワイパーが作動します。



1 停止

2 AUTO AUTO モード

雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

3 ▼ 低速作動

4 ▼▼ 高速作動

5 △ 一時作動

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ 音声対話サービスでの操作★

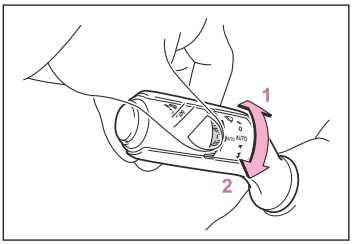
音声対話サービスを使用して、フロントワイパーを 1 回のみ作動することができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

ワイパーの速度の切りかえ

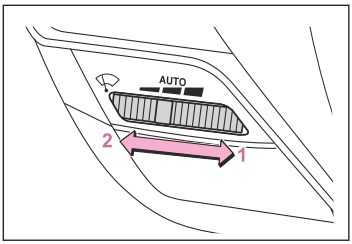
AUTOが選択されているときは、雨滴センサーの感度を調整できます。

▶ 異形ステアリング非装着車



1 雨滴センサーの感度調整（高）
2 雨滴センサーの感度調整（低）

▶ 異形ステアリング装着車



1 雨滴センサーの感度調整（高）
2 雨滴センサーの感度調整（低）

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

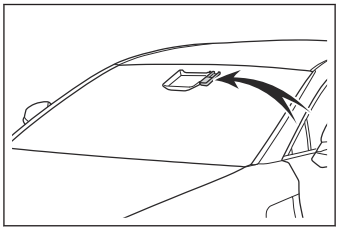
■ 車速による作動への影響

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■ 雨滴感知センサー

● 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



● 雨滴感知センサーの温度が 90℃以上または－15℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。

その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

フロントウォッシャーを使う

⚠ 警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。

ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

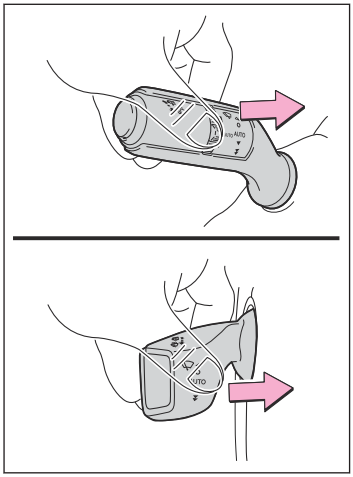
ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

レバーを手前に引きます。

ワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

ヘッドランプが点灯しているときに 5 回連続で手前に引くとヘッドランプクリーナーが作動します。



⚠ 注意

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを操作し続けないでください。ポンプが故障するおそれがあります。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ 液だれ防止作動

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。

ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ 音声対話サービスでの操作★

音声対話サービスを使用して、ウォッシャー液を出すことができます。（停車中のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

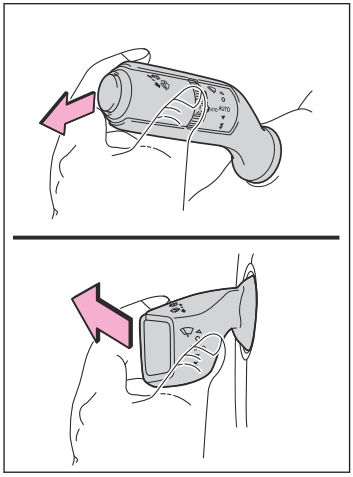
リヤカメラウォッシャーを使う

⚠ 注意

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

レバーを前方へ押します。

バックガイドモニターとデジタルインナーミラーのカメラ洗浄が作動します。



⚠ 注意

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを操作し続けないでください。ポンプが故障するおそれがあります。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ 音声対話サービスでの操作★

音声対話サービスを使用して、ウォッシャー液を出すことができます。（停車中のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントウインドウガラスの曇りを取る

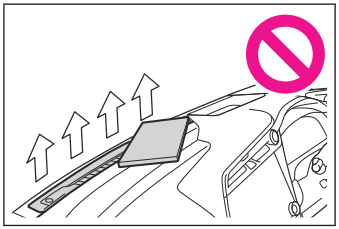
フロントデフロスターは、フロントウインドウの曇りを取るために使用します。

⚠ 警告

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。

  外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- 吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。

  送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



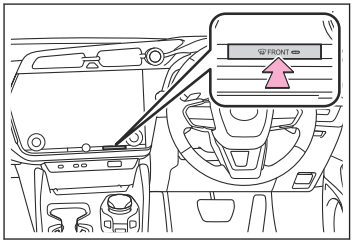
フロントデフロスタースイッチを押します。

除湿機能が作動し、風量が増えます。

内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。



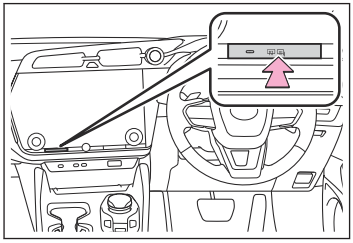
知識

■ ガラスの曇り

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。

  その場合は、A/C スイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- A/C スイッチを ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。
- 外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの霜を取るのに時間がかかる場合があります。

リヤウィンドウの曇りを取る



リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押します。

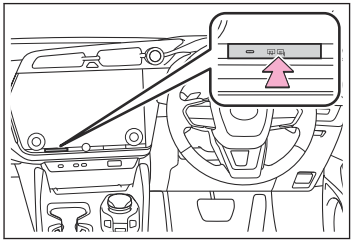
リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

⚠ 警告

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターが作動しているときは、ドアミラーの表面にふれないでください。ドアミラーの表面が非常に熱くなるため、やけどをするおそれがあります。

ドアミラーの水滴や霜を取る



リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押します。

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

⚠ 警告

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターが作動しているときは、ドアミラーの表面にふれないでください。ドアミラーの表面が非常に熱くなるため、やけどをするおそれがあります。

寒くなる前の準備

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

点検が必要な項目

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - 冷却水
  - ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。

冬用タイヤの装着

冬用タイヤ（4 輪）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを使用してください。(→P.744)

⚠ 警告

冬用タイヤを装着するときは次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

⚠ 注意

冬用タイヤの修理／交換するときは、レクサス販売店へご依頼ください。

タイヤの取り付け／取りはずしは、タイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。

タイヤチェーンを使うとき*1*2

タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。

知識

タイヤチェーンの取り付け／取りはずし／取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける

*1: 前 2 輪にタイヤチェーンを使用してください。

*2: 20 インチには、タイヤとボデーの隙間が狭いため、タイヤチェーンを装着できません。

- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 18 インチタイヤ装着車：取り付け後 0.5～1.0km 走行したら締め直しを行う

⚠ 警告

タイヤチェーンを装着するときは次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができなくなるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速／急ハンドル／急ブレーキやシフト操作による急激な回生ブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない
- LDA(レーンディパーチャーアラート)を使用しない

⚠ 注意

■ タイヤチェーンの使用

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

18 インチタイヤ装着車：

この車両に適合したレクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

なお、レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。

■ タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

寒冷時の運転で知っておくこと

寒冷時に運転する前の確認

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ／ドアミラー／ドアガラス／車両の屋根／タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。
- 車外のドア開スイッチが固くなり押しづらい場合があります。強めにドア開スイッチを押してドアを開けてください。

知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードの取り扱い

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

⚠ 注意

ガラスに付いた氷を除去するときは氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

寒冷時に運転するときの注意

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

寒冷時に駐車するときの注意

- パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。

  また、次のシステムの使用は控えてください。オートモードを OFF にしていても、パーキングブレーキが自動的に作動します。

  - ブレーキホールドシステム
  - Advanced Park（リモート機能付）

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐車し、必ず輪止め[*1] をしてください。

  輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトポジションを P にした状態でシフトポジションが動かないことを確認してください。
- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結するおそれがあります。

知識

■ リバース連動機能

寒冷時に「リバース連動」を使用するとき、ドアミラーが凍結していると、自動で鏡面が下向きにならないことがあります。この場合、鏡面の周辺に付着している氷や雪などを取り除いてください。

フロントウィンドウを暖めて凍結したワイパーを動かす

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにウインドシールドデアイサーを使用ください。

オプション操作画面で、“デアイサー”を選択します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

⚠ 警告

ウインドシールドデアイサーが作動しているときは、フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなりやけどをするおそれがあるので、ふれないでください。

*1: 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

マルチウェザーライトの点灯

マルチウェザーライトはコーナリングランプを点灯させることにより、雨や霧などの悪天候下での視界を確保するシステムです。

知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たすとマルチウェザーライトが作動し、両側のコーナリングランプが点灯します。

- ヘッドランプが点灯しているとき
- 車速が 45km/h 未満のとき

  車速が 45km/h 以上になると一時的に消灯しますが、35km/h 以下になると再点灯します。

■ リヤフォグランプの点灯

マルチウェザーライトが ON のときは、リヤフォグランプも点灯することがあります。(→P.256)

■ カスタマイズ機能

リヤフォグランプ点灯時のマルチウェザーライトの作動・非作動を変更できます。(→P.755)

マルチウェザーライトの ON／OFF 切りかえ（異形ステアリング非装着車）

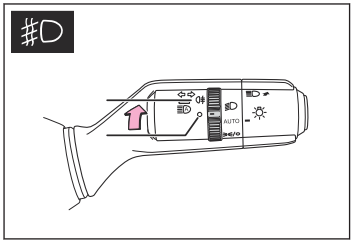
1 ランプスイッチを≡D または AUTO の位置にする

2 リングを #D または ◯ の位置にする

手を離すと ○ の位置までもどります。

マルチウェザーライトが ON になり、メーター内のマルチウェザーライト表示灯が点灯します。

再度操作すると OFF になります。



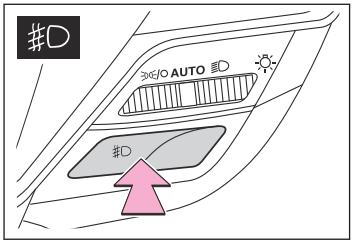
マルチウェザーライトの ON／OFF 切りかえ（異形ステアリング装着車）

1 ランプスイッチを≡D または AUTO の位置にする

2 **または スイッチを押す**

マルチウェザーライトが ON になり、メーター内のマルチウェザーライト表示灯が点灯します。

再度押すと OFF になります。



リヤフォグランプの点灯

雨や霧などの悪天候下で後続車両に自車の存在を知らせることができます。

知識

■ 点灯条件

- ヘッドランプが点灯しているとリヤフォグランプも点灯します。
- ヘッドランプが消灯しても尾灯が点灯していれば、リヤフォグランプは消灯しません。

■ リヤフォグランプの使用

必要なときのみ使用してください。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。

■ リヤフォグランプについて

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

■ マルチウェザーライトの作動

リヤフォグランプが点灯時は、マルチウェザーライトも作動することがあります。
(→P.254)

■ カスタマイズ機能

リヤフォグランプ点灯時のマルチウェザーライトの作動・非作動を変更できます。
(→P.755)

注意

補機バッテリーあがりを防止するために、EV システムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

リヤフォグランプを使う（異形ステアリング非装着車）

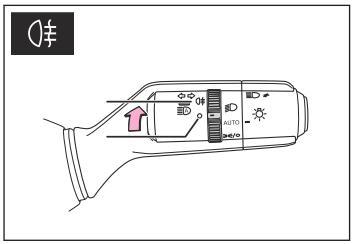
1 ランプスイッチを≡D または AUTO の位置にする

2 リングを の位置にする

手を離すと ○ の位置までもどります。

リヤフォグランプが点灯し、メーター内のリヤフォグランプ表示灯が点灯します。

再度操作すると消灯します。



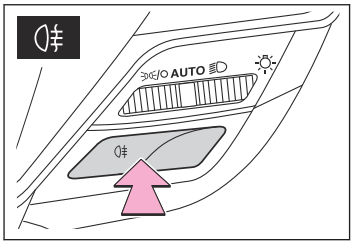
リヤフォグランプを使う（異形ステアリング装着車）

1 ランプスイッチを≡D または AUTO の位置にする

2 スイッチを押す

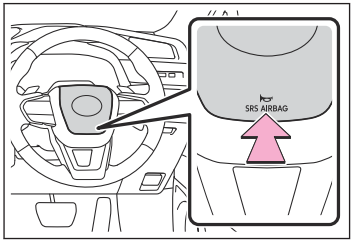
リヤフォグランプが点灯し、メーター内のリヤフォグランプ表示灯が点灯します。

再度押すと消灯します。



ホーン（警音器）を鳴らす

ハンドルの 周辺部を押します。



走行モードの機能

走行／使用状況に合わせて次の走行モードを使用することができます。

それぞれの走行モードの特徴

■ ノーマルモード

電費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

■ エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、電費を向上させる走行に適しています。

■ レンジモード

電費を向上させる走行制御（車速制限／最大駆動力制限／前後駆動力配分最適化など）にかわり、エアコン（暖房／冷房）を OFF にします。レンジモードでクルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールが作動したときは、車速の上限が 100km/h になるため、設定速度にならない場合があります。航続可能距離を最大にする走行に適しています。*1*2

■ スポーツモード

ステアリングのフィーリング、および EV システムとトランスミッションの制御によるアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生が大きくなりスポーツ走行に適した制御にかわります。山岳路などで、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

■ カスタムモード

パワートレーン制御、シャシー制御またはエアコン作動の機能をお好みで設定し、走行することができます。カスタムモードは、センターディスプレイで設定します。（→P.764）

知識

■ エコドライブモード時のエアコン作動について

- エコドライブードは電費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
  - 暖房／冷房の能力を抑制します。
  - オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。
  - 風量を調整する

*1：RZ550e：M モード（→P.208）選択時は、レンジモードを使用しても、車速制限／最大駆動力制限機能は無効化されます。

*2：アクセルを大きく踏み込んだ場合、車速制限・駆動力制限が一時的に解除され、車両が加速します。

- エコドライブモードを解除する

● エコドライブモード時は自動でエコ空調モードに切りかわります。エコ空調モードを解除したいときは、“Eco heat/cool” を押します。

■ レンジモード時のエアコン作動について

● レンジモードでは自動でエアコンが OFF になります。

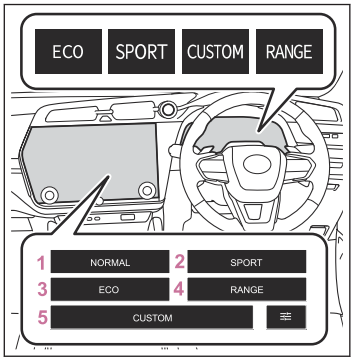
● エアコンを手動で ON にすると、レンジモード選択前に使用していたエアコンの設定で作動します。

■ レンジモード切りかえ提案

駆動用電池の残量が一定以下になると、ドライブモードをレンジモードに切りかえる提案メッセージを表示します。(→P.353)

走行モードを切りかえる

1 センターディスプレイのを選択する
2 “ドライブモード”を選択する
3 走行モードを選択する



1 ノーマルモード
2 スポーツモード
スポーツモード表示灯が点灯します。
3 エコドライブモード
エコドライブモード表示灯が点灯します。
4 レンジモード
レンジモード表示灯が点灯します。
5 カスタムモード
カスタムモード表示灯が点灯します。
カスタムモードの設定を変更するには、をタッチします。

知識

■ レンジ／スポーツ／カスタムモードの解除

- レンジ／スポーツ／カスタムモードは、パワースイッチを OFF にすると自動的に解除され、ノーマルモードにもどります。
- ノーマルモード、およびエコモードは、ほかの走行モードに切りかえるまで解除されません。（パワースイッチを OFF にしても自動では解除されません）

■ 走行モードを選択しているときのマルチインフォメーションディスプレイ表示

選択した走行モードによって、マルチインフォメーションディスプレイの表示が切りかわる場合があります。

ブレーキホールド

⚠ 警告

■ 次のようなときは、ブレーキホールドシステムを OFF にしてください。

- 急坂路
- すべりやすい路面
- 自動洗車機を使用するとき
- けん引されるとき

⚠ 注意

■ 駐車するとき

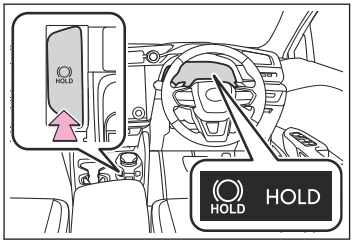
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ブレーキホールドシステムを ON にする

シフトポジションが D･N または P でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションが D のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）が点灯します。



知識

■ システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON にできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
- マルチインフォメーションディスプレイに、“EPB 動作が途中で停止しました”や“EPB 故障　販売店で点検してください”が、表示されている

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯しブレーキを保持で

きません。ブレーキ保持中に、運転席ドアが閉まっていないことや運転席シートベルトを着用していないことを検出した場合は、警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ **ブレーキ保持について**

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。
- パーキングブレーキを自動的に作動させたくない場合は、ブレーキホールドスイッチを押してスタンバイ表示灯（緑）が消灯したのを確認してからパワースイッチを OFF にしてください。

■ **ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき**

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。
（→P.218）

■ **レクサス販売店で点検が必要なとき**

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。

ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ **マルチインフォメーションディスプレイに “BrakeHold 故障” が表示されたときは**

システムに異常があるおそれがあります。

ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ **警告メッセージ・警告ブザーについて**

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ **ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは**

→P.643

4 快適装備と便利な室内装備の使いかた

4-1. お好み設定

マイセッティング..... 266

4-2. ドライビングポジションを登録する

運転席への乗り降りをしやすくする（パワーイージーアクセスシステム） 268

ドライビングポジションの登録／呼び出し／解除..... 269

4-3. 車内の温度／環境を調整する

室内環境を自動で調整する（レクサスクライメイトコンシェルジュ） 273

エアコンの使い方..... 274

ステアリングヒーターのはたらき 283

シートヒーター／輻射ヒーターのはたらき 284

シートベンチレーターのはたらき 286

調光パノラマルーフの使い方 . 287

4-4. 室内を明るくする

室内灯の使い方 292

4-5. 室内の装備を使う

収納装備の位置 296

室内の快適性をさらに向上させるための装備 301

アクセサリーコンセント（AC100V 1500W）・非常時給電システム 313

4-6. ラゲージルームの使いかた

デッキフックを使う..... 323

ネットフックを使う..... 324

買い物フックを使う..... 325

デッキボード 326

トノカバーを収納する..... 328

マイセッティング

電子キーなどのデバイスから個人を特定し、運転者ごとのドライビングポジションや車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。 あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。 マイセッティングには、運転者 3 名分の設定を記憶することができます。 認証デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動きりかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

- 電子キー／デジタルキー★

  スマートエントリー＆スタートシステムが電子キーまたはデジタルキーを検出することで個人を特定します。(→P.128, 133)

- 顔認証システム

  ドライバーモニターカメラで登録した顔情報をドアの開閉時に顔認証することで個人を特定します。(→P.380)

  電子キーまたは、デジタルキー★で個人を特定した場合でも、顔認証による個人の特定が優先されます。

- Bluetooth®デバイス

  ハンズフリー電話で利用する、前回乗車時と同じ Bluetooth®デバイスがオーディオシステムに接続されることで個人を特定します。

  電子キーを検出して個人を認識したときは、Bluetooth®デバイスでの個人の特定はしません。

再生される機能

認証デバイスから個人が認識されたとき、次の機能の設定を再生します。

- ドライビングポジションメモリー（メモリーコール機能）

  個人が特定されたあとに、以下の操作を行うと前回運転終了時（シフトポジションを P にしたとき）のドライビングポジションを再生します。

  - 電子キーで個人を特定：スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでロック解除して運転席ドアを開けたとき
  - デジタルキー★で個人を特定：スマートエントリー＆スタートシステムでロック解除して運転席ドアを開けたとき
  - 顔認証システムで個人を特定：ドライバーモニターカメラが顔情報を認証したあとにパワースイッチを ACC または ON にする

- メーター表示*1／ヘッドアップディスプレイ表示*1／マルチメディア設定*1

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

*1: 一部の設定を除く

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

- 安全運転支援機能*1

  個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

- センターディスプレイで設定可能な車両設定*1

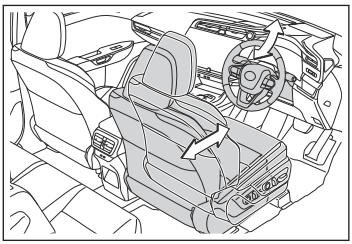
  個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

*1 : 一部の設定を除く

運転席への乗り降りをしやすくする（パワーイージーアクセスシステム）

⚠ 警告

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。



次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- シフトポジションを P にする
- パワースイッチを OFF にする
- シートベルトをはずす

次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- パワースイッチを ACC または ON にする
- シートベルトを着用する

知識

■ パワーイージーアクセスシステムの作動

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■ 挟み込み防止機能

パワーイージーアクセスシステムの作動中に、シートの後ろおよび前に異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください

ドライビングポジションの登録／呼び出し／解除

自動で運転席／ハンドル／ドアミラー／ヘッドアップディスプレイを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整します。ドライビングポジションは、マイセッティングに登録した運転者（3パターン）を登録できます。マイセッティングに電子キー（カードキーを含む）の割り当てを登録することで、登録した運転者ごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。（メモリーコール機能）

ドライビングポジションを登録する（ポジションメモリー機能）

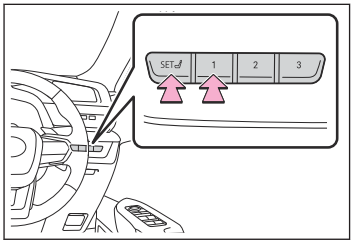
1 **シフトポジションがPの位置にあることを確認します。**

2 **パワースイッチをONにします。**

3 **運転席／ハンドル／ドアミラー角度／ヘッドアップディスプレイ表示をお好みの位置に調整します。**

4 **SETボタンを押しながら、またはSETボタンを押したあと3秒以内に1～3のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押します。**

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



知識

■ 登録できるシート位置

腰部位置調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■ ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

⚠ 警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ドライビングポジションを呼び出す（ポジションメモリー機能）

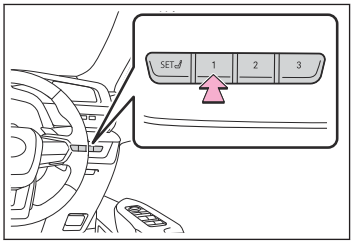
⚠ 警告

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

1 **シフトポジションがPの位置にあることを確認します。**

2 パワースイッチを ON にします。

3 1～3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押します。



知識

■ ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1～3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■ パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ 登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ 挟み込み防止機能

ドライビングポジション呼び出し中、シートの後ろおよび前に異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください

■ シートポジションを呼び出すとき

ヘッドレストが天井やサンバイザーなどに当たらないように注意してください。また、周囲の人やものがシートに挟まれないように注意してください。

■ 音声対話サービスでの操作★

音声対話サービスを使用して、次の操作をすることができます。

- ドライビングポジションの登録
- ドライビングポジションの呼び出し（シフトポジションが P のときのみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

乗車時にドライビングポジションを自動で呼び出す（メモリーコール機能）（運転席のみ）

知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

- 個人を特定するデバイスによっては作動するタイミングが異なる場合があります。
- 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯するキーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

■ 挟み込み防止機能

ドライビングポジション呼び出し中、シートの後ろおよび前に異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.753）

⚠ 警告

■ 挟み込み防止機能について

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

マイセッティングを使用してドライバーを特定したとき

マイセッティングに登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。(→P.266)

■ ドライビングポジションの登録方法

運転を終了したあとにシフトポジションを P にすると、現在のドライビングポジションが登録されます。

■ ドライビングポジションの呼び出し方法

1. 電子キーで個人を特定： マイセッティングに割り当てを登録している電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでロック解除してドアを開けます。

   ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

   ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

2. パワースイッチを ACC または ON にします。

   シート／ハンドル／ヘッドアップディスプレイ表示（パワースイッチを ON にしたときのみ）が登録したドライビングポジションに動きます。

■ メモリーコール機能の解除方法

認証デバイスによって異なります。詳細については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

室内環境を自動で調整する（レクサスクライメイトコンシェルジュ）

エアコンの設定温度、外気温、車室内温度などに応じて、前席のシートヒーターやベンチレーター、ステアリングヒーターがそれぞれ自動制御されます。

クライメイトコンシェルジュを使う

クライメイトコンシェルジュはエアコン“AUTO”に連動して作動します。

1 **エアコンオプション画面表示スイッチをタッチします。(→P.275)**

2 **“クライメイトコンシェルジュ”スイッチをタッチします。**

3 **“AUTO”スイッチを ON にします。**

自動制御される機能

- エアコン(→P.274)

  運転席／助手席の設定温度に応じて、エアコンを自動制御します。

- シートヒーター(→P.284)

  運転席／助手席の設定温度に応じて、シートヒーターを自動制御します。

  エアコンの設定温度／外気温などに応じて、シートヒーターとシートベンチレーターが自動的に切りかわります。

- シートベンチレーター(→P.286)

  運転席／助手席の設定温度に応じて、シートベンチレーターを自動制御します。

  エアコンの設定温度／外気温などに応じて、シートヒーターとシートベンチレーターが自動的に切りかわります。

- ステアリングヒーター(→P.283)

  エアコンの設定温度／外気温などに応じて、ステアリングヒーターを自動制御します。

知識

■ 乗員検知機能について

- 助手席のシートヒーターやシートベンチレーターは、乗員を検知した場合に作動します。
- シートヒーター／シートベンチレーターのスイッチを操作して AUTO 設定にした場合は、乗員の検知を行いません。

■ リヤシートヒーターの作動について

クライメイトコンシェルジュによるリヤシートヒーターの自動制御はおこないません。

エアコンの使い方

“AUTO” スイッチを ON にすることで、設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

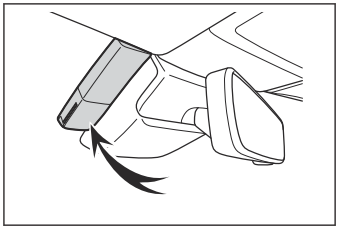
⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■ 湿度センサーについて

- フロントウインドウガラスの曇り検知のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。



- センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - 湿度センサーを分解しない
  - ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
  - 湿度センサーにシールなどを貼らない

知識

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために：
  - 駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
  - オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。
- 駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生する臭いを緩和します。

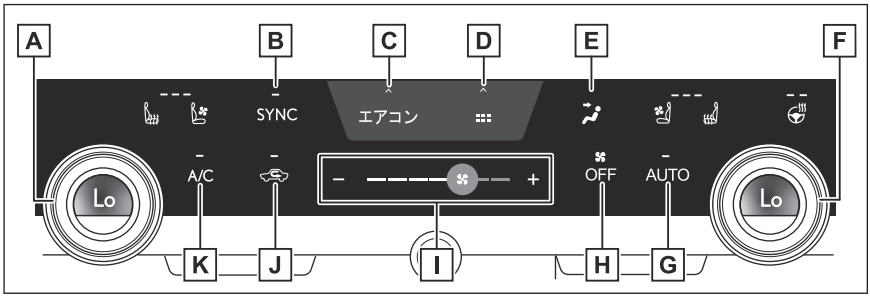
■ 音声対話サービスについて

音声対話サービスを使用して、エアコンを操作することができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ カスタマイズ機能

センターディスプレイの “車両カスタマイズ” で、“AUTO” スイッチが ON のときに連動する機能を設定できます。（→P.765）

エアコン操作スイッチについて



A 助手席側温度調整スイッチ

B “SYNC”スイッチ（各席連動モード）

C エアコンオプション画面表示スイッチ

D ショートカット画面表示スイッチ

いくつかの機能へのショートカットアイコンが表示されます。

E 吹き出し口切りかえスイッチ

F 運転席側温度調整スイッチ

G “AUTO”スイッチ

H “OFF”スイッチ

I 風量調整スイッチ

J 内外気切りかえスイッチ

K “A/C”スイッチ

温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを右へまわし、下げるときは左へまわします。

“SYNC”スイッチのインジケーターが点灯しているときは、運転席側の設定温度調整に合わせて助手席側の設定温度が調整されます。

“SYNC”スイッチのインジケーターが消灯しているときに“SYNC”スイッチにタッチすると、“SYNC”スイッチのインジケーターが点灯し、助手席側の設定温度が運転席側と同じ設定温度になります。

助手席側温度調整スイッチを操作すると“SYNC”スイッチのインジケーターが消灯し、助手席側の設定温度だけを調整できます。

“A/C”スイッチのインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

風量を切りかえる

風量を増やすときは風量調整スイッチの“+”をタッチするか、風量調整スイッチのアイコンを右へスライドします。風量を減らすときは風量調整スイッチの“-”をタッチするか、風量調整スイッチのアイコンを左へスライドします。

“OFF”スイッチをタッチすると、ファンが止まります。

“-”スイッチをタッチし続ける、または風量調整スイッチのアイコンを左方向へスライドすることでもファンが止まります。

吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチをタッチします。

選択するたびに吹き出し口が切りかわります。

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

：上半身に送風

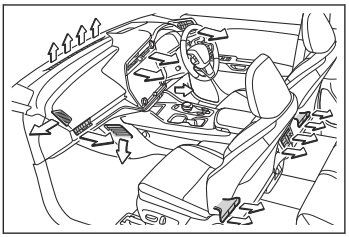
：上半身と足元に送風

：足元に送風

：足元に送風／ガラスの曇りを取る

知識

吹き出し口の位置



内気循環／外気導入を切りかえる

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

内外気切りかえスイッチをタッチします。

スイッチをタッチするたびに内気循環／外気導入が切りかわります。内気循環を選択しているときはインジケーターが点灯します。

設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

知識

■ 外気 24℃以上でエアコン作動中の内外気切りかえについて

- エアコンによる消費電力を抑えるために自動で内気循環に切り替わる場合があります。
- パワースイッチを ON すると内気循環に切りかわります。
- 内外気切りかえスイッチ操作により内気循環／外気導入をいつでも選択できます。

フロント席集中送風モード（S-Flow）

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。無駄な冷暖房を抑えることで、電費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

- リヤ席に乗員を検知していない
- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない

エアコンオプション画面内の S-Flow スイッチが  (ON)になります。

また、スイッチ操作によりフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

1 **エアコンオプション画面表示スイッチをタッチします。**(→P.275)

2 **“S-Flow” スイッチをタッチします。**

- スイッチが ON：フロント席のみへの送風
- スイッチが OFF：全席への送風

知識

■ 送風の自動制御について

- 車室内を快適に保つために、EV システム始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。
- EV システム始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

■ 送風の手動制御について

手動でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

■ 送風を自動制御にもどすには

1. 表示灯が消灯している状態でパワースイッチを OFF にします。
2. 60 分以上経過後にパワースイッチを ON にします。

エコ空調モード

エコ空調モードに切りかえると、電費を優先するために空調の効きを抑えます。

1 **エアコンオプション画面表示スイッチを選択する（→P.275）**

2 **“Eco Heat/Cool” スイッチにタッチします。**

- エコ空調モードでは電費性能を優先させるため、空調が次のように制御されます。空調の効きをよくしたいときは、エコ空調モードを解除してください。
  - EV システムの出力を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
  - オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- ドライブモードセレクトのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードに切りかわります。エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードが解除される場合があります。
- エコドライブモード時は自動でエコ空調モードに切りかわっていますが、その場合でも“Eco Heat/Cool”を選択するとエコ空調モードを解除することができます。
- ドライブモードセレクトのレンジモードを選択すると、自動でエアコンが OFF になります。エアコンを手動で ON にすると、レンジモード選択前に使用していたエアコンの設定で作動します。

車内を急速に温める（Max heat）

“Max heat” を ON にすると、車内を急速に温めるために、空調設定が一括で切り替わります。

1 **センターディスプレイのショートカット画面表示スイッチ をタッチします。（→P.275）**

2 **“Max heat” スイッチをタッチします。**

- エアコンの運転席側設定温度が“Hi”になり、“AUTO”スイッチが ON になります。
- 運転席側シートヒーターの設定が強になります。
- ステアリングヒーターの設定が強になります。
- 次の場合、助手席側シートヒーター／ベンチレーターの設定が“AUTO”になります。
  - “クライメイトコンシェルジュ”が ON のとき
  - 助手席に乗員がいるとシステムが判断したとき
- “SYNC”のインジケーターが点灯しているときは、助手席の設定温度も“Hi”になります。

知識

■ “Max heat” について

- “Max heat” スイッチでは設定を OFF にできません。

- “Max heat”スイッチを操作後、エアコンの温度調整スイッチで設定温度を調整することができます。
- “クライメイトコンシェルジュ”が ON の時は、“AUTO”スイッチを ON にすることで、シートヒーター、シートベンチレーター、ステアリングヒーターも設定温度に合わせて自動調整されます。
- 各機能をお好みで調整頂くこともできます。

車内を急速に冷やす（Max cool）

“Max cool”を ON にすると、車内を急速に冷やすために、空調設定が一括で切り替わります。

1 **センターディスプレイのショートカット画面表示スイッチ をタッチします。****(→P.275)**

2 **“Max cool”スイッチをタッチします。**

- エアコンの運転席側設定温度が“Lo”になり、“AUTO”スイッチが ON になります。
- 運転席側シートベンチレーターの設定が強になります。
- 次の場合、ステアリングヒーターの設定が“AUTO”になります。
  - “クライメイトコンシェルジュ”が ON のとき
- 次の場合、助手席側シートヒーター／ベンチレーターの設定が“AUTO”になります。
  - “クライメイトコンシェルジュ”が ON のとき
  - 助手席に乗員がいるとシステムが判断したとき
- “SYNC”のインジケーターが点灯しているときは、助手席の設定温度も“Lo”になります。

知識

■ “Max cool”について

- “Max cool”スイッチでは設定を OFF にできません。
- “Max cool”スイッチを操作後、エアコンの温度調整スイッチで設定温度を調整することができます。
- “クライメイトコンシェルジュ”が ON の時は、“AUTO”スイッチを ON にすることで、シートヒーター、シートベンチレーター、ステアリングヒーターも設定温度に合わせて自動調整されます。
- 各機能をお好みで調整頂くこともできます。

ナノイー X[*1][*2] について

*1: nanoe、ナノイーおよび nanoe マークは、パナソニック ホールディングス株式会社の商標です。

*2: ナノイー X は、ナノイーに比べて、効果の元である OH ラジカルをより多く含む微粒子イオンです。

1 エアコンオプション画面表示スイッチをタッチします。(→P.275)

2 “nanoe™X” スイッチをタッチします。

エアコンにはナノイー X 発生装置が搭載されています。この装置は運転席窓側の吹き出し口からナノイーを放出し、車室内を快適な空気環境に導きます。*1

- ナノイー X が ON のとき、ファンが作動すると、自動的にナノイー X 発生装置が作動します。
- ナノイー X 発生装置が作動中、次の条件で効果を発揮します。
  - 吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、足元に送風のとき
  - 運転席中央側の吹き出し口が開いているとき
- ナノイー X 発生装置作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- ナノイー X 発生装置作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
  - ナノイー X 発生装置が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
  - 作動直後は作動音が大きい場合があります。

⚠ 警告

■ ナノイー X 発生装置について

高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

■ ナノイー X 発生装置の損傷を防ぐために

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。正常に働かなくなるおそれがあります。

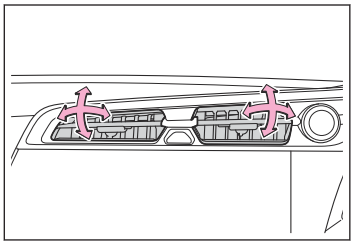
吹き出し口の操作

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

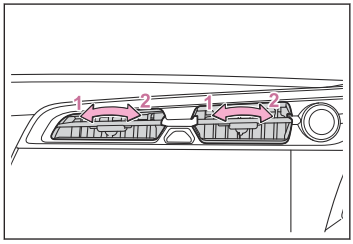
次のように操作して、風向きの調整や吹き出し口の開閉をします。

*1: 温湿度環境、風量・風向きによってはナノイーの効果が十分に得られない場合があります。

▶ フロントセンター

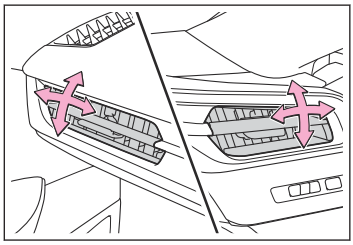


風向きの調整

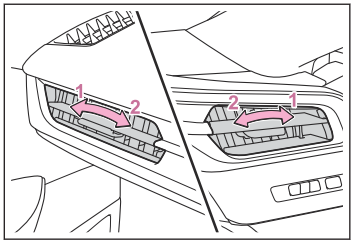


吹き出し口の開閉
1　閉じる
2　開ける

▶ フロントサイド

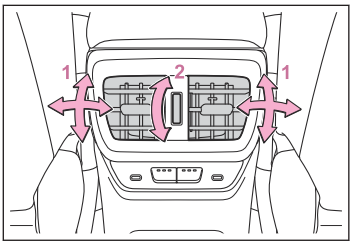


風向きの調整



吹き出し口の開閉
1　閉じる
2　開ける

▶ リヤ



1 風向きを調整する
2 吹き出し口を開閉する

ステアリングヒーターのはたらき

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

⚠ 警告

次の方がステアリングヒーターに触れないようにご注意ください。やけどするおそれがあります。

- 乳幼児／お子さま／お年寄り／病人／体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

⚠ 注意

EV システムが停止した状態で使用しないでください。補機バッテリーあがりにつながるおそれがあります。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

ステアリングヒーターの ON/OFF を切りかえる

センターディスプレイのをタッチします。

スイッチをタッチするたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→強（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

作動中は、スイッチ上のインジケーターと、レベルインジケーター（赤）が点灯します。AUTO 作動中は“AUTO”が点灯します。

知識

■ カスタマイズ機能

センターディスプレイの「車両カスタマイズ」で、ステアリングヒーターの温度を設定できます。（→P.765）

シートヒーター／輻射ヒーターのはたらき

シートの表面や前席の足元を暖めることができます。

⚠ 警告

■ 低温やけどを防ぐために

次の方がシートヒーター／輻射ヒーターに触れないようにご注意ください。

- 乳幼児／お子さま／お年寄り／病人／体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

■ 異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーター／輻射ヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 毛布／クッションなどを使用しない
- 長時間連続使用しない

■ 走行中の警告

ハンドルから手を放したりペダルから足を放して、輻射ヒーターに触れたり手や足をかざす行為は行わないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ シートヒーター／輻射ヒーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態でシートヒーター／輻射ヒーターを使用しないでください。

知識

■ シートヒーターの作動条件

パワースイッチが ON

■ 輻射ヒーターの作動条件

パワースイッチが ON かつシートベルトを装着しているとき

フロントシートヒーター／輻射ヒーターの ON/OFF を切りかえる

センターディスプレイの または を選択する。

スイッチをタッチするたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

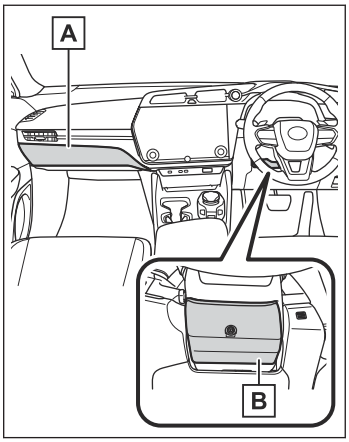
作動中は、スイッチ上のインジケーターと、レベルインジケーター（赤）が点灯します。AUTO 作動中は AUTO が点灯します。

知識

■ 輻射ヒーターの作動について

- ヒーター部に触り続けるなどによって、自動的に電源が切れることがあります。その場合は、センターディスプレイのシートヒーター／輻射ヒーターのスイッチを入れなおしてください。
- ヒーター温度が上昇するまでに時間がかかる場合があります。

■ 輻射ヒーターの位置



A 助手席側輻射ヒーター
B 運転席側輻射ヒーター

■ カスタマイズ機能

センターディスプレイの「車両カスタマイズ」で、フロントシートヒーターの温度を設定できます。（→P.748）

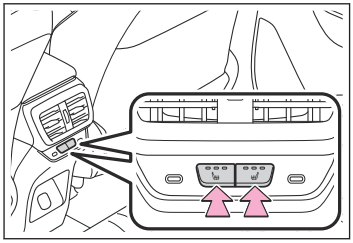
リヤシートヒーターの ON/OFF を切りかえる

スイッチを押します。

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

作動中は、スイッチ上のインジケーター（黄）が点灯します。



シートベンチレーターのはたらき

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。

⚠ 注意

■ シートベンチレーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態でシートベンチレーターを使用しないでください。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

シートベンチレーター（フロント）の ON/OFF を切りかえる

センターディスプレイのまたはをタッチします。

スイッチをタッチするたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は、スイッチ上のインジケーターと、レベルインジケーター（青）が点灯します。AUTO 作動中は“AUTO”が点灯します。

知識

■ エアコン連動制御モードについて

シートベンチレーターが強のとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーターの風量が強くなります。

■ カスタマイズ機能

センターディスプレイの「車両カスタマイズ」で、シートベンチレーターの温度を設定できます。（→P.748）

調光パノラマルーフの使い方★

頭上のスイッチで調光パノラマルーフの調光／透過状態を切りかえたりすることができます。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

■ 調光パノラマルーフについて

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解／修理をしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

■ やけどを防ぐために

車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれがあります。

知識

■ 調光パノラマルーフの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ 音声対話サービスでの操作★

音声対話サービスを使用して、調光パノラマルーフの調光／透過状態の切りかえをすることができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 調光パノラマルーフが透過状態のとき

- 天候や車室内外での光のあたり方によっては、調光パノラマルーフに縞模様（干渉縞）が見えることがあります。
- 角度によっては、調光パノラマルーフが曇って見えることがあります。

■ 外気温が低いとき

調光パノラマルーフの調光／透過状態が切りかわるまでに時間がかかることがあります。車室内を暖めてから使用してください。

■ パワースイッチを OFF にしたとき

調光パノラマルーフが透過状態のときにパワースイッチを OFF にすると、自動で調光状態に切りかわります。

■ 調光スイッチの作動表示灯が点滅したとき

調光パノラマルーフに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 車両が強い衝撃を受けたとき

調光パノラマルーフが調光状態に切りかわり、透過状態へ切りかえることができなくなります。レクサス販売店で点検を受けてください。

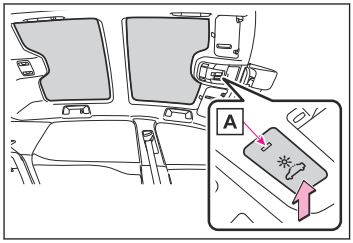
★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

調光パノラマルーフの調光／透過状態を切りかえるには

調光スイッチを押す

スイッチを押すたびに、調光パノラマルーフの調光／透過状態が切りかわります。

調光パノラマルーフが透過状態のとき、スイッチの作動表示灯Aが点灯します。



ルーフシェードの使い方

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ルーフシェードが脱落したり、視界をさえぎったり、思わぬ事故につながったり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ルーフシェードの取り付けや取りはずしは、安全な場所に停車しておこなってください。
- ルーフシェードが確実に取り付けられていることを確認してください。
- ルーフシェードを取り付けるときは、人やものがルーフシェードに当たらないよう気を付けてください。

⚠ 注意

■ 取り付け時/取り外し時の損傷を防ぐ

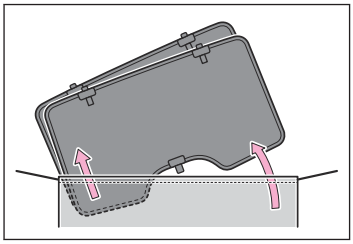
- 本車両以外には取り付けないでください。
- ルーフシェードを取り付けるときは、調光パノラマルーフとルーフシェードのあいだにものを入れないでください。
- 必ずストラップを持って取りはずしてください。
- ルーフシェードを無理にねじらないでください。

■ 取りはずしたあとの損傷を防ぐ

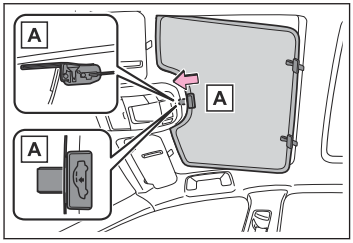
- 取りはずしたルーフシェードは収納バッグに入れてください。
- 収納バッグにはルーフシェード以外の物を入れないでください。
- 収納バッグを無理に引っ張らないでください。
- ルーフシェードを立てかけて保管しないでください。
- ルーフシェードの上に物を置かないでください。
- 収納バッグの周りにある荷物等も当たらないようにしてください。

脱着方法

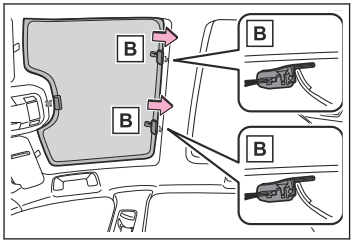
1 収納バッグからルーフシェードを取り出す。



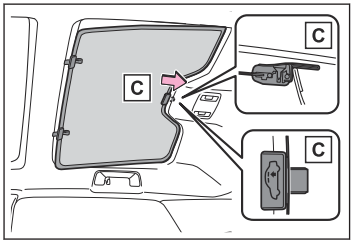
2 A を図のように差し込む。



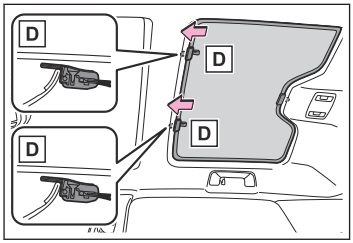
3 B を図のように差し込む。



4 C を図のように差し込む。



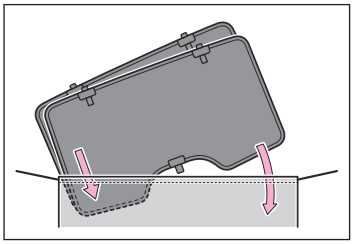
5 D を図のように差し込む。



6　取り外すときは、取り付けたときと逆の手順で取り外します。

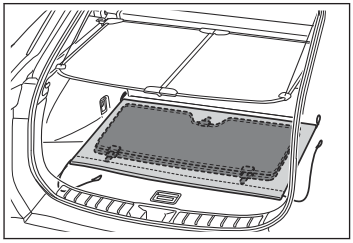
取り外したルーフシェードを収納する

● 収納バッグにルーフシェードを収納する。



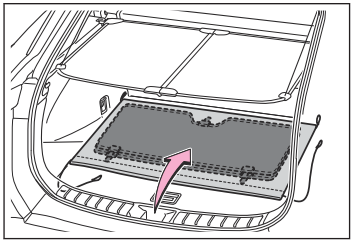
取り外したルーフシェードの保管方法（デッキボードの上）

● デッキボードの上に、収納バッグに収納したルーフシェードを置く。

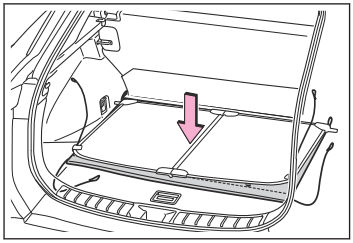


取り外したルーフシェードの保管方法（トノカバーと重ねる）

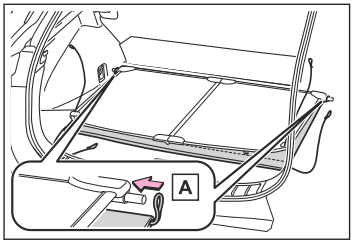
1　デッキボードの上に、収納バッグに収納したルーフシェードを置く。



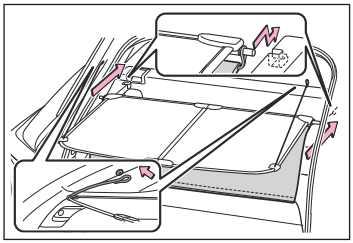
2　取り外したトノカバーをルーフシェードの上に重ねて置く。



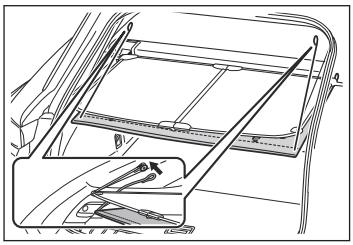
3 トノカバーのA部に収納バッグの留め紐を取り付ける。



4 トノカバーを取り付け、留め紐を左右のフックに取り付ける。

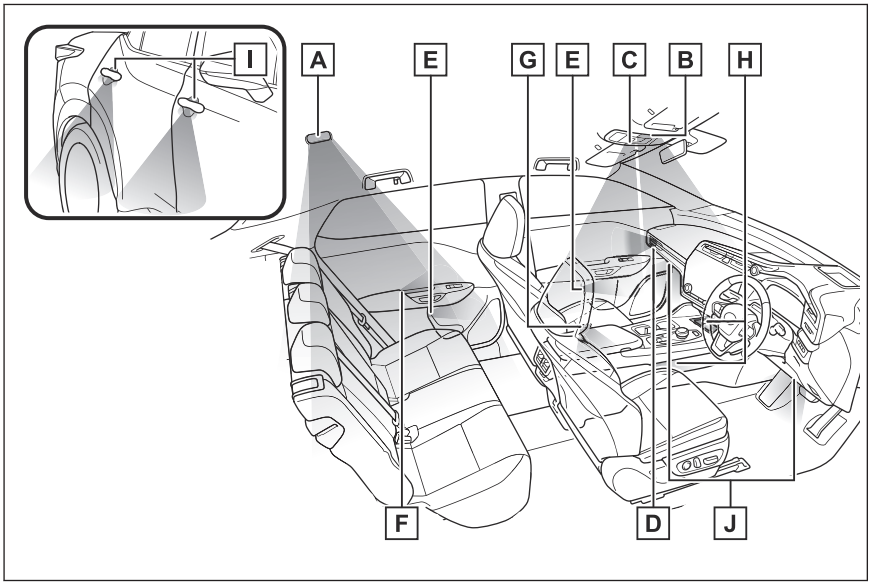


5 収納バッグの留め紐を、左右のフックに取り付ける。



室内灯の使い方

室内灯の位置



A リヤインテリアランプ
B フロントインテリアランプ
C パーソナルランプ
D ドアトリム照明*1
E ドアポケット照明*1
F インサイドハンドル照明*1
G ドアカーテシランプ
H 小物入れ照明*1
I アウトサイドドアハンドル照明
J 足元照明*1

知識

■ 各部照明の自動点灯／消灯について

● 電子キーの検知／ドアのロックまたはロック解除／ドアの開閉／パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯／消灯します。また、シフト操作と連動して照度が自動的に調整されます。（イルミネーテッドエントリーシステム）

*1: 照明色を変更することができます。

● パワースイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 10 分後に自動消灯します。

■ 室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■ アウトサイドドアハンドル照明

電子キーの検知やドアのロック解除により、アウトサイドドアハンドル照明が自動的に点灯します。

■ 音声対話サービスでの操作★

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

● 各部の照明の ON／OFF の切りかえ

● 各部の照明の照明色の変更

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.765）

⚠ 注意

■ ランプのレンズの取りはずし

絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

インテリアランプ

知識

■ インテリアランプが正常に反応しない状況

次のとき、インテリアランプが正常に反応しない場合があります。

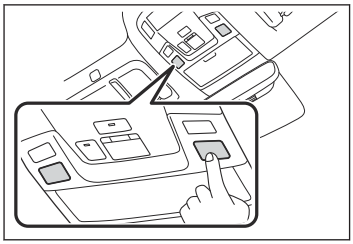
● レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき

● 濡れた手で操作したとき

● 手袋などを装着しているとき

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントインテリアランプをつける／消す



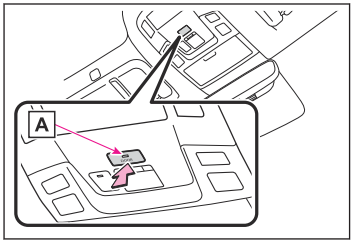
ランプにタッチします。

タッチするごとにフロントインテリアランプが点灯／消灯します。

リヤインテリアランプが連動して点灯／消灯します。

ただし、リヤインテリアランプスイッチが押されている状態で、フロントインテリアランプを操作しても連動しません。

インテリアランプをドア開閉に連動して点灯／消灯を切りかえる



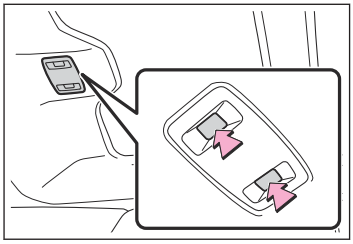
DOOR スイッチを押します。

DOOR スイッチを押すごとに、フロントインテリアランプのドア連動 ON/OFF が切りかわります。

リヤインテリアランプもドアの開閉に連動して点灯／消灯します。

ドア連動が ON になると、インジケーター A が点灯します。

リヤインテリアランプをつける／消す



ランプにタッチする

タッチするごとに、リヤインテリアランプが点灯／消灯します。

フロントインテリアランプに連動してリヤインテリアランプが点灯／消灯します。

パーソナルランプ

知識

■ パーソナルランプが正常に反応しない状況

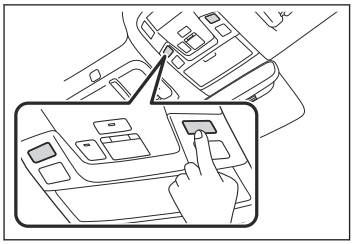
次のとき、パーソナルランプが正常に反応しない場合があります。

- レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき
- 濡れた手で操作したとき
- 手袋などを装着しているとき

パーソナルランプを使う

ランプにタッチします。

タッチするごとにパーソナルランプが点灯／消灯します。

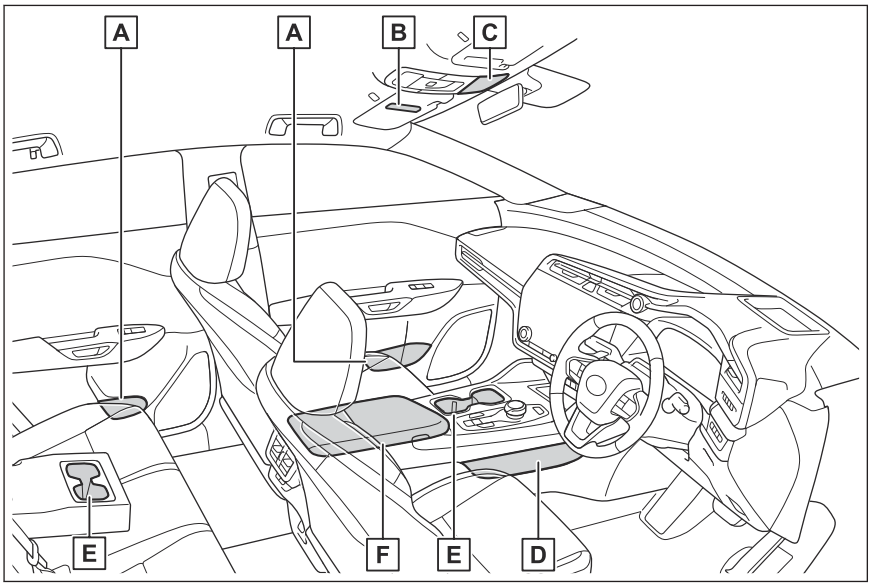


収納装備の位置

⚠ 警告

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる



A ボトルホルダー
B カードホルダー
C 小物入れ
D オープントレイ
E カップホルダー
F コンソールボックス

ボトルホルダーの位置

⚠ 注意

ボトルホルダーを使用する場合は、次のことをお守りください。

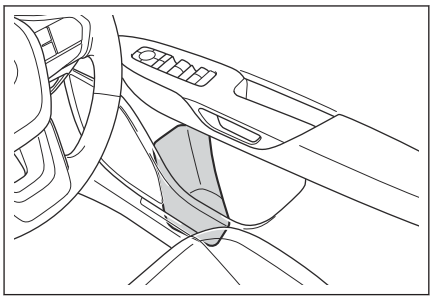
- ボトルホルダーには、液体が入っている紙コップ／ガラス製のコップなどを収納しないでください。

⚠ 注意

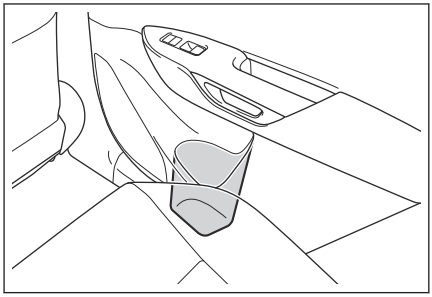
中身の液体がこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

▶ **フロント**



▶ **リヤ**

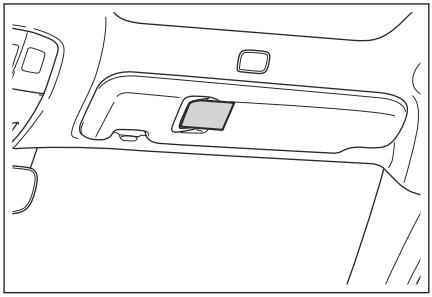


□ 知識

■ ボトルホルダー

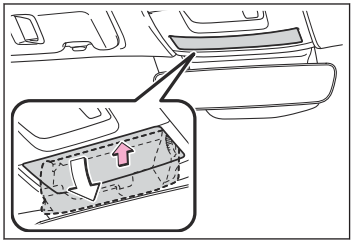
ペットボトルの大きさ／形によっては収納できないことがあります。

カードホルダーの位置



小物入れを使う

フタを押します。



⚠ 警告

- 200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、フタが開き収納されているものが飛び出したりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中や小物入れを使わないときは、フタを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、収納していたものが飛び出して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

オープントレイを使う

⚠ 警告

オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。

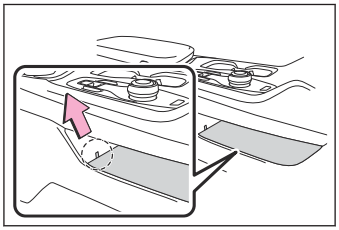
急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛び出し、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
- トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出してものを置かないでください。

知識

■ 清掃するときは

マットを取りはずして清掃してください。

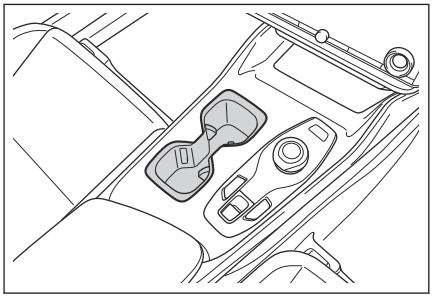


カップホルダーを使う

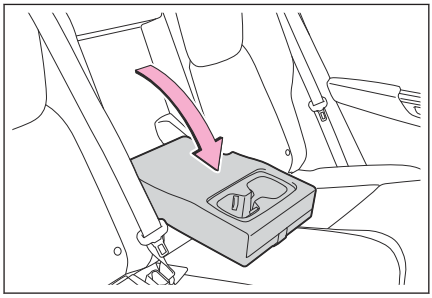
⚠ 警告

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

▶ フロント



▶ リヤ



リヤアームレストを手前に倒します。

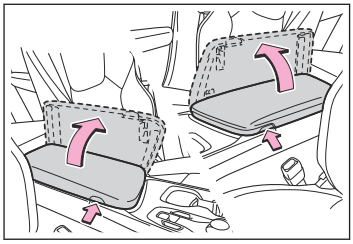
コンソールボックスを使う

⚠ 警告

使用しないときや走行中は、コンソールボックスを必ず閉じてください。
コンソールボックスが開いたままにしておくと、急ブレーキや急旋回時などに、乗員に開いたコンソールボックスがあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ボタンを押しながらフタを持ち上げて、コンソールボックスを開きます。

両側から開けることができます。



知識

■ コンソールボックスランプ

車幅灯点灯時は、コンソールボックス内のランプが点灯します。

室内の快適性をさらに向上させるための装備

充電用 USB 端子の機能と働き

⚠ 注意

■ 充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

当該充電用 USB 端子は、いずれも外部機器への充電に使用できます。形状が合った差込口を使用ください。

この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

知識

■ 充電用 USB 端子を使用できる条件

パワースイッチが ACC 、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■ 充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

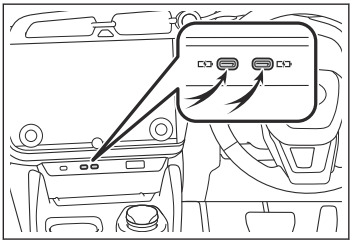
- リヤコンソール：
  DC15V/3.0A（消費電力 45W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

充電用 USB 端子を使う

▶ インストルメントパネル

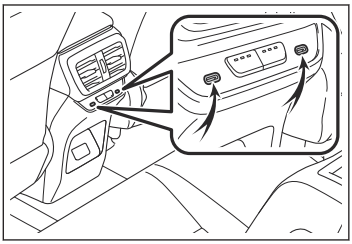


これらの充電用 USB 端子は、高出量に対応しています。

1 つの端子で最大 60W、もしくは合わせて 60W までの出力が可能です。

充電用 USB 端子は、複数の電圧（V）および複数の出力（W）での作動が可能です。

▶ リヤコンソール



1 つの端子で最大 45W の出力が可能です。

アクセサリーソケットの機能と働き

⚠ 注意

■ アクセサリーソケットの損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- アクセサリーソケットを使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源として使うことができます。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリーソケットに接続されている電気製品の消費電力合計を 120W 未満にしてください。

知識

■ アクセサリーソケットを使用できる条件

パワースイッチが ACC 、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

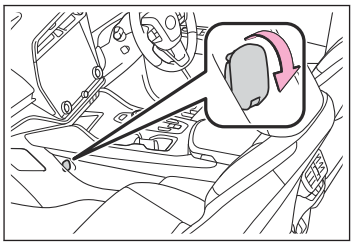
■ EV システムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、EV システムが正常に停止しなくなる場合があります。

アクセサリーソケットを使う

ふたを開けます。



「おくだけ充電®」（ワイヤレス充電器）の機能と働き

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。適合機器は WPC のホームページ（https://www.wirelesspowerconsortium.com/）でご確認いただけます。

ワイヤレス充電器より大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

⚠ 警告

■ 運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■ 走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

■ 電波がおよぼす影響

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。

ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 警告

■ 故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器の間に金属物をはさまない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- 布などをかぶせて充電しない

⚠ 注意

■ 故障やデータ破損の防止

- 充電中に、充電エリアにクレジットカード／ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。

  また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。

  特に、非接触型 IC カードを取りつけられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

■ 補機バッテリーあがりの防止

EV システムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

知識

■「おくだけ充電®」（ワイヤレス充電器）の使用できる条件

パワースイッチが ACC 、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■ **使用できる携帯機器**

- ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、Qi Ver1.0 及び 1.3.2 以降および Qi2 規格の MPP（Magnet Power Profile）に対応した携帯機器に対しては、互換性を保証しているものではありません。
- 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

  ただし、以下の携帯機器に対しては、5W を超える充電に対応しています。

  - 7.5W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5W 以下の充電に対応しています。
  - Galaxy 独自の充電規格に準拠した携帯機器に対しては、10W 以下の充電に対応しています。
  - WPC 規格の Ver1.3.2 に規定されている EPP 出力に準拠した携帯機器に対しては、15W 以下の充電に対応しています。

■ **スマートエントリー＆スタートシステムの使用について**

充電動作中にスマートエントリー＆スタートシステムが電子キーの検出を行うと、一時的に充電を停止します。電子キーが検出されると、充電は自動的に再開します。

■ **携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは**

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。

カバー（一部メーカー純正品を含む）やアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。また、Qi2 に対応していないため、Qi2 に対応したアクセサリーおよびカバーを装着した状態では充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■ **充電についての留意事項**

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。

充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

また、ワイヤレス充電器内の温度を下げるためファンが作動することがありますが、異常ではありません。

■ **ワイヤレス充電器の作動音**

パワースイッチを押して ACC または ON に変更したとき、および携帯機器を検出中は「カチッ」や「ジー」と作動音がしますが、異常ではありません。

■ **「Qi」マークの概要**



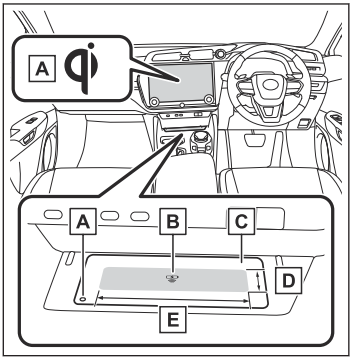
「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。

The Qi logo is a trademark of the Wireless Power Consortium. Qi ID: 11277

■「おくだけ充電®」マークの概要

「おくだけ充電®」、「おくだけ充電®」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

「おくだけ充電®」（ワイヤレス充電器）の各部の名称



A 作動表示灯
B 充電エリア*1
C 充電トレイ
D 約 2.5 cm
E 約 10 cm

「おくだけ充電®」（ワイヤレス充電器）で充電する

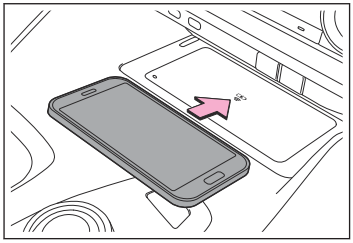
● **充電トレイに携帯機器を置きます。**

携帯機器の充電面を下にして、機器の中央が充電エリアの中央に来るように置いてください。

充電中は充電トレイ上の作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、「機能が正常に働かないおそれのある状況」をご確認ください。(→P.307)

充電が完了するとワイヤレス充電器側の作動表示灯が緑色に点灯します。



*1: 携帯機器およびワイヤレス充電器には充電用コイルが入っています。ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、携帯機器内の充電用コイル位置まで充電エリア内を移動することができます。携帯機器のコイル中心が充電エリア内に入っていれば充電が可能です。

また、2つ以上の携帯機器を同時に充電エリアに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

知識

■ 充電中の AM ラジオ放送連携機能

- 充電中、AM ラジオにノイズが入る場合、充電の周波数を自動で切りかえてノイズを低減します。
- 急速充電中は、AM ラジオの受信を優先し、急速充電動作を行わない場合があります。
- AM ラジオを自動選局中は、充電によって発生するノイズで誤選局しないよう、一時的に充電を停止します。このとき、充電トレイの作動表示灯は緑、センターディスプレイの作動表示灯は灰色になります。選局が終了すると、充電は自動的に再開します。

■ 再充電機能

- 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
- 充電エリア内で携帯機器が大きく動くと、充電用コイルが外れて充電がいったん停止しますが、充電エリア内に充電用コイルがある場合は、ワイヤレス充電器内の充電用コイルがその付近まで移動して充電を再開します。

■ 急速充電機能

以下の携帯機器に対しては急速充電が行えます。

- WPC の Ver1.3.2 に準拠した、急速充電に対応した携帯機器
- 7.5W 充電に対応した iOS を搭載している iPhone（iPhone 8 以降の機種）
- Galaxy 独自の急速充電規格に対応した携帯機器

急速充電に対応した携帯機器を充電すると、自動的に急速充電機能に切りかわります。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電のとき
- 有線接続で携帯機器を充電中のとき
- 充電エリアと携帯機器の間に異物があるとき
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき
- 炎天下などにより、充電トレイ付近の温度が 35 ℃以上になっているとき
- 携帯機器の充電面を上にして置いたとき
- 折りたたみ式等の小型の携帯機器の充電コイルが充電エリアからはずれているとき
- 携帯機器が充電トレイよりも大きいとき
- 近くにテレビ塔や発電所／ガソリンスタンド／放送局／大型ディスプレイ／空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子キーが車内にないとき
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに次のようなものを挟んだり、装着したとき
  - 厚みがあるケースやカバー

- 厚みがあるデコレーション
- 充電面が平面状ではなく、段差や傾斜があるケースやカバー
- 指リングやストラップなどのアクセサリー
- カメラレンズを保護するカバー

● 携帯機器の充電面にカメラなどの突起があり、携帯機器の充電面と充電エリアとのあいだにすき間ができるとき

● 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

- アルミ箔などの金属の貼られたカード
- アルミ箔を使用したタバコの箱
- 金属製の財布やかばん
- 小銭
- カイロ
- CD や DVD などのメディア
- 金属製のデコレーション
- 金属製のケースやカバー
- 携帯機器の充電面側に磁石が入った手帳型ケース

● 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

● 2 つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置いたとき

● S ペン（Galaxy 端末付属のタッチペン）内蔵の端末（Note シリーズ等）をご使用の場合、S ペンを挿入したままトレイに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。

レクサス販売店へお問い合わせください。

■ **スマートフォンの OS を更新したとき**

スマートフォンの OS バージョンを更新したとき、充電の仕様が大きく変更されることがあります。WPC の対応バージョンが変更された場合、急速充電機能が使えなくなる場合があります。詳しくは各メーカーのホームページ情報等でご確認ください。

「おくだけ充電®」（ワイヤレス充電器）の作動表示灯の点灯状況

ワイヤレス充電器の作動表示灯の点灯状況は次の通りです。

作動表示灯		状況
充電トレイ	センターディスプレイ	
消灯	非表示	マルチメディア電源が OFF、またはパワースイッチが OFF のとき
緑（点灯）	灰	待機中（充電可能状態）(1)

作動表示灯		状況
充電トレイ	センターディスプレイ	
緑（点灯）	灰	充電完了時(2)
橙（点灯）	青	充電中

(1) 待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電トレイに置いても、過熱されることはありません。

(2) 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

「おくだけ充電®」（ワイヤレス充電器）が正しく作動しない状況

ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ	センターディスプレイ	
橙（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	灰	車両とワイヤレス充電器の通信不良 ● EV システムが作動しているときは、一度 EV システムを停止し、再始動してください。 パワースイッチのモードが ACC のときは、一度 EV システムを始動してください。(→P.194)
緑（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	非表示	ワイヤレス充電器とマルチメディアシステムの通信異常 ● EV システムが作動しているときは、一度 EV システムを停止し、再始動してください。 パワースイッチのモードが ACC のときは、一度 EV システムを始動してください。(→P.194)
緑（点灯）	青	AM 放送局を自動選局している ● AM 放送局の自動選局が完了するのをお待ちください。また、自動選局が完了しないときは、自動選局を停止させてください。
緑（点灯）	灰	スマートエントリー＆スタートシステムが電子キーの検出を行っている ● 電子キーの検出が完了するのをお待ちください。

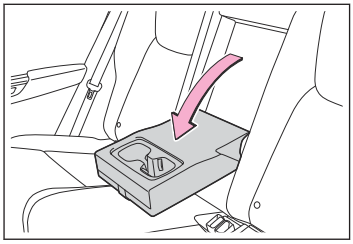
作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ	センターディスプレイ	
緑（点灯）	灰	異物検知： 充電エリア内に金属製の異物があり、異物の異常過熱防止機能が働いた ● 充電エリア内にある異物を取り除いてください。
		携帯機器のずれ・充電面からの浮き： 携帯機器の充電用コイルの中心が充電エリアからはずれた、レンズの凸量が大きい、またはケースが厚いため、異常過熱防止機能が働いた ● 携帯機器を充電トレイから取り出し、5 秒後に充電トレイの中央付近に置き直してください。また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、はずしてください。
		携帯機器のバッテリー保護機能： 満充電に達する前に、携帯機器のバッテリー保護機能により充電が停止した ● 携帯機器の仕様のため、設定を確認してください。
		電子キーの検出状態が継続： 車両カスタマイズによってマルチメディア機能を利用しているとき、電子キーが確定されず検出状態が継続された ● パワースイッチを ACC または ON にして、キーを確定させてください。
橙（4 回連続の点滅をくり返す）	灰	ワイヤレス充電器内の温度が一定値をこえたことによる安全停止 ● いったん充電を停止し、携帯機器を充電トレイから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。

リヤアームレストを使う

⚠ 注意

アームレストに過度の負荷をかけないでください。破損の原因となります。

● アームレストを手前に倒します。



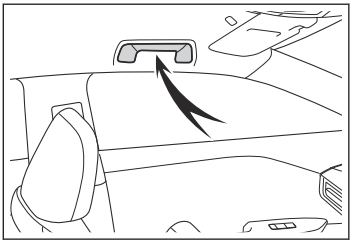
アシストグリップの機能と働き

⚠ 警告

乗降時やシートから立ち上がるときなどに、アシストグリップを使用しないでください。

⚠ 注意

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

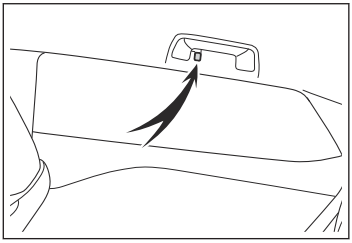


天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときに使うことができます。

コートフックの位置

⚠ 警告

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

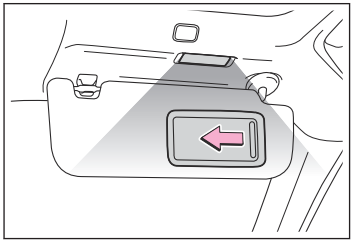


コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。

バニティミラーを使う

● **カバーをスライドして開くことで、使用できます。**

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



⚠ 注意

EV システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。補機バッテリーあがりの原因となります。

知識

■ 補機バッテリーあがり防止のための自動消灯

パワースイッチが OFF の場合、バニティーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

パノラマルーフ★

⚠ 警告

車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれがあります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アクセサリーコンセント（AC100V 1500W）・非常時給電システム

● アクセサリーコンセント

車内において、AC100V で消費電力の合計が 1500W の電気製品を使用することができるシステムです。（→P.314）

災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。（→P.315）

● 非常時給電システム

災害などによる非常時に電力が必要なとき、車両の走行機能を停止した状態で、AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用することができるシステムです。（→P.315）

駆動用電池充電警告灯が点灯するまで給電機能が使用できるシステムです。

駐車中に使用するときの重要確認事項

必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

● 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

● ボンネットが閉まっていること

● パーキングブレーキがかかっていること

● シフトポジションが P になっていること

● パワースイッチが OFF になっていること

● 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと

● 普通充電を行っていないこと

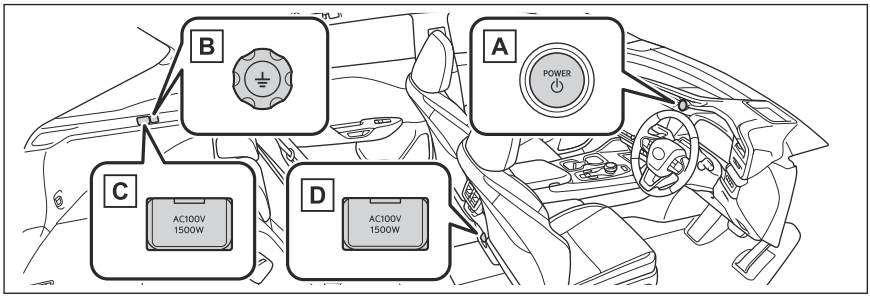
● AC 外部給電を行っていないこと

非常時給電システムを使用するときには次の点についても確認ください

● 急速充電を行っていないこと

● DC 外部給電または V2H 給電を行っていないこと

各部の名称



A パワースイッチ（→P.194）
B アース端子
C ラゲージルームコンセント
D コンソールボックス後方コンセント

アクセサリーコンセントを使用するには

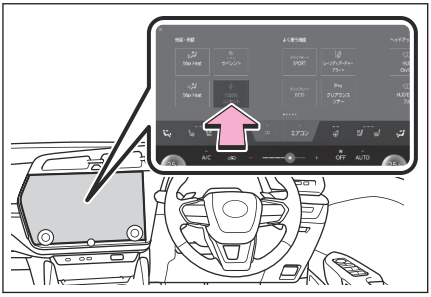
コンセントを ON するとき

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す（→P.194）

2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、センターディスプレイのショートカット画面表示スイッチにタッチする（→P.274）

3 “1500W コンセント” にタッチする

“1500W コンセント” をタッチするたびにコンセントの ON／OFF が切りかわります。



4 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む（→P.316）

コンセントを OFF するとき

以下の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 センターディスプレイのショートカット画面表示スイッチをタッチする（→P.274）

3 “1500W コンセント” にタッチする

4 コンセントから電源プラグを取りはずす

5 コンセントのフタを閉める

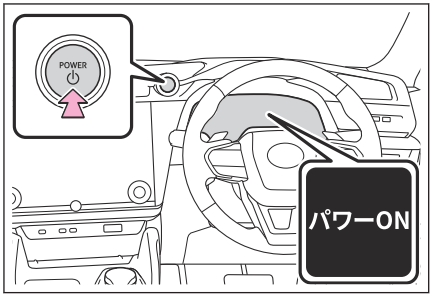
非常時給電システムを使用するには

非常時給電システムを起動するとき

1 ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを ON にする（パワースイッチを 1 回もしくは 2 回押す*1）（→P.196）

マルチインフォメーションディスプレイに “パワー ON” と表示されていることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯した場合、非常時給電システムは使用できません。



2 センターディスプレイのショートカット画面表示スイッチにタッチする（→P.274）

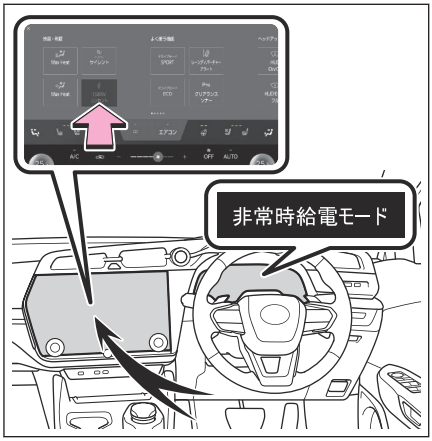
3 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、“1500W コンセント” に、約 1 秒間隔で 3 回連続でタッチする

マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ起動が完了します。

タッチの間隔が 2 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

“1500W コンセント” を 4 回以上連続でタッチすると、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

*1：ACC カスタマイズ機能の設定状態により異なります。



4 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む(→P.316)

非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 センターディスプレイのショートカット画面表示スイッチにタッチする(→P.274)

3 “1500W コンセント” にタッチする

4 コンセントから電源プラグを取りはずす

5 コンセントのフタを閉める

6 パワースイッチを OFF にする

電気製品の電源プラグを接続するには

電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。

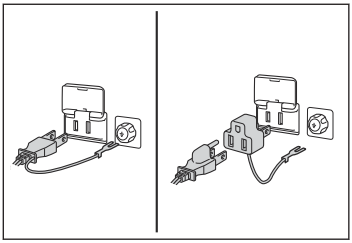
電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

- **フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む**

  電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

  次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

  - 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり挿し込めない
  - 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある



アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。

また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。

車外にコードを引いて使用するとき

付属の外部給電アタッチメントを後席ドアガラスに取り付けてください。外部給電アタッチメントを使用するときは、外部給電アタッチメント付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

知識

■ アクセサリーコンセント、非常時給電システムについて

- AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合は、他の電気製品と併用しないでください。
- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合は、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- 非常時給電システムの使用中は、駆動用電池充電警告灯が点灯すると給電機能が停止します。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■ **駐車中または停車中に使用するとき**

- スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。
- メカニカルキー（→P.686）で施錠・解錠することができます。
- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに “キーが見つかりません キーの所在を確認してください” と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。
- 給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプについては P.224 を参照してください。
- 普通充電または急速充電はできません。
- AC 外部給電はできません。車内のコンセントに接続してください。
- DC 外部給電または V2H 給電はできません。

⚠ 警告

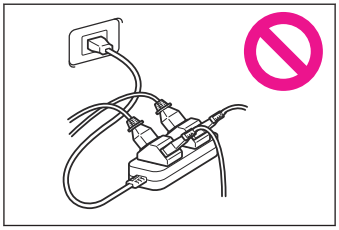
■ **安全にお使いいただくために**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。
- お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはレクサス販売店にご相談ください。
- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。
- コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。

⚠ 警告

- コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない



- コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す

● アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。

● 電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはレクサス販売店にご相談ください。

■ アクセサリーコンセント、非常時給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。

● 給電中は車内にとどまらないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

● ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■ 接続する電気製品について

● 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

● 電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。

● 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。

● 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。

● 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。

● 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。

● 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

■ 電源周波数について

● 工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

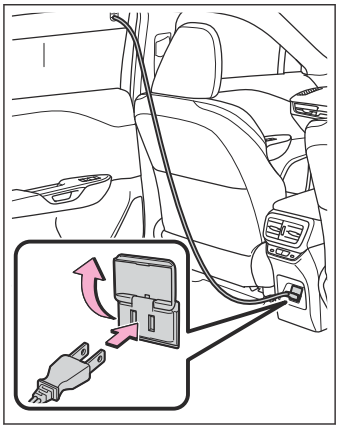
⚠ 警告

- 特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■ 駐車中または停車中に使用するとき

- コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- コンセントの使用中は車両から離れないでください。
- 落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。
- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。
- 車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。
  - 雨水の浸入などに注意する

    コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
  - コードを窓やドアで挟まない
  - たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする



  - 誤って車両を発進させない

⚠ 警告

- 洗車は行わないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
- モータールーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。
- 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。

■ 走行中に使用するとき

- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
  - わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
  - 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合
  - 落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合
  - やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
  - ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）
- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

■ 車載充電器について

モータールームに車載充電器があります。車載充電器については、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、ふれないでください。
- 分解・修理・改造しないでください。修理が必要な場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ ショートや故障を防ぐために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。

⚠ 注意

- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

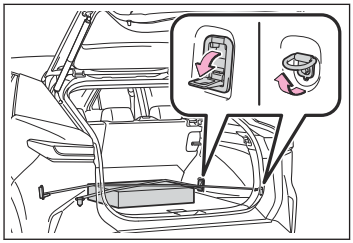
■ 非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電システムを停止してから EV システムを始動してください。

デッキフックを使う

フックを使って荷物を固定することができます。

● **フックを起こして使用します。**



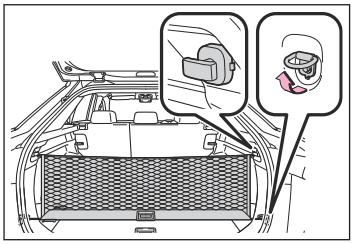
⚠ 警告

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

ネットフックを使う

後ろ側のデッキフックとネットフックを使って積荷ネットをかけることができます。

● **後ろ側のデッキフックを起こして使用します。**

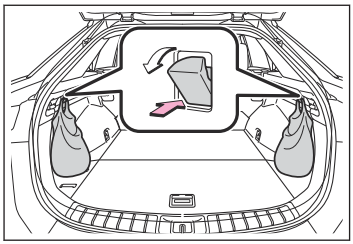


⚠ 警告

ネットフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

買い物フックを使う

● **買い物フックの下側を押して使用します。**



⚠ 注意

4kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。
買い物フックが損傷するおそれがあります。

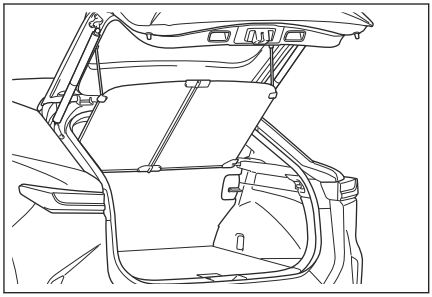
デッキボード

デッキボードを開ける

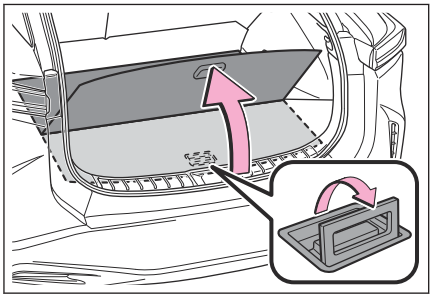
⚠ 警告

デッキボードを開けたり取りはずしたときは、走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。そのまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出すおそれがあります。

1 **バックドアを開けます。**



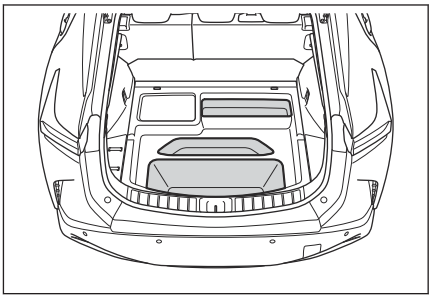
2 **デッキボードを開けます。**



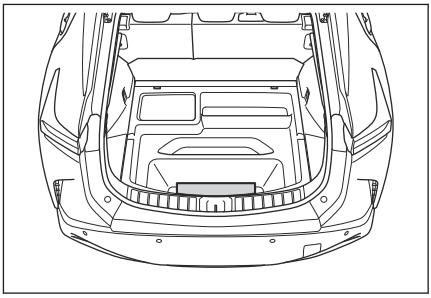
デッキアンダートレイ内の収納

次のものを収納することができます。

- 小物など



● 停止表示板*1



知識

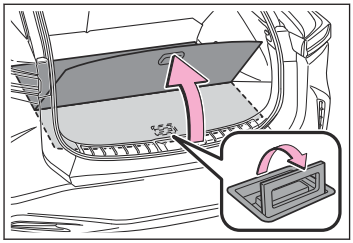
■ 停止表示板

ケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

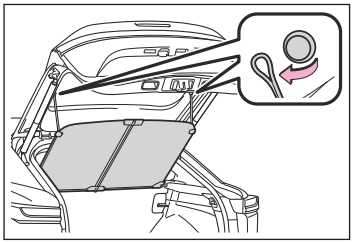
*1: 停止表示板は、レクサス販売店で購入することができます。

トノカバーを収納する

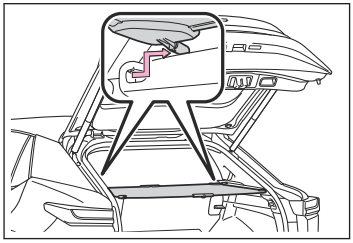
1 レバーを引き上げて、デッキボードを折りたたみます。



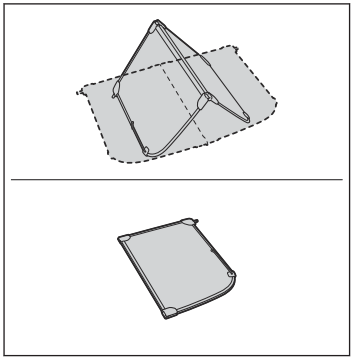
2 留めひもを左右のフックからはずします。



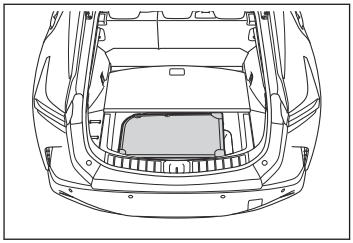
3 トノカバーを取りはずします。



4 トノカバーを折りたたみます。



5 **トノカバーをデッキアンダートレイに収納します。**



⚠ 警告

- トノカバーの上には、荷物を積まないでください。トノカバーが破損したり、急ブレーキや旋回時に荷物が飛び出して乗員にあたったりするおそれがあります。
- トノカバーの上には、子どもが乗ったりしないようにしてください。トノカバーが破損するおそれがあります。

5 メーター／ディスプレイの機能と表示される情報

5-1. メーターの機能と表示

警告灯／表示灯 332

計器類の見方 338

5-2. ディスプレイの機能と表示

マルチインフォメーションディスプレイの表示..... 343

ヘッドアップディスプレイの表示 345

ディスプレイの表示内容..... 347

5-3. ディスプレイの表示設定を変更する

インストルメントパネル照明の明るさを調整する..... 355

ヘッドアップディスプレイの設定を変更する 356

警告灯／表示灯

メーター／ドアミラーの警告灯や表示灯で車の状況をお知らせします。

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯一覧

システム異常などを警告します。

 （赤色）	ブレーキ警告灯(1)（→P.634）
 （黄色）	ブレーキ警告灯(1)（→P.634）
	充電警告灯(2)（→P.635）
 （黄色）	駆動用電池充電警告灯（→P.635）
	EV システム異常警告灯(1)（→P.635）
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯(1)（→P.635）
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯(1)（→P.636）

	ペダル誤操作警告灯(2)（→P.636）
 （赤色）  （黄色）	パワーステアリング警告灯(1)（→P.636）
	運転席／助手席シートベルト非着用警告灯（→P.638）
	リヤ席シートベルト非着用警告灯（→P.639）
	タイヤ空気圧警告灯(1)（→P.639）
 （黄色）	LDA 表示灯（→P.641）
 （黄色）	LTA 表示灯（→P.641）
 （黄色）	PDA 表示灯（→P.641）
 （黄色）	クルーズコントロール表示灯（→P.642）
 （黄色）	レーダークルーズコントロール表示灯（→P.641）
	PCS 警告灯(1)（→P.641）
	運転支援情報表示灯(1)（→P.642）
	クリアランスソナー OFF 表示灯(1)（→P.642）

 （点灯）	スリップ表示灯(1)（→P.643）
 （点滅）	パーキングブレーキ表示灯（→P.643）
 （点滅）	ブレーキホールド作動表示灯(1)（→P.643）

(1) 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後または EV システムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

(2) マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

知識

■ 警告灯が点灯／点滅した

→P.634

⚠ 警告

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

	方向指示表示灯（→P.213）
	尾灯表示灯（→P.224）
	ハイビーム表示灯（→P.228）
 （緑色）	AHS 表示灯(→P.229) AHB 表示灯(→P.233)

	マルチウェザーライト表示灯(→P.254)
	リヤフォグランプ表示灯(→P.256)
	PCS 警告灯(1)(2)（→P.391）
 （緑色）  （白色）	クルーズコントロール表示灯（→P.433）
 （緑色）  （白色）	レーダークルーズコントロール表示灯（→P.424）
 （緑色）  （黄色[点滅]）	LDA 表示灯（→P.405）
 （黄色）	LDA OFF 表示灯（→P.405）
 （緑色）  （白色）  （黄色[点滅]）	LTA 表示灯（→P.395）

 （緑色）  （白色）	PDA 表示灯（→P.407）
	クリアランスソナー OFF 表示灯(1)(2)（→P.459）
	クリアランスソナー 検知表示灯★（→P.458）
	運転支援情報表示灯(1)(2)(→P.446, 452)
 （点滅）	スリップ表示灯(1)（→P.361）
	VSC OFF 表示灯(1)(2)（→P.362）
	“READY” インジケーター（→P.194）
	パーキングブレーキ表示灯（→P.218）
	ブレーキホールドスタンバイ表示灯(1)（→P.262）
	ブレーキホールド作動表示灯(1)（→P.262）
	低温表示灯(3)（→P.338）
	ITS Connect アイコン（→P.565）
	ITS Connect アイコン（→P.565）
	ITS Connect アイコン（→P.565）

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

	プラスサポート表示灯★（→P.543）
	ドアミラーインジケーター(4)(→P.446, 452, 467)
	充電コネクター接続表示灯（→P.58）
	エコドライブモード表示灯（→P.261）
	スポーツモード表示灯（→P.261）
	レンジモード表示灯（→P.261）
	カスタムモード表示灯（→P.261）
	制動灯表示灯(5)

(1) 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後または EV システムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

(2) システムが OFF のときに点灯します。

(3) 外気温が約 3°C 以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

(4) ドアミラーに表示されます。

(5) ブレーキペダルの操作や運転支援システムの作動により、制動灯が点灯したときに点灯します。

知識

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.748)

■ クリアランスソナー OFF 表示灯について

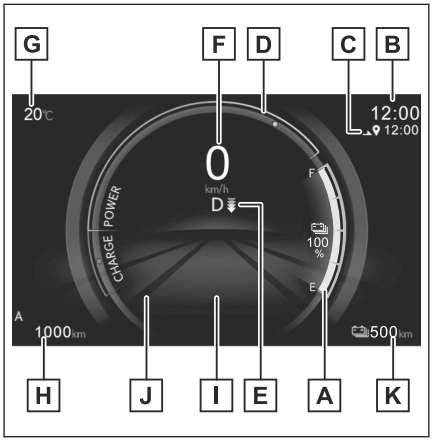
クリアランスソナー検知表示灯がある車両(→P.458)は、クリアランスソナー機能の ON／OFF の状態に関わらずシフトポジションを R にすると消灯します。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

計器類の見方

設定やシステムの作動に応じて、メーターの表示や一部の計器類の配置が切りかわります。

▶ **リング表示状態**



A 駆動用電池残量計

駆動用電池の残量を示します。

B 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。*1

C ナビゲーションシステム連携到着予定時刻表示

ナビゲーションシステムと連携して、目的地の到着予定時刻を表示します。*1

D パワーメーター*2／アナログスピードメーター*3／シフトガイドメーター*4

パワーメーター：EV システムの出力や回生レベルを示します。（→P.341）

シフトガイドメーター：M モード★使用時に適切なシフト操作範囲を示します。（→P.341）

走行モードや設定によって表示が切りかわります。

E パワーメーター*3／シフトポジション／回生ブレーキカインジケーター（→P.341, 202, 215）

パワーメーター：EV システムの出力や回生レベルを示します。

F デジタルスピードメーター

G 外気温

外気温度を-40°C～60°C のあいだで表示します。

*1: 詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

*2: メーター表示タイプの設定がタイプ 1 のとき

*3: メーター表示タイプの設定がタイプ 2 のとき

*4: RZ550e：M モードでの走行時（→P.208）

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

H オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.342）

I マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。

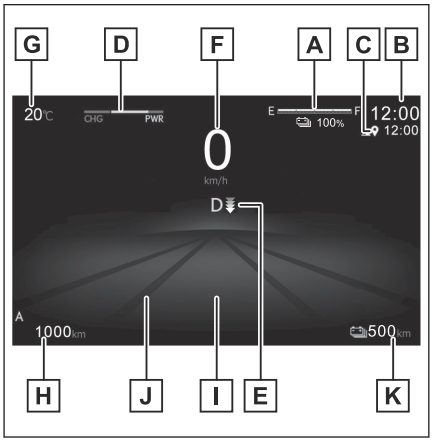
J ドライブモードのカラー背景

ドライブモードによって背景色がかわります。

K 走行可能距離

現在の駆動用電池残量で走行可能なおよその距離を表示します。

▶ **バー表示状態**[*1]



A 駆動用電池残量計

駆動用電池の残量を示します。

B 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。[*2]

C ナビゲーションシステム連携到着予定時刻表示

ナビゲーションシステムと連携して、目的地の到着予定時刻を表示します。

D パワーメーター

EV システムの出力や回生レベルを示します。（→P.341）

E シフトポジション／回生ブレーキカインジケーター(→P.202, 215)

F デジタルスピードメーター

G 外気温

外気温度を-40°C～60°C のあいだで表示します。

H オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.342）

I マルチインフォメーションディスプレイ

*1: メーター表示タイプの設定がタイプ 3 のとき

*2: 詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

走行に関する様々な情報を表示します。車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。

J ドライブモードのカラー背景

ドライブモードによって背景色がかわります。

K 走行可能距離

現在の駆動用電池残量で走行可能なおよその距離を表示します。

知識

■ メーター／ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ メーター／ディスプレイの表示切りかえ

次の条件をすべて満たしているときは、自動でバー表示状態に切りかわります。

- LTA（レーントレーシングアシスト）が ON のとき
- レーダークルーズコントロールが作動しているとき

■ 外気温度表示

- 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
  - 停車している時や、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
  - 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）
- “--”または“E”が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。

  レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 走行可能距離

- エアコンの作動中はと、エアコンを使用した場合の走行可能距離が表示されます。
- システムの電力消費により、走行していなくても走行可能距離が減少する場合があります。

■ 液晶ディスプレイ

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。

これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.748）

⚠ 警告

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば回生ブレーキカインジケーターを使用した場合、シフト操作をしてもすぐに回生ブレーキカインジケーターが切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかっ

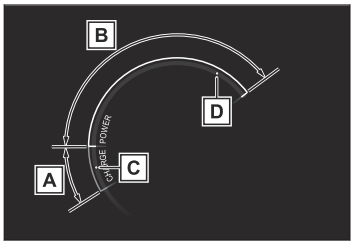
⚠ 警告

たと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度の回生ブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワーメーターの見方

EV システムの出力や回生レベルを示します。

イラストは説明のための例であり、仕様によって表示は異なります。



A チャージエリア

回生[*1] ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B パワーエリア

走行中の出力（加速力）を表示します。

C 回生制限表示[*1*2]

次のような状況では、回生ブレーキが制限されるため、その制限の目安を、チャージエリア内に表示します。

- 駆動用電池の充電量が多く、これ以上回生ができないとき
- 駆動用電池の温度が極端に高いとき、または極端に低いとき

D 出力制限表示[*2]

次のような状況では、出力が制限されるため、その制限の目安を、パワーエリア内に表示します。

- 駆動用電池の充電量が少なく、これ以上出力ができないとき
- 駆動用電池の温度が極端に高いとき、または極端に低いとき

シフトガイドメーターの見方（RZ550e）

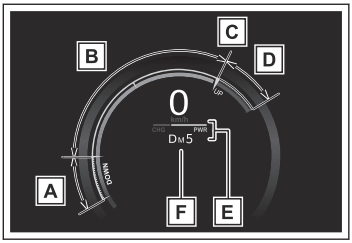
M モード（→P.208）走行中のパドルシフト操作タイミングを視覚的に伝達・サポートします。

システム上変速可能な状態(→P.208)であれば、バーの長さによらずシフトアップ、シフトダウンが可能です。

イラストは説明のための例であり、仕様によって表示は異なります。

*1: ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

*2: 車両状態によって実際の制限と異なる場合があります。



A シフトダウン推奨エリア

仮想パワーソースの回転数が低く、アクセルを踏んでも加速しにくい状態を示します。

B インタラクティブエリア

アクセル操作で車両性能を大きく引き出すことが出来る状態を示します。

C シフトアップポイント

アクセル全開加速時に、仮想パワーソースの特性を最も引き出すシフトアップタイミングの目安を表示します。

D シフトアップ推奨エリア

仮想パワーソースの回転数が高く、現在の仮想ギア段の上限車速が近い状態を示します。

E パワーメーター(→P.341)

F シフトポジションと仮想ギヤ段表示(→P.208)

走行距離の表示を切り替える／走行距離をリセットする

次の表示項目を切りかえることができます。

- オドメーター

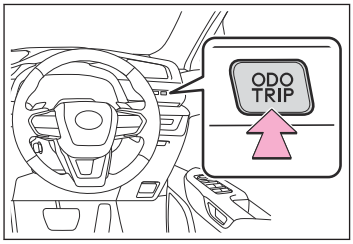
  走行した総距離を表示します。

- トリップメーター A／トリップメーター B

  リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A／トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。

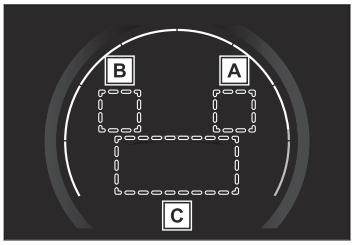
また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。



マルチインフォメーションディスプレイの表示

走行に関するさまざまな情報を表示できます。また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

表示エリア



A 運転支援システム情報表示エリア

コンテンツ表示エリアで運転支援システム情報を表示していないときに運転支援システムが作動していると、システムの作動状況を表示します。(→P.351)

B ナビゲーションシステム連携表示エリア

コンテンツ表示エリアでナビゲーションシステム連携表示を表示していないときに目的地案内を表示します。(→P.352)

C コンテンツ表示エリア

コンテンツ表示エリアの表示項目

次の項目を表示することができます。

- ドライブインフォメーション 1 (→P.348)
- ドライブインフォメーション 2 (→P.349)
- オーディオシステム連携表示 (→P.352)
- ナビゲーションシステム連携表示*1 (→P.352)
- 運転支援システム情報*1 (→P.351)
- ブランク (非表示) (→P.349)

知識

■ 液晶ディスプレイ

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■ インストルメントパネル照明の明るさを調整する

→P.355

⚠ 警告

■ 運転中の使用

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

*1: ヘッドアップディスプレイの表示を最大に設定している場合は、ヘッドアップディスプレイに表示されます。

⚠ 警告

- マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ 低温時の画面表示

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば回生ブレーキカインジケーターを使用した場合、シフト操作をしてもすぐに回生ブレーキカインジケーターが切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度の回生ブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

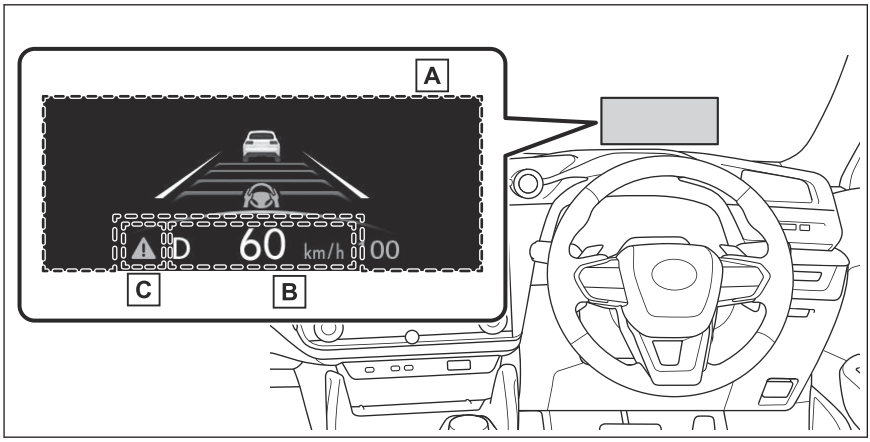
⚠ 注意

ディスプレイの設定を変更するとき、補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に EV システムが作動している状態で実施してください。

ヘッドアップディスプレイの表示

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

表示内容は、走行状況やヘッドアップディスプレイの表示モードによって異なります。また、状況に応じて割り込み表示されます。



A メイン表示エリア

次の内容が表示されます。

- 運転支援システム情報（→P.351）
- パワーメーター（→P.341）
- コンパス

B 走行状況表示エリア

次の項目が表示されます。

- スピードメーター
- シフトポジション／回生ブレーキカインジケーター(→P.202, 215)

C ⚠：マスターウォーニングアイコン

警告メッセージが表示されているときに表示されます。

知識

■ ヘッドアップディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ ヘッドアップディスプレイを使用するときは

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■ パワーメーター／シフトガイドメーターの表示条件

次の条件を満たしたとき、ヘッドアップディスプレイにパワーメーター／シフトガイドメーターが表示されます。

- ヘッドアップディスプレイの表示を最大に設定している（→P.356）
- LTA（レーントレーシングアシスト）を OFF にしている（→P.395）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）を OFF にしている（→P.756）
- 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールを選択した状態で制御を解除している(→P.434, 435)

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.748)

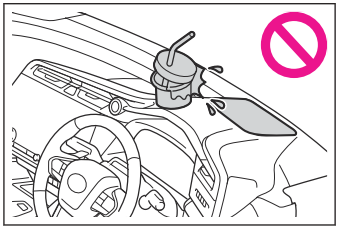
⚠ 警告

ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

⚠ 注意

次のことをお守りください。

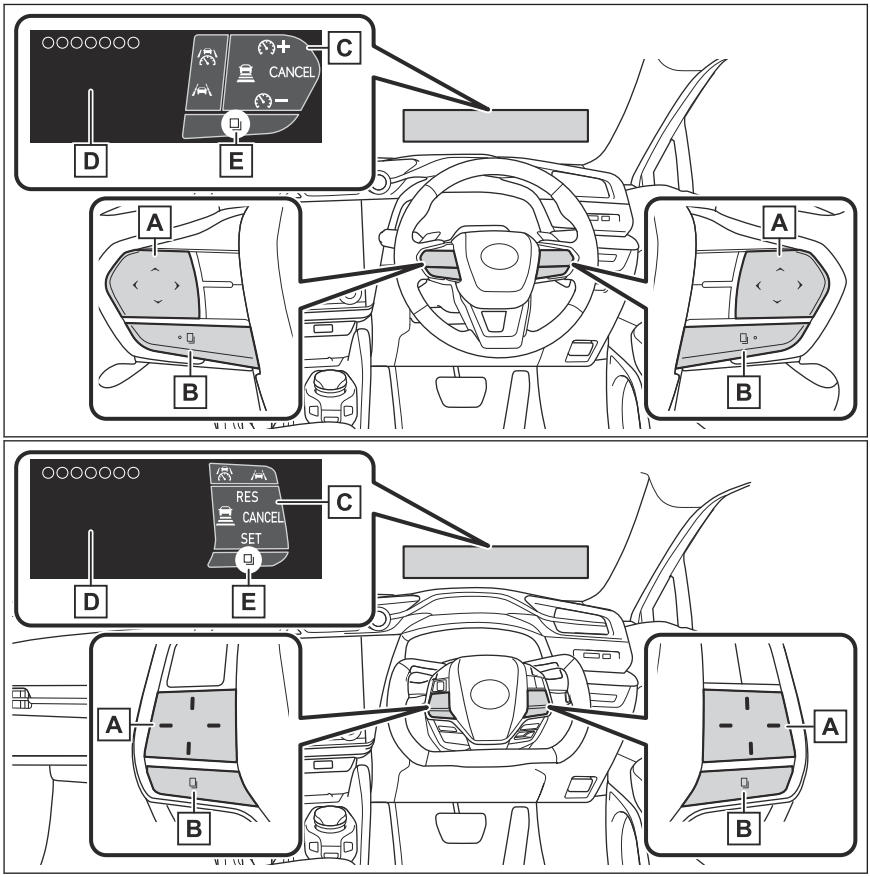
- 映写部の付近に飲み物を置かないでください。
  水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
  ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。
- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
  装置が故障する原因となります。

ディスプレイの表示内容

メーター／ディスプレイの操作



A 状況や設定によって、スイッチの機能がかわります。

スイッチに触れると、各スイッチの機能がヘッドアップディスプレイに表示されます。ヘッドアップディスプレイが OFF のとき、またはヘッドアップディスプレイに表示できないときはマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

また、センターディスプレイでお好みの機能をスイッチに設定することができます。(→P.749)

B スイッチを押すごとに、スイッチの機能が切りかわります。

C スイッチアイコン表示

各スイッチのアイコンを表示します。触れているスイッチは強調表示されます。(E)

D スイッチ機能ガイド表示

触れているスイッチの機能ガイドを表示します。

知識

■ ステアリングスイッチに触れても反応しないとき

- スイッチに触れたまま指を動かすと、反応しやすくなります。
- スイッチの表面が汚れている場合は、パワースイッチを OFF にしてスイッチを清掃してください。
- 防寒手袋モードを ON にすることで、スイッチセンサーの感度を高くすることができます。(→P.749)

マルチインフォメーションディスプレイの表示を切りかえる

1 センターディスプレイで⚙をタッチします。

2 “車両カスタマイズ”をタッチします。

3 “メーター”をタッチします。

4 “メーター表示切り替え”の ＜ または ＞ をタッチします。

選択するたびに表示が切りかわります。

知識

■ ステアリングスイッチでの切りかえ

ステアリングスイッチお気に入り機能に《DISP／DISP》を設定している場合は、《DISPまたはDISP》を押すことで表示を切りかえることができます。

走行情報の表示

走行に関する情報は次のディスプレイに表示されます。

- マルチインフォメーションディスプレイ
- ヘッドアップディスプレイ
- センターディスプレイ

表示される項目は、ディスプレイによって異なります。

ドライブインフォメーション 1

マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示できます。

表示される数値は参考として利用してください。

- 瞬間電費

  現在の瞬間電費を表示します。

● 通算平均電費*1

知識

■ 電費

電力消費率を表す数値で、ガソリンエンジン車の燃料消費率に相当します。この車では、電力 1 キロワット時（1kWh）あたりの走行キロ数（km/kWh）が、「電費」として各画面上に表示されます。

ドライブインフォメーション 2

マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示できます。

● 通算平均車速*1

● 通算走行時間*1

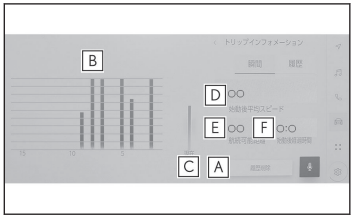
ブランク（非表示）

マルチインフォメーションディスプレイにブランク画面を表示します。

瞬間電費／電費履歴画面

電費に関する情報をセンターディスプレイに表示します。

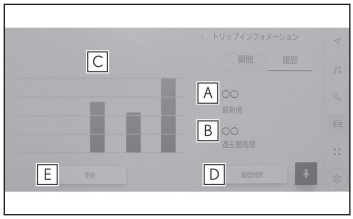
■ 瞬間電費画面



A 履歴削除
B 過去 15 分間の 1 分ごとの電費（平均電費）
C 瞬間電費
D EV システム始動後平均車速
E 航続可能距離
F EV システム始動後経過時間

表示される平均電費は、参考として利用してください。表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 電費履歴画面



A 最新値表示
B 過去最高値表示
C 過去平均電費表示
D 履歴削除
E 最新値更新

表示される平均電費は、参考として利用してください。表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

*1：センターディスプレイの電費履歴画面でデータをリセットできます。（→P.349）

知識

■ 過去の区間平均電費の記録を更新するには

区間電費画面で“更新”を選択すると、平均電費の値とグラフが更新され、新たに平均電費の記録を開始します。

■ 電費データをリセットするには

“履歴削除”を選択すると、電費データがリセットされます。

■ 航続可能距離について

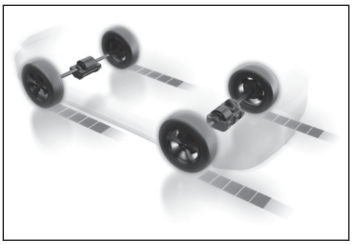
現在の電力残量で走行できるおよその距離を示します。表示される距離は、過去の平均電費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

センターディスプレイに瞬間電費／電費履歴画面を表示する

1 メインメニューのにタッチします。
2 “トリップインフォメーション”にタッチします。
3 “瞬間”または“履歴”にタッチします。

AWD 作動状態表示（AWD 車）

AWD の作動状態がセンターディスプレイに表示できます。



図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

駆動力表示：

0～5 の 6 段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

センターディスプレイに AWD 作動状態表示を表示する

1 メインメニューのを選択します。
2 “AWD”を選択します。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をセンターディスプレイに表示できます。（→P.604）

知識

- パワースイッチを ON にしたあと、空気圧が表示されるまで 2,3 分かかります。
  また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2,3 分かかります。

- 電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは “---” と表示されることがあります。
- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

センターディスプレイにタイヤ空気圧を表示する

1 メインメニューのを選択します。

2 “タイヤ空気圧” を選択します。

電池状態表示

バッテリーの劣化状態をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

- 容量維持率

  初期の満充電容量を 100% とした際に、劣化時の満充電容量の割合を表示します。

- 更新後に走行した距離

  容量維持率の値が更新されてからの総走行距離を表示します。

  新車納車時やレクサス販売店での点検・修理後に、更新後に走行した距離の初期値 (65535km) が表示されることがあります。この値は、容量維持率が更新されるとリセットされます。

運転支援システム情報表示

マルチインフォメーションディスプレイやヘッドアップディスプレイに次のシステムの作動状況を表示します。

- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- LCA（レーンチェンジアシスト）
- RSA（ロードサインアシスト）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト)
- PCS（プリクラッシュセーフティ）

知識

■ 表示位置

ヘッドアップディスプレイの表示を最大に設定している場合、マルチインフォメーションディスプレイのコンテンツ表示エリアの運転支援システム情報表示は非表示になります。

オーディオシステム連携表示

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

ナビゲーションシステム連携表示

マルチインフォメーションディスプレイに次の情報を表示します。

- 目的地案内
- レーン（車線）案内

  交差点にさしかかったとき、車線／進行方向などのレーン情報が表示されます。
- コンパス

知識

■ レーン表示

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の道路標識／表示や道路状況に従って走行してください。

■ 表示位置

ヘッドアップディスプレイの表示設定によっては、ヘッドアップディスプレイに表示され、マルチインフォメーションディスプレイのコンテンツ表示エリアは非表示になります。

優先的に表示される情報

状況に応じて、マルチインフォメーションディスプレイやヘッドアップディスプレイに割り込み表示されます。

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

運転支援システム

状況に応じて、次のシステムの警告／注意喚起／通知／作動状況を割り込み表示します。

- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- LCA（レーンチェンジアシスト）
- PDA(プロアクティブドライビングアシスト)
- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- RSA（ロードサインアシスト）

- 安心降車アシスト（ドアオープン制御付）
- FCTA（フロントクロストラフィックアラート）
- 先行車発進告知機能
- ITS Connect

メッセージ表示

状況に応じて、次のメッセージを表示します。

- 警告メッセージ
- ETC に関する通知

ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにハンドル上のスイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

■ パワーバックドア機能の ON 切りかえ提案

パワーバックドアメインスイッチが OFF（センターディスプレイでパワーバックドアの機能を OFF に設定しているとき）の状態で運転席のパワーバックドアスイッチを操作したときに、メインスイッチを ON に変更する提案メッセージを表示します。

このとき“はい”を選択すると、メインスイッチが ON に変更されます。

メインスイッチが ON に変更されてから再度パワーバックドアスイッチを操作すると、バックドアを開閉することができます。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき“はい”を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ 窓閉め提案（高速走行時）

ドアガラスが開いている状態で一定以上の車速になると、ドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき“はい”を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ レンジモード切りかえ提案

駆動用電池の残量が一定以下になると、ドライブモードをレンジモードに切りかえる提案メッセージを表示します。（→P.259）

このとき“はい”を選択すると、レンジモードに切りかわります。

知識

■ **カスタマイズ機能**

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.748)

ステアリングスイッチ操作表示

ステアリングスイッチに触れると、各スイッチのアイコンとスイッチの機能ガイドが表示されます。(→P.347)

ナビゲーションシステム連携情報

状況に応じて、ナビゲーションシステムと連携した次の項目を表示します。

- 目的地案内
- レーン（車線）案内

  交差点にさしかかったとき、車線／進行方向などのレーン情報が表示されます。

知識

■ **レーン表示**

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の道路標識／表示や道路状況に従って走行してください。

パワースイッチを OFF にしたときに表示される項目

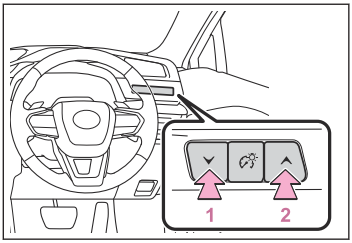
パワースイッチを OFF にしたときに、マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示します。

- タイマー充電
- 始動後平均電費*1
- 始動後走行距離*1
- 始動後走行時間*1

*1: EV システムを始動するたびに、表示がリセットされます。

インストルメントパネル照明の明るさを調整する

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



1 暗くする
2 明るくする

知識

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

ヘッドアップディスプレイの設定を変更する

⚠ 警告

映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。

調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは、補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に EV システムが始動している状態で実施してください。

ステアリングスイッチで切りかえる

ステアリングスイッチお気に入り機能に次の項目が設定されているときは、ステアリングスイッチからヘッドアップディスプレイの設定を変更することができます。

- 

：表示 ON/OFF
- 

：表示モード
- 
：高さ
- 
：明るさ

センターディスプレイで切りかえる

1 **センターディスプレイで⚙を選択します。**

2 **“車両カスタマイズ”を選択します。**

3 **“ヘッドアップディスプレイ”を選択します。**

次の項目を設定できます。

- 表示 ON/OFF
- 表示モード
- 高さ
- 明るさ
- 角度

知識

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままです。

■ 表示の明るさ

明るさの設定に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

■ ヘッドアップディスプレイ表示位置の自動調整

お好みのヘッドアップディスプレイ表示位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。

6 安全運転を支援する機能

6-1. 安全運転サポート機能の特徴

運転を補助する装置の一覧 360

ソフトウェアアップデートを確認する（Lexus Safety System +／アドバンスト ドライブ[渋滞時支援]） 367

Lexus Safety System + ... 370

運転者の状態をカメラで検知して自動的に注意喚起する .. 380

6-2. 安全運転サポート機能を使う

衝突する前に注意を促してブレーキを掛ける 382

車線内中央の走行維持のハンドル操作を支援する..... 393

車線変更するときのハンドル操作を支援する 398

車線からのはみ出しを警告で防ぐ 402

作動対象に近づきすぎないようにブレーキやハンドルの操作を支援する 407

低速時に交差点などで交差する車を検知して音と画面で知らせる 413

自車の発進が遅れていることを知らせる 416

標識の見逃し防止をサポートする 418

最適な車間距離を保って追従走行する 422

一定の車速で走行する..... 433

運転者の異常時に自動的に車線内で自車を停車させる..... 438

高速道路／自動車専用道路の渋滞時に運転をサポートする 441

後方にいる車両を検知して車線変更を支援する..... 446

後方にいる作動対象を検知して音や画面で知らせたりドアの開放をキャンセルしたりして安全な降車を支援する..... 452

低速時に障害物との接近を検知して音と画面で知らせる .. 458

低速時に後方の接近車両を検知して音と画面で知らせる .. 467

低速時に後方歩行者の接近を検知して音と画面で知らせる 474

低速時に障害物との接近を検知してブレーキをかける..... 479

Advanced Park メインスイッチを押して駐車操作を支援する 492

後方にいる車両の接近を知らせる 530

至近距離の後方車両を検知して対処法を提案する..... 533

接近している後方車両へ注意をうながす 537

停車中に追突の可能性が非常に高い場合にブレーキをかける 540

プラスサポートを使用する（販売店装着オプション）..... 543

急なアクセル操作による加速の抑制（販売店装着オプション） 546

交差点で右折時に対向車を検知して音と画面で知らせる（販売店装着オプション） ... 549

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、EV システム出力を抑制する 550

急発進および後退速度を抑制する 551

6-3. 事故による乗員の被害を少なくする

事故の衝撃から乗員を守る 552

運転を補助する装置の一覧

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト（ACA）

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）（異形ステアリング非装着車）

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ ステアバイワイヤ（異形ステアリング装着車）

車両の速度とハンドルの操舵量に応じて、車両の動きと操舵力を制御します。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）（異形ステアリング装着車）

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・ステアバイワイヤ を総合的に制御します。

すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・EV システム出力・ハンドル操作力・タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

■ DIRECT4（電気式 AWD システム）（AWD 車）

通常走行時からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などによりすべりやすい路面などでさまざまな走行状況に応じて前後輪の駆動力配分を自動的に制御し、安定した操作性、走行安定性に寄与します。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

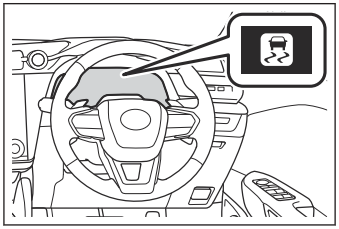
■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

知識

■ TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



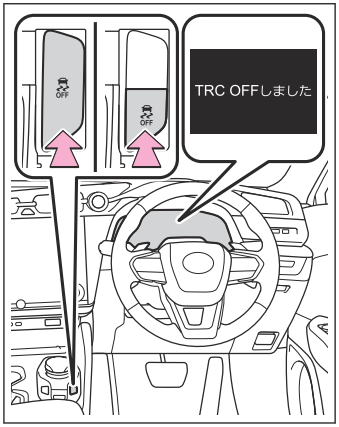
■ TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでも EV システムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押す

マルチインフォメーションディスプレイに“TRC OFF しました”と表示されます。



もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に  を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” と表示されます。*1

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■  を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はレクサス販売店にご相談ください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 前進での上り坂発進時にシフトポジションが D などの前進シフトのとき、後退での上り坂発進時にシフトポジションが R のとき
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない
- パワースイッチが ON

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 前進での上り坂発進時にシフトポジションが D などの前進シフト以外のとき、後退での上り坂発進時にシフトポジションが R 以外のとき
- アクセルペダルを踏んだ
- ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した
- パワースイッチが OFF

*1: プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P.641)

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- EV システム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、モータールームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - 車体やハンドルに振動を感じる
  - 車両停止後もモーター音が聞こえる
  - ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
  - ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、EV システムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ ステアバイワイヤについて

- 車を長期間使用しなかったとき

  ステアバイワイヤ専用バッテリーの充電量が低下している場合、EV システムを始動し READY インジケーターが点灯しても充電完了するまでは、シフトポジションが P に固定されます。マルチインフォメーションディスプレイに表示されるメッセージが消えるとシフト変更が可能になります。
- パワースイッチを ON にしたとき

  ステアリング調整機能（→P.195）が働き、ハンドルが動く場合があります。マルチインフォメーションディスプレイに表示されるメッセージに従い、手を放してお待ちください。
- 補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは

  →P.665
- ハンドル操作が重く感じられるとき

  停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、ステアリングシステムのオーバーヒートを避けるため、ハンドル操作の重さでドライバーに通知します。その場合は、ハンドル操作を控えるか、EV システムを停止してください。10 分程度でもとの状態に戻ります。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- パワースイッチを OFF にしたとき
- （TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ **アクティブコーナリングアシストの作動条件**

次のときシステムが作動します。

- TRC・VSC が作動可能状態
- 旋回中に加速しようとするとき
- 車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された
- ブレーキを踏んでいない

■ **緊急ブレーキシグナルの作動条件**

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- 車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■ **緊急ブレーキシグナルの自動解除**

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■ **セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件**

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。

ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■ **セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除**

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

- 車速が約 0km/h になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

⚠ 警告

■ **ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ **ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき**

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

⚠ 警告

- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

- アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。
- アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P.744）

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ソフトウェアアップデートを確認する（Lexus Safety System +／アドバンスト ドライブ[渋滞時支援]）

G-Link ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更/追加ができます。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

Lexus Safety System +／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

レクサス公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Lexus Safety System +／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）の取扱説明書での記載内容について

本取扱説明書では、Ver.3 までの情報を記載しています。Lexus Safety System +／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）各機能の制御内容・取り扱い・警告／注意事項などの最新情報については、レクサス公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

ご使用前に必ずシステムのソフトウェアバージョンに合った取扱説明書をお読みください。

知識

■ ご使用にあたっての留意事項

- お客様の安全に関わる問題や法規上の問題が発生したときは、一時的に一部の機能を作動不可にすることがあります。あらかじめご了承ください。
- G-Link 利用契約が未契約／未更新の場合、無線通信によるソフトウェアアップデートは行われません。

自車の Lexus Safety System +／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）のバージョンにあった取扱方法をお読みいただくには

システムのソフトウェアバージョンを確認した上で、レクサス公式 Web サイトにアクセスする必要があります。

センターディスプレイ*1／スマートフォンでバージョンを確認する

運転支援機能の更新に関するお知らせ、または運転支援アップデートアプリケーションから現在のソフトウェアバージョンを確認することができます。

*1：マルチメディアのバージョンによっては表示されない場合があります。

1 メインメニューの にタッチします。

2 [運転支援アップデート]にタッチします。

自車の Lexus Safety System +／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

1 パソコンやスマートフォンから、以下 URL にアクセスする

URL	QR コード
https://manual.lexus.jp/safetysu/	

2 事前に確認したバージョンが含まれたファイルを選択する

知識

■ デジタル取扱説明書について

ご希望の場合、印刷した冊子を購入することもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアアップデートがある場合、センターディスプレイに通知画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

ソフトウェアを更新することで、各機能の取り扱い方法が変わったり、機能が追加されたりすることがあります。

変更・追加された内容は、レクサス公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

知識

■ ソフトウェアアップデートについて留意事項

- 一度ソフトウェアアップデートを実施すると、前のバージョンにもどすことはできません。
- 通信環境や更新内容によって、ソフトウェアアップデートに数時間かかることがあります。パワースイッチを OFF にすると更新は中断されますが、再度 ON にすると前回の続きから再開します。
- ソフトウェアアップデートに失敗した場合、前のバージョンでシステムを起動します
- ソフトウェアアップデートの実施中でも Lexus Safety System +／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）を使用することができます。
- 次のようなときは自動でソフトウェアアップデートを実施することがあります。

- システムの不具合など、お客様の安全に関わる問題が発生したとき*1
- 法規上の問題が発生したとき*1
- 取り扱い方法や性能に影響がない、軽微な修正を行うとき

■ 運転支援機能の更新通知で確認できること

次の項目を確認、または実行できます。

● ソフトウェアのバージョン、更新内容、注意事項、使い方などの表示
● ソフトウェアの更新履歴表示へのリンク
● ソフトウェアの更新

*1: すべての更新内容がインストールされ、ソフトウェアが最新の状態になることがあります。

Lexus Safety System +

Lexus Safety System + は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

⚠ 警告

■ Lexus Safety System + について

Lexus Safety System + は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ 安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。
- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■ システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やパンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック／船舶／列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき

⚠ 警告

- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

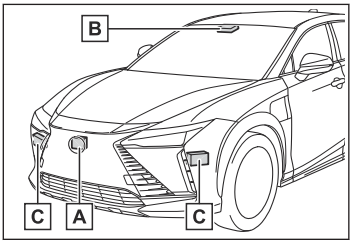
運転支援装置

- AHS（アダプティブハイビームシステム）
  →P.229
- AHB（オートマチックハイビーム）
  →P.233
- PCS（プリクラッシュセーフティ）
  →P.382
- LTA（レーントレーシングアシスト）
  →P.393
- LCA（レーンチェンジアシスト）
  →P.398
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
  →P.402
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
  →P.407
- FCTA（フロントクロストラフィックアラート）
  →P.413
- 発進遅れ告知機能
  →P.416
- RSA （ロードサインアシスト）
  →P.418
- レーダークルーズコントロール
  →P.422
- クルーズコントロール
  →P.433
- ドライバ異常時対応システム
  →P.438
- ドライバーモニター
  →P.380

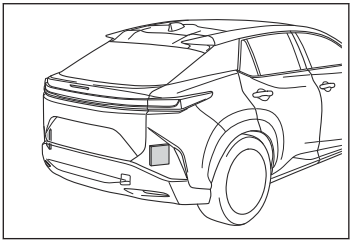
Lexus Safety System + で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

■ 周囲の状況を検出するセンサー

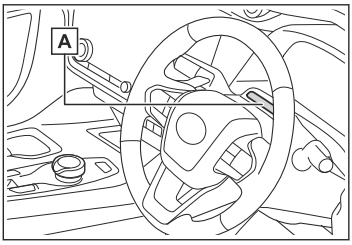


A 前方レーダー
B 前方カメラ
C 前側方レーダー



後側方レーダー

■ 運転者の状態を検出するセンサー



A ドライバーモニターカメラ

⚠ 警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

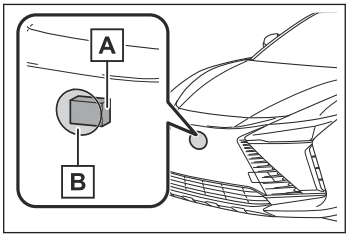
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

  レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

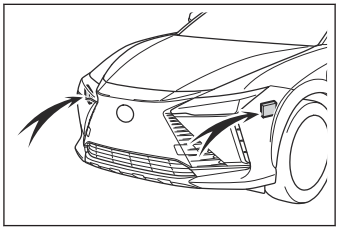
  お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。

⚠ 警告



A レーダー
B レーダー専用カバー

- 前側方レーダー周辺のフロントバンパーは常にきれいにしておく。



- フロントバンパーの塗装修理の際には、レクサス設定色以外への変更は行わないでください。センサーはフロントバンパー表面の塗装の影響を受けやすく、正しい修理をしないと警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。塗装修理の際はレクサス販売店にご相談ください。
- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダー周辺への衝撃を避ける

  レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
- レーダーを分解しない
- レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。
- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。

  詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
  - レーダーを脱着や交換したとき
  - フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

■ ヒーター機能付レーダー専用カバーについて

レーダー専用カバーに雪が堆積する可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターが自動的に作動します。お手入れなどでレーダー専用カバー周辺にふれるときは、十分に冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

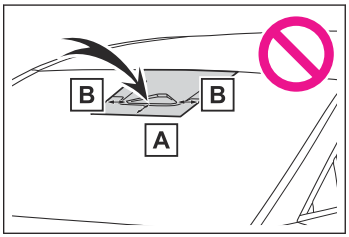
■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

⚠ 警告

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
  - フロントウインドウガラス外側に汚れ／油膜／水滴／雪などが付着した場合は、取り除いてください。
  - フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
  - フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約 4cm
B 約 4cm

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する

  フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

  レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない

⚠ 警告

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■ フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ ドライバーモニターカメラの取り扱いについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ドライバーモニターカメラの故障や誤作動によりシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドライバーモニターカメラおよびその周辺に強い衝撃を与えない

  強い衝撃を受けると、ドライバーモニターカメラの位置や向きがずれ、運転者を正しく検知できなくなるおそれがあります。必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
- ドライバーモニターカメラを分解・改造しない
- ドライバーモニターカメラおよびその周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- ドライバーモニターカメラおよびその周辺に液体をかけない
- ドライバーモニターカメラの前にものを置いたり、覆ったりしない
- ドライバーモニターカメラのレンズを傷付けない
- ドライバーモニターカメラのレンズをさわったり、汚したりしない

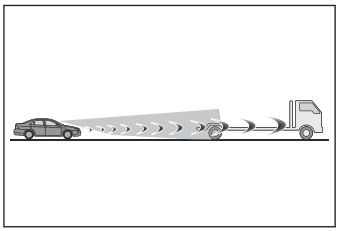
  レンズに指紋や汚れが付着した場合は、レンズを傷付けないよう乾いたやわらかい布でふき取ってください。
- お手入れする際は、樹脂を腐食させるような洗剤・有機溶剤を使用しない

知識

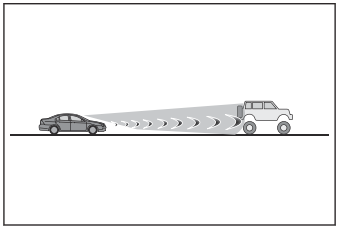
■ センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき

- 車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき
- フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき
- 外気温が高温または低温のとき
- センサー前面に泥、雨滴、雪、虫、ゴミなどが付着したとき
- 悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）

- 前方に水／雪／土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき
- ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき
- ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ヘッドランプが故障しているとき
- 対向車のヘッドランプ光／太陽光／反射光などが前方カメラに入射しているとき
- 急激な明るさの変化があるとき
- テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき
- 周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
  - トンネル
  - トラス橋
  - 砂利道
  - 轍のある雪道
  - 壁
  - 大型トラック
  - マンホール
  - ガードレール
  - 鉄板
- 周囲に段差や突起物があるとき
- 超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき
- 空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき
- 低床トレーラーなど対象車両の前端･後端が低い位置にあるとき



● 対象車両の最低地上高が極端に高いとき



● 対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
● 対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき
● トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき
● 対象車両との車間距離が極端に短くなったとき
● 対象車両の位置がずれている場合
● 対象車両に雪や泥などが付着している場合
● 次のような道路を走行しているとき
  - 急なカーブや曲がりくねった道
  - 急な上り坂や下り坂など、路面勾配が変化する道
  - 左右に傾きのある道
  - 路面に深いわだちがある道
  - 整備されていない荒れた道
  - 起伏や段差が多い道路
● ハンドル操作が不安定な場合
● 車線内での自車の位置が一定でない場合
● 本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど
● ホイールアライメントがずれているとき
● 凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき
● カーブの形状とは異なる経路で走行するとき
● カーブに対して進入速度が過度に高いとき
● 駐車場や車庫、カーエレベータなどに出入りするとき
● 駐車場内を走行するとき
● 生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき
● 風が強いとき

■ **車線を検知できないおそれがあるとき**

● 車線の幅が極端に狭い、または広いとき
● 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

- 工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき
- 周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき
- 同一車線上に複数の白線があるとき
- 車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき
- 車線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

■ システムの一部もしくは全てが作動しないとき

- 本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出時
- VSC、TRC 等の安全システムが作動時
- VSC、TRC 等の安全システムが OFF の時

■ ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

- ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。
- システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

■ ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況

次のような状況のとき、ドライバーモニターカメラは運転者の顔を検知できず、機能が正常に作動しないおそれがあります。

- 炎天下での駐車後など、車内が高温のとき
- 強い光（太陽光や後続車のヘッドランプ光など）がドライバーモニターカメラにあたっているとき
- 周囲の構造物の影響などで、車内の明るさがひんぱんに変化するとき
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が運転者の顔にあたっているとき
- 眼鏡・サングラスのレンズに車内や車外からの光が映り込んでいるとき
- 助手席や後席の乗員が身を乗り出すなど、ドライバーモニターカメラの検知範囲に複数の顔があるとき
- 前に身を乗り出したり、窓から顔を出したりするなど、顔がドライバーモニターカメラの検知範囲から外れているとき
- ハンドルやハンドルを握る手・腕などでドライバーモニターカメラが隠れたとき
- 帽子を被っているとき
- 眼帯を着用しているとき
- 赤外線を通しにくい眼鏡やサングラスをかけているとき
- コンタクトレンズをつけているとき
- マスクを着用しているとき
- 笑ったり、眼を細めたりしているとき
- 眼・鼻・口や、顔の輪郭が隠れているとき

- 眼・鼻・口・顔の輪郭が判定できなくなるような化粧をしているとき
- 眼鏡・サングラスのフレームや髪などで眼が隠れているとき
- 車内に近赤外線光源を搭載した機器（市販のドライバーモニタリングシステムなど）があるとき

■ レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

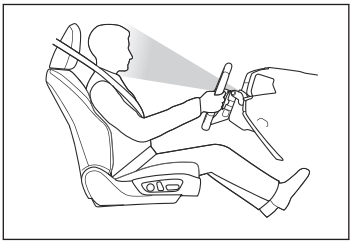
JP 01

運転者の状態をカメラで検知して自動的に注意喚起する

ドライバーモニター

基本機能

ドライバーモニターカメラで運転者の顔の位置・向きや眼の開閉状態を検知し、運転者が周囲の状況を確認し運転操作できる状態であるかシステムが判断します。



ドライバーモニターが正常に作動するためには、ドライバーモニターカメラで運転者の顔全体を撮影する必要があります。ハンドルやシートの位置が高すぎたり、低すぎたりするとドライバーモニターカメラが運転者の顔を一部撮影できず、運転支援システムが一部作動できなかったり、ブザーとディスプレイ表示で注意喚起を行ったりすることがあります。

■ 注意喚起

次のようなとき、ブザーとディスプレイ表示で注意喚起を行うことがあります。

- 運転者が脇見している／眼を閉じているとシステムが判断したとき
- 運転者の顔が検知できない／姿勢が崩れているとシステムが判断したとき

ハンドル／シートの位置が高すぎたり低すぎたりする場合、ドライバーモニターカメラが運転者の顔全体を認識できず、注意喚起を行うことがあります。メーター全体が見える運転姿勢になるようにハンドル／シートの位置を調整してください。

運転姿勢を調整しても注意喚起が継続するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ 顔認証システム

個人特定システムの一機能として、ドライバーモニターは顔認証機能のデバイスとして使われます。

車両での顔認証機能の使い方、他個人特定デバイスとの優先度、連動する車両設定については「マイセッティング」参照。(→P.266)

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- ドライバーモニターは運転者の不注意行動や姿勢崩れを未然に防ぐものではありません。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ドライバーモニターは運転者の眠気を解消するものではありません。集中力の低下や眠気を感じたら、適度に休憩や仮眠を取り、安全運転に努めてください。

知識

■ 注意喚起

車速が低いときは作動しないことがあります。

■ 顔認証システムについて

ドアを開け閉めすると顔認証が開始されます。

顔認証システムでは、お客様の顔の特徴情報を数値化し、車両に装備されたコンピューター内に保存してマイセッティングにおける認証に利用します。

- お客様の顔の画像／動画や音声を保存することはありません。
- 数値化された顔情報はマイセッティングにおける認証以外での用途では使用いたしません。また、顔情報を読み出すことはできず、第三者へ開示または提供されることはありません。
- 顔情報はお客様自身で削除することが可能です。
- 顔情報の取扱いについて、以下項目を同意いただいた上でご利用ください。
  - 顔認証システムは完全な本人認証、照合、識別を保証するものではありません。
  - 顔登録失敗や顔認証失敗が頻発する場合は、ドライバーモニターカメラを清掃または顔情報を登録し直してください。
  - コンピュータに保存した顔情報を読み出したり他の媒体に移行したりすることはできません。消去、部品交換した場合は再度顔情報を登録する必要があります。
  - 消去された顔情報は復元することはできません。再度登録を行う必要があります。

■ 顔認証システムが正しく認識しない場合

本システムは顔の特徴の情報を認証に利用するものです。次の場合、顔登録／認証が正しくできない場合があります。

- 顔の一部（眉、目、鼻、口のいずれか）が隠れている状態
- 眼鏡やサングラス、マスク、マフラー等を着用している
- 正面を向いていない場合
- 髪の毛、ひげ、手、衣服、アクセサリー等で顔の一部が隠れている
- 目を閉じている
- 双子など、顔の特徴情報が極めて似通った非登録者

■ ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況

→P.378

ドライバーモニターの設定を変更する

ドライバーモニターの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。(→P.759)

衝突する前に注意を促してブレーキを掛ける

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.382）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON／OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.391）

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

  プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

  次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

  - 安全にお使いいただくために：→P.370

■ プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.370

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

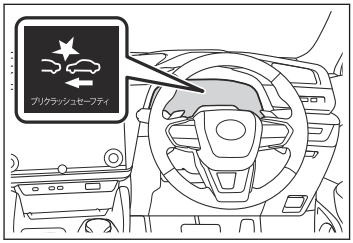
- 車両
- 自転車*1
- 歩行者
- 自動二輪車*1
- 壁

*1：人が乗車している場合のみを作動対象としています。

機能一覧

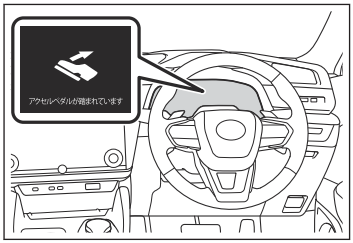
■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回避操作をうながします。



作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告を行う場合もあります。

アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

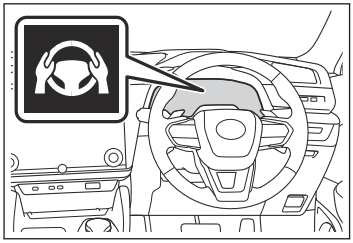
■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ 緊急時操舵支援

システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。

作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



- 衝突する可能性が高い
- 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- 運転者の回避操舵があった

運転者の回避操舵にかかわらず、ブレーキとハンドルの制御を行い、衝突回避の支援や衝突被害の軽減に寄与します。

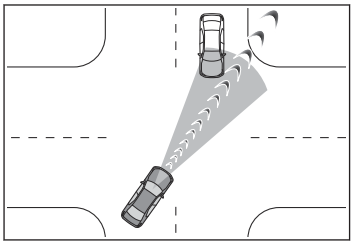
作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。

■ 交差点衝突回避支援（右左折）

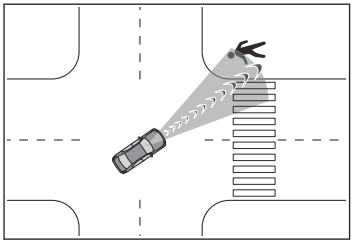
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車/対向自動二輪車の進路を横切るとき



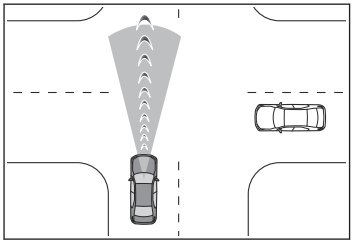
- 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



■ 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

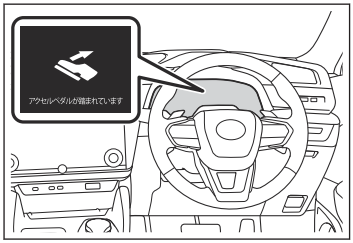
交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、EV システム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



⚠ 警告

■ プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■ 低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■ 緊急時操舵支援について

- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。
  - 運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
  - 緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。
  - 緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

知識

■ プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトポジションが R のとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

- 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5～180km/h	約 5～180km/h
対向車両	約 30～180km/h	約 80～220km/h
自転車	約 5～80km/h	約 5～80km/h
歩行者	約 5～80km/h	約 5～80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5～180km/h	約 5～80km/h
対向自動二輪車	約 30～180km/h	約 30～180km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

- プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30～180km/h	約 10～180km/h
自転車	約 30～80km/h	約 30～80km/h
歩行者	約 30～80km/h	約 30～80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30～180km/h	約 10～80km/h

- プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5～180km/h	約 5～180km/h
対向車両	約 30～180km/h	約 80～220km/h
自転車	約 5～80km/h	約 5～80km/h
歩行者	約 5～80km/h	約 5～80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5～180km/h	約 5～80km/h

作動対象	自車速度	相対速度
対向自動二輪車	約 30～180km/h	約 30～180km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

● 緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約 40～80km/h アクティブ操舵機能：*1～80km/h	約 40～80km/h アクティブ操舵機能：*1～80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ブレーキペダルを踏む

● 交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 5～40km/h	約 5～75km/h	約 10～115km/h
歩行者	約 5～30km/h	—	約 5～40km/h
自転車	約 5～30km/h	—	約 5～50km/h
対向自動二輪車	約 5～40km/h	約 5～75km/h	約 10～115km/h

● 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

作動対象	自車速度	相手車速度	相対速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5～60km/h	約 50km/h 以下	約 5～60km/h

● 低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁	約 0～15km/h	約 0～15km/h

*1: 下限速度：プリクラッシュブレーキでは回避が困難な速度

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

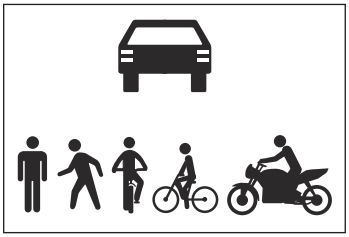
- アクセルペダルを離す
- ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

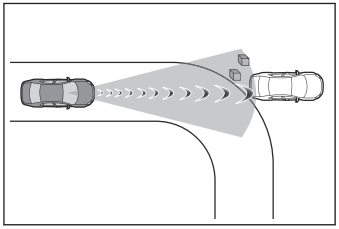
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

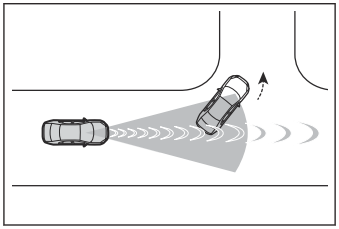
● 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

- 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- 作動対象などに急接近したとき
- 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
- カーブの道路脇に作動対象や物体などが存在するとき

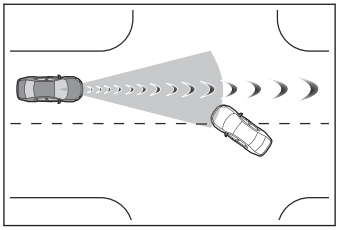


- 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき

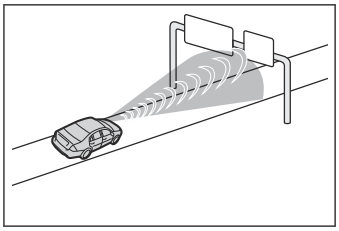
- 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



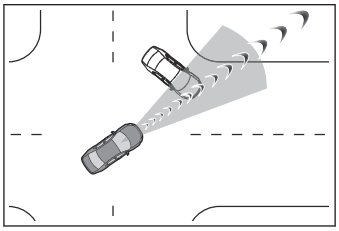
- 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



- 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
- 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき

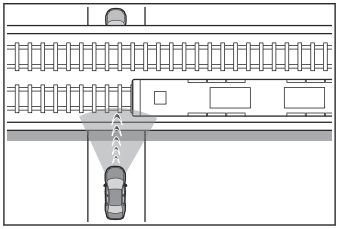


- ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車の前方を通過したとき
- 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車の手前を通過しようとしたとき
- 右左折中に、対向車/対向自動二輪車/横断歩行者/横断自転車が自車進路に入る手前で停止または進路変更したとき
- 交差点内で右折中、対向車/対向自動二輪車が右折しているとき、または左折しているとき



- 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき

- 道路上方／下方を移動するものがあるとき

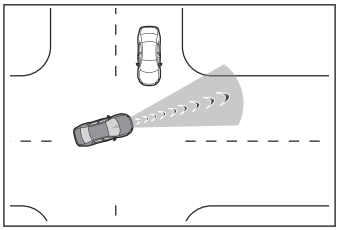


■ **システムが正常に作動しないおそれがあるとき**

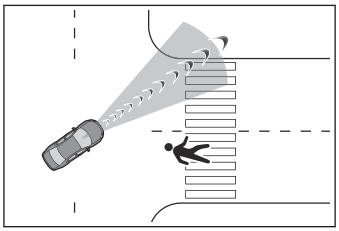
● 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- 自車や作動対象がふらついているとき
- 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- 作動対象に急接近したとき
- 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- 作動対象が複数重なっているとき
- 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 斜めを向いている前方車両に近付いたとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- EV システムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ

- 右左折中および右左折後の数秒間
- カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- 右折中に、対向車/対向自動二輪車が自車の走行する車線よりも 3 つ以上離れた車線を走行しているとき
- 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- 右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追い抜くように前方にでてくるとき



- 交差点で出会い頭に大型トラック／牽引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき

● 上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。

- 作動対象に近づきすぎたとき
- 回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
- 対向車がいるとき

● 上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。

- ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
- 壁が傾いていたり、高さが低いとき
- 壁がポールなど幅の狭いもののとき
- 壁が生垣など草木のとき
- 壁に路面などが映りこんでいるとき
- 自車が壁に斜めに近づくとき

PCS の設定を変更する

● PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.755)

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

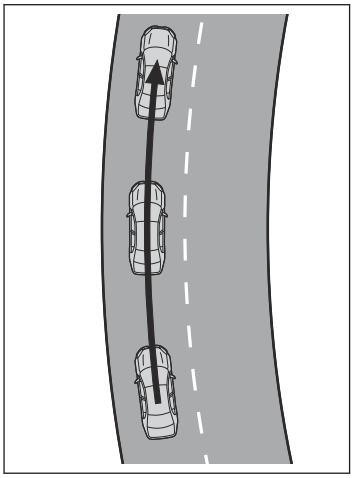
- システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。(→P.755)
- 衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。

  “遅い”を選択した場合、緊急時操舵支援（アクティブ操舵機能を除く）はほとんどの場合作動しません。
- 運転者が脇見をしているとシステムが判断した場合は、ユーザー設定に関わらず、衝突警報・緊急時操舵支援が“早い”のタイミングで作動します。
- レーダークルーズコントロール制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が“早い”のタイミングで作動します。
- アドバンスト ドライブ制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が“早い”のタイミングで作動します。

車線内中央の走行維持のハンドル操作を支援する

LTA（レーントレーシングアシスト）

LTA の機能



● 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車/周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

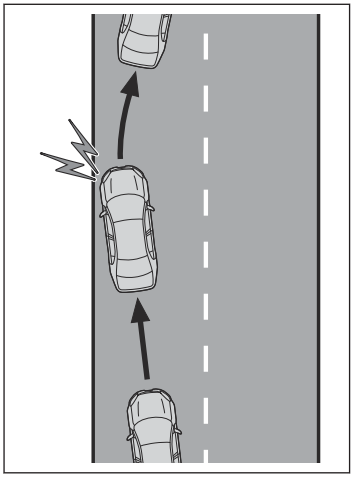
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

レーダークルーズコントロールが作動していないとき LTA は作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車/周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかり握り直してください。



● 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。

⚠ 警告

■ LTA をお使いになる前に

● LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンド

⚠ 警告

ル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

知識

■ 機能の作動条件

- 次の条件をすべて満たしたとき作動します。
  - システムが車線を認識しているとき、または先行車/周辺車の軌跡を認識しているとき
  - レーダークルーズコントロールが作動しているとき
  - 車線の幅が約 3～4m のとき
  - 方向指示レバーを操作していないとき
  - 急カーブを走行していないとき
  - 一定以上の加減速がないとき
  - 大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
  - 手放し運転に対する注意喚起（→P.395）が行われていないとき
  - 車線中央付近を走行しているとき

■ 機能の一時解除

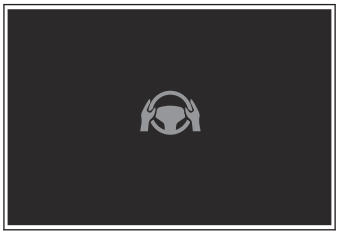
- 機能の作動条件（→P.394）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- 機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。
- 機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

■ LTA 中の車線逸脱警報について

- LDA の警報手段をハンドル振動に変更していても、LTA 作動中は車線逸脱時にブザーによる警報を実施します。
- 車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も作動しません。

■ **手放し運転に対する注意喚起について**

● 手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



● 操作しない状態が続くと注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■ **手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき**

● 車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。

● 次の状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。

- ハンドルにカバーを取り付けたとき
- 運転者が手袋をしているとき
- ハンドルに異物が付着しているとき
- 部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき

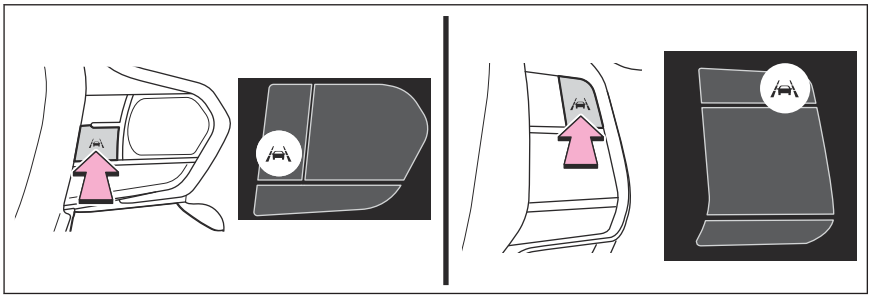
● 次の状況では、手放しをしていても手放し運転警告が作動せず、LTA が継続することがあります。

- ハンドルに手以外の物が接触しているとき
- ハンドルに、物や腕等を広い範囲で近づけるとき

システムの ON/OFF を変更する

LTA の ON/OFF を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が ON のときは LTA 表示灯が点灯します。

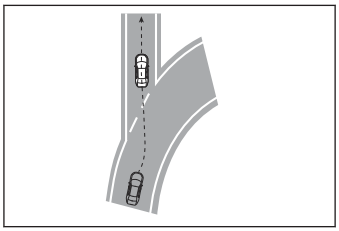


⚠ 警告

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- 先行車/周辺車が車線変更したとき（先行車/周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



- 先行車/周辺車がふらついたとき（先行車/周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車/周辺車が車線から逸脱したとき（先行車/周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車/周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車/周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 周囲に移動物、構造物があるとき （移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.375
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.377
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.370

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
 白色	 灰色／白色	 灰色	LTA がスタンバイ中
 緑色	 緑色	 緑色	LTA が作動中

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
 黄色 点滅	 黄色 点滅	 緑色	車両が点滅している側の車線から逸脱している

車線変更するときのハンドル操作を支援する

LCA（レーンチェンジアシスト）

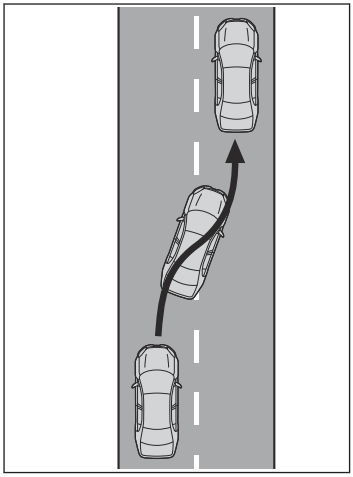
LCA の機能

LTA と連携し、車線変更に必要なハンドル操作を支援します。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

ステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

分岐・合流路での車線変更は作動の対象外です。



⚠ 警告

■ LCA をお使いになる前に

- LCA を過信しないでください。

  LCA は自動で運転する装置でも車線変更先の並走車や急な接近車両等への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

  また、車線変更してはいけない車線（対向車線、 路肩等）に対して LCA を使用しないでください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

■ 機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- LTA が作動しているとき
- カスタマイズメニューでレーンチェンジアシストを ON に設定したとき
- 自車速度が約 70 ～ 130km/h のとき
- システムが高速道路または自動車専用道路（一部を除く）と認識しているとき
- システムが車線を変更する側の白線を破線と認識しているとき

- 車線を変更する先に車両が存在しないとき
- ナビゲーションシステムの地図データが正常に取得できているとき
- 大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
- 手放し運転に対する注意喚起（→P.395）が行われていないとき
- EV システム始動後、システムが一度でも車両後方の移動物を検知しているとき

■ 機能の解除

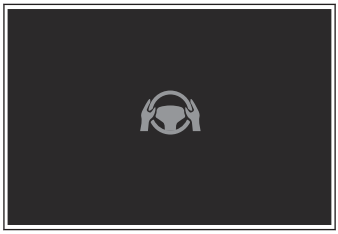
次のような状況では、LCA が作動途中で解除されることがあります。その際に、ディスプレイの表示およびブザーにより、機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

- 作動条件が満たされなくなった場合（→P.398）
- システムが車線を認識できなくなったとき
- 方向指示レバーを 2 段目の位置（→P.400）へ操作したとき
- 方向指示レバーを車線変更をする方向とは逆方向に操作したとき
- 運転者によるハンドルやブレーキ、アクセルなどの操作をシステムが検知したとき
- 手放し運転に対する注意喚起（→P.399）が行われているとき

急な接近車両を検出した場合には、ブザー音、ディスプレイ表示で警報を行うとともに、小さな操舵力をハンドルに加えることで、接近車両へ近づかないよう支援を行う場合があります。

■ 手放し運転に対する注意喚起について

手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



■ 手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

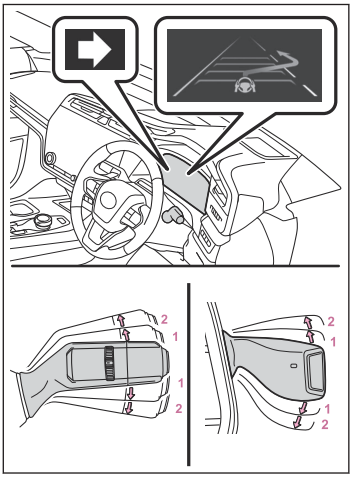
- 車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。
- 次の状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。
  - ハンドルにカバーを取り付けたとき
  - 運転者が手袋をしているとき
  - ハンドルに異物が付着しているとき
  - 部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき
- 次の状況では、手放しをしていても手放し運転警告が作動せず、LCA が継続することがあります。

- ハンドルに手以外の物が接触しているとき
- ハンドルに、物や腕等を広い範囲で近づけるとき

LCA の作動方法

方向指示レバーを 1 段目の位置で"ピッ"とブザーが鳴るまで保持すると、車線変更方向の表示とともにシステムが作動します。

LCA を利用せず方向指示レバーを 1 段目の位置で保持して車線変更する場合は LCA のカスタマイズ設定を OFF としてください。



1　1 段目：LCA 作動位置
2　2 段目：LCA 非作動位置

⚠ 警告

■ LCA を使用してはいけない状況

- 片側 1 車線の道路を走行しているとき
- 自車の走行車線と、車線変更先の車線の間が白線の破線でないとき

システムの ON/OFF を変更する

LCA の ON/OFF は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。→P.757

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LCA の作動状態を示しています。

LCA 表示	ステアリングアイコン	状態
 灰色矢印 / 緑色線		LCA がスタンバイ状態

LCA 表示	ステアリングアイコン	状態
 青色矢印 / 白色線	緑色	LCA が作動中
	 灰色	LCA 作動中に自車に接近してくる車両を検知した
	 灰色	LCA 作動中に車線を検知できなくなった

車線からのはみ出しを警告で防ぐ

LDA（レーンディパーチャーアラート）

基本機能

車線または走路*1 からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路*1 からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

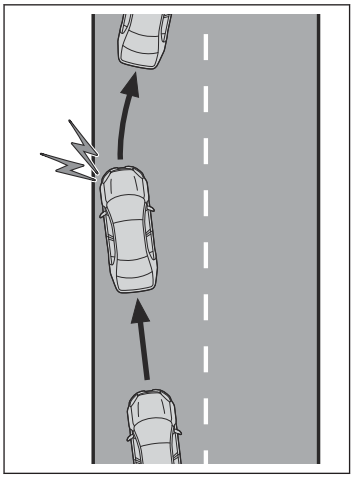
車線または走路*1 を前方カメラで認識します。

■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路*1 から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路*1 内の中央付近にもどってください。

方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

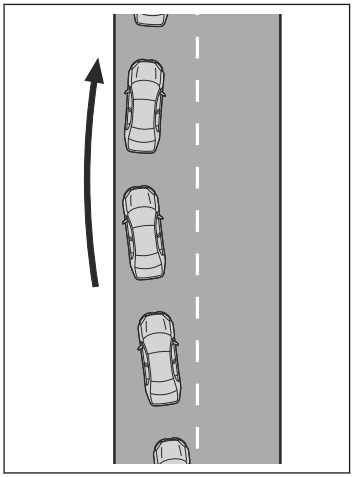


■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路*1 から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

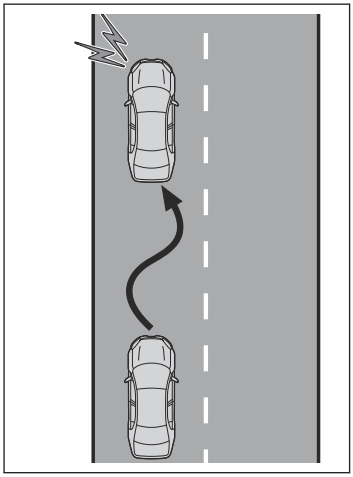
方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。



*1: アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示およびブザーにより休憩をうながします。



⚠ 警告

■ LDA をお使いになる前に

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

■ 各機能の作動条件

- 車線逸脱警報/抑制機能

  次の条件をすべて満たしたときに作動します。

  - 車速が約 50km/h 以上のとき

    車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。

    対象が縁石、ガードレールなどの構造体の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。(カスタマイズメニューで低車速支援を作動にしたとき)
  - システムが車線または走路*1 を認識しているとき（車線または走路*1 が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
  - 車線の幅が約 3m 以上のとき
  - 方向指示レバーを操作していないとき

*1: アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

（方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）

- 急カーブを走行していないとき
- 一定以上の加減速がないとき
- 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- VSC または TRC を OFF にしていないとき

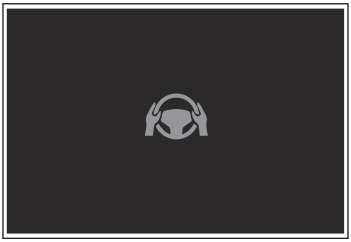
■ 機能の一時解除

作動条件（→P.403）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ 車線逸脱警報/抑制機能の作動について

- 車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。
- カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。
- 走路[*1] がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する車線逸脱警報/抑制機能が作動しない場合があります。
- 意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に車線逸脱警報/抑制機能が作動しない場合があります。
- となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。
- 運転者の状態に応じて、走路逸脱に対する車線逸脱警報/抑制機能の作動タイミングが変化します。
- 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

■ 手放し運転に対する注意喚起について



次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

- 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態だとシステムが判断したとき

  ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

■ 休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- 車速が約 50km/h 以上のとき

*1: アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

● 車線の幅が約 3m 以上のとき



車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。

LDA の設定を変更する

- LDA の作動/非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.756)
- カスタマイズ設定から、LDA の設定を変更することができます。(→P.756)

⚠ 警告

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.377
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.375
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.378
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.370

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
 黄色 点灯	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	 灰色	消灯	システムが車線を認識していない
消灯	 白色	消灯	システムが車線を認識している
 黄色 点滅	 黄色 点滅	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中
 緑色	 緑色	 緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱抑制機能が作動中
 黄色 点滅	 黄色 点滅	 緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能／抑制機能が作動中

作動対象に近づきすぎないようにブレーキやハンドルの操作を支援する

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→P.407）を検出した場合、対象に近づきすぎないように、ブレーキやハンドルの操作を支援します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

- プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。

  必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→P.409）
- プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。
- わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.375
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.370

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

機能	状況	作動内容	作動対象
障害物先読みアシスト（OAA）	道路を横断中の作動対象を検知したとき	衝突の可能性を軽減するため、ブレーキ操作の一部を支援します。	● 歩行者 ● 自転車運転者

機能	状況	作動内容	作動対象
障害物先読みアシスト(OAA)	道路脇の作動対象を検知したとき	作動対象に近づきすぎないよう、周囲の状況に応じてハンドル操作やブレーキ操作の一部を支援します。 ハンドル操作の支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。	● 歩行者 ● 自転車運転者 ● 駐車車両
減速アシスト(DA)	先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	● 歩行者 ● 自動二輪車
	自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
	信号のある交差点で右左折するとき	右左折する交差点に対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
操舵アシスト(SA) *1	車線を認識しているとき	運転操作を先読みして、ハンドル操作を支援します。	なし

知識

■ システムの作動車速

- 道路を横断する作動対象に対する支援
  約 30km/h～60km/h
- 道路脇の作動対象に対する支援
  約 30km/h～60km/h
- 先行車に対する減速支援
  約 20km/h 以上
- カーブに対する減速支援
  約 20km/h 以上
- 信号のある交差点に対する右左折時の減速支援
  約 30km/h～80km/h（信号のある交差点で方向指示レバーを操作したとき）
- 車線に対する操舵支援*1
  約 10～140km/h

■ システムの作動が停止するとき

- 次のときシステムは作動を停止します
  - レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしたとき

*1: 異形ステアリング非装着車

- PCS が OFF のとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.378
- シフトポジションが P、R または N のとき

● 次のときブレーキ操作の支援は作動を停止します
- 車速が約 15km/h 以下のとき
- 周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき

● 次のときシステムは作動を停止する場合があります
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
  （例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- 作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合
- 車線が検出できなくなった場合
- ブレーキ操作を行った場合
- アクセル操作を行った場合
- 一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
- 方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき（信号のある交差点に対する右左折時の減速支援を除く）

⚠ 警告

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

● 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.377
● 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
● ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき
● 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
● 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき
● 物体（ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき
● 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
● 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき
● 雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき
● 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
● 自車や作動対象がふらついているとき
● 作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）
● 作動対象に急接近したとき
● 先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき
● 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき

⚠ 警告

- 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- 作動対象が複数重なっているとき
- 作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約 4m 以上あるとき
- 車線幅が約 2.5m 以下のとき
- EV システムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間に存在するとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が一灯式や二灯式のとき

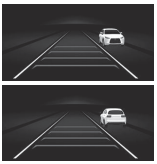
プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

- プロアクティブドライビングアシストの作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.758）
- プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.758）

システムの作動表示

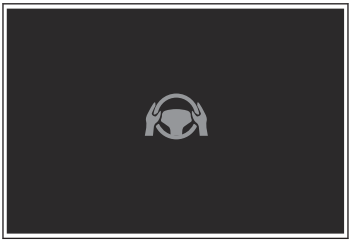
状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

表示	意味
	● 白色：作動対象監視中 ● 緑色：道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中
	道路を横断中、または道路脇の歩行者を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	● 道路脇の作動対象へ近づきすぎないように、ハンドルの操作を支援している ● 操舵支援が作動中
	先行車に対する減速支援が作動中
	適正な車間距離を確保するよう注意喚起している
	カーブに対する減速支援が作動中
	信号のある交差点に対する減速支援が作動中

知識

■ 手放し運転に対する注意喚起について

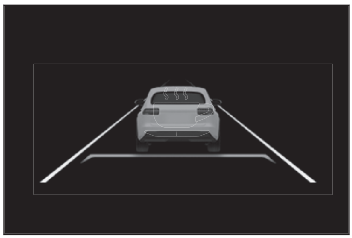


次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

● 道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■ 先行車への減速支援終了後の注意喚起について



先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ディスプレイ表示の点滅とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、注意喚起を停止します。

低速時に交差点などで交差する車を検知して音と画面で知らせる

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）

自車が低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知して運転者へ注意喚起を行います。

システムの制御

● 運転者へ前方を交差する車両が接近していることを、ディスプレイの表示で知らせます。

▶ ヘッドアップディスプレイ



● 前方を交差する車両が接近しているにも関わらず、運転者が発進しようとしている可能性があるとシステムが判断した場合、さらに、ディスプレイ表示とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ



⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。FCTA は前方を交差する車両の存在を運転者に知らせる補助的なシステムです。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と

⚠ 警告

異なる場合があります。一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車両や歩行者がいないことを示すものではありません。

知識

■ FCTA システムの作動条件

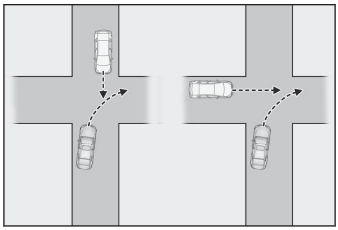
システムは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- 自車速度が約 15km/h 以下のとき
- 前方を交差する接近車両の速度が約 10～60km/h であるとき
- 先行車がいないとき
- アクセルを強く踏み込んでいないとき
- ブレーキを強く踏み込んでいないとき

■ 検知対象となる車両の接近が無くてもシステムが作動するおそれがあるとき

例えば次のような状況では、検知対象となる車両が存在しない場合でもシステムが作動するおそれがあります。

- 道路脇の構造物（ガードレール・標識・電柱・街灯・木・草・壁など）に近付いたとき
- 路上駐車している車両等の横をすり抜けるとき
- 自車から遠方で車両や歩行者が交差するとき
- 自車線脇の駐車場等を車両や歩行者が移動しているとき
- 自転車や歩行者が歩道を通行しているとき
- 車両や歩行者が自車から遠ざかるとき
- 交差車両が減速し停止するとき
- 交差車両が自車直前で右左折するとき
- 歩行者が自車に接近するとき
- 対向車が右左折するとき
- 交差車両より先に自車が交差点を通過するとき
- 信号待ち時に交差車両が接近するとき
- 右左折など旋回時に交差車両が存在するとき

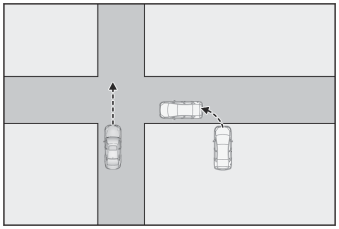


- 前方から車両が接近し、すれちがうとき
- 後方から車両が接近し、追い抜かれるとき
- 自車が車両や歩行者と並走するとき
- 自車側面に車両や歩行者が接近するとき

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

例えば次のような状況では、前側方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 交差車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）



- 交差車両が自車進行方向に対し斜めに接近するとき
- 交差車両が自車から遠方を交差するとき
- 自車と交差車両の間に障害物があるとき
- 複数台の車両が狭い間隔で連続して接近するとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.375
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.378

FCTA の設定を変更する

- FCTA の作動/非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。(→P.756)
- カスタマイズ設定から、FCTA の設定を変更することができます。(→P.756)

自車の発進が遅れていることを知らせる

発進遅れ告知機能

先行車の発進または信号が青にかわったあと、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

■ 先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

■ 信号切替り告知機能

交差点の先頭で停止中、信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

知識

■ 作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトポジションがＰ・Ｒ以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションがＮで停止しているとき
- シフトポジションがＲ以外で、ブレーキペダルを踏んで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロールが作動していて、制御停車中のとき

■ 発進遅れ告知機能が正しく作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.375

■ 先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■ 信号機が青にかわっていなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

- 道路標識や看板などの信号機でないものを信号機と認識した場合

- 歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ている場合
- 交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識した場合
- 日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できない場合

発進遅れ告知機能の設定を変更する

- 発進遅れ告知機能の作動/非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。(→P.758)
- カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることができます。(→P.758)

標識の見逃し防止をサポートする

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行いますが、支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

■ RSA を使用してはいけない状況

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.370

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.375

ディスプレイ表示機能

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。

- 複数の道路標識を表示できます。

  車の仕様によっては表示される標識が制限される場合があります。

知識

■ 標識表示の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

- システムが標識を認識しているとき

次の状況では、標識の表示が消えることがあります。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わりを示す補助標識を認識したとき

■ 表示機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき

- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- 補助標識（区間の終わり、曜日、時間など）があるとき
- 工事などの通行規制区間に標識があるとき
- 標識の後ろに木・電柱・建物・看板などがあるとき
- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ナビゲーションシステムを利用できないとき

  マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知（例えば、強調表示やブザー吹鳴）します。

- 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- 赤信号告知：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に進入する可能性があるとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

知識

■ 告知機能の作動条件

- 速度超過告知に対する作動条件

  次の条件を満たしたとき作動します。

  - 最高速度を表示しているとき
- 車両進入禁止告知に対する作動条件

  次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- 進入禁止標識を 2 つ以上認識しているとき
- 進入禁止標識のあいだを通過するとき

● 赤信号告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
- 車速が約 20～70km/h のとき
- 一定以上の減速がないとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 一定以上のハンドル操作をしていないとき
- 先行車がいないとき

■ 告知機能が正常に作動しないおそれのある状況

● 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。

- 右左折等により標識が検知できないとき
- 信号機が矢印信号のとき
- 信号機が点滅信号のとき
- 信号機の庇で発光部の一部が隠れているとき
- ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
- 停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
- 停止線などの路面ペイントがかすれているとき
- 停止線に対し信号機が遠くにあるとき
- 交差点間の距離が近いとき

● 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。

- 標識が通常とは異なる大きさのとき
- 標識や信号機が多数あるとき
- 自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
- 作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別がつきにくい模様・光源・ペイントがあるとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が矢印信号のとき
- 予告信号があるとき

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

次の種類の道路標識を表示します。

ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。

	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止
	転回禁止
	一時停止
	赤信号

RSA の設定を変更する

RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。(→P.759)

最適な車間距離を保って追従走行する

レーダークルーズコントロール

車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

  次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

  - システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.428
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容

  レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

  走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 運転者が判断する過程での支援内容

  レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- 運転者が操作する過程での支援内容

  レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

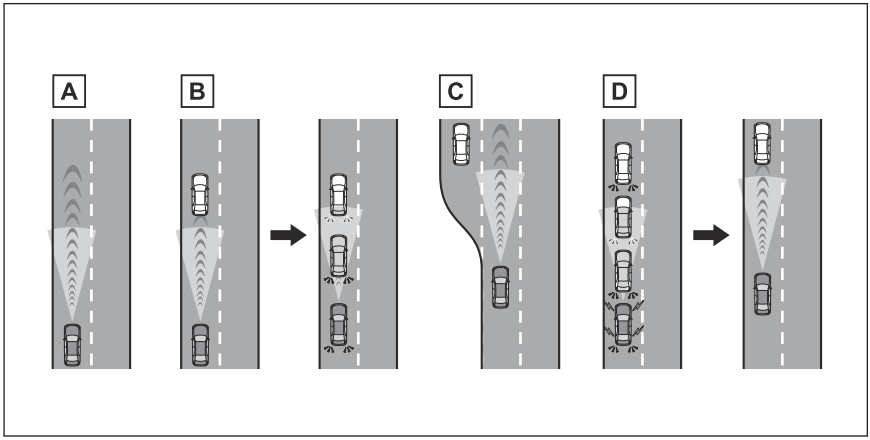
⚠ 警告

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.375
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.370

基本機能



A 定速走行：先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

B 減速走行一追従走行：設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し､より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します)。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

C 加速走行：設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

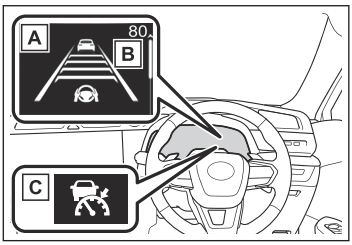
D 発進：

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車)。先行車の発進後、“RES”スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作)。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

高速道路／自動車専用道路の一部を走行中に先行車が停止したときは、続いて停車します。停車してから約 3 分以内に先行車が発進したとシステムが判断すると、ブザーとディスプレイ表示でお知らせし、先行車に続いて発進します。(再発進可能時間延長)

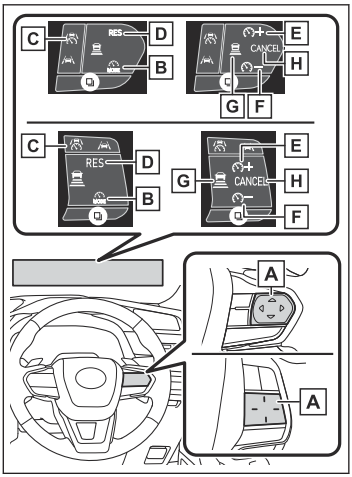
システムの構成部品

■ メーター表示



A マルチインフォメーションディスプレイ
B 設定速度
C 表示灯

■ 操作スイッチ



A 状況や設定によって、スイッチの機能がかわります。

スイッチに触れると、各スイッチの機能がヘッドアップディスプレイに表示されます。ヘッドアップディスプレイが OFF のときはマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

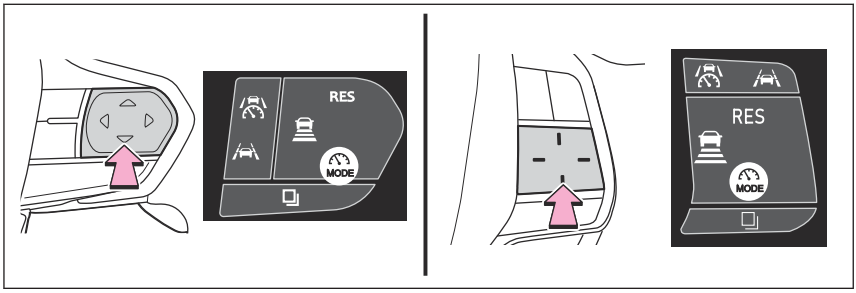
B 走行支援モード選択スイッチ
C 走行支援スイッチ
D “RES” スイッチ
E “+” スイッチ
F “-” スイッチ
G 車間距離切りかえスイッチ
H キャンセルスイッチ

レーダークルーズコントロールを使用する

速度を設定する

1 **走行支援モード選択スイッチを押してレーダークルーズモードを選択します。**

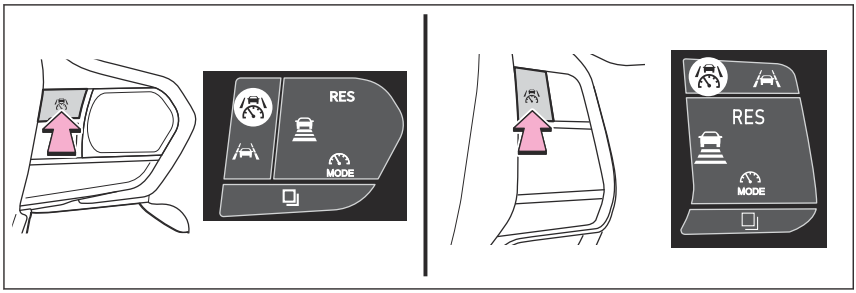
レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 **希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する**

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

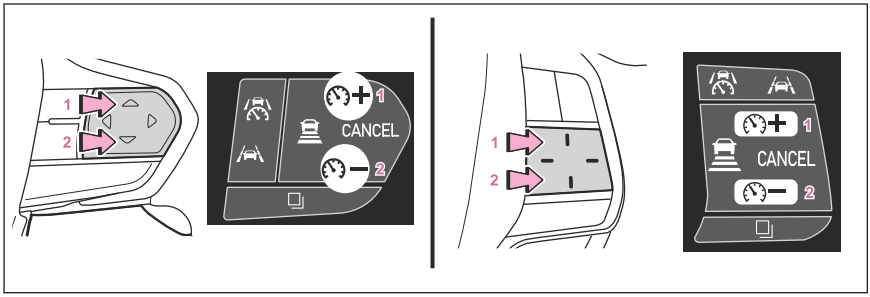
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで“+”スイッチまたは“-”スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを押す

長押し調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

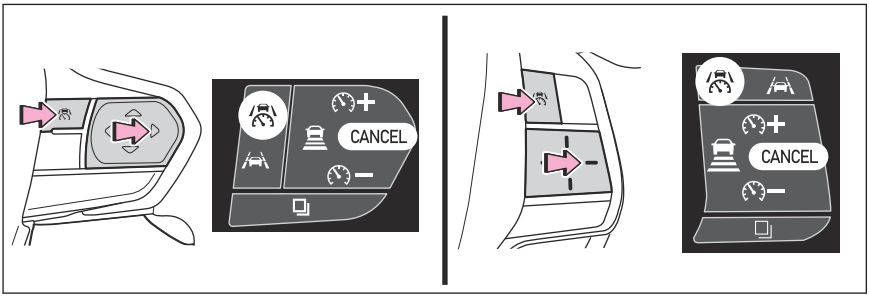
短押し調整：スイッチを操作するごとに 1km/h
長押し調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ
カスタマイズメニューから、設定速度の変化量を変更することができます。

● アクセルペダルで設定速度を上げる

1 **設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する**

2 **“+”スイッチを押す**

制御を解除する・復帰させる



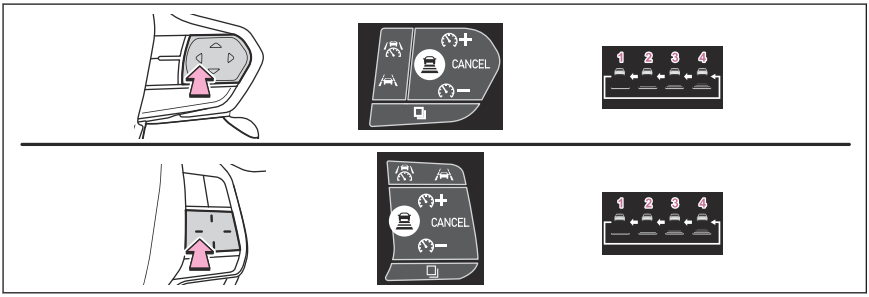
1 **制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す**

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。
（制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

2 **制御を復帰させるには、“RES”スイッチを押す**

車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。
先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。



イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速 100km/h の場合）
1	短	約 30 m
2	中	約 45 m
3	長	約 60 m
4	最長	約 70 m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

音声対話サービスでの操作

音声対話サービスを使用して、次の操作を音声で行うことができます。音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

- 設定速度の変更
- 車間距離の変更

知識

■ 設定条件について

- シフトポジションが D のとき設定できます。
- 車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
  - 車速が約 30km/h 未満のときに設定すると、約 30km/h に設定されます。
  - 車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 追従走行中の停車制御について

- 制御停車中に“RES”スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約 3 秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
  （例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- M モードにしたとき（RZ550e）
- パーキングブレーキが作動したとき
- 急坂路で制御停車したとき
- 制御停車中に次を検出したとき
  - 運転席シートベルトを着用していない
  - 運転席ドアが開いた
  - 車両が停止したあと約 3 分経過した

自動でパーキングブレーキがかかることがあります。

● システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.378

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために：→P.370

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.428）も作動しないおそれがあります。

● 割込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき
● 自車が車線変更しているとき
● 先行車が低速で走行中のとき
● 同じ車線に停車中の車がいるとき
● 同じ車線を二輪車が走行中のとき

■ システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

● 先行車が急ブレーキをかけた場合
● 渋滞時等、低速で車線変更したとき

■ 再発進可能時間延長の作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

● 自動車専用道路など限定された道路を走行中。
● 先行車が存在し、システムが先行車を検知できている
● 先行車と自車のあいだに他車が割り込んできていない
● 先行車が入れかわっていない
● クリアランスソナーおよび前側方レーダが前方の物体を検知していない
● 運転者が前方を向いているとドライバーモニターが判断している
● ハンドルを操作していない
● ブレーキペダルを操作していない

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能



カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。

知識

■ カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

- 緩やかなカーブを走行しているとき
- アクセルペダルを操作しているとき
- 極端に短いカーブを走行しているとき

ドライバーモニター連携機能

ドライバーモニターによる注意喚起が表示されている場合、加速を抑制します。

ドライバーモニターによる注意喚起の表示が消えた場合、加速抑制を終了します。

車線変更時の補助機能

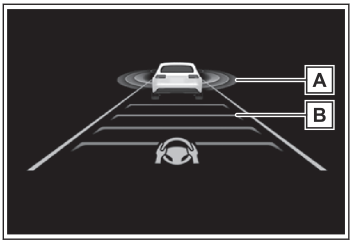
約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に通常のレーダークルーズコントロールに切りかわります。

先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。



A 先行車通信マーク
B 車間距離表示

知識

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールについて

- 本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。
- 先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。
- 先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから通常のレーダクルーズに切りかわる場合があります。

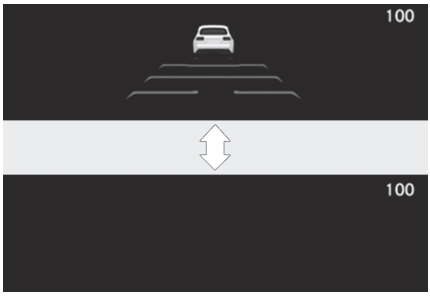
- 先行車との通信が途絶したとき
- センサーが先行車を誤って検知したとき
- トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき
- 追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき
- 通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

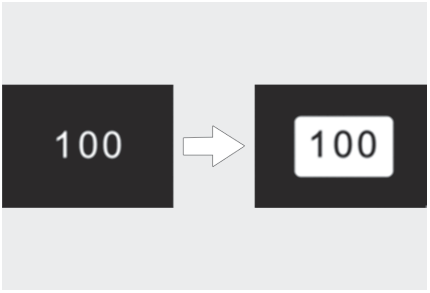
レーダークルーズコントロールの設定を変更する

- レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。(→P.757)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
白色		設定車間距離：灰色	レーダークルーズコントロール OFF
緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色	定速走行
緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 先行車：白色	追従走行
緑色		設定車間距離：橙色点滅 設定速度：緑色 先行車：黄色点滅	接近警報

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	アクセルペダルによる加速中
 緑色		設定速度：緑色反転表示	設定速度超過時
 緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	制御停車

一定の車速で走行する

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

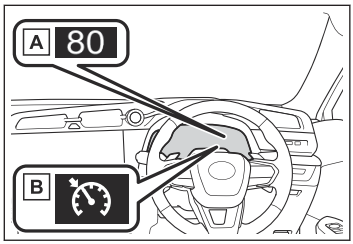
次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

  急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.370

システムの構成部品

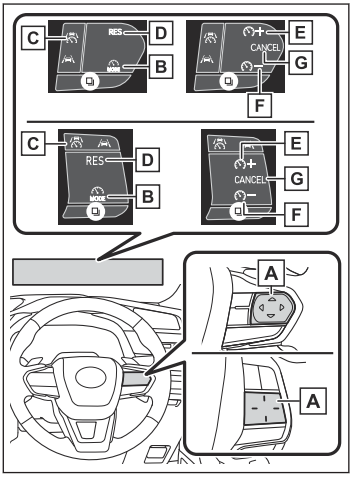
■ メーター表示



A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

■ 操作スイッチ



A 状況や設定によって、スイッチの機能がかわります。

スイッチに触れると、各スイッチの機能がヘッドアップディスプレイに表示されます。ヘッドアップディスプレイが OFF のときはマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

B 走行支援モード選択スイッチ

C 走行支援スイッチ

D “RES” スイッチ

E “+” スイッチ

F “-” スイッチ

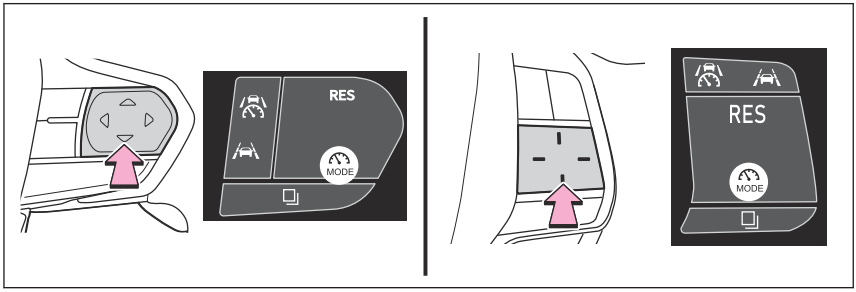
G キャンセルスイッチ

クルーズコントロールを使用する

速度を設定する

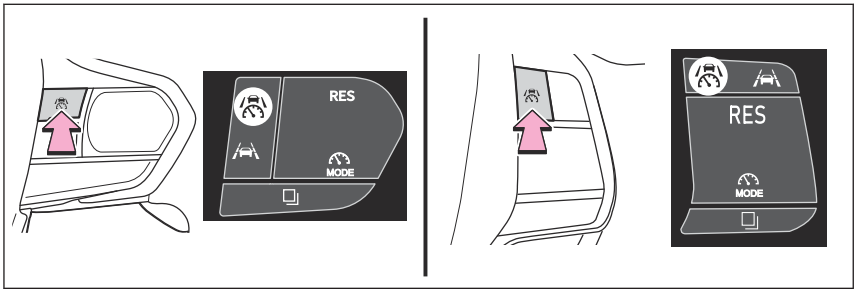
1 **走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールモードを選択します。**

クルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 **希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する**

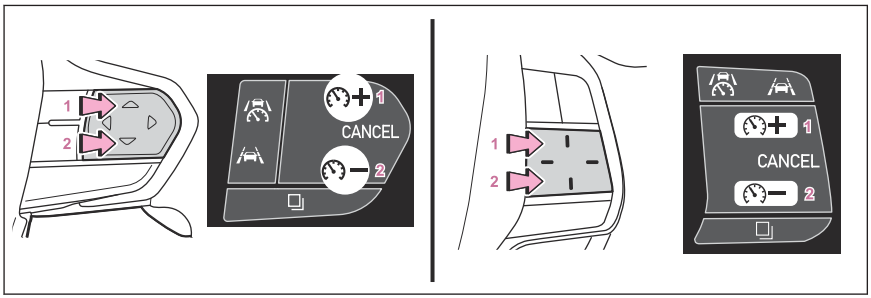
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで“+”スイッチまたは“-”スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

● アクセルペダルで設定速度を上げる

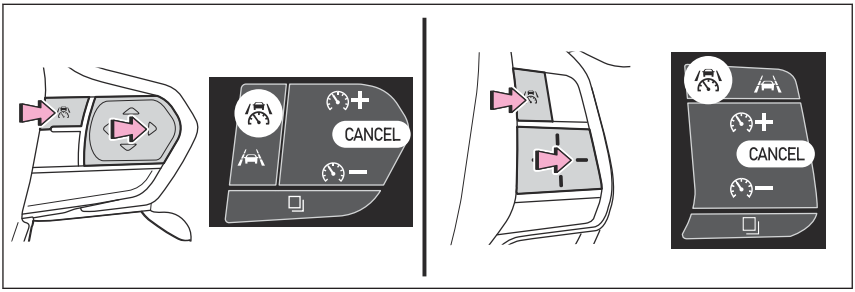
1 **設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する**

2 **“+”スイッチを押す**

制御を解除する・復帰させる

1 **制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す**

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。



2 制御を復帰させるには、“RES” スイッチを押す

知識

■ クルーズコントロールの自動解除

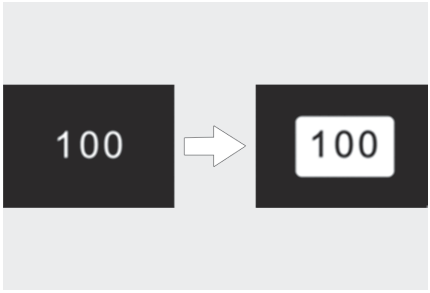
次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 30km/h 未満になったとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき （例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- M モードにしたとき（RZ550e）
- パーキングブレーキが作動したとき
- 運転席シートベルトを着用していないとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.378

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

クルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 白色		なし	クルーズコントロール OFF

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
緑色		設定速度：緑色	定速走行
緑色		設定速度：緑色反転表示	設定速度超過時

運転者の異常時に自動的に車線内で自車を停車させる

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）制御中のハンドル保持警告に運転者が反応しない場合も減速・停車します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。
- ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。
- システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。
- システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。
- 本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。
- ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況：→P.378

システム概要

本システムは 4 つの状態に分けられます。「警告 1 フェーズ」、「警告 2 フェーズ」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常/異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には「減速停車フェーズ」、「停車保持フェーズ」で自車を減速、停車させます。

知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

- システムが自動車専用道路と認識しているとき
  システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。
- LTA を ON にしているとき
  または、アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）制御中のとき
- 自車速が約 50km/h 以上
  アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）作動中は 50km/h 以下でも作動します

■ 作動解除条件

次のいずれかの状況では作動解除されます。

- LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）
- レーダークルーズコントロール制御がキャンセルされたとき
- ドライバ操作が検出されたとき（ハンドルを握る、ブレーキ操作、アクセル操作、パーキングブレーキ操作、非常点滅灯スイッチ操作、方向指示レバー操作）
- 自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき
- 停止保持中、シフトポジションを P にした状態で走行支援スイッチを押したとき
- パワースイッチを ON から OFF にしたとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.378

■ 作動解除時の LTA 制御

システムの作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされる場合があります。

警告 1 フェーズ

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー（断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、警告 2 フェーズに移行します。

ドライバ異常の検出状況によっては警告 1 フェーズを経由せず警告 2 フェーズから制御が開始される場合があります。

警告 2 フェーズ

ブザー（早い断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、ゆるやかに車速を減速させます。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、減速停車フェーズに移行します。

車両の減速時に道路環境等の要因によって、ストップランプが点灯する場合があります。

ある程度減速すると、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。

減速停車フェーズ

運転者が異常状態にあると判断し、ブザー（連続音）とディスプレイ表示で運転者に注意喚起を行うとともに、ゆるやかに減速して車両を停車させます。減速と同時に、ストップランプの点灯、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態であることをお知らせします。車両が停車すると停車保持フェーズに移行します。

停車保持フェーズ

停車後、パーキングブレーキが自動でかかります。引き続きブザー（連続音）で注意喚起を行うとともに、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーンによって周囲に緊急事態を知らせます。また、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請（ヘルプネット契約時のみ）を行います。

知識

■ ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

■ 作動解除後の機能制限

減速停車フェーズに移行後は、ドライバー異常時対応システムの作動が解除されていても EV システムを再始動するまで次の機能が使用できなくなります。

- LTA
- LCA
- アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）

⚠ 警告

ヘルプネット自動接続は、G-Link 通信エリア内、かつ G-Link 契約がされている場合にのみ行われます。G-Link 通信エリア外や G-Link 未契約、G-Link 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の G-Link 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

高速道路／自動車専用道路の渋滞時に運転をサポートする

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）

機能概要

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）は、運転者による状況確認のもと、一部を除く、高速道路・自動車専用道路の本線での車線維持・加減速・停車・発進を支援するシステムです。また、緊急時には減速・停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）を支援するセンサー

- 周囲の状況を検出するセンサー（→P.372）
- 運転者の状態を検出するセンサー（→P.372）

知識

■ システムの一部もしくは全てが作動しないとき

→P.378

■ ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

→P.378

■ ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況

→P.378

ドライバー異常時対応システム

→P.438

レーダークルーズ再発進可能時間延長

→P.428

渋滞時支援機能

渋滞時支援機能は、一部を除く、高速道路・自動車専用道路の本線において運転者による状況確認の下で車線維持・加減速・停車を支援するシステムです。

作動条件をすべて満たした場合、渋滞時支援機能が作動します。

システム作動中はハンドルから手を離すことが可能です。（→P.443）

レーダークルーズコントロール、LTA（レーントレーシングアシスト）の内容をご理解いただいた上で、渋滞時支援機能をお使いください。

サービスエリア／パーキングエリア、料金所などに進入する際や、車線変更時は運転者自身の操作で運転を行ってください。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 渋滞時支援機能は自動で運転するシステムではありません。

  本システムは道路の形状・状態・交通状況や運転者の状態に応じて、運転者への情報提供や運転支援を行います。常に周囲の状況を把握した上で、運転者の責任においてシステムを使用してください。
- 渋滞時支援機能は周囲の状況・道路の状態、運転者の状態によっては作動しない、または作動を中断することがあります。また、常に同じ性能を発揮できるものではありません。機能の作動条件をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
- 渋滞時支援機能の認識性能・制御性能には限界があるため、システム作動中であっても運転者自身の操作で安全を確保する必要があります。また本システムの操舵アシストは、渋滞中の緩やかな操舵に限定した機能であり、本機能作動中は LDA の逸脱抑制機能は作動しません。何らかの理由で車線を逸脱しそうになった場合は運転者は自らの責任で運転操作してください。
- システムが正常に作動していたとしても、運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり安全を委ねる運転をしたりすると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 渋滞時支援機能作動中でも運転者での操作が必要となる状況があるため、運転者自身で視界を確保する必要があります。
- 渋滞時支援機能は状況に応じてディスプレイ表示でハンドルの保持を促すことがあります。ハンドルを保持し、運転者自身の操作で安全を確保してください。
- 渋滞時支援機能は、次のものを検出しません。必要に応じて自らハンドル・アクセル・ブレーキなどの操作をし回避してください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - 路上落下物
  - 車線外（路肩など）にいる車両
  - くぼみ・陥没・ひび割れなどの破損した道路
  - 工事区間
  - 隣接する並走車両や壁
  - 動物

■ 機能を使用してはいけない状況

次のような状況では渋滞時支援機能を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- システムを OFF にする必要があるとき

  →P.370

⚠ 警告

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき
  →P.375
- 車線を検知できないおそれがあるとき
  →P.377

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では渋滞時支援機能が正常に作動しないおそれがあります。必要に応じて運転者自身で操作してください。

- 水しぶきがかかったとき
- 外気温が高温または低温のとき
- 自車の前方に割り込みがあったとき
- 合流してくる車線があるとき
- 見通しが悪い状況で走行しているとき
- 車両姿勢が変化しているとき
- タイヤの接地面の状態が、左右で著しく異なる場所を走行しているとき
- 中央分離帯がポール等で区切られている暫定供用区間や中央分離帯がない自動車専用道路を走行しているとき
- 自車と他車の速度差が大きいとき
- 地図情報が正常に更新されていないとき

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

→P.372

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

→P.373

■ フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について

→P.375

知識

■ 機能の作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

- システムが車線および先行車／周辺車の軌跡を認識しているとき
- レーダークルーズコントロールおよびLTAが作動しているとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 急なカーブを走行していないとき
- 車線中央付近を走行しているとき
- ドライバーの前方監視状態を検知しているとき

- 高速道路・自動車専用道路の本線にて渋滞走行しており、車速が約 40km/h 以下であるとき（渋滞開始時など、一部条件下では、約 30km/h 以下で機能が開始します）
- 運転席ドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを締めている
- アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）のカスタマイズが OFF に設定されていないとき
- システムを構成する機能や部品が正常な状態であるとき
- PCS カスタマイズが OFF に設定されていないとき
- レーダークルーズコントロールの再発進可能時間延長カスタマイズが OFF に設定されていないとき

■ 機能の一時解除

- 機能の作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- 機能作動中に作動条件が満たされなくなった場合、ブザー音と表示で一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。お知らせに対して運転者の反応がなかった場合、ドライバー異常時対応システムが作動することがあります。それぞれの表示の意味については以下をご覧ください。（→P.445）

■ 制御走行中の運転操作について

- アクセルペダル

  通常走行と同様、アクセルペダルを踏むことで加速できます。約 10km/h 以上で走行中にアクセルペダルを踏んだときには、機能が解除されます。
- ブレーキペダル

  通常走行と同様、ブレーキペダルを操作することができます。ただし、制御走行は解除されます。
- ハンドル

  通常走行と同様、ハンドルを操作することができます。一定以上ハンドルを操作すると、制御走行が解除されることがあります。

■ ディスプレイに警告メッセージが表示されているとき

- “Advanced Drive 使用できません 販売店で点検”

  渋滞時支援機能が正常に作動しなくなっているおそれがあります。販売店で点検をうけてください。
- “Advanced Drive 使用できません 停車支援機能 作動履歴有”

  ドライバー異常時対応システムが作動したため、一時的にシステムが使用できません。使用するには、パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしてください。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）の設定を変更する

渋滞時支援機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.759）

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

以下の表示を用いて渋滞運転支援システムの作動状態を示しています。

ディスプレイ表示	状態	対処
	渋滞時支援機能が作動中	—
 （灰色）	渋滞時支援機能終了を事前に告知	ハンドルを保持する
 （橙色）	渋滞時支援機能終了を告知	ハンドルを保持する
 （赤色）	レーダークルーズコントロール／LTA の両方、またはいずれかの作動が終了したことを通知	速やかに運転者自身でハンドルを保持し、運転操作を行う
 （黄色）	割り込みや周辺車両の動きに応じた運転操作が必要であることを告知	運転者自身で周辺環境に応じて、ハンドル・アクセル・ブレーキの操作を行う

後方にいる車両を検知して車線変更を支援する

BSM（ブラインドスポットモニター）

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

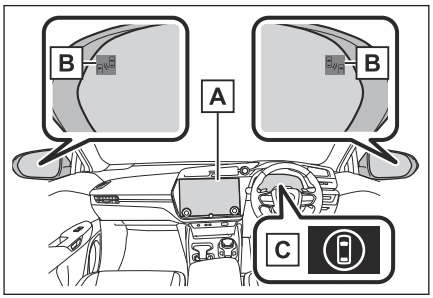
⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システム構成部品



A センターディスプレイ

ブラインドスポットモニターの ON／OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター（→P.334）が点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅し、ブザーが鳴ります。

C 運転支援情報表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.761）

■ 後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202-LSF078

C5-000-1

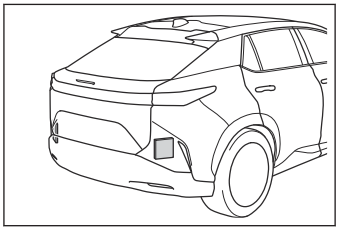
⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

  センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.449）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。



- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のリヤバンパーを塗装しない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける

  センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

⚠ 警告

- センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
- センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- センサーはリヤバンパー表面の塗装の影響を受けやすく、正しい修理をしないと警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。塗装修理の際はレクサス販売店にご相談ください。

ブラインドスポットモニターの ON／OFF を切りかえるには

ブラインドスポットモニターの ON／OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.761)

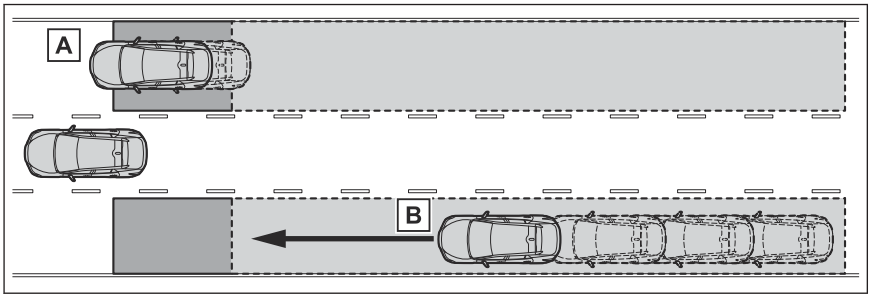
ブラインドスポットモニターが OFF になると、運転支援情報表示灯(→P.334)が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 走行中に検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

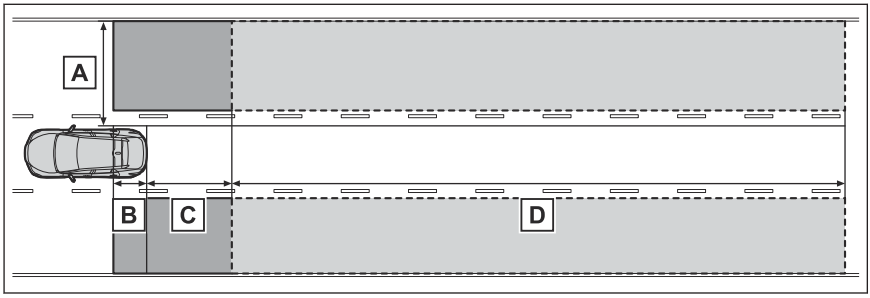


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域*1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域*2

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 70m の領域*3

■ 関連機能

隣の車線を走行する車両の検知を用いた機能が LDA（レーンディパーチャーアラート）にあります。本機能の作動条件などの詳細については、→P.402 を参照してください。

知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- ブラインドスポットモニターが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が約 10km／h 以上のとき

■ センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

*1: 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

*2: 自車が追いこされる場合には、リヤバンパーから約 3m 前方まで車両の検知を継続します。

*3: 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

■ **システムが検知しない条件**

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など*1
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物*1
- 同じ車線を走行する後続車*1
- 2 つ隣の車線を走行する他車*1
- 大きい速度差で自車が追いこす他車*1

■ **ブザーが鳴らない条件**

次のような状況では、方向指示レバーを操作していてもドアミラーインジケーターは点滅しますが、ブザーは鳴りません。

- 方向指示レバーを継続して操作したまま、2 台目の車両を検知したとき
- 大きい速度差で隣の車線を走行する他車を追い越すとき*2

■ **システムが正しく作動しないおそれがある状況**

- 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
  - センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
  - 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
  - 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
  - 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
  - 自車と後続車の車間距離が短いとき
  - 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
  - 自車と他車の速度差に変化があるとき
  - 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
  - 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
  - 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
  - きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
  - 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
  - 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
  - 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
  - ブラインドスポットモニターを ON にした直後

*1: 状況によっては検知をすることがあります。

*2: 状況によってはブザーが鳴ることがあります。

- けん引しているとき

● 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
- 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- タイヤがスリップ（空転）しているとき
- 自車と後続車の車間距離が短いとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- けん引しているとき

後方にいる作動対象を検知して音や画面で知らせたりドアの開放をキャンセルしたりして安全な降車を支援する

安心降車アシスト

安心降車アシスト（ドアオープン制御付）は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、各席乗員による降車時のドアと車両・自転車の衝突可能性の判断の支援、およびドア開放をキャンセルすることで、事故被害低減に貢献するシステムです。

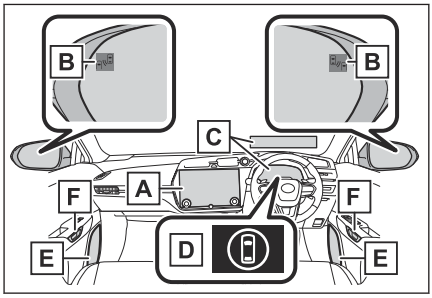
⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

  状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

安心降車アシストのシステム構成部品



A センターディスプレイ

安心降車アシストの ON／OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

開いたドア（バックドアを除く）と衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター（→P.334）が点灯します。検知している側のドアを開いた場合やドア開放をキャンセルした場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C マルチインフォメーションディスプレイ

衝突の可能性がある状態でドアの開放をした場合やドアの開放がキャンセルされた場合に対象のドアをメーターに表示します。また、ドアミラーインジケーターが点灯した状態でドアが開けられた場合などは、上記に加えてブザーで警報を行います。

D 運転支援情報表示灯

安心降車アシストが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

E スピーカー

ドアミラーインジケーターが点滅した場合に音声にてシステムが作動したことを通知します。音声による通知が行われた後は、そのドアが全閉されるまで音声による再通知は実施されません。

F ドア開スイッチ（手動リリースハンドル）

ドアミラーインジケーターが点灯中、ドア開スイッチでドアを開けようとしたときに、降車時のドアと車両・自転車の衝突の可能性が高い場合は、ドア開放がキャンセルされます。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ 音声の通知について

以下のとき、音声による通知は実施されません。

- 車内に乗員がいないと推定されるとき*1
- ドアを開いて乗車後、EV システムを始動するまで
- EV システム停止後 3 分以上経過したとき
- センターディスプレイの言語設定で音声発話に対応していない言語が設定されているとき
- 外部より全ドアが施錠されているとき
- EV システム停止後、同一のドアが開いている状態が 1 分以上継続しているとき
- センターディスプレイの ACC カスタマイズ（→P.767）が ON の状態で、EV システムが停止しているとき
- センターディスプレイの駐車支援音量設定が OFF となっているとき

■ ドア開放キャンセルについて

車内側ドア開スイッチを押下した時のみ、ドア開放をキャンセルします。車外側ドア開スイッチでのドア開放はキャンセルされません。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.762）

*1: 各席毎に、走行前のドア開閉で乗車、走行後のドア開閉で降車と判断します。

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.447

安心降車アシストの ON／OFF を切りかえる

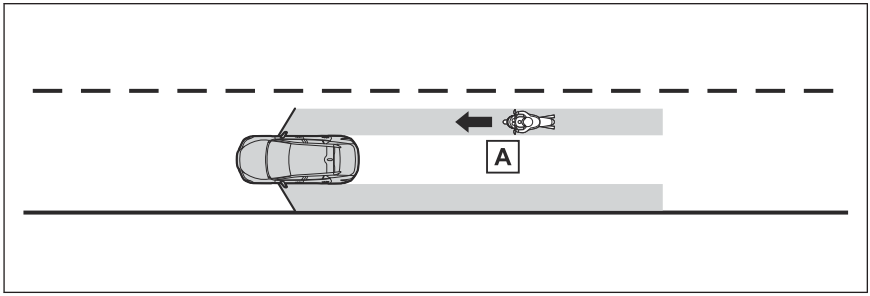
安心降車アシストの ON／OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.762)

安心降車アシストが OFF になると、運転支援情報表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。パワースイッチが ON になるたび、安心降車アシストは ON になります。*1

安心降車アシストの作動

安心降車アシストが検知できる対象

安心降車アシストは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、ドアミラーインジケーター、ブザー、メーターの表示、および音声通知によってその車両の存在を乗員に知らせます。

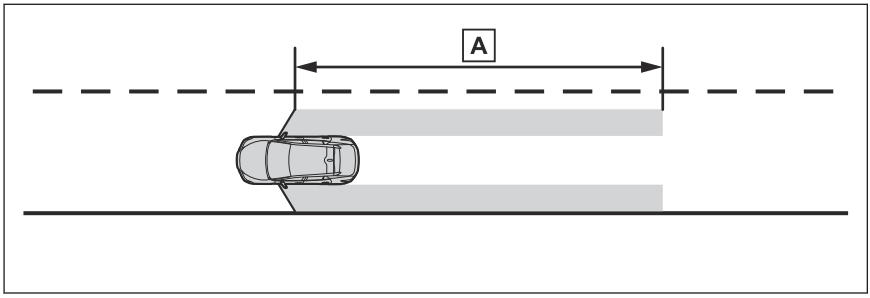


A ドア（バックドアを除く）を開けたときにドアと衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

安心降車アシストが検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。

*1：パワースイッチ OFF 後、すぐにパワースイッチを ON にした場合は、安心降車アシストが ON にならない場合があります。



A フロントドアから後方約 45m の領域[*1]

知識

■ 安心降車アシストの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワーシステムが ON のとき、EV システム OFF 後 3 分以内、およびドアを開けて車内に乗り込んでから 3 分以内（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間がさらに延長される場合があります）
- 安心降車アシストが ON のとき
- 停車中
- シフトポジションが R 以外のとき

■ センサーが車両を検知する条件

安心降車アシストは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドア（バックドアを除く）を開けた範囲付近を通過するとき

■ システムが車両を検知しない条件

- 安心降車アシストは、次のような車両・自転車や車両・自転車以外のものを検知対象としません。
  - 接近する車両・自転車の速度が遅いとき[*2]
  - ドア（バックドアを除く）を開いたときに、衝突する可能性が低いと判断された車両・自転車[*2]
  - 真うしろから接近する車両・自転車[*2]
  - 前方から接近する車両・自転車[*2]
  - ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物[*2]
  - 歩行者・動物など[*2]
- 安心降車アシストは、次のような状況では作動しません。

*1: 接近する車両・自転車の速度が速いほど、ドアミラーインジケーターは車両・自転車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

*2: 状況によっては検知をすることがあります。

- EV システム OFF 後に 3 分以上経過した場合（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間が延長される場合があります）
- 自車が完全に停車していないとき

■ システムがドア開放をキャンセルしたときの開き方

次の操作で、ドアを開くことができます。

接近してくる車両・自転車が通過または進路変更した後、周囲を確認してから再度車内のドア開スイッチを押してください。緊急時など警報中にドアを開きたい場合のみ、周囲の安全を確認したうえで下記の操作を実施してください。

- 車内のドア開スイッチを約 3 秒以上押し続ける
- 車内のドア開スイッチを 3 回以上連続で素早く押す
- 手動リリースハンドルを引く

■ システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両や自転車を有効に検知しないおそれがあります。
  - センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
  - 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
  - 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面に停車しているとき
  - 隣の駐車車両に後続する車両や自転車
  - 後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
  - 発進した直後の車両や自転車
  - バックドアが開いているとき
  - 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
  - 後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
  - 道路に対して傾いて停車しているとき
  - 接近する車両や自転車の周囲に走行する車両があるとき
  - 接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
  - 車両や自転車が高速で接近するとき
  - けん引しているとき
  - 急勾配の坂道に停車しているとき
  - カーブの途中や終了地点に停車しているとき
- 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
  - センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
  - 自車の後方からずれた状態で車両や自転車が接近するとき
  - 道路に対して傾いて停車しているとき

- 斜めに駐車している後方を車両や自転車が接近するとき
- 後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
- 後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
- 接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
- バックドアが開いているとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
- 車両や自転車が高速で接近するとき
- けん引しているとき
- 急勾配の坂道に停車しているとき
- カーブの途中や終了地点に停車しているとき
- 隣接車線に停止している車両の後ろから車両や自転車が接近するとき

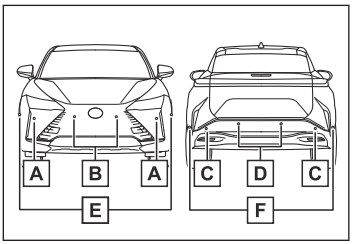
低速時に障害物との接近を検知して音と画面で知らせる

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、センターディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類



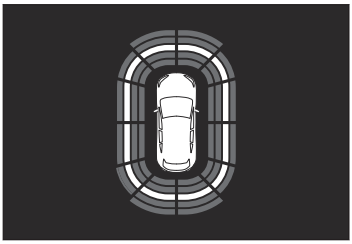
A フロントコーナーセンサー
B フロントセンターセンサー
C リヤコーナーセンサー
D リヤセンターセンサー
E フロントサイドセンサー
F リヤサイドセンサー

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、センターディスプレイに表示されます。

イラストは説明のための例であり、仕様により異なります。

▶ センターディスプレイの表示



■ クリアランスソナー検知表示灯★

静止物を検知するとクリアランスソナー検知表示灯が点灯します。

知識

■ クリアランスソナー検知表示灯の有無について

クリアランスソナーが OFF の状態でシフトポジションを R にしたとき、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.459）が消灯する車両はクリアランスソナー検知表示灯があります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの ON／OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON／OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.761）

クリアランスソナー機能が OFF の時は、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.334）が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.761）から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。

（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

またこのとき、クリアランスソナー機能の ON／OFF を切りかえることができません。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はレクサス販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- 純正品以外のサスペンションを取り付けないでください。

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■ 作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- フロントコーナーセンサー：
  - シフトポジションが P 以外にあるとき
- フロントセンターセンサー：
  - シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- リヤコーナー、リヤセンターセンサー：
  - シフトポジションが R にあるとき
- サイドセンサー：
  - EV システム始動後、車両が 7m 前進するあいだ
  - シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ
  - シフトポジションが R のとき
  - VIEW が押され、センターディスプレイが表示されているとき
  - フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき
- クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF（非作動）に設定している場合でも、自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

  クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- 他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- メーター故障時はブザーの音が鳴らないことがあります。

■ システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

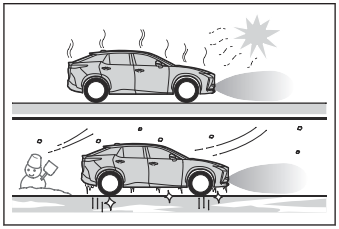
特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）

  特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時



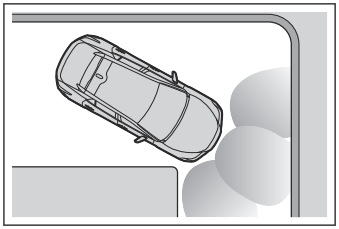
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき
- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

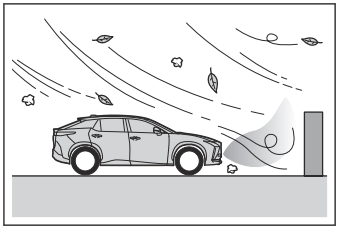
■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 狭い道路を走行するとき

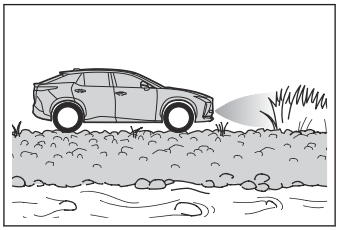


- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴があるとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

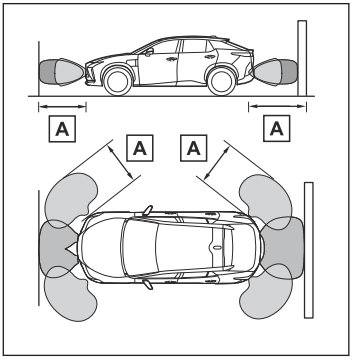
● 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
● 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



● タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
● けん引しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 200cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー：約 200cm～100cm リヤセンターセンサー：約 200cm～150cm コーナーセンサー： 約 200cm～60cm	なし（表示のみ）
フロントセンターセンサー：約 100cm～60cm(1) リヤセンターセンサー：約 150cm～60cm(1)	断続音
フロント/リヤセンターセンサー、コーナーセンサー：約 60cm～45cm(1)	速い断続音
フロント/リヤセンターセンサー、コーナーセンサー：約 45cm～30cm(1)	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

(1) 自動ミュート機能あり（→P.464）

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。

  静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音“ピピ”から連続音“ピー”になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります
- 断続音ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

知識

■ ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.761）

■ ブザー音の一時ミュート（消音）について

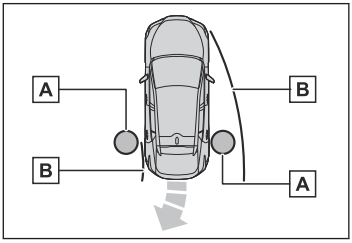
センターディスプレイに一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

クリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

- 次のとき、自動でミュート（消音）が解除されます。
  - シフトポジションを切りかえたとき
  - 車速が一定値以上になったとき
  - センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
  - 使用中の機能を OFF にしたとき
  - パワースイッチを OFF にしたとき

巻き込み警報機能

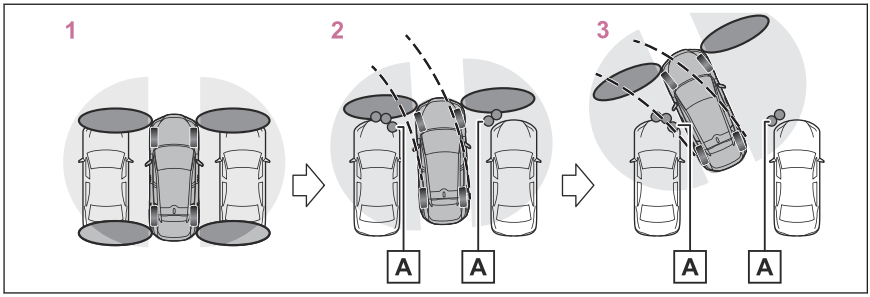
サイドエリアの静止物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。



A 静止物

B 計算した車両経路

走行中にサイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を検知します。車両が移動して静止物がサイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置にあった場合も、車両の位置を計算することで静止物の位置を算出し、車両の経路内に静止物がある場合に、巻き込み警報機能が作動します。



A サイドセンサーまたはサイドカメラで検知した静止物

1 停車時はサイドエリアの静止物の検知は行いません。

2 車両移動中に静止物を検知

3 サイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を直接検知していない状態でも、表示とブザーで知らせます。

知識

■ 巻き込み警報機能の作動条件

- EV システム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ
- シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ
- シフトポジションが R のとき
- VIEW が押され、センターディスプレイが表示されているとき
- フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき

■ サイドエリアの静止物の検知について

- サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。
- サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

⚠ 警告

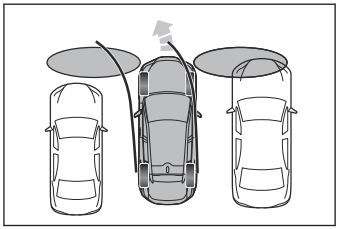
■ サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

⚠ 警告

- パワースイッチを ON にした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。

  下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み防止警報機能は作動しません。



- サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいるとき
- サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきたとき
- ドアミラーが閉じられているとき
- 補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

低速時に後方の接近車両を検知して音と画面で知らせる

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

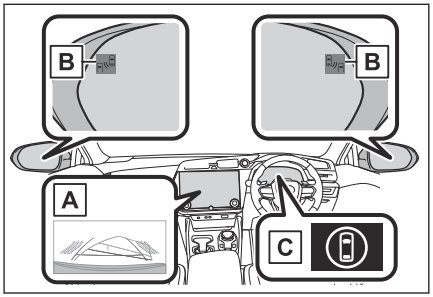
RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→P.447

システムの構成部品



A センターディスプレイ

センターディスプレイ上で RCTA 機能の ON／OFF を切りかえます。

また、自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイに検知した側の RCTA アイコン（→P.469）が点灯します。イラスト*1 は両後方から車両が接近している例です。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーター（→P.334）が点滅し、ブザーが鳴ります。

*1：表示画面は、グレード、オプションなどにより異なる場合があります。

C 運転支援情報表示灯

RCTA が OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

設定のしかた

RCTA の ON／OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.762)

RCTA 機能が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.334）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。パワースイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

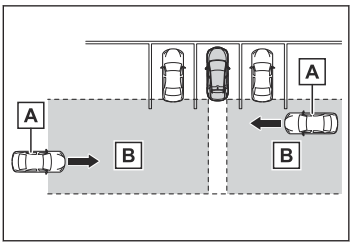
■ 後側方レーダーセンサーについて

→P.447

RCTA 機能

RCTA 機能の作動

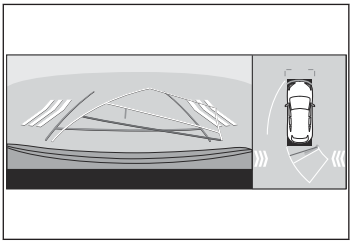
RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

RCTA アイコンの表示

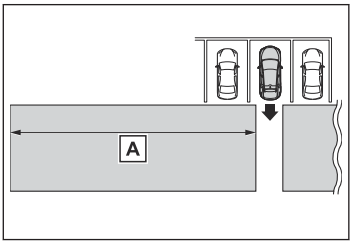


自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイ上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき

RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56 km／h（速い）	30 m
8 km／h（遅い）	4 m

知識

■ RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- RCTA 機能が ON のとき
- シフトポジションが R のとき
- 自車の車速が約 15 km／h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8 km／h～56 km／h のあいだのとき

■ ブザーの音量調整について

カスタマイズメニューから、RCTA、クリアランスソナー、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.761）

■ **ブザー音の一時ミュート（消音）**

作動対象を検知した場合、センターディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

これを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

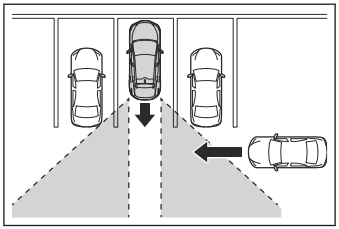
一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

■ **システムが検知しない車両について**

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両



- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物[*1]
- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など[*1]
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両[*1]
- センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

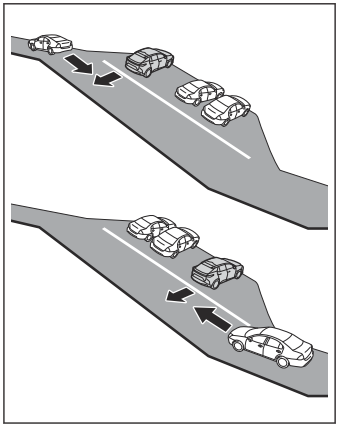
■ **システムが正常に作動しないおそれがある状況**

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

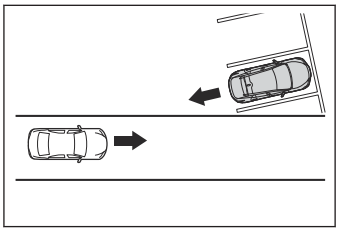
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車両が高速で接近するとき

*1：状況によっては検知をすることがあります。

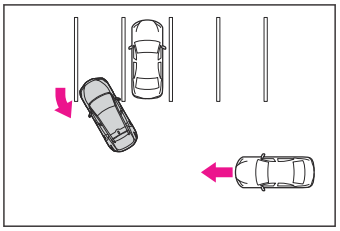
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



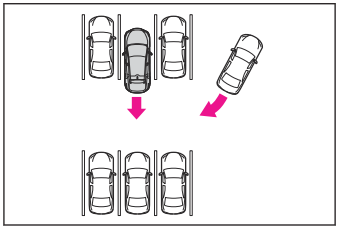
- 斜めの駐車場から出庫するとき



- RCTA 機能を ON にした直後
- RCTA 機能を ON にした状態で、EV システムを始動した直後
- 障害物のためにセンサーが車両を検知できないとき
- けん引しているとき
- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 自車が旋回しているとき



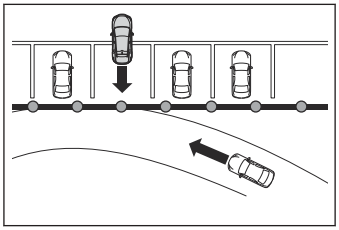
● 旋回しながら車両が近付いてきたとき



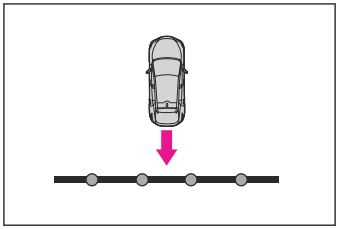
■ **衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

● 駐車場に面した道を車両が走行しているとき

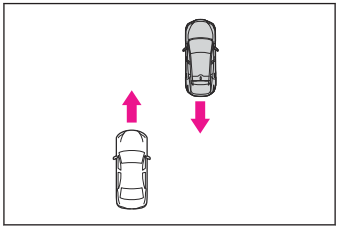


● 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

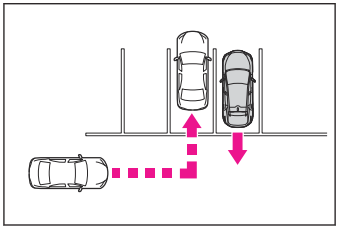


● センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

● 車両が自車の横を通過するとき



- 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- 自車近くに室外機などの回転体があるとき
- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき
- 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- グレーチングや側溝
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- けん引しているとき

低速時に後方歩行者の接近を検知して音と画面で知らせる

RCD（リヤカメラディテクション）

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとセンターディスプレイ上の表示により注意喚起を行います。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

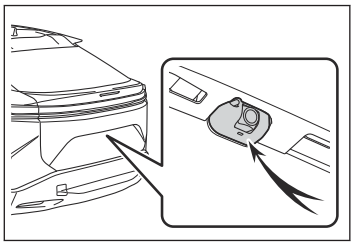
- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリー・ステッカーを付けないでください。
- リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- バックドアを完全に閉めてください。

■ RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

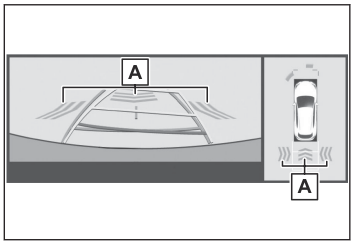
- 上記の内容が守られないとき
- 純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

システムの構成部品



リヤカメラの位置

RCD の表示



A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

システムを作動させるには

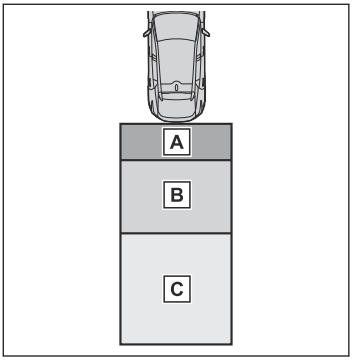
RCD の ON／OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.763)

RCD が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.334）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、RCD は ON になります。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとセンターディスプレイの歩行者検知表示で運転者に注意を促します。



A 歩行者がAエリアにいるとき

ブザー：くり返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

B 歩行者がBエリアにいるとき

ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴

ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：くり返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

C Cエリアにいる歩行者と自車が、接触する可能があるとシステムが判断したとき

ブザー：くり返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

知識

■ 作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- RCD 機能が ON のとき
- シフトポジションが R にあるとき
- Advanced Park が作動中でないとき

■ ブザーの音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.761）

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、センターディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

スイッチを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば、次のような歩行者はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
  - 前かがみになっている、またはしゃがんでいる人

- 寝転んでいる人
- 走っている人
- 自車や建物の影から突然現れる歩行者
- 自転車やスケートボードなどに乗っている人
- 合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
- カートや荷物、傘などにより体の一部が隠れている歩行者
- 夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

● 例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 悪天候（雨、雪、霧など）
- レンズに汚れ（泥、融雪剤など）や傷があるとき
- 強い光がカメラに直接あたっているとき
- 明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近など）
- 夜間（日没後）や薄暗い駐車場
- カメラの位置や向きがずれているとき
- けん引フックを取り付けているとき
- カメラレンズ上に水滴が流れているとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- リヤカメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けているとき
- リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けているとき
- けん引しているとき

■ **システムが作動するおそれがあるとき**

● 例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

- 立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両など）
- 移動物（通行車両、バイクなど）
- 動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水など）
- 路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利など）
- 金属のフタ（グレーチング）や側溝
- 水たまりや濡れた路面への物体の映り込み

- 影

● 例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
  - 路肩や段差があるとき
  - 勾配変化があるとき
  - 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
  - リヤカメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けているとき
  - リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けているとき
  - カメラの位置や向きがずれているとき
  - けん引フックを取り付けているとき
  - カメラレンズ上に水滴が流れているとき
  - カメラが汚れているとき（泥、融雪剤など）
  - 点滅する光源があるとき（ハザードランプなど）
  - タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
  - けん引しているとき
● 検知を妨げる状況
  - オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります
  - 高温／低温環境では、センターディスプレイの表示が見にくい場合があります

低速時に障害物との接近を検知してブレーキをかける

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ抑制で作動対象との衝突被害の低減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

- パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）（→P.483）
- パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）（→P.487）
- パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）（→P.489）
- パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）（→P.483）

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■ パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

⚠ 警告

- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を利用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■ サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキの ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます（→P.763）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.334）点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF（非作動）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー(→P.763)から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。

（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

EV システム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

EV システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、センターディスプレイおよびマルチインフォメーションディスプレイに、システムによる加速制限を示すメッセージや、ブレーキ操作を促すメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

- EV システム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

  一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

  センターディスプレイ表示：表示なし

  マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“加速抑制中です”

  運転支援情報表示灯：消灯のまま

  ブザー：吹鳴なし

● EV システム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

センターディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

センターディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

センターディスプレイ表示例：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください”、“ブレーキを踏んでください”

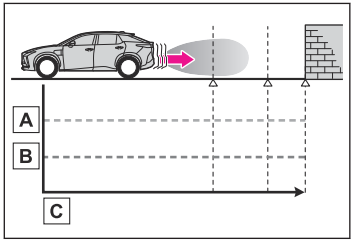
運転支援情報表示灯：点灯

ブザー：ピピピピ（連続音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、EV システムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（EV システム出力抑制制御：図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1 （PKSB［パーキングサポートブレーキ］非作動時）

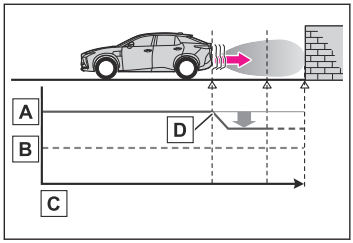


A EV システム出力

B 制動力

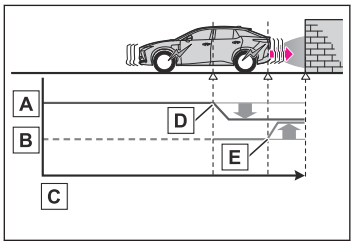
C 時間

● 図 2（EV システム出力抑制制御時）



A EV システム出力
B 制動力
C 時間
D EV システム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

● 図 3（EV システム出力抑制制御かつブレーキ制御時）



A EV システム出力
B 制動力
C 時間
D EV システム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）
E ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき）

知識

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動後の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したときに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度 PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にするか、パワースイッチをいったん OFF にしてから、再度 ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。（→P.332）

- シフトポジションを P にする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- 車両の進行方向を切りかえる

■ クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON／OFF に関係なく(→P.459)、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ(→P.480)、ブレーキ制御と EV 出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

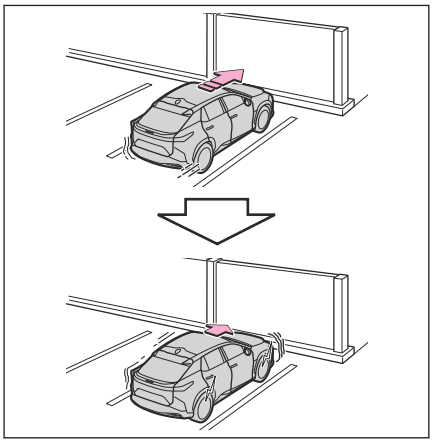
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物/周囲静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

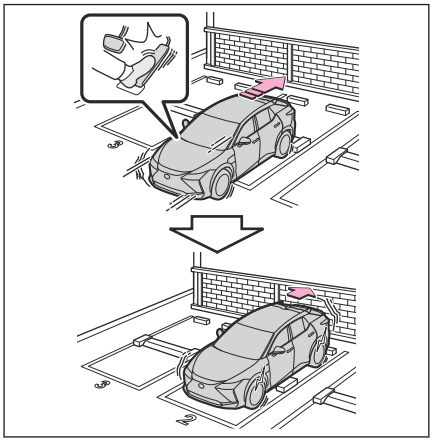
システム作動例（前後方静止物）

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

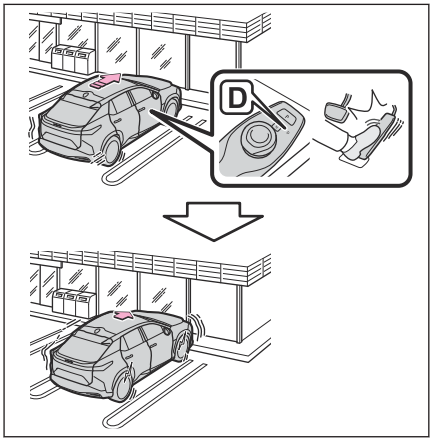
■ **低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



■ **アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき**



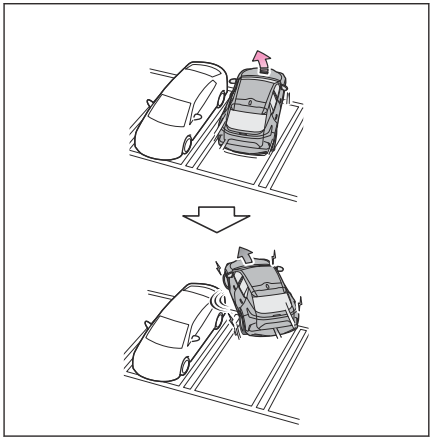
■ 誤ってシフトポジションを D にして前進してしまったとき



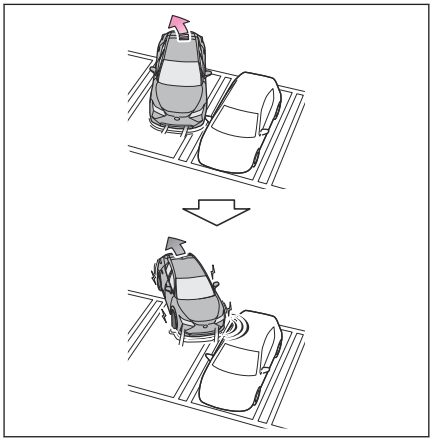
システム作動例（周囲静止物）

次のようなときに周囲の静止物を検知してシステムが作動します。

■ 前進中に内輪差で巻き込みによる衝突



■ 後退中に外輪差で巻き込みによる衝突



センサーの種類

■ センサーの種類

→P.458

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.459

■ 万一、踏切などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→P.482

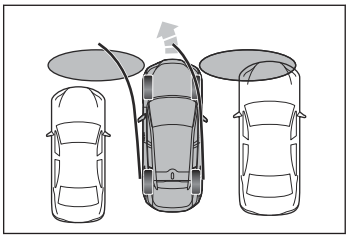
■ 洗車時の注意

→P.459

■ サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）が正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- パワースイッチを ON にした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）は作動しません。



⚠ 警告

- サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいるとき
- サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきたとき
- ドアミラーが閉じられているとき
- 補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの格納・復帰を実施してください。

知識

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯(→P.332)しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- EV システム出力抑制制御
  - PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
  - 車速が約 15km/h 以下
  - 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2～4m 先まで）
  - 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき
- ブレーキ制御
  - EV システム出力抑制制御作動中
  - 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）の作動開始条件

前後方静止物の作動条件に加えて、次の条件のいずれかを満たすと作動します。

- EV システム始動後、車両が 7m 前進するあいだ
- シフトポジションが R のとき
- シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- EV システム出力抑制制御
  - PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
  - 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
  - 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2～4m 先まで）
- ブレーキ制御
  - PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
  - ブレーキ制御により車両が停止して約２秒が経過したとき

- ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2～4m 先まで）

■ **パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲について**

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.463）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）は作動を開始していない場合があります

■ **システムが正常に作動しないおそれのある状況**

→P.461

■ **衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

→P.462

■ **衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況（周囲静止物）**

前後方静止物の作動条件（→P.486）に加えて、次のような状況では、センサーが検知しない恐れがあります。

- 縦列駐車時など側方の幅寄せする場合（→P.509）

■ **サイドエリアの静止物の検知について**

- サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。
- サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

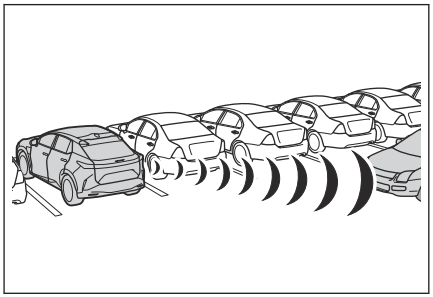
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ 後退時、車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.446

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.447

知識

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯(→P.332, 642)しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- EV システム出力抑制制御
  - PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
  - 車速が約 15km/h 以下
  - 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
  - シフトポジションが R のとき
  - 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき
- ブレーキ制御
  - EV 出力抑制制御作動中
  - 後側方からの接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- EV システム出力抑制制御
  - PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき

- 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- 自車後側方への接近車両がなくなったとき

● ブレーキ制御

- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■ **システムが正常に作動しないおそれのある状況**

→P.470

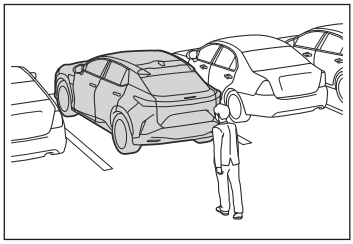
■ **衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

→P.472

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

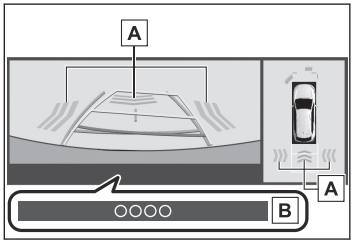
システム作動例



後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。

後方歩行者の画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的にセンターディスプレイ上に表示され、ブレーキ操作を促します。



A 歩行者検知表示
B 例："ブレーキ!"

⚠ 警告

■ 万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→P.474

知識

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯(→P.332)しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します

- EV システム出力抑制制御
  - PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
  - 車速が 15km/h 以下
  - シフトポジションが R のとき
  - 自車後方に歩行者がいるとき
  - 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき
- ブレーキ制御
  - EV システム出力抑制制御作動中
  - 後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- EV システム出力抑制制御
  - PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
  - 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
  - 後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき
- ブレーキ制御
  - PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
  - ブレーキ制御により車両が停止して約２秒が経過したとき
  - ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.482

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.475）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→P.476

■ システムが作動するおそれがあるとき

→P.477

Advanced Park メインスイッチを押して駐車操作を支援する

Lexus Teammate Advanced Park の機能概要

Advanced Park は、画面表示や音声／ブザー音による操作案内および、ハンドル操作、アクセル、ブレーキ、シフトチェンジの全操作を車両が支援するとともに、俯瞰映像に車両周辺の死角や目標駐車位置などを常に表示し、安全／安心でスムーズな駐車や出庫を実現するシステムです。

また、パノラミックビューモニター*1 で、障害物の位置をディスプレイのカメラ映像上に表示することで、運転者に周辺状況をわかりやすく伝えます。

アシストが開始してから目標駐車位置到達まで方向指示灯を自動的に点滅させることにより、周囲へ駐車中であることをお知らせします。

駐車時の路面や自車の状況／目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

Advanced Park は、その地域の道路交通法及び規則に従ってご使用ください。

■ リモート機能

Advanced Park のリモート機能は、車外からスマートフォンを操作することで、ハンドル、シフトポジション、アクセルとブレーキ操作を遠隔でアシストし、画面上で確認した目標駐車位置付近への駐車や出庫を補助するシステムです。

前後移動機能を除き、アシストが開始してから目標駐車位置到達まで方向指示灯を自動的に点滅させることにより、周囲へ駐車中であることをお知らせします。

使用前のご準備：→P.523

機能一覧

■ 並列前向き／バック駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。(→P.504)

■ 並列前向き／バック出庫機能

並列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。(→P.507)

■ 縦列駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。(→P.509)

*1：パノラミックビューモニターの詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 縦列出庫機能

縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。(→P.512)

■ メモリ機能

事前に登録した駐車スペースまでアシストを行います。(→P.514)

■ リモート機能

車外からスマートフォンを操作することで、画面上で確認した目標駐車位置付近への駐車や出庫を補助します。(→P.520)

知識

■ 商標について

Bluetooth®ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。トヨタ自動車株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。
- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。必要であれば、減速、停車のためにブレーキを踏んでください。

  リモート機能を使用している場合は、リモート機能用のスマートフォン専用アプリ（以降、専用アプリ）の操作をやめて車両を停車させてください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできないことがあります。
- 本システムは適切な経路で切り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、運転者が不安に感じた場合は、任意のタイミングでブレーキを踏んでからシフトポジションを切りかえてください。ただし、切り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。
- 次のようなもの／場合は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキを踏んで停車してください。

  リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。
  - 細いもの（針金／フェンス／ロープ／ポールなど）や接近する角度によって細く見えるもの（看板／自転車など）

⚠ 警告

- 音波を吸収しやすいもの（綿／雪など）
- 鋭角的な形のもの（ブロック塀や柱、壁の角など）
- 背の低いもの（縁石やブロック、階段、車止めなど）
- 背が高く上部が張り出しているもの（梁など）
- 地面に対し垂直でないもの
- 障害物に対して斜めに接近するとき

- 駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることがあります。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときや、車止めを乗り越えそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを押してシステムを中止してください。

  リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。
- センターディスプレイだけを見ながら走行することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て走行すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。走行するときは、必ず目視やミラーなどで周辺の安全を直接確認してください。
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。とくに動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。
- 次のとき、Advanced Park による停車保持が解除され、車両が動き出すおそれがあります。思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちにブレーキペダルを踏んでください。

  リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。
  - 作動中に運転席のドアが開けられたとき
  - 作動中に一定時間システムの指示に従わなかったとき
  - 作動中に一定時間ブレーキペダルを踏んで停車しているとき
  - 作動中に故障が発生したとき
- 使用中はハンドルが回転するため、次の点に注意してください。
  - ネクタイ／スカーフ／腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近づけないでください。また、お子さまがハンドルに近づかないよう注意してください。
  - 爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。
  - 万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを押してシステムを中止してください。

    リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。

⚠ 警告

● 使用中は窓から手を出さないでください。

■ **Advanced Park を正しく作動させるために**

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 次のような状況では使用しないでください。

- 駐車場以外の場所
- 砂地／砂利地のような駐車スペースのない整備されていない駐車場
- 傾斜／段差／穴／側溝のある平坦でない駐車場
- 機械式駐車場
- 車両下部に接触して固定する装置がある駐車場
- 凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
- 真夏の炎天下でアスファルトがとけているようなとき
- 車両周辺に障害物があるとき
- 目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき
- 人や車両などの通行量が多いとき
- 駐車スペースの確保が困難な場所（車両が入らないほど狭いなど）
- カメラのレンズの汚れ／西日／影／雪などで画面が見にくいとき
- タイヤチェーン／応急用タイヤを使用しているとき
- ドアまたはバックドアが完全に閉まっていないとき
- 窓から手を出しているとき
- 降雪や豪雨のとき

● メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。Advanced Park が正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときはレクサス販売店にご相談ください。

● 次のような状況では、設定した位置にアシストできなかったり、システムが正常に作動しない場合があります。

- タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき
- 極端に重いものを積んでいるとき
- 車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき
- 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき
- タイヤを縁石などに強く当てて、ホイールアライメントが正常でないとき
- アシスト中に歩行者や通行車両を検知したとき

⚠ 警告

- けん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 区画線と認識してしまうようなもの（光／建物の映り込み／段差／側溝／路面ペイント／引き直し線など）があるとき

上記以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ リモート機能を使用するとき

- リモート機能は Advanced Park の関連機能です。リモート機能を公道で使用する場合は、その地域の道路交通法及び規則に従ってください。
- 専用アプリの注意事項に同意いただいた方のみリモート機能がご利用いただけます。
- リモート機能は運転操作の一部です。必ず運転免許証を保有している運転者が操作してください。専用アプリ使用時は電子キーを必ず携帯してください。 操作中は専用アプリ画面を注視せず、車両周辺を直接ご確認ください。緊急時には操作を中断し、車両を停止させてください。
- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。
- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。
- ボンネットが閉じていることをご確認の上、ご使用ください。
- リモート機能は、駐車や出庫の操作をスマートフォンによる遠隔操作でアシストするシステムです。リモート機能を使用するときは、運転者が電子キーとスマートフォンを保持した上で、 車両周辺の安全確認を行ってください。
- リモート機能使用中はスマートフォンの操作をやめることで車両を停止することができます。また、専用アプリで停止操作を行うことや電子キーを使った解錠やドアを開けることでも車両を停止することができます。
- 障害物などに接触しそうなときは、スマートフォンの連続操作をやめて、必要に応じてリモート機能を中止してください。
- スマートフォンの操作方法によらずシステムで一定の速度となるように制御されます。
- スマートフォンの画面を注視して、車両を走行させることは絶対にしないでください。
- 走行時は必ず目視で周辺の安全を直接確認してください。
- 車内に人やペットが残っている状態でリモート機能を使用しないでください。
- 万一の時は電子キーのスイッチを操作するか、ドアを開けて車両を停止させてください。
- リモート機能を使用する際は、スマートフォンと最新の専用アプリが必要です。

  アプリストアから、専用アプリをダウンロードしてください。
- 専用アプリへの車両登録時は車両と接続している他のアプリを OFF にしてください。

⚠ 警告

- リモート機能を使用する場合は、Apple CarPlay/Android Auto™の接続を OFF にしてください。
  - Apple CarPlay は、米国および他の国々で登録された Apple Inc.の商標です。
  - Android Auto™は、Google LLC の商標です。
- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- リモート機能作動中は平坦で滑りにくい路面でのみ使用してください。駐車スペースが下り坂または上り坂にあるような場合では使わないでください。
- リモート機能使用中に故障またはシステムの限界が検知された場合は、以下の処理が自動的に行われます。
  - アシストを中止する
  - 車両を停止する
  - シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかける
  - パワースイッチを OFF にする（一部の故障ではパワースイッチを OFF にしない、またはできないことがあります。スマートフォン上のメッセージに従って乗車し、処置を実施してください。）
  - 車両が施錠されたままになる
- リモート機能開始時は電子キーのワイヤレス機能で解錠操作をしてください。
- リモート機能使用中は、運転者は車両から約 3m 以上離れて立たないでください。それ以上離れると、リモート機能が中断され、メッセージがスマートフォン上に表示されます。車両に近づくとリモート機能を再開できます。
- 周囲が暗い場合はヘッドライトを自動で点灯します。
- 異常終了時は非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。非常点滅灯の消灯条件は以下項目です。
  - ドアを開く
  - 非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅開始から 3 分が経過
- 以下の車両状態からのみリモート機能を開始できます。
  - EV システム始動中に、アシストモードを選択後
  - パワースイッチが OFF の時

⚠ 注意

■ Advanced Park をお使いいただくために

補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

⚠ 注意

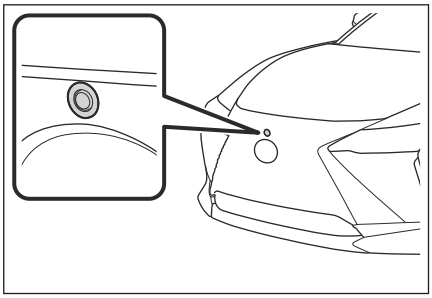
■ リモート機能を使用するとき

- 使用前にスマートフォンの電池残量をご確認ください。リモート機能作動中にスマートフォンの電池が切れてしまうとアシストを中断します。また、開始時にスマートフォンの電池残量が 20%以上ない場合、リモート機能をご利用いただけません。
- 使用前にスマートフォンの Bluetooth®を ON にしてください。Bluetooth®接続機能 OFF の状態ではリモート機能をご利用いただけません。
- 使用中にスマートフォンの Bluetooth®を OFF にしたり、マルチメディアシステムとの接続を OFF にしないでください。車両と Bluetooth®接続できていない状態ではリモート機能を使用できません。
- リモート機能使用中に電話がかかってきた場合など、他のアプリが起動した場合はリモート機能は中断します。3 分未満で専用アプリの利用を再開すればアシストを再開できます。3 分以上経過した場合はアシストを中止します。
- リモート機能使用中にスマートフォンのホームボタンや電源ボタンを押して、画面ロック状態になった場合はリモート機能を中断します。3 分未満で専用アプリの利用を再開すればアシストを再開できます。3 分以上経過した場合はアシストを中止します。
- リモート機能使用中に専用アプリを強制終了しないでください。強制終了した場合はアシストを中止します。
- 低温環境下では、補機バッテリー充電のため、システム開始までに時間がかかる場合があります。
- 補機バッテリーの電圧が低下した場合、アシストを中止します。
- 下り勾配では、平坦な道路に比べ走行車速が遅くなり、障害物までの接近距離が遠くなります。
- システム異常時には、シフトポジションが P またはパーキングブレーキで車両を停車後、パワースイッチを OFF してシステムを中止することがあります。その場合は、レクサス販売店で点検を実施してください。
- システム不調時には、一時的にアシストを中断する場合があります。 システムが復帰すれば再開できますので、スマートフォン画面の内容に従い再開操作をしてください。
- リモートスタートが作動している場合はリモート機能が正常に作動しない場合があります。
- リモート機能終了時は法規によりパーキングブレーキをロックします。凍結によりパーキングブレーキを解除できない場合がありますので、寒冷地でのご使用はお控えください。また、凍結した場合、パーキングブレーキ解除時に音がする場合がありますが性能に問題はありません。
- 電池切れの電子キーではリモート機能を使用しないでください。

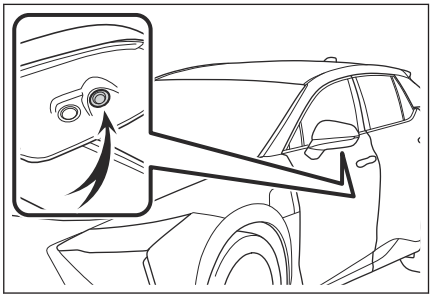
Advanced Park で使用するカメラとセンサーの種類

カメラとセンサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

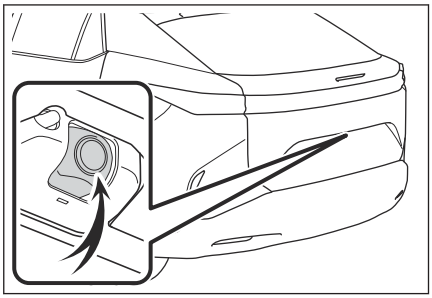
▶ フロントカメラ



▶ サイドカメラ



▶ リヤカメラ



▶ センサー

→P.458

知識

■ カメラの映像について

特殊なカメラを使用しているため、実際と異なる色味で表示されることがあります。

■ 使用上の注意点について

次の内容は、別冊「マルチメディア取扱説明書」のパノラミックビューモニターを参照してください。

● 画面の映る範囲について

● カメラについて

● 画面と実際の路面との誤差について

● 画面と実際の立体物との誤差について

■ **カメラとセンサーの検知範囲について**

● 駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。

● 柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

■ **区画線認識が正常に作動しないおそれのある状況**

● 次のような状況では、路面の区画線を検出することができない場合があります。

- 区画線のない駐車場（駐車スペースがロープ、ブロックなどでつくられている場合）
- 区画線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
- 路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に白線など）
- 路面の区画線が黄色と白以外の色のとき
- 夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
- 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
- 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
- 積雪や融雪剤があるとき
- 路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
- 路面の色や明るさが一様でないとき
- カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
- 自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき
- カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

● 次のような状況では、目標駐車位置を誤認識する場合があります。

- 路面補修痕、路面標示などや車止め、ポールなどの障害物があるとき
- 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
- 車両周辺が暗いときや逆光のとき
- 路面の色や明るさが一様でないとき
- 勾配がついている駐車場
- ゼブラゾーンのある駐車スペース
- 駐車車両の影響を受けてしまったとき（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップなど）
- カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき

- 区画線のかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
- 自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき

■ センサーの検知について

→P.460

■ センサーが正しく検知できないことがある静止物

→P.460

■ センサーが正常に作動しないおそれのある状況

→P.461

■ 衝突の可能性がなくてもアシストが作動しない状況

→P.462

⚠ 警告

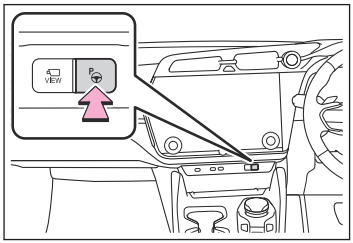
■ カメラとセンサーの取り扱いについて

- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。
- センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、クリアランスソナー使用時の注意を参照してください。(→P.459)
- 次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。
  - 目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。
  - センサーが検知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

Advanced Park の ON／OFF を変更する

● Advanced Park メインスイッチを押します

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。



知識

■ Advanced Park の作動条件

次の条件をすべて満たしているときにアシストを開始できます。

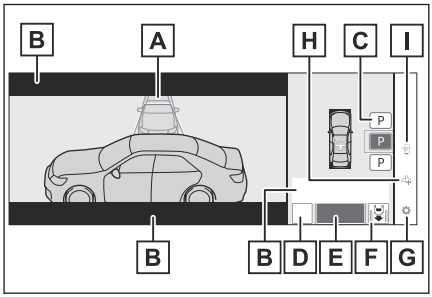
- ブレーキペダルを踏んでいる
- 停車している
- 運転席シートベルトを着用している
- ハンドルを操作していない
- アクセルペダルを踏んでいない
- ドアおよびバックドアが閉まっている
- ドアミラーが格納されていない
- パーキングブレーキがかかっていない
- レーダークルーズコントロールが作動していない
- ABS／VSC／TRC／PCS／PKSB が作動していない
- けん引していない
- 急勾配でない
- TRC または VSC を OFF にしていない

アシストを開始できないときは、センターディスプレイのメッセージを確認してください。(→P.528)

Advanced Park のガイド画面を使う

センターディスプレイに表示されます。

▶ **ガイド画面（開始時）**



A 目標駐車枠（青色）

B アドバイス表示

C 駐車形態切りかえスイッチ

複数表示された場合は、スイッチの表示状態により次のことができます。

P または P ：他の駐車可能な位置に変更

P または P ：選択されている駐車位置

(P) ：縦列駐車機能への切りかえ

P ：並列前向き／バック駐車機能への切りかえ

D “MODE” スイッチ

メモリ機能と、並列前向き／バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえます。(→P.516)

E “開始” スイッチ

駐車アシストを開始します。

F 並列駐車向き切りかえスイッチ

並列前向き駐車機能と並列バック駐車機能を切りかえます。

：並列前向き駐車への切りかえ

：並列バック駐車への切りかえ

G カスタマイズ設定スイッチ

Advanced Park の設定画面に切りかわります。(→P.527)

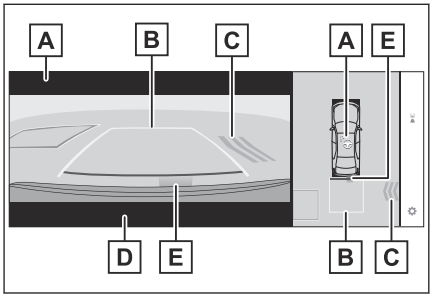
H 登録開始スイッチ

駐車スペースの登録を開始します。

I リモート機能開始スイッチ

スマートフォン画面上で駐車をアシスト操作します。

▶ **ガイド画面（後退時）**



A 作動中アイコン

Advanced Park が作動中に表示されます。

B ガイド線（黄色と赤色）

車両の前端部または後端部から目標停車位置までの距離（黄色）*1 と約 0.3m 先（赤色）を示しています。

C 移動物警報アイコン

D 緊急ブレーキ制御の作動表示

“ブレーキ！” と表示されます。

E クリアランスソナー表示

→P.458

*1：2.5m 以上の位置に目標停車位置がある場合は、横線（黄色）が非表示になります。

知識

■ クリアランスソナーの割り込み表示について

Advanced Park 作動中は、クリアランスソナーの ON／OFF（→P.459）に関係なく、クリアランスソナーが障害物を検知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。

■ Advanced Park 作動中の緊急ブレーキ制御の作動について

Advanced Park 作動中は、衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したとき、EV システム出力抑制制御／ブレーキ制御が作動します。

ブレーキ作動後は Advanced Park の作動を中断し、ブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 音声案内について

システムの作動状態、運転者への操作案内を音声でお知らせします。

音量はマルチメディアシステムの設定に連動します。

■ ブザー音について

他システムや周囲の音により、本システムのブザー音が聞き取りづらくなることがあります。

■ Advanced Park 作動中にセンターディスプレイが黒くなったときは

無線の電波による影響を受けているか、システムに何らかの異常が発生しているおそれがあります。無線のアンテナをカメラ近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、パワースイッチを一度 OFF にしてから再度 EV システムを始動しても画面が正常に表示されない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

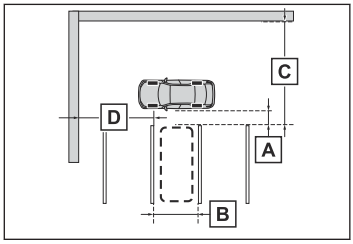
Advanced Park の並列前向き／バック駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、並列前向き／バック駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き／バック駐車機能を使用して駐車する

1 **目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する**

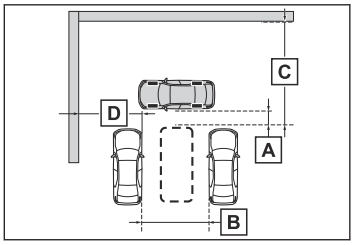
▶ **区画線がある場合**



A 約 1m*1
B 約 2.5m*1
C 約 6m 以上*1
D 約 5.5m 以上*1

片側しか区画線がない場合でも作動します。

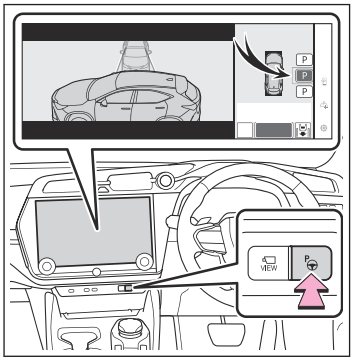
▶ **隣接車両がある場合**



A 約 1m*1
B 約 3m 以上*1
C 約 6m 以上*1
D 約 5.5m 以上*1

片側しか隣接車両がいない場合でも作動します。

2 **Advanced Park メインスイッチを押し、センターディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する**

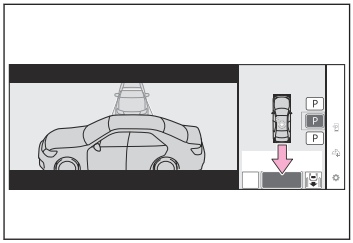


- 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。
- 縦列駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、Pにタッチすると縦列駐車機能に切りかわります。
- 駐車向きの変更が可能な場合、駐車スペースを選択して、もしくはにタッチすると、駐車向きが変更できます。
- 環境によっては使用できない場合があります。センターディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

*1: 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

3 “開始”スイッチにタッチする

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



- ブレーキペダルを離すと、“前進します”または“後退します”の音声案内と表示が出たあと、前進／後退が始まります。
- アシストを中止するには、Advanced Park メインスイッチを押します。

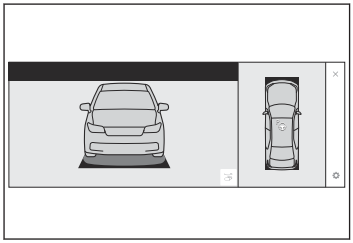
アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.506

4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

センターディスプレイの にタッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



知識

■ 周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

ブレーキペダルを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切りかえてください。このときアシストは中断されますが、センターディスプレイの“再開”スイッチにタッチするとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

■ ブレーキが作動したとき

ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

注意

■ 並列前向き／バック駐車機能を使用するときは

- 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は中止してください。
- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では使用しないでください。

⚠ 注意

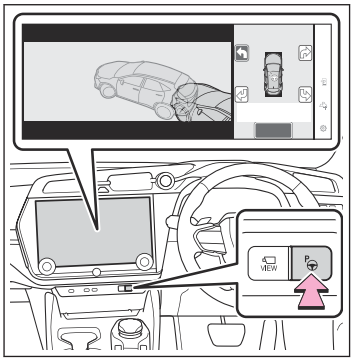
- 狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- 駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを押してシステムを解除してください。

Advanced Park の並列前向き／バック出庫機能を使う

並列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、並列前向き／バック出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き／バック出庫機能を使用して出庫する

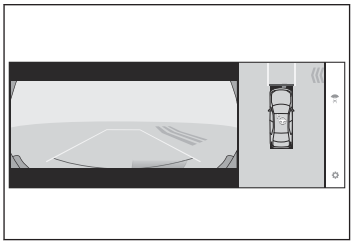
1 **ブレーキを踏み、シフトポジションがPの状態で Advanced Park メインスイッチを押し、センターディスプレイが出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する**



2 **センターディスプレイ上の矢印で、出庫したい方向を選択する**

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

3 **ブレーキペダルを踏んで“開始”スイッチにタッチする**



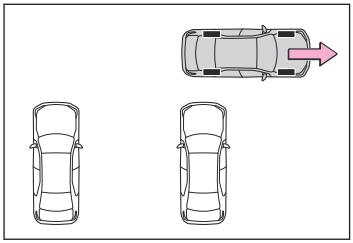
“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

アシストを中止するには Advanced Park メインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.506

4 **車両が出庫可能位置に到達するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する**



車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。

走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。

ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。

知識

■ 周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.506

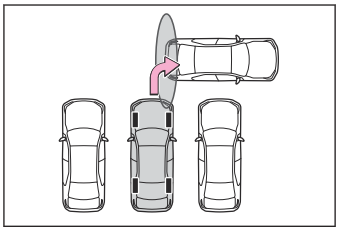
■ 並列前向き／バック出庫機能について

並列駐車から出庫する以外の目的では、並列前向き／バック出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを操作してアシストを中止してください。

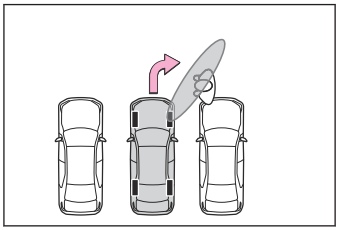
■ 並列前向き／バック出庫機能が作動しない状況

次のような状況では並列前向き／バック出庫は作動しません。

● 出庫方向に駐車待ちの車両があるとき



● フロントまたはリヤのセンター／コーナーセンサー付近に壁／柱などの障害物がある場合や、人がいるとき



■ ブレーキが作動したとき

→P.506

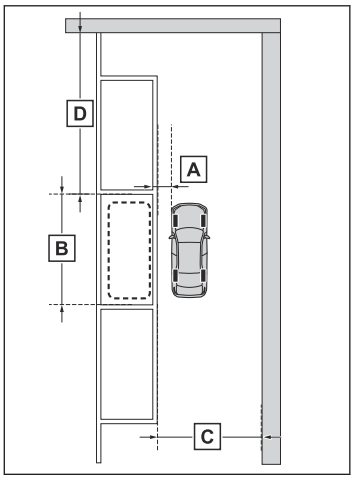
Advanced Park の縦列駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、縦列駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列駐車機能を使用して駐車する

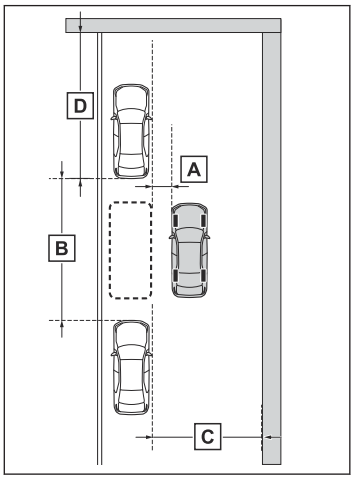
1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

▶ 区画線がある場合



A 約 1m*1
B 約 6m*1
C 約 4.5m 以上*1
D 約 8m 以上*1

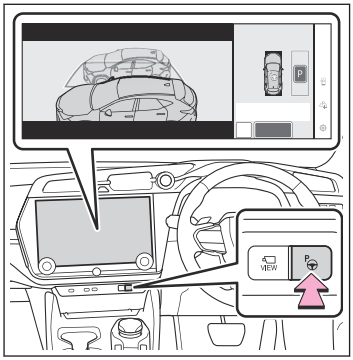
▶ 駐車車両がある場合



A 約 1m*1
B 約 7m 以上*1
C 約 4.5m 以上*1
D 約 8m 以上*1

*1: 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

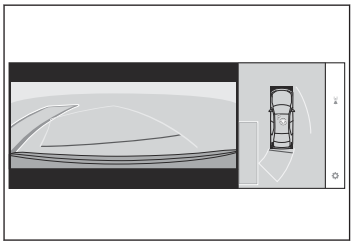
2 **Advanced Park メインスイッチを押し、センターディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する**



- 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。
- 並列前向き/バック駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、P にタッチすると並列前向き/バック駐車機能に切りかわります。
- 周囲の環境によっては使用できないことがあります。センターディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 **“開始” スイッチにタッチする**

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



- ブレーキペダルを離すと、“前進します” の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。
- アシストを中止するには、Advanced Park メインスイッチを押します。

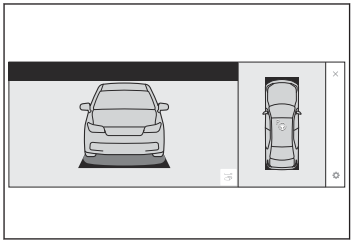
アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.506

4 **車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する**

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

センターディスプレイの にタッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



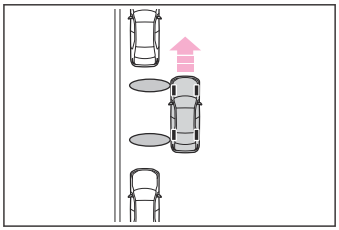
知識

■ 周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.506

■ “駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車位置の横に停車しても駐車車両を検知できていない場合があります。駐車車両を検知できる位置まで進むと開始できる場合があります。



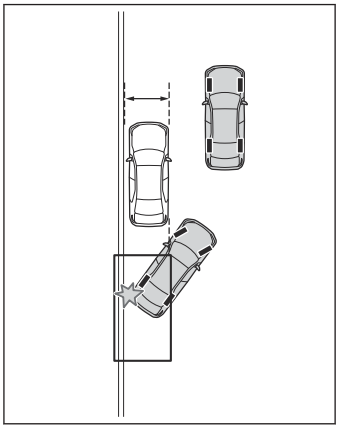
■ ブレーキが作動したとき

→P.506

⚠ 注意

■ 縦列駐車機能を使用するときは

- 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は、縦列駐車機能は中断／中止されます。
- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車機能は使用しないでください。
- 隣接車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、メインスイッチを押してシステムを解除してください。



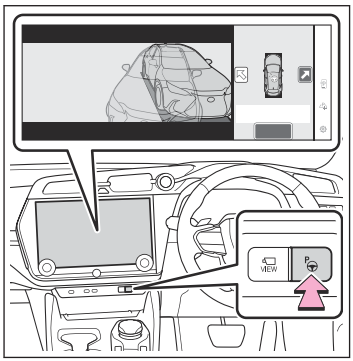
- 駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。

Advanced Park の縦列出庫機能を使う

縦列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、縦列出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列出庫機能を使用して出庫する

1 **ブレーキを踏み、シフトポジションが P の状態で Advanced Park メインスイッチを押し、センターディスプレイが出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する**



2 **センターディスプレイ上の矢印で、出庫したい方向を選択する**

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

3 **ブレーキペダルを踏んで“開始”スイッチにタッチする**

「ピッ」という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。アシストを中止するには Advanced Park メインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表示が出ます。

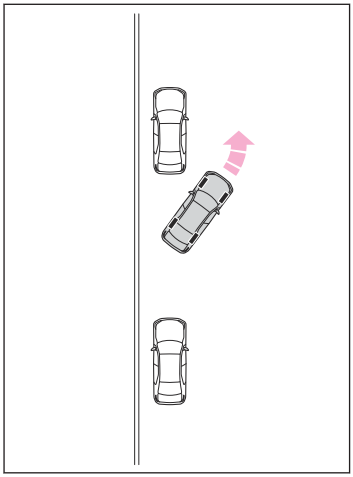
周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.506

4 **車両が出庫可能位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する**

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。

走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。

ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

■ 周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.506

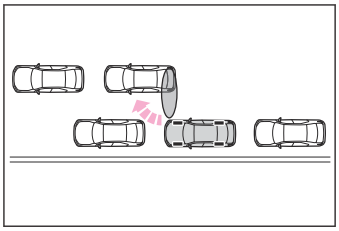
■ 縦列出庫機能について

縦列駐車から出庫する以外の目的では、縦列出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを操作してアシストを中止してください。

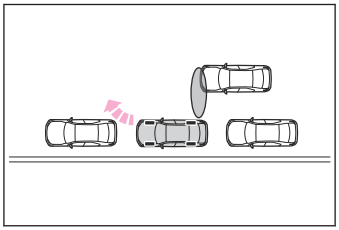
■ 縦列出庫機能が作動しない状況

次のような状況では縦列出庫機能は作動しません。

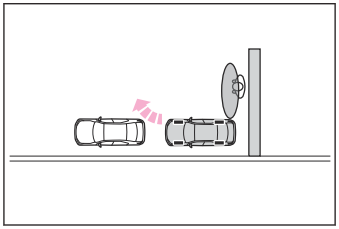
● 出庫方向に信号待ちの車両があるとき



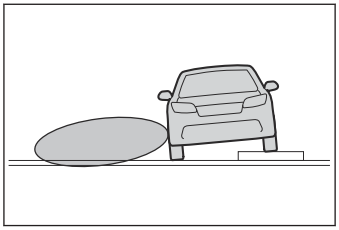
● 出庫方向の後方に車両が待っているとき



● フロントまたはリヤのサイドセンサー付近に壁／柱などの障害物がある場合や、人がいるとき



● 縁石に乗り上げて駐車し、サイドセンサーが路面を検知しているとき



● 車両の前方に駐車車両がないとき

● 車両の前端と駐車車両との間隔があきすぎているとき

■ **ブレーキが作動したとき**

→P.506

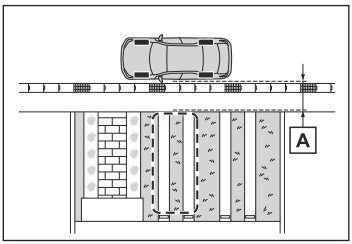
Advanced Park のメモリ機能を使う

事前に駐車スペースを登録することで、区画線や隣接車両のいない駐車スペースでも使用することができます。

登録できる駐車スペースは3つです。

駐車スペースの登録

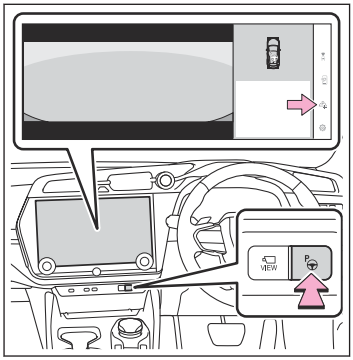
1　目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する



A 約 1m

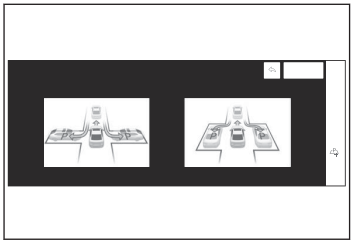
2 Advanced Park メインスイッチを押し、にタッチする

区画線や隣接車両のいない駐車スペースで Advanced Park メインスイッチを押した場合、“駐車できる場所が見つかりません”と表示されることがありますが、続けてにタッチしてください。



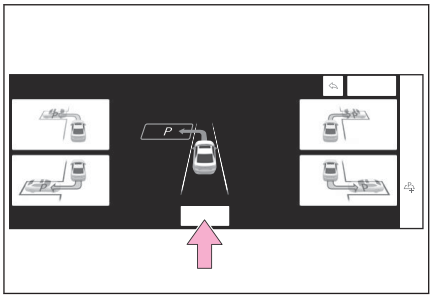
3 並列（前向き／バック）駐車または縦列駐車を選択する

アシスト可能な駐車スペースのみが表示されます。

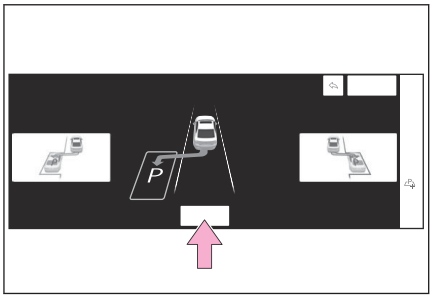


4 駐車の向きを選択し、”次へ”スイッチにタッチする

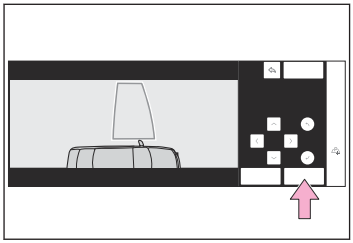
▶ 手順 3 で並列（前向き／バック）駐車を選択した場合：



▶ 手順 3 で縦列駐車を選択した場合：



5 登録する駐車スペースの位置を方向キーで調整し、“設定完了”スイッチにタッチする

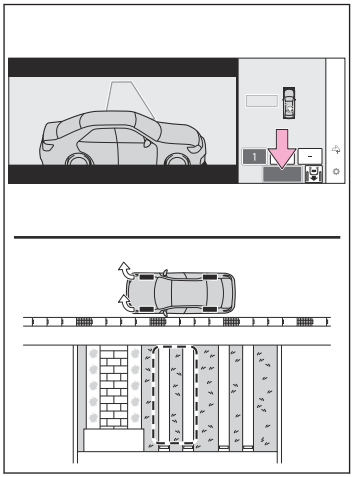


6 “開始”スイッチにタッチする

「ピッ」という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

ブレーキペダルを離すと、“前進します”の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.506

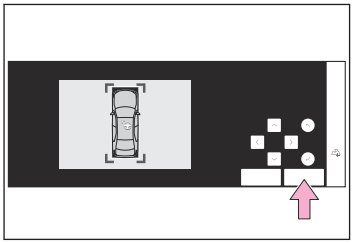


7 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

8 車両が停車したら登録する位置を確認して、必要に応じて方向キーで調整したら、“登録”スイッチにタッチする

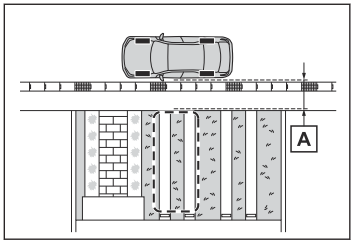
センターディスプレイに“登録を完了しました”と表示されます。

- 太枠内に障害物がない位置で登録してください。
- 調整できる範囲には限りがあります。



メモリ機能を使用して登録した駐車スペースに駐車する

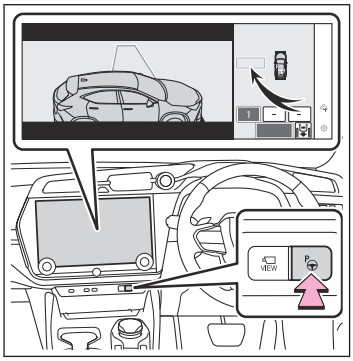
1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する



A 約 1m

2 **Advanced Park メインスイッチを押し、センターディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する**

“MODE” スイッチが表示されたときは、スイッチをタッチすることで、メモリ機能と、並列前向き／バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえることができます。



3 **駐車したいスペースを選択し、“開始” スイッチにタッチする**

このあとの手順は、並列前向き／バック駐車機能の手順→P.516 以降と同じです。(→P.504)

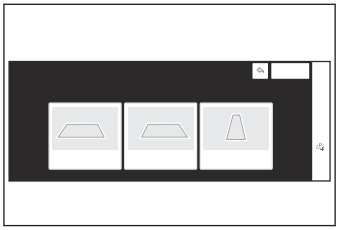
知識

■ 周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.506

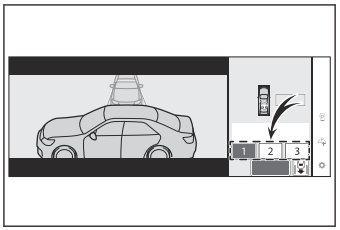
■ 登録した駐車スペースを上書きするときは

登録した駐車スペースのメモリが上限になっている状態で にタッチすると、上書きするメモリを選択して、新しいメモリを登録することができます。



■ 登録した駐車スペースが複数あるときは

駐車スペースを選択してから、“開始” にタッチします。



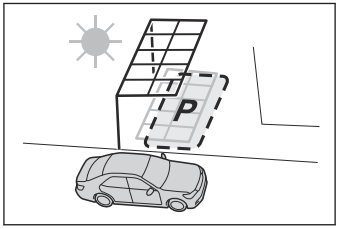
■ ブレーキが作動したとき

→P.506

⚠ 注意

■ メモリ機能を使用するときは (→P.506, 511)

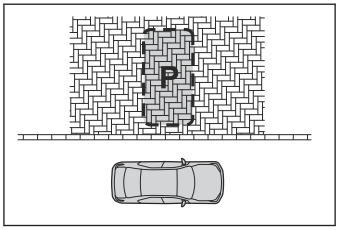
- メモリ機能は、事前に登録した駐車スペースへアシストするシステムです。路面や自車の状況、周囲の環境が登録時と異なる場合、正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。
- 次のような状況では、駐車スペースの登録を実施しないでください。設定した位置に登録できない、または次回以降のアシストができなくなる場合があります。
  - カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき
  - 雨雪が降っているとき
  - 夜間（周囲が暗いとき）
- 次のような環境では、駐車スペースの登録を実施できない場合があります。
  - 道幅と駐車位置に十分なスペースがない駐車場
  - 駐車スペース周辺にシステムが認識できる路面模様がない駐車場
- 次のような環境で駐車スペースの登録をした場合、次回以降のアシストが開始できない、または設定した位置にアシストできない場合があります。
  - 駐車スペースに影が出ているとき（カーポートがある駐車場など）



  - 駐車スペースに落ち葉／ゴミ（次回以降なくなる、または移動する可能性があるもの）が落ちているとき

⚠ 注意

- 駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき（レンガなど）



● 次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。
- 自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき
- 設定した駐車スペースに障害物があるとき
- システム作動中に歩行者や通行車両を検知したとき
- アシスト開始時の車両停車位置が登録したときと異なるとき
- 輪止めなどにより、設定した駐車スペースに到達できないとき
- 駐車スペース周辺の路面模様が変化したとき（路面の経年劣化、リフォームなど）
- 日照条件が登録したときと異なるとき（天気／時間帯）
- 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
- 路面の色や明るさが一様でないとき
- 駐車スペースに一時的な光（他車のライトや防犯用ライトなど）が差し込んでいるとき
- 駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき
- 駐車スペース周辺の路面に低い突起物のようなものがあるとき
- 勾配がある駐車場
- カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
- カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき
- カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき

  登録中に制御終了した場合は、再度登録し直してください。

● メモリ機能を登録するとき、路面から模様を検出できない場所では、“登録に必要な 駐車目標が 見つかりません”と表示されることがあります。

● メモリ機能を使用するときは、停めたい駐車スペースの真横に停車してください。正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

● カメラ部をぶつけたときや、パノラミックビューモニター映像のつながりが著しくずれている場合、メモリ機能を使用しないでください。

● カメラ故障時／交換時は、カメラの取り付け角度が変わるため、メモリ機能の登録をやり直す必要があります。

Advanced Park のリモート機能を使う

スマートフォン操作で駐車機能／出庫機能を遠隔操作することができます。またガレージなどへの前後移動も遠隔操作でアシストできます。

リモート機能を使用して駐車する

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、スマートフォン操作で駐車機能を遠隔操作することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

1 **目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する**(→P.504, 509)

2 **Advanced Park メインスイッチを押し、センターディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する**(→P.504, 509)

3 **スイッチにタッチし、“並列駐車／縦列駐車”にタッチする**

4 **“設定完了”にタッチしする**

5 **車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンの専用アプリを起動する**

電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。

障害物が進行方向に存在する場合は、先に障害物を移動させてください。障害物は降車後に移動させることもできます。

6 **車外でスマートフォン画面の駐車スペースを確認し、スマートフォン画面で開始操作をする**

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。

7 **車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面を操作する**

操作を継続することで車両が動き、駐車をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

再びスマートフォン画面の操作を行い車両を動かす場合、車両が動く前に自動でドアが施錠されます。

8 **駐車位置に到着すると、シフトポジションが P になり、パーキングブレーキで車両停止後、パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠される**

スマートフォンに完了画面が表示されます。

知識

■ 障害物があっても駐車機能を使用できる場合

- 白線で構成される駐車スペースへの駐車機能を使用する場合、駐車スペース内に障害物があってもそのスペースを目標枠として設定できます。これは車いす用の駐車スペース内にパイロンが置かれているときであっても、車内で駐車スペース設定をし、降車後に障害物を移動することで支援を継続するための機能です。

● Advanced Park での並列駐車では片側 3 枠ずつの最大 6 枠の駐車枠を検出可能ですが、リモート機能では片側 1 枠ずつの検出となります。

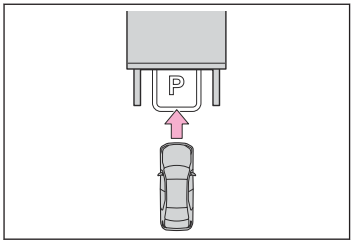
■ ブレーキが作動したとき

→P.506

リモート機能を使用して前後移動する

停車後に前後移動機能を使用して、ガレージなどへの移動をアシストします。

1 アシストを開始したい場所に車両を停車する



2 Advanced Park メインスイッチを押す

3 スイッチにタッチし、“前後に移動”にタッチする

4 必要に応じて方向キーで調整し、“設定完了”にタッチする

5 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンの専用アプリを起動する

電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。

6 車外でスマートフォン画面の進行方向を確認し、スマートフォン画面で開始操作をする

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。

7 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面を操作する

操作を継続することで車両が動き、前後移動をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

アシスト中であっても、途中終了や方向転換ができます。

8 スマートフォン画面で車両の電源をオフにする操作を行う

パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠されます。

知識

■ 進行方向の変更

前後移動機能では、アシスト中に進行方向を切りかえることができます。

後方に壁があるときなどに、スマートフォン画面で進行方向の切りかえ操作を行って車両を少し前進させて荷物を入れた後、元の場所に戻すといった使い方ができます。

■ ブレーキが作動したとき

→P.506

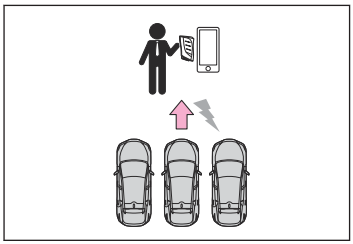
リモート機能を使用して出庫する

パワースイッチが OFF の車両に対して、並列／縦列駐車した状態からの出庫をアシストできます。

前後移動選択の際の移動距離は開始位置から進行方向に対して最大 7m で、スマートフォン操作で進行方向を切りかえることができます。

1 **駐車中の車両に近づき、電子キーで解除してから専用アプリを起動する**

専用アプリが接続できない場合は、電子キーで再度解錠操作を行ってください。



2 **スマートフォン画面で開始操作をする**

車両のパワースイッチが ON になります。

3 **出庫可能な方向が表示されたことを確認し、出庫したい方向を選択し、決定する**

4 **車両周辺の安全を確認し、スマートフォン画面を操作する**

操作を継続することで車両が動き、出庫をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

アシスト中であっても、途中終了や方向転換ができます。

5 **アシスト完了位置まで移動し、電子キーを持って車両に乗り込む**

途中でアシストを完了したい場合は、スマートフォンで途中終了操作をするか、車両に乗り込むことでアシストを終了できます。

知識

■ ブレーキが作動したとき

→P.506

リモート機能とメモリ機能を使用して駐車する

メモリ機能で事前に登録した駐車スペースの真横で停車し、駐車スペースが検出できれば、スマートフォン操作でメモリ機能を遠隔操作することができます。

また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

1 **目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する（→P.516）**

2 Advanced Park メインスイッチを押し、センターディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する（→P.516）

3 スイッチにタッチし、“並列駐車/縦列駐車”にタッチする

4 “設定完了”にタッチする

“MODE”スイッチが表示されたときは、スイッチを押すことでメモリ機能と、並列前向き／バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえることができます。

5 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンの専用アプリを起動する

電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。パイロンなどの障害物が進行方向に存在する場合は、降車後に障害物を移動させてください。

6 車外でスマートフォン画面の駐車スペースを確認し、スマートフォン画面で開始操作をする

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。

7 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面を操作する

操作を継続することで車両が動き、駐車をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

再びスマートフォン画面の操作を行い車両を動かす場合、車両が動く前に自動でドアがロックされます。

8 駐車位置に到着するとシフトポジションが P になり、パーキングブレーキで車両停止後、パワースイッチが OFF になり、自動でドアがロックされます

スマートフォンに完了画面が表示されます。

知識

■ ブレーキが作動したとき

→P.506

リモート機能の使用前のご準備

使用前のご準備

リモート機能を使用する際は、事前に以下の手順を行ってください。

1 アプリストアから専用アプリをダウンロードする

2 車両のパワースイッチを ON にし、マルチメディアシステムとスマートフォンのペアリング登録を実施する

ペアリング登録については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照ください。

3 専用アプリを立ち上げ、車両登録を実施する

4 ペアリング登録された車両がスマートフォン画面に表示されるため、車両を選択する

新規車両登録画面では、車両の名前や画像の変更が可能です。

メニュー画面から車両を追加することも可能です。

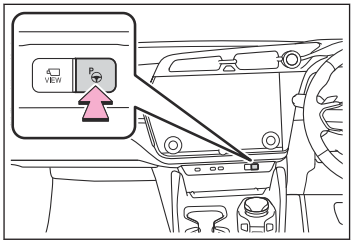
リモート機能の ON／OFF

1 センターディスプレイの⚙にタッチして、“Advanced Park”にタッチする

2 “Remote Park”の ON／OFF を選択する（初期設定は ON）

3 Advanced Park メインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。



4 センターディスプレイに表示される🅿スイッチにタッチする

⚠ 注意

■ リモート機能について

- 電子キーをポケットなどに携帯した状態で、リモート機能を使用してください。
- 電子キーとスマートフォンなどを重ねて持つと、電子キーが検知できない場合があります。
- デジタルキー装着車：デジタルキーのみの携帯では リモート機能は使用できません。必ず運転者が電子キーを携帯してください。
- 車に乗り込んでリモート機能を終了する際は、キーが車内にあり全てのドアが閉まっていることを確認してください。

  車に乗り込んでリモート機能を終了した後は、シートベルトを着用するかブレーキを踏むとシートリターン制御が実施されます。
- リモート機能終了または中止によりパワースイッチを OFF した場合、自動でドアが施錠しますが、ドアが開いている場合など施錠できないことがあります。リモート機能終了後は車両の状態を確認してください。
- リモート機能終了または中止により自動でドアが施錠した際、車内に人がいた場合は警報が鳴る場合があります。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

- スマートエントリー&スタートシステムの機能が正常に働かないおそれのあるとき：→P.129
- 近くにインバータ式蛍光灯があるとき
- 電波が及ぼす影響について：→P.128

⚠ 注意

■ 電子キーの電池の消耗について

● リモート機能使用中は、電子キーと電波の送受信をおこなうため、電池を消耗します。

● 電池が切れたとき：→P.686

■ センサーが正常に作動しないおそれのある状況

→P.461

● リモート機能使用中は車両周辺の視界が制限されることがあります。リモート機能使用時は以下の確認を行ってください。

- 車両と車両の周囲が最もよく見えること
- 車両の進路に人／動物、または物体がないこと
- 車両との適切な距離を維持し、運転者も他の道路使用者も危険にさらされるおそれがないこと
- 車両の周囲には常に注意をして、危険の可能性がないこと
- 必要に応じて、リモート機能を中止すること

Advanced Park を中止／中断する

■ アシストが中止されるとき

次のような状況のとき、Advanced Park のアシストを中止します。ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルをしっかり踏んで車両を停止してください。

システムが解除されているため、最初からやり直すか、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

● Advanced Park メインスイッチを押した
● シフトポジションを P に変更した
● パーキングブレーキをかけた
● ドアまたはバックドアを開けた
● 運転席シートベルトをはずした
● ドアミラーを格納した
● TRC／VSC を OFF にした
● TRC／VSC／ABS が作動した
● けん引している
● パワースイッチを押した
● システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した
● システム異常
● 停止中にセンターディスプレイ上で“中止”にタッチした

■ アシストが中断されるとき

次のような状況のとき、Advanced Park のアシストを中断します。

センターディスプレイの指示に従うことでアシストを再開できます。

また、アシストが中断されている時にブレーキを踏みながらシフトポジションを 2 回変更した場合は、そのシフトポジションのままでアシストを中止します。

ただし、シフトポジションを変更してアシストが中断した場合は、1 回のシフトポジション変更によりアシストを中止します。

- ハンドルを操作した
- アクセルペダルを踏んだ
- シフトポジションを変更した
- 衝突の可能性がある移動物または静止物を検知し、EV システム出力抑制制御／ブレーキ制御が作動した
- カメラスイッチを押した

■ リモート機能のアシストが中止されるとき

次のような状況のとき、リモート機能のアシストを中止します。

システムが解除されているため、キーを持って車両に乗り込み、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

- Advanced Park のアシスト中止条件を満たした場合、一部例外としてドアを開いた場合や運転席シートベルトを外した場合は中断します。
- リモート機能を起動してから 5 分以上が経過したとき
- 何も操作をせずに 3 分が経過したとき
- スマートフォン画面で車両の走行操作をしても走行できずに、30 秒が経過したとき
- スマートフォン画面で車両の電源をオフにする操作を行ったとき
- 専用アプリが強制終了されたとき
- 急勾配のとき
- リモート機能中断中に車内で電子キーを検知したとき
- 外気温がマイナス 10℃以下のとき

■ リモート機能のアシストが中断されるとき

次のとき、アシストを中断します。

- スマートフォンとマルチメディアシステムとの Bluetooth®通信が切断されたとき
- スマートフォンの操作が中断されたとき
- 専用アプリのバックグラウンド移行（電話ボタンやホームボタン押下など）
- 電子キーが検知できないとき
- 前後の移動先に障害物があるとき

- アシスト走行中に車両が操作されたとき
- 走行中に電子キーの操作があったとき
- 走行中にドアの解除操作があったとき
- 走行中にドアを開いたとき

Advanced Park の設定を変更する

Advanced Park メインスイッチを押し、センターディスプレイの⚙にタッチして、“Advanced Park”にタッチします。

■ Remote Park

リモート機能の ON／OFF を設定できます。

■ 音声案内

音声案内の ON／OFF を設定できます。

■ 速度モード

アシスト中の自車の速度を設定できます。

メモリ機能で登録時は設定できません。

■ 障害物回避距離

アシスト中に回避する障害物との距離を設定できます。

■ 優先駐車方法

並列前向き／バック駐車と縦列駐車のどちらでも駐車可能なとき、優先的に表示する駐車方法を設定できます。

■ 優先駐車向き

並列前向き駐車と並列バック駐車がどちらも可能な時に、優先的に表示する駐車向きを選択できます。

■ 優先出庫方向（並列）

並列前向き出庫と並列バック出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 優先出庫方向（縦列）

縦列出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 駐車時の映像

並列前向き／バック駐車中、縦列駐車中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 出庫時の映像

並列前向き／バック出庫中、縦列出庫中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ **駐車進路調整**

駐車アシスト中の進路が外側にふくらんでしまうとき、内側に寄ってしまうときに進路を調整できます。

タイヤがすり減ったりしたとき、駐車進路が駐車する場所の中心からずれてしまいます。その場合、駐車進路を調整してください。

■ **道幅調整**

駐車アシスト開始時、前進するときの横方向の移動量を調整できます。

■ **駐車位置調整（前向き）**

並列前向き駐車の駐車完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ **駐車位置調整（バック）**

並列バック駐車の駐車完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ **後部取付部品設定**

車両後部にトレーラーヒッチなどを取り付けたとき、後方障害物との接触を防ぐために、車両後部の長さを調整できます。

■ **登録した駐車場所の消去**

メモリ機能で登録した駐車スペースを消去できます。アシスト中とメモリ機能の登録中は消去できません。

⚠ **注意**

- “駐車位置調整（前向き）”、 “駐車位置調整（バック）”による調整により、車止めや縁石など低いものへ接触するおそれがあるため、注意して使用してください。
- 周辺の車両や障害物／車止め／縁石などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを押してシステムを中止してください。

専用アプリの設定を変更する★

■ **クリアランスソナー警告音の ON／OFF（スマートフォンでの設定）**

専用アプリからクリアランスソナー警告音の ON／OFF を設定できます。

■ **クリアランスソナー警告音の音量調整（スマートフォンでの設定）**

専用アプリからクリアランスソナー警告音の音量を設定できます。

センターディスプレイに表示される Advanced Park のメッセージ

Advanced Park の作動状態や操作のアドバイスなどをセンターディスプレイに表示します。メッセージが表示されたときは、内容に従って対処してください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■“駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。

■“この環境では使用できません”が表示されたときは

別の場所に移動して使用してください。

■“出庫可能なスペースがありません”が表示されたときは

自車前後と駐車車両との間隔が狭い、または出庫方向に障害物があるなどの状況により、縦列出庫機能を使用できません。

周囲の状況を確認した上で、運転者自身の操作で出庫してください。

■“速度が調整できません”が表示されたときは

傾斜や段差のある場所で使用したときに、速度が調整できないとシステムが判断すると、アシストを中止します。

平坦な場所で使用してください。

■“障害物を検知しました”が表示されたときは

衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したため、EV システム出力抑制制御／ブレーキ制御が作動し、アシストを中断します。

周囲の状況を確認してください。アシストを再開するときは、センターディスプレイの“再開”スイッチにタッチしてください。

■“登録に必要な駐車目標が見つかりません”が表示されたときは

駐車スペースを認識できない駐車場でにタッチしたときに表示されます。

システムが認識できる路面模様がある駐車場で操作してください。（→P.514）

後方にいる車両の接近を知らせる

後方車両接近告知

後方車両接近告知は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者に後方車両の接近をお知らせすることで、回避要否の判断を支援するシステムです。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両接近告知は自車の後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

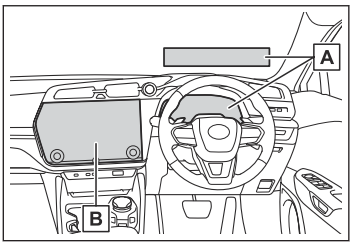
後方車両接近告知を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→P.447

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ

後方車両の通行を妨げる可能性がある場合、メッセージとブザーでお知らせします。

B センターディスプレイ

後方車両接近告知の ON/OFF を切りかえます。

後方車両接近告知の ON／OFF を切りかえるには

後方車両接近告知の ON／OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.760)

知識

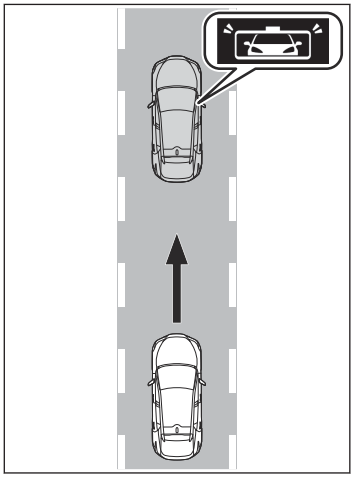
■ ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.760)

後方車両接近告知の作動



後方車両接近告知は後側方レーダーセンサーにより自車の後方から接近してくる車両を検知し、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイの表示とブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。

知識

■ 後方車両接近告知の作動条件

後方車両接近告知は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- 後方車両接近告知が ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が約 60km／h 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 前回作動から約 5 分以上経過していること

■ センサーが車両を検知する条件

後方車両接近告知は、同じ車線を走行する後方車両が近づいた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■ システムが検知しない条件

後方車両接近告知は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など*1
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物*1
- 対向車
- 隣の車線を走行する他車*1

*1 : 状況によっては検知をすることがあります。

■ **後方車両接近告知が正しく作動しないおそれがある状況**

● 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
- 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
- けん引しているとき
- 後方車両と自車の中心がずれているとき
- 斜め後方から車両が近付いてくるとき
- 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
- 他車の前方に割り込んだとき
- 後方車両の周辺に他車が存在するとき
- 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- 後続車が自車に接近した後、一度離れて再度接近してきたとき
- 後続車が自車から離れていくとき
- 後続車が自車を追い越そうとしているとき
- きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

● 特に次のような状況では、後続車の接近の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- けん引しているとき
- 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
- 自車が右左折するときに後続車が自車の真後ろを通過したとき
- 後方車両が近距離から自車を追い越したとき
- 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- 後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
- 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
- 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- カーブ中に隣接車両がいるとき
- 他車の前方に割り込んだとき

至近距離の後方車両を検知して対処法を提案する

周辺車両接近時サポート(録画機能、通報提案機能)

周辺車両接近時サポートは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用して至近距離の後方車両を検知し、運転者へ対処方法を提案するシステムです。

ドライブレコーダー（前後方）*1 が装着されている車両は、ドライブレコーダー（前後方）の録画機能を使用して、状況を自動で記録します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

周辺車両接近時サポートは後方車両が至近距離まで接近したときの対処方法を運転者に提案する補助的なシステムです。

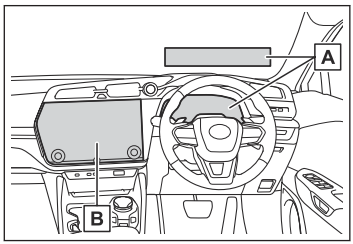
周辺車両接近時サポートを使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→P.447

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ

警察への通報またはヘルプネットへの接続を提案します。

B センターディスプレイ

周辺車両接近時サポートの ON/OFF を切りかえます。

周辺車両接近時サポートの ON／OFF を切りかえるには

周辺車両接近時サポートの ON／OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.760）

*1: 標準装備、メーカーオプションまたはメーカーパッケージオプションのドライブレコーダー（前後方）装着の場合に限ります。用品（販売店オプション）のドライブレコーダーではご利用になれません。

知識

■ 音声の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、音声が聞こえづらくなる場合があります。

周辺車両接近時サポートの作動

後方車両が至近距離まで接近したときに、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイと音声で下記の対処方法を提案します。

ドライブレコーダー装着車は、後方車両の映像を記録します。

■ 通報提案

携帯電話をマルチメディアとハンズフリー接続しているときは、ハンズフリー電話での警察への通報を提案します。

通報する場合は、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイで“はい（YES）”を選択してください。

ハンズフリー電話の詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



■ ヘルプネット接続提案

ヘルプネットを契約しているときは、ヘルプネットセンターへの通報を提案します。

通報する場合は、ヘルプネットボタンを押してください。

ヘルプネットの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



■ イベント録画（ドライブレコーダー［前後方］装着車）

車両後方の映像をイベント録画します。

ドライブレコーダー（前後方）の詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

知識

■ イベント録画の通知（ドライブレコーダー［前後方］装着車）

通報提案もヘルプネット接続提案もしない場合は、イベント録画が記録されたことを通知します。

■ **周辺車両接近時サポートの作動条件**

周辺車両接近時サポートは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- 周辺車両接近時サポートが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が約 60km／h 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 前回作動から約 10 分以上経過しているとき

■ **通報提案の作動条件**

通報提案は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- 携帯電話がマルチメディアと Bluetooth®でハンズフリー接続されているとき
- Bluetooth®ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。トヨタ自動車株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。
- 携帯電話の電波が圏外でないとき
- 携帯電話が着信中、発信中、通話中でないとき

■ **ヘルプネット接続提案の作動条件**

- 通報提案がされていないとき
- ヘルプネットの契約がされている

■ **センサーが車両を検知する条件**

周辺車両接近時サポートは、同じ車線を走行する後方車両が至近距離にいる状態が続いた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■ **システムが検知しない条件**

周辺車両接近時サポートは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など*1
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物*1
- 対向車
- 隣の車線を走行する他車*1

■ **周辺車両接近時サポートが正しく作動しないおそれがある状況**

- 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
  - センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
  - 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

*1 : 状況によっては検知をすることがあります。

- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
- 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
- けん引しているとき
- 後方車両と自車の中心がずれているとき
- 斜め後方から車両が近付いてくるとき
- 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
- 他車の前方に割り込んだとき
- 後方車両の周辺に他車が存在するとき
- 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

● 特に次のような状況では、後続車の接近がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- けん引しているとき
- 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
- 自車が右左折するときに後続車が自車の真後ろを通過したとき
- 後方車両が近距離から自車を追い越したとき
- 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- 後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
- 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
- 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- カーブ中に隣接車両がいるとき
- 他車の前方に割り込んだとき

接近している後方車両へ注意をうながす

後方車両への接近警報

後方車両への接近警報は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、後方車両からの追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながすシステムです。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両への接近警報は自車の後方から接近してくる車両に追突される可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながす補助的なシステムです。

後方車両への接近警報を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

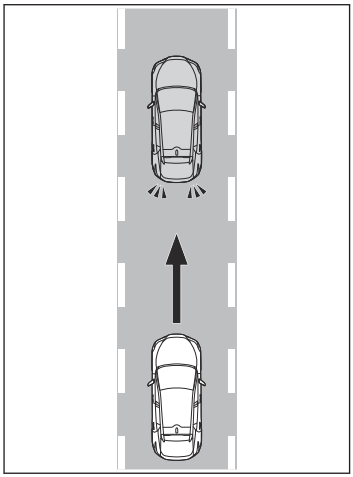
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→P.447

■ 後方車両への接近警報の作動

同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、後方車両の接近を運転者に知らせます。



□ 知識

■ 後方車両への接近警報の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 自車から見た後方車の接近速度が約 30km／h～100km／h の間
- 自車の車速が約 10km／h 以下、または前進時でブレーキを踏んでいる

■ センサーが車両を検知する条件

後方車両への接近警報は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■ システムが検知しない条件

後方車両への接近警報は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など*1
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物*1
- 対向車
- 隣の車線を走行する他車*1

■ 後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
  - センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
  - 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
  - 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面に停車、または走行しているとき
  - 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
  - けん引しているとき
  - 後方車両と自車の中心がずれているとき
  - 斜め後方から車両が近付いてくるとき
  - 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
  - 後方車両の周辺に他車が存在するとき
  - 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
  - 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
  - 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
- 特に次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
  - センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

*1：状況によっては検知をすることがあります

- けん引しているとき
- 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
- 右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
- 道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき
- 後方車両が近距離から自車を追い越したとき
- 後方車両が近距離まで急接近したとき
- 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき

停車中に追突の可能性が非常に高い場合にブレーキをかける

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、停車中に後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御することで、二次衝突による被害の軽減に寄与するシステムです。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

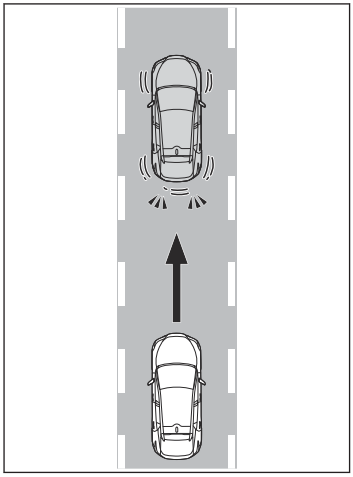
安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は停車中に同じ車線を走行する後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御する補助的なシステムです。セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→P.447

■ セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、停車中に同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、追突後の自車速度を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。



知識

■ セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- パワースイッチが ON のとき

- シフトポジションがR以外のとき*1
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 前回作動から約7分以上経過していること
- 自車から見た後方車の接近速度が約30km／h～100km／hの間
- 自車の車速が約0km／hのとき

■ センサーが車両を検知する条件

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が非常に高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■ システムが検知しない条件

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など*2
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物*2
- 対向車
- 隣の車線を走行する他車*2

■ セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）が正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
  - センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
  - 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
  - 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面に停車しているとき
  - 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
  - けん引しているとき
  - 停車した直後に後方車両が接近したとき
  - 後方車両と自車の中心がずれているとき
  - 斜め後方から車両が近付いてくるとき
  - 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
  - 後方車両の周辺に他車が存在するとき
  - 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
  - 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
  - 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

*1: シフトポジションがNのときはブレーキペダル・パーキングブレーキ・ブレーキホールドをいずれも操作していないときは作動しません。

*2: 状況によっては検知をすることがあります。

● 特に次のような状況では、追突される可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- けん引しているとき
- 右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
- 道路脇に停車したときなどに、他車が真横を通過するとき
- 後方車両が近距離から自車を追い越したとき
- 後方車両が近距離まで自車に急接近したとき
- 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
- 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- 停車間際・発進直後に後方車両が接近したとき
- 走行中にすべりやすい路面などでのブレーキ操作により、自車のタイヤがロックしたときに後方車両が接近したとき
- 洗車機で洗車しているとき

プラスサポートを使用する（販売店装着オプション）

プラスサポートは、お客様の運転を補助し、より安全なドライブを支援します。プラスサポートを使用するためには、プラスサポート用スマートキー（以下、サポキー）が必要です。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

プラスサポートでできること

プラスサポートを使用すると、機能の追加や、音声案内シーンの追加でより安心なドライブを支援します。また、通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定が可能です。

■ 機能の追加

- 急アクセル時加速抑制
- 交差点対向車注意喚起

■ 音声案内シーンの追加（進入禁止区間に進入した場合など）

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティシステム）
- RSA（ロードサインアシスト）
- 急アクセル時加速抑制
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）

■ 通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティシステム）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- RSA（ロードサインアシスト）
- BSM（ブラインドスポットモニター）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- 安心降車アシスト
- クリアランスソナー

知識

■ カスタマイズ初期値の変更

カスタマイズ設定から、各システムの設定を変更することができます。サポキーで起動した場合、通常の電子キーとは異なる設定でシステムが作動します。サポキーで起動後に変更した設定はサポキーにのみ記憶されます。通常キーには記憶されません。

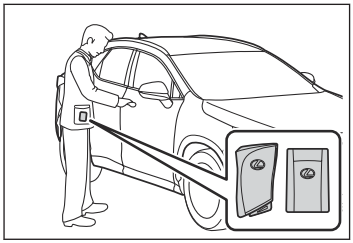
より安全に運転いただくため、通常の電子キーでは設定の変更ができた音声案内など、一部の項目が作動状態に固定されます。

プラスサポートを使用するには

プラスサポートを始動するには

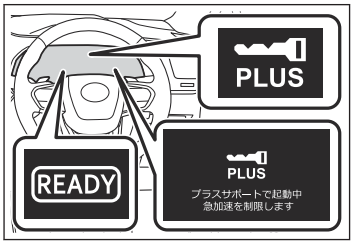
1 **サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する**(→P.124, 140)

パワースイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。



2 **通常の手順で EV システムを始動する**（→P.194）

3 **“プラスサポートで起動中 急加速を制限します” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する**



パワースイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

EV システムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

4 **ステアリングスイッチの を押すことでメッセージを非表示にする**

メッセージ表示後約 30 秒経過するまで、またはスイッチ操作によりメッセージを非表示とするまで、“プラスサポートで起動中 急加速を制限します” のメッセージは表示されたままになります。

プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを解錠し、EV システムを始動してください。プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

⚠ 警告

■ **プラスサポートを正しく使用するために**

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。

⚠ 警告

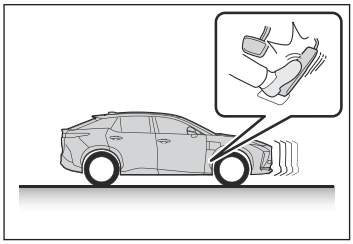
- EV システムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください（→P.334）。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急なアクセル操作による加速の抑制（販売店装着オプション）

プラスサポートを使用することで、急アクセル時加速抑制によって運転者を補助し、安全なドライブを支援します。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

急アクセル時加速抑制

低速走行（約 30km／h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、EV システムの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにも EV システムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 急アクセル時加速抑制が作動したとき

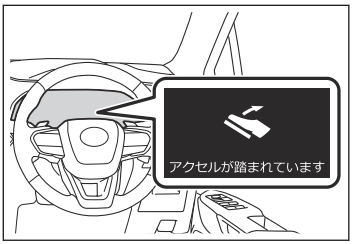
急アクセル時加速抑制が作動すると、EV システムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ 右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、急アクセル時加速抑制により EV システムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき



急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

知識

■ 急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- シフトポジションが P・N 以外のとき
- 車速が約 30km／h 以下のとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

  次の条件のいずれかを満たした場合、EV システムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km／h、後退時は約 12km／h[*1] までゆるやかに加速します。
- 加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき
- 加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

■ 急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

- 方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間（前進時）
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約 2 秒間（前進時）
- 急な上り坂に自車がいるとき

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

- 車両姿勢の変化

*1：状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

- 積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

● 周辺環境の影響

- 坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
- 雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
- 坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
- スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■ 加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

● 車両姿勢の変化

- 積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

● 周辺環境の影響

- 坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
- 雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
- 坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
- スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

● 運転操作の影響

- 車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
- 惰性走行から急いで加速しようとしたとき
- ETC ゲート通過後に急加速したとき
- ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

交差点で右折時に対向車を検知して音と画面で知らせる（販売店装着オプション）

プラスサポートを使用することで、交差点対向車注意喚起によって運転者を補助し、安全なドライブを支援します。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

交差点対向車注意喚起



交差点対向車注意喚起が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

■ 交差点対向車注意喚起の作動条件

方向指示灯が点滅していないときは、交差点対向車注意喚起が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度
対向車両	約 15～30 ｋｍ/ｈ	約 10 ｋｍ/ｈ以上
対向自動二輪車	約 15～30 ｋｍ/ｈ	約 25 ｋｍ/ｈ以上

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、EV システム出力を抑制する

ブレーキオーバーライドシステムの役割

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ブレーキオーバーライドシステムが作動し、EV システム出力を抑制する場合があります。ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

⚠ 警告

踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進するおそれがあります。

⚠ 注意

運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、EV システム出力を抑制する場合があります。

急発進および後退速度を抑制する

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、EV システム出力を抑制することがあります。

- R に切りかえたとき*1
- P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき*1

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

この場合、メーター内のペダル誤操作警告灯が点灯します。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるように EV システム出力を抑制*2 します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに“速度抑制中”が表示されます。

知識

■ ドライブスタートコントロールについて

- TRC の作動を停止すると、急発進の抑制制御も停止*3 します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。(→P.361)
- タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。
- 後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。(→P.767)
  - パワースイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。
  - 後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

*1: 状況によっては操作できない場合があります。
*2: 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。
*3: 後退速度の抑制制御は作動します。

事故の衝撃から乗員を守る

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、フロント席・リヤ外側席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■ 予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

⚠ 警告

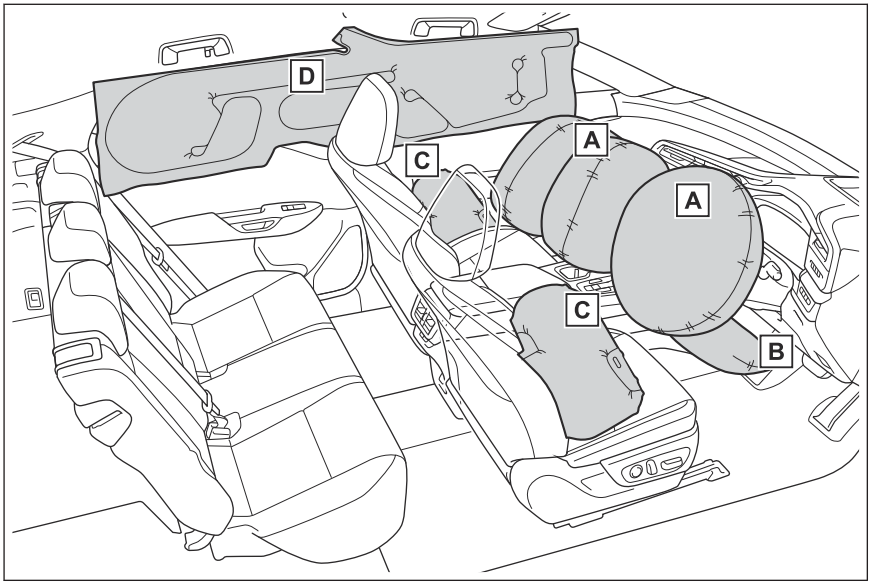
■ プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグの役割

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



A フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS ニーエアバッグ

運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助

C SRS サイドエアバッグ

フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和

D SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

知識

■ SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- エアバッグ近辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- EV システムを停止します。（→P.30）
- すべてのドアがロック解除されます。（→P.140）
- 自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.361）

● 室内灯が自動で点灯します。(→P.293)

● 非常点滅灯が自動で点滅します。(→P.629)

■ **緊急通報について**

● G-Link の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。

- SRS エアバッグが作動した
- シートベルトプリテンショナーが作動した
- 車両に一定以上の衝撃を受けた

オペレーターからの呼びかけに応答がなくても、緊急車両などを手配することがあります。詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ **正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき**

● 次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

- フロント SRS エアバッグ
- SRS ニーエアバッグ

● 次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

- 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

● 衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。

- シートベルトプリテンショナー

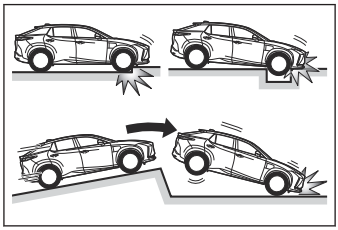
● 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■ **側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき**

● 次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

- SRS サイドエアバッグ
- SRS カーテンシールドエアバッグ

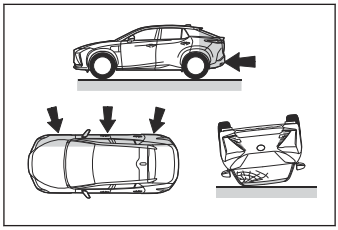
■ 車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき



● 次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。

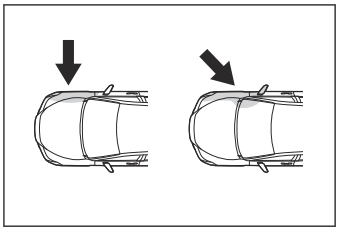
- フロント SRS エアバッグ
- SRS ニーエアバッグ
- SRS サイドエアバッグ
- SRS カーテンシールドエアバッグ

■ SRS エアバッグが作動しないとき



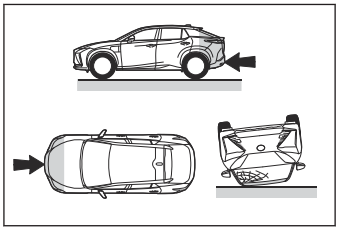
● 次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。

- フロント SRS エアバッグ
- SRS ニーエアバッグ



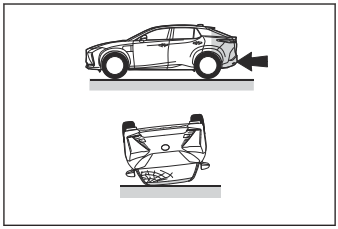
● 次の SRS エアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。

- SRS サイドエアバッグ
- SRS カーテンシールドエアバッグ



● 次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- SRS サイドエアバッグ



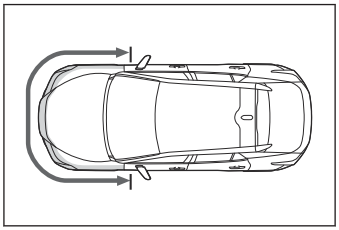
● 次のエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- SRS カーテンシールドエアバッグ

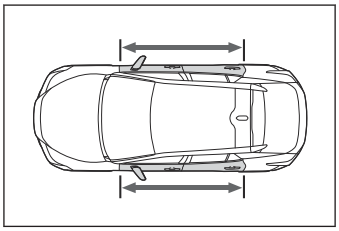
■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき
  - フロント SRS エアバッグ
  - SRS ニーエアバッグ



- 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき
  - SRS サイドエアバッグ
  - SRS カーテンシールドエアバッグ



- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

■ SRS エアバッグについて

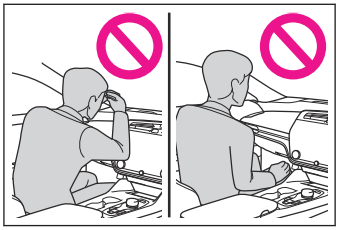
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定して

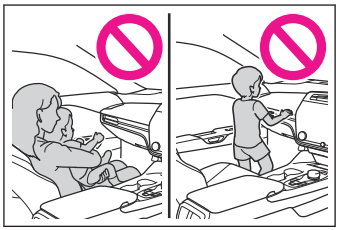
⚠ 警告

ください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P.110)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



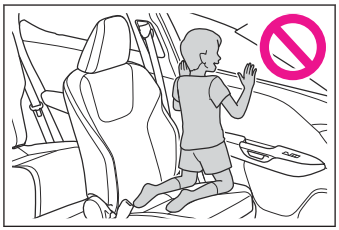
- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

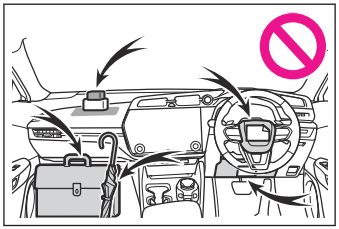


- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

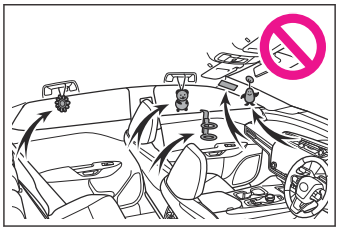


⚠ 警告

- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く：→P.674）



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

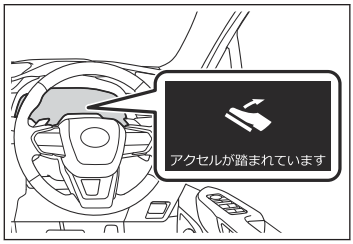
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

⚠ 警告

- 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造
  - ハンドル
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
  - シート
  - シート表皮
  - フロントピラー
  - センターピラー
  - リヤピラー
  - ルーフサイドレール
  - フロントドアパネル
  - フロントドアトリム
  - フロントドアスピーカー
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- 次の部品やその周辺の修理・改造
  - フロントフェンダー
  - フロントバンパー
  - 車内側面部
- 次の部品、または装置の取り付け
  - グリルガード
  - 除雪装置
  - ウインチ
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

衝突時の急加速抑制



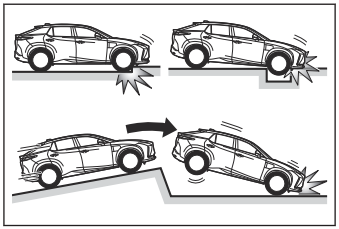
SRS エアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによる EV システムの出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

システム作動時はブザー、音声案内とマルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。

知識

衝突時の急加速抑制について

- 次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。
  - 車速が約 60km/h 以下のとき
  - SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
  - 衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
  - アクセルペダルを速く強く踏み込んだ*1 あとに衝突した、または衝突後に アクセルペダルを速く強く踏み込んだ*1 とき
- 次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。
  - 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
  - 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
  - ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



- アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

⚠ 警告

衝突時の急加速抑制

- 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

*1: アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

7 通信で安心、快適、便利を支援するしくみ

7-1. ITS Connect

ITS Connect の概要 562
ITS Connect アイコンの見方 565
ITS Connect 割り込み表示による通知／案内／注意喚起 .. 566

ITS Connect の概要

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ ITS Connect について

- 次のような状況では、ITS Connect は作動しません。
  - 交差点に DSSS[*1] 用路側装置が設置されていないとき
  - 先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき
- 交差点に進入する方向によっては、作動する通知／案内／注意喚起が異なる場合があります。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。

そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知／案内／注意喚起」をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）／出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

⚠ 注意

■ ITS Connect 機器取り扱いの注意

- ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。
- ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

*1：DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知／判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

知識

■ ITS Connect 機器に関する情報

- 本製品は、トロンフォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。
- 本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。

  機種名:DTU-1030

  型式認定番号:10008
- 本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ ITS Connect に関するお問い合わせについて

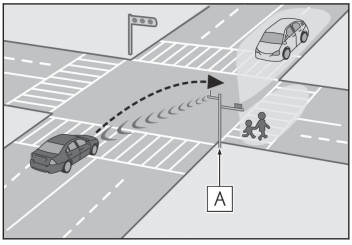
ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子／機能／使用方法や路側装置の整備計画など）はレクサスオーナーズデスクにお問い合わせください。

レクサスオーナーズデスクについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ ITS Connect機器取り扱いの注意
・ITS Connect機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。
・ITS Connect機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

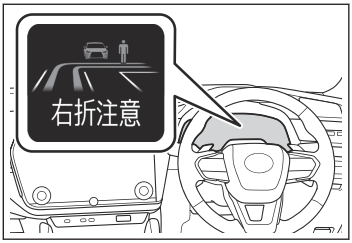
安全運転を支援する通知／案内／注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS[*1] 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。



A 路側装置

*1：DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知／判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。



受信した情報は、状況に応じて通知／案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意を促すことにより安全運転を支援します。

通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、メーターに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。

アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

ITS Connect 割り込み表示による通知／案内／注意喚起

状況に応じて、次の通知／案内／注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。右折時注意喚起、赤信号注意喚起、出会い頭注意喚起はヘッドアップディスプレイにも割り込み表示します。出会い頭注意喚起はパノラミックビューモニターにも表示します。

右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

- 対向車および歩行者を感知する交差点



- 対向車のみを感知する交差点



- 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）

DSSS 用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いることにより、右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落して

いる可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



- 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

出会い頭注意喚起

地図データを用いることにより、交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

低速走行中にも、表示による注意喚起を行います。



- 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

赤信号注意喚起

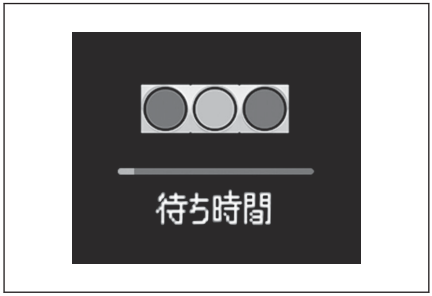
赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。



緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーと音声案内により、自車に対する緊急車両のおおよその方向／距離／進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。



知識

■ 交差点ごとの作動する通知／案内／注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知／案内／注意喚起は異なります。

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
  - 高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
  - トンネルや高架下を通過しているとき
  - EV システムを始動してから、しばらく走行するまでの間
- 例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
  - 周囲に大型車が走行しているときなど、通信が遮られたとき
  - 通信を妨害する電波が発せられているとき
  - DSSS 用路側装置の向きが変わってしまっているとき
  - DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
  - 他車両の通信機が故障しているとき
- 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
  - 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
  - 周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
  - 対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
  - DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
  - DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
  - 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
  - 地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
  - 相手通信車両から受信した情報が誤っているとき
- 出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
  - 交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
  - 地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
  - 相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

● 赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- 遅い速度で走行しているとき
- 停車しているとき
- 交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
- DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

● 信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- 前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
- 青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
- 停車していないとき
- 交差点付近の側道や駐車場など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき
- DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

● 緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- 緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
- 緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
- 立体交差付近を走行しているとき
- 緊急車両から受信した情報が誤っているとき

■ 出会い頭注意喚起の支援タイミングについて

出会い頭注意喚起の支援タイミングは、FCTA の注意喚起タイミングと連動して変更されます。

■ カスタマイズ機能設定のしかた

センターディスプレイのカスタマイズ設定から、ITS Connect の設定を変更することができます。(→P.760)

● 支援タイミング

次の機能の支援タイミング(早い／遅い)を切り替えることができます。*1 (初期設定：早い)
- 赤信号注意喚起
- 右折時注意喚起

● 信号情報

次の機能の ON/OFF を切り替えることができます。*2 (初期設定：ON)
- 赤信号注意喚起

*1: 各機能の支援タイミングを個別に変更することはできません。

*2: “信号情報”または“道路環境情報”に含まれる各機能を個別に ON/OFF することはできません。

- 信号待ち発進準備案内

● 道路環境情報

次の機能の ON/OFF を切り替えることができます。*1(初期設定：ON)

- 右折時注意喚起
- 出会い頭注意喚起*2

● 緊急車両通知

緊急車両存在通知の ON/OFF を切り替えることができます。(初期設定：ON)

● 通信利用型クルーズ

通信利用型レーダークルーズコントロールの ON/OFF を切り替えることができます。(初期設定：ON)

*1: “信号情報”または“道路環境情報”に含まれる各機能を個別に ON/OFF することはできません。

*2: FCTA の注意喚起が非作動のときは作動しません。

8 車のお手入れ

8-1. 外装のお手入れ

洗車 574

8-2. マットクリア塗装のお手入れ

マットクリア塗装の概要（マットクリア塗装設定車） 581

マットクリア塗装の洗車のしかた（マットクリア塗装設定車） 586

マットクリア塗装のよくあるご質問（マットクリア塗装設定車） 588

8-3. 内装のお手入れ

室内を清掃する 591

合成皮革部分のお手入れをする 593

8-4. 消耗品の点検

ボンネットを開ける 594

ウォッシャー液を補充する 596

エアコンフィルターのお手入れ 597

8-5. タイヤのメンテナンス

タイヤのメンテナンス 601

タイヤの点検項目 602

タイヤ空気圧警報システムのはたらき 604

タイヤ空気圧の点検 613

ガレージジャッキを使ったジャッキアップ 615

タイヤをローテーションする 617

タイヤの交換 618

洗車

⚠ 警告

モータールーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 塗装の劣化や車体／部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

● 次のような場合は、ただちに洗車してください。

- 海岸地帯を走行したあと
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- コールタール／花粉／樹液が付着したとき
- 鳥のふん／虫の死がいが付着したとき
- ばい煙／油煙／粉じん／鉄粉／化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ほこり／泥などで激しくよごれたとき
- 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

● 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

● ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

● 水を十分かけながら、車体／足まわり／下まわりの順番に上から下へよごれを洗い落とす

● 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う

● よごれがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す

● 水をふき取る

なお、ボデーコート／ホイールコート／ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■ カーボン部品について★

- 長期にわたって紫外線を浴び続けると変色することがありますので、直射日光のあたらない場所で車を保管されることをおすすめします。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■ セルフリストアリングコート*1

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から 5～8 年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。

  なお、お湯をかけて塗装を暖めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■ ブレーキキャリパーの塗装について★

- 洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。 研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- ブレーキキャリパーが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■ 洗車などで車に水をかけたとき

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、ロック／ロック解除動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する

  電子キーの盗難に注意してください。
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する

■ ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

自動洗車機の使用（カーボン部品非装着車）

⚠ 注意

自動洗車機を使用するときは、ワイパースイッチを OFF にしてください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

*1: カーボン部品には、セルフリストアリングコートが塗装されていません。

⚠ 注意

AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

- お車を洗う前に次のことを実施してください。
  - ドアミラーを格納します。
  - パワーバックドアを停止します。

  走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。
- 自走式洗車機を利用するときなど、 N ポジションに保持したままにする必要があるときは、P.206 を参照してください。

自動洗車機の使用（カーボン部品装着車）

カーボン部品に傷が付き塗装を損なうおそれがあるため、自動洗車機は使用しないでください。

高圧洗浄機を使った洗車

⚠ 注意

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。

  高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
  - 駆動系部品
  - ステアリング部品
  - サスペンション部品
  - ブレーキ部品
- 洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあります。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。駆動用電池の中に水が侵入し、EV システムの不調や故障の原因になります。
- 充電リッド付近に使用しないでください。充電インレットに水が入り、車両故障につながるおそれがあります。

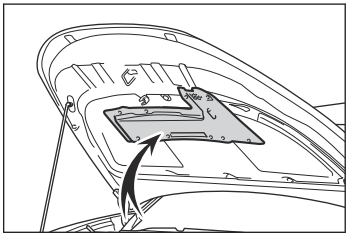
高圧洗車機を使うときは、室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

ボンネットエアアウトレットについて（カーボン部品装着車）

⚠ 注意

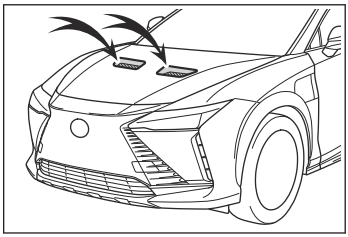
- ボンネットのエアアウトレットには、水やごみ（枯葉など）から EV システムを保護するためにカバーが装着されています。

  モータールーム内の熱気を逃がし外からの雨水などを適切な位置に排出する役割があるため、絶対にはずさないでください。



- 洗車時にボンネットのエアアウトレットにバケツなどで一度に大量の水をかけたり、高圧洗浄機で直接水を当てたりしないでください。

  モータールーム内に水がかかり、EV システムなどに悪影響をおよぼすおそれがあります。



ホイール／ホイールキャップを清掃する（マット塗装ホイール非装着車）

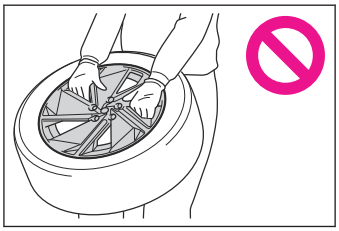
次のことを行ってください。

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落とします。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流します。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
  - 酸性／アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
  - 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流します。
  - 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

⚠ 注意

■ 樹脂加飾部品★の取り扱いについて

● ホイールに装着されている樹脂加飾部品の取り扱いについては、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、樹脂加飾部品またはホイールが損傷するおそれがあります。



- 樹脂加飾部品を取りはずさない

  樹脂加飾部品の取りはずしが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 樹脂加飾部品を持ってホイールを持ち上げたり、持ち運んだりしない

● 樹脂加飾部品にガタつきがあったり、走行中にホイール周辺から異音が聞こえたりするときは、レクサス販売店でホイールの点検を受けてください。

ホイール／ホイールキャップを清掃する（マット塗装ホイール装着車）

マット塗装のホイール・ホイールキャップの場合はお手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

● 水洗いで早めに汚れを落としてください。

  汚れがひどい場合は、中性洗剤を薄めて使用してください。

● 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流し、柔らかい布で水滴をふき取ってください。

● スポンジまたは柔らかい布を用いて手洗いで汚れを落としてください。

● マット塗装の損傷や艶が出ることを防ぐために、次のことをお守りください。

- コーティング剤やワックスは使用しない
- 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
- タイヤクリーナやタイヤワックスを付着させない
- 乾いた布やブラシ等で磨いたり、こすったりしない
- 自動洗車機を使用する際は、ホイール専用ブラシでの洗浄は行わない
- 高圧式スプレーガンやスチームクリーナは使用しない
- 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バンパーの清掃

⚠ 警告

リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

- Lexus Safety System +
- BSM（ブラインドスポットモニター）
- 周辺車両接近時サポート（録画機能、通報提案機能）
- 後方車両への接近警報
- 後方車両接近告知
- 安心降車アシスト（ドアオープン制御付）
- クリアランスソナー
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）

研磨剤入りの洗剤でこすらないでください。

メッキ部品をお手入れする

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをします。

- 中性洗剤を水で約 5%に薄めてやわらかい布に含ませ、ふき取ります。
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取ります。
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取ります。

ランプの清掃

⚠ 注意

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
  ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。
  レンズを損傷するおそれがあります。

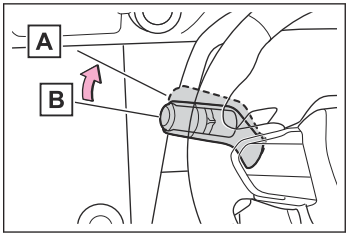
フロントウインドウガラスの清掃

⚠ 警告

ワイパースイッチを OFF にしてください。

⚠ 警告

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF
B AUTO

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

知識

■ フロントドアガラスの撥水コーティングについて

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

- フロントドアガラス表面の泥などのよごれを落とす
- よごれは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
- コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
- 金属製の道具で霜取りをしない

ワックスをかける（マットクリア塗装以外）

水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけをします。

ボデーの表面のよごれを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかけてください。（およそ体温以下を目安としてください）

アルミ部品の清掃

⚠ 注意

ボンネットを清掃するときは、強く押したり、体重をかけたりしないでください。アルミ部分がへこむおそれがあります。

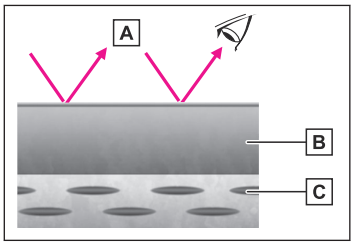
マットクリア塗装の概要（マットクリア塗装設定車）

自動車の塗装は、耐久性や仕上がりを目的として数層の重ね塗りが施されています。そのうち最も表面にあたるのがクリア塗装です。一般的なクリア塗装は塗装面に艶を出して見栄えを良くする役割がありますが、マットクリア塗装はその艶を出さないようにすることで、独特の質感を表現しています。この質感を少しでも長く保つためには、日常のお手入れや保管のしかたに気を配る必要があります。

一般的なクリア塗装とマットクリア塗装の構造の違い

■ 一般的なクリア塗装

● 断面



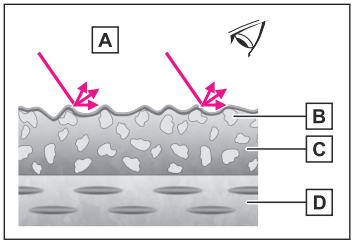
A 光
B クリア
C ベース

● 表面の拡大画像



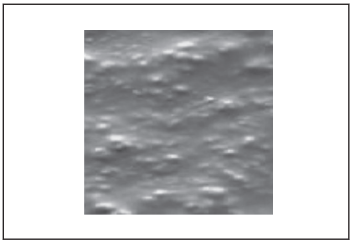
■ マットクリア塗装

● 断面



A 光
B 艶消し剤
C クリア
D ベース

● 表面の拡大画像



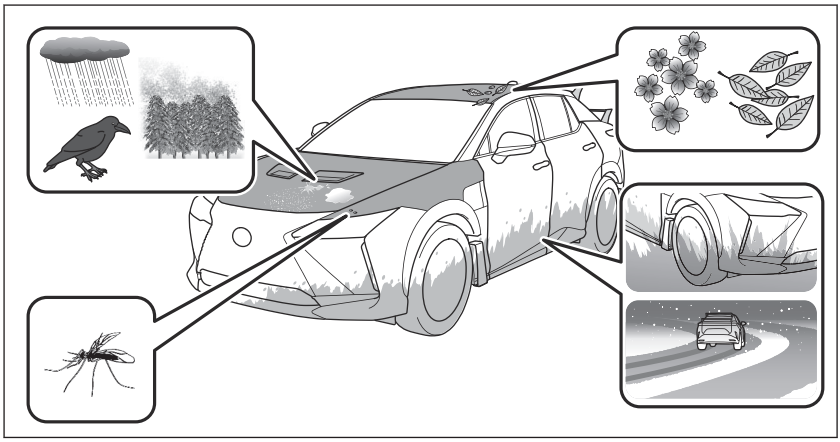
イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

私たちが艶のあり／なしを感じるのは、物の表面に反射して私たちの目に入る光の量が関係しています。

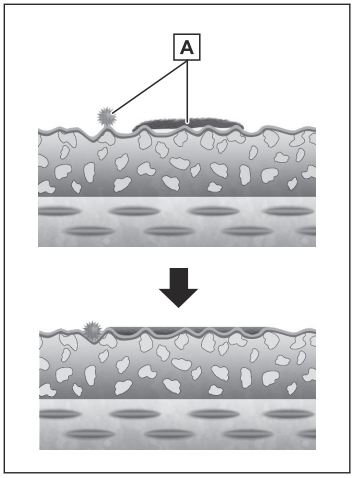
一般的なクリア塗装は表面が平らで滑らかになっています。平らな面に当った光は、鏡に当った光のように一方向に正反射する量が多いため、目に入る光の量は多くなります。そのため、私たちの目には車のボデーに艶があるように映ります。

マットクリア塗装は、クリア塗料に艶消し剤を添加して表面に細かな凹凸をつけています。凹凸な面に当った光はいろいろな方向に拡散して反射するため、目に入る光の量は少なくなります。この効果によって、マットクリア塗装が施されたボデーは艶が消えたように見える独特の質感を表現しています。

マットクリア塗装のお手入れについて



お車の塗装表面に汚れが付着した場合は速やかに洗車してください。(→P.586)



A 汚れ

表面に細かな凹凸があるため、一般的なクリア塗装よりもマットクリア塗装は汚れが付着しやすくなります。

そのまま放置すると、付着した汚れは塗装表面の隙間に入り込んでしまい落としにくくなります。また、凹凸のある塗装表面が平らに近づくことで艶が出てしまい、マットな質感が損なわれます。

そのため、こまめに洗車して、汚れたままにしておかないようにする必要があります。

通常の洗車で落ちない汚れを、マットな質感を損なわずに落とすためには、汚れを塗装表面ごと削り落とした後、部品全体を再塗装する必要があります。

詳細はレクサス販売店へご相談ください。

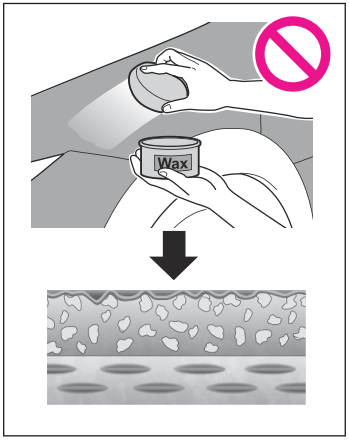
知識

■ 落としにくい汚れ

次のような汚れは落としにくくなるおそれがあるため、付着した場合は速やかに洗車することをおすすめします。

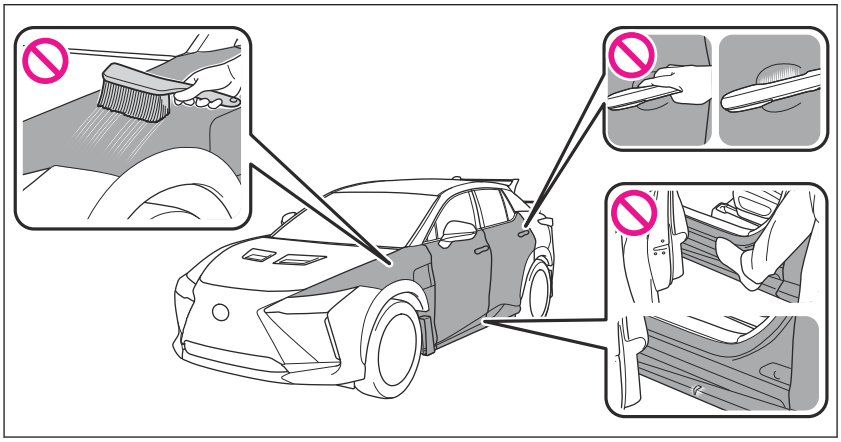
- 雨水、海水
- 砂ぼこり、花粉、火山灰
- 虫の死骸、鳥のふん
- 樹液、落ち葉、花びら
- 泥、雪、凍結防止剤
- ガソリン、オイル、アスファルト

■ ワックスがけやコーティング剤の使用はしないでください



ワックスやコーティング剤は塗装を保護する被膜を形成します。マットクリア塗装では、この被膜が塗装表面の凹凸を埋めてしまいます。その結果、凹凸のある塗装表面が平らに近づくことで表面に艶が出てしまい、マットな質感が損なわれるおそれがあります。

キズの補修について



普段から塗装面に傷をつけないよう十分にご注意ください。

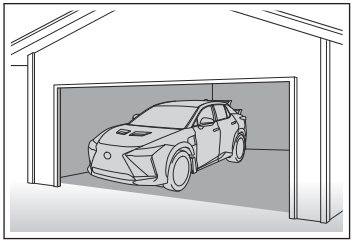
一般的なクリア塗装では、細かな傷を補修するために塗装表面を研磨したり、タッチアップペイントで塗装したりします。

マットクリア塗装では、そういった方法で傷を補修すると塗装表面の凹凸が削られたり埋められたりして塗装表面に艶が出てしまい、マットな質感が損なわれるおそれがあります。

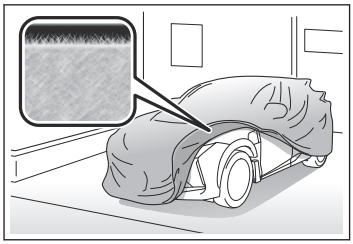
マットな質感を損なわずに傷を補修するには、部品全体を再塗装する必要があります。

日頃の駐車場所について

● 車の塗装は紫外線や雨などの影響で自然に劣化します。少しでも長く塗装面を良好な状態に保つために、直射日光や雨風、地面からの湿気を遮ることができる舗装された車庫に駐車されることをおすすめします。



● カーカバーを使用する場合は、内側の素材が塗装面を傷付けにくいもの（起毛、不織布など）をお選びください。カーカバーをお使いになる場合でも、地面からの湿気を遮ることができる舗装された場所に駐車されることをおすすめします。



知識

■ カーカバーの使用について

- お車のサイズに適合するカーカバーを使用してください。詳しくは購入された商品のメーカーにお問い合わせください。
- 駐車場所に応じて適切なカーカバーを使用してください。詳しくは購入された商品のメーカーにお問い合わせください。
- 天候やお車の状態によって、カーカバーの使用方法は異なります。使用方法を誤ると、かえって塗装に悪影響を与えたり、塗装面に傷が付いたりするおそれがあります。購入された商品に付属の取扱説明書をよくお読みになって正しく使用してください。

マットクリア塗装の洗車のしかた（マットクリア塗装設定車）

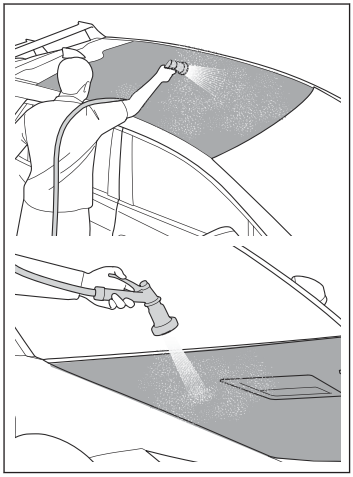
塗装面を損なわないようにするため、手洗いによる水のみでの洗車をおすすめします。

洗車のしかた

1 **車体表面の砂やほこりを、十分に水をかけて車体の上から下へ洗い流す**

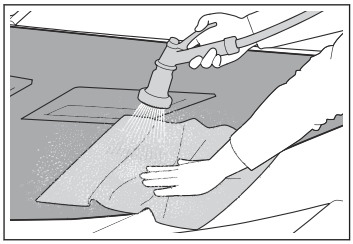
洗い流した部分に汚れが飛び散るのを防ぐため、タイヤなど足回り部品がひどく汚れている場合は、先に足回りの汚れを洗い流します。

目立った汚れが落ちずに残っている場合は、ホースやシャワーノズルを近づけて、やや強めの水圧で押し流します。



2 **十分に水をかけながら、柔らかいセーム皮で車体を軽くふく。車体の上から順に汚れを落とす**

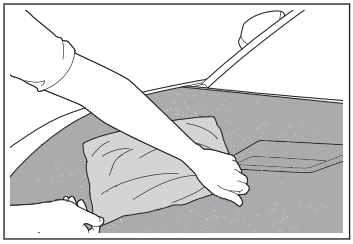
落ちない汚れがある場合(→P.586)



3 **車体を強くこすらないように気をつけながら、別の柔らかいセーム皮で車体表面の水滴をふき取る**

水滴が乾く前に速やかにふき取ってください。

水洗いに使用したセーム皮をふき取りに使用しないでください。



⚠ 注意

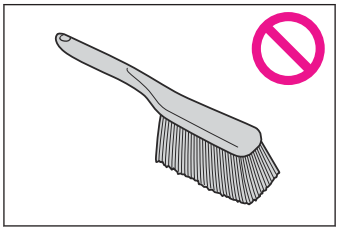
■ 塗装面の傷付きやマットな質感の低下を防ぐために

次の注意をお守りください。

⚠ 注意

お守りいただかないと、塗装面に傷が付いたり艶が出てマットな質感を損なったりするおそれがあります。

- 洗車ブラシを使用しない



- 塗装面を強くこすらない
- 電動ポリッシャーを使用しない
- コンパウンド（研磨剤）を使用しない
- アルカリ性（弱アルカリ性を含む）洗剤を使用しない
- 塗装面にステッカーやラッピングフィルムなどを貼り付けない
- マグネット式の標識などを塗装面に貼り付ける前に、貼り付け箇所の砂やほこりを十分に洗い流し、完全に水滴をふき取る

マットクリア塗装のよくあるご質問（マットクリア塗装設定車）

マットクリア塗装に関する疑問や質問について、Q&A 形式でまとめてあります。

洗車について

■ 洗車全般 (→P.586)

Q	A
洗車してもいいですか？	汚れが付着したらただちに洗車してください。
こまめに洗車したほうがいいですか？	
どうやって洗車したらいいですか？	水とセーム皮を使用して手洗いしてください。
洗車時に気をつけることはありますか？	まずは水で車両全体を上から順にしっかりと洗い流してください。
自動洗車機を使用してもいいですか？	使用しないでください。
高圧洗浄機を使用してもいいですか？	

■ 汚れが付着したら (→P.582)

Q：次のような物質が付着した場合、どのように対処すればいいですか？

物質	A
落ち葉、花びら、小枝	ただちに取り除いてください。 車体に傷が付くおそれがあります。また、汚れや樹液が固着して取れなくなり、マットな質感を損なうだけでなく、塗装そのものを傷めるおそれがあります。
鳥のふん、虫の死骸	ただちに水で洗い流してください。 水洗いで落ちない場合は、中性洗剤を使用してください。汚れを放置すると固着して取れなくなり、マットな質感を損なうだけでなく、塗装そのものを傷めるおそれがあります。
花粉、砂ぼこり	
油汚れ	
水垢	精製水に混ぜたクエン酸を使用してください。
アスファルト汚れ（ピッチタール）	通常の洗車では取り除くことができません。 コンパウンド（研磨剤）等を使用しないでください。 マットな質感を損なうおそれがあります。
ガラス用撥水コーティング剤	ただちにふき取ってください。 成分によっては、ふき取ってもマットな質感を損なうおそれがあります。

物質	A
ガラス用油膜取り	ただちにふき取ってください。 成分によっては、ふき取ってもマットな質感を損なうおそれがあります。
タイヤクリーナー	
ガソリン	
オイル	
ウォッシャー液	

■ 洗車用品について (→P.586)

Q	A
カーシャンプーを使用してもいいですか？	使用できます。
家庭用中性洗剤を使用してもいいですか？	カーシャンプーのように水で薄めて使用してください。 使用後はしっかりと水で洗い流してください。
何を使って汚れをふき取ればいいですか？	柔らかいセーム皮を使用してください。
何を使って水滴をふき取ればいいですか？	
水アカ取りを使用してもいいですか？	おすすめできません。 カーシャンプーを使用し、水で洗い流してください。マットな質感を損なうおそれがあります。
ワックスやコーティング剤を使用してもいいですか？	使用しないでください。 マットな質感を損なうおそれがあります。
鉄粉除去剤を使用してもいいですか？	
ピッチクリーナーを使用してもいいですか？	使用しないでください。 塗装そのものを損なうおそれがあります。
マットクリア塗装専用クリーナー／ワックスを使用してもいいですか？	おすすめできません。 マットクリア塗装本来の質感に影響が出るおそれがあります。
レクサス純正の洗車用品はありますか？	ありません。 柔らかいセーム皮をご使用ください。
市販品でおすすめの洗車用品ブランドはありますか？	特に指定はありません 柔らかいセーム皮をご使用ください。

■ ボディーコーティングについて

Q	A
レクサス販売店でコーティングは施工可能ですか？	施工できません。 マットな質感を損なうおそれがあります。
市販業者によるコーティングは施工可能ですか？	おすすめできません。 マットな質感を損なうおそれがあります。
市販業者によるマット塗装専用コーティングは施工可能ですか？	おすすめできません。 マットクリア塗装本来の質感に影響が出るおそれがあります。

■ 補修について (→P.584)

Q	A
塗装面に付いた傷は補修できますか？	マットな質感を損なわずに補修するには、部品全体を再塗装する必要があります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
コンパウンド（研磨剤）を使用してもいいですか？	使用しないで下さい。 マットな質感を損なうおそれがあります。マットな質感を損なわずに補修するには、部品全体を再塗装する必要があります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
タッチアップペイントを使用してもいいですか？	

■ アクセサリー他

Q	A
車体にステッカーやラッピングフィルムなどを貼り付けてもいいですか？	貼り付けないでください。 傷が付くだけでなく、はがした際にマットな質感を損なうおそれがあります。
車体にマグネット式の標識などを付けてもいいですか？	貼り付け箇所の砂やほこりを水で十分に洗い流し、水滴をふき取ってから付けてください。

室内を清掃する

⚠ 警告

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。

  電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- おくだけ充電®（ワイヤレス充電器）（→P.303）をぬらさないでください。発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ やけどを防ぐために

車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとパノラマルーフガラス★の下側が熱くなるため、やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■ 清掃するとき使用する溶剤

- 変色／しみ／塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
  - シート以外の部分：ベンジン／ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤／染色剤／漂白剤
  - シート部分：シンナー／ベンジン／アルコール／その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ／溶解／変形の原因になるおそれがあります。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。（→P.370）

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ パノラマルーフガラス★を清掃するときは

パノラマルーフガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー／洗剤／ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤／水分をふき取る

知識

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルトの取扱い

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ／ほつれ／傷などを定期的に点検してください。

■ パノラマルーフガラス★の取り扱い（Low-E コート）

- 金属製の道具や鋭利な形状の道具で擦らないでください
- ガラス表面にフィルムを貼るとコーティングの機能が損なわれるおそれがあります
- ガラス表面に吸盤を吸着させると、吸着跡残りのおそれがあります

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

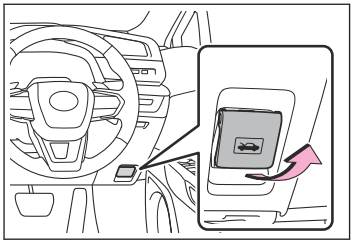
合成皮革部分のお手入れをする

- 掃除機などでほこりを取り除きます。
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取ります。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤／水分をふき取ります。

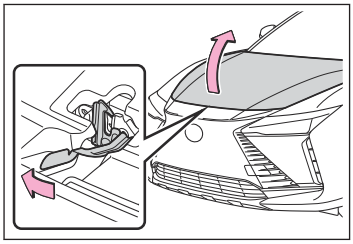
ボンネットを開ける

1 **ボンネット解除レバーを引きます。**

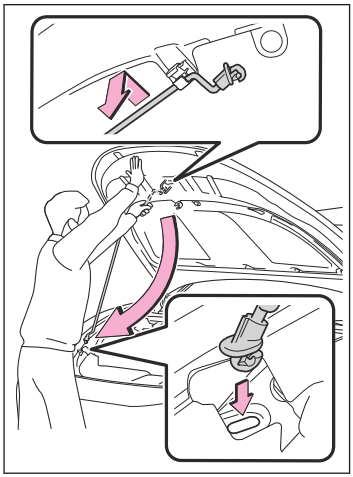
ボンネットが少し浮き上がります。



2 **レバーを左方向に押してボンネットを開けます。**



3 **ボンネットステーをステー穴に挿し込む**



⚠ 警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。

ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開くおそれがあります。

■ 修理／車検／整備点検をする場合は

整備モードに切り替える必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。
高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤るおそれがあります。

⚠ 警告

■ ボンネットを開けるときは

ボンネットを開ける前にパワースイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に電動ファンは、パワースイッチを OFF にしたあとも作動する場合がありますので注意してください。

■ モータールーム点検後の確認

モータールーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

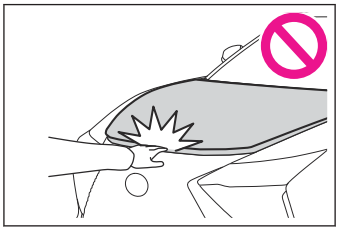
点検や清掃に使用した工具や布などをモータールーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、モータールーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。



⚠ 注意

■ ボンネットへの損傷を防ぐために

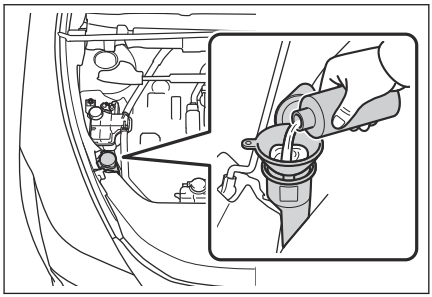
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

ウォッシャー液を補充する

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに“ウォッシャー液を補充してください”が表示されたら、ウォッシャー液を補充してください。



⚠ 警告

EV システムが熱いときや EV システム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、EV システムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水や不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターのお手入れ

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、作業中にエアコンが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 充電コネクターが接続されていないことを確認する
- リモートエアコンシステムを使用しない

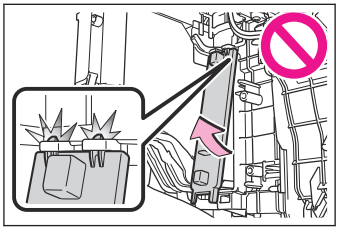
⚠ 注意

■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

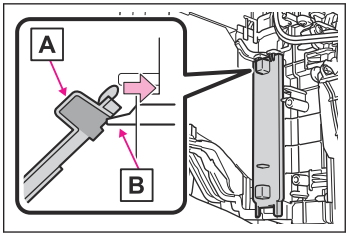
■ エアコンを使用するときの注意

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



知識

■ フィルターカバー取り付けのときは



フィルターカバーの凹み部A を図のように上段のフィルターケースB の上面を滑らせ、カバー取り付けの差し込み部に向かって持ち上げるように取り付ける。

■ エアコンフィルターの交換について

15,000km [7,500km*1] ごと、ただし 12 ヶ月をこえないこと*2

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

エアコンフィルターを交換する

1 パワースイッチを OFF にします。

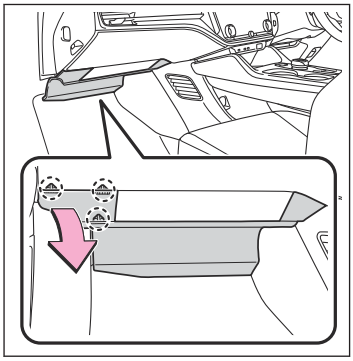
充電コネクターが接続されていないことを確認してください。また、作業中はリモートエアコンシステムを使用しないでください。

2 助手席ドアを開けます。

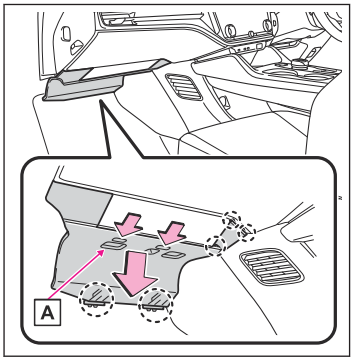
ドアを開けておくことで、リモートエアコンシステムの意図せぬ作動を防止できます。

3 発煙筒を取りはずします。

4 助手席ドア側のクリップを取りはずします。



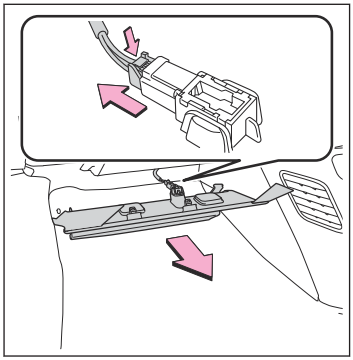
5 ツメを押しながら取っ手Aを持ってパネルを取りはずします。



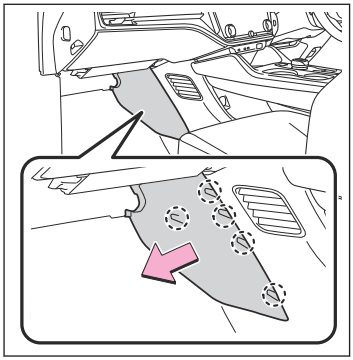
*1: 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

*2: 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

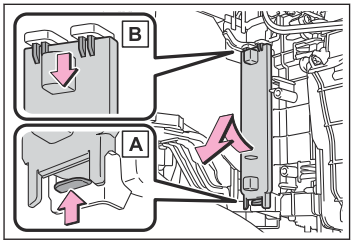
6 コネクターを切りはなします。



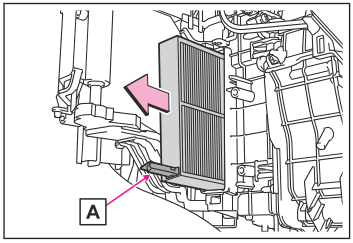
7 パネルを取りはずします。



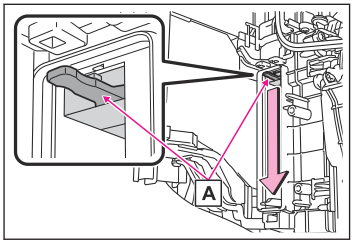
8 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィルターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずします。



9 フィルターケースAを持って下段のフィルターケースを取りはずします。

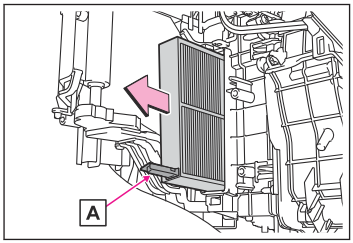


10 フィルターケースAを持って上段のフィルターケースを引き下げます。



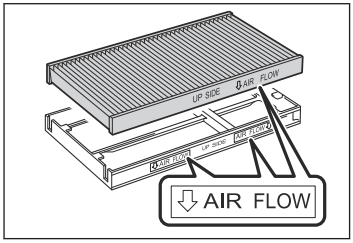
11 フィルターケースAを持って上段のフィルターケースを取りはずします。

エアコン本体内の底部にほこり、ゴミ（落ち葉など）がたまっていることがあるため掃除機などで取り除いて下さい。



12 フィルターを上段と下段のフィルターケースから取りはずし、新しいフィルターと交換してください。

矢印が車両後方を向くように取り付けます。



タイヤのメンテナンス

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

⚠ 注意

段差や凹凸のある悪路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ／ホイール／車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤの点検項目

⚠ 警告

■ 点検／交換時

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦になるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー／同一銘柄／同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ／バイアスベルテッドタイヤ／バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ／オールシーズンタイヤ（マット＆スノータイヤ）／冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない

  以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（電費／車両の安定性／制動距離など）が発揮されない

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊“メンテナンスノート”を参照してください。

- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

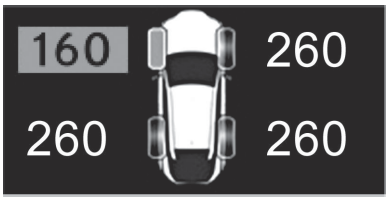
タイヤ／ディスクホイール／ホイール取り付けボルトを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

タイヤ空気圧警報システムのはたらき

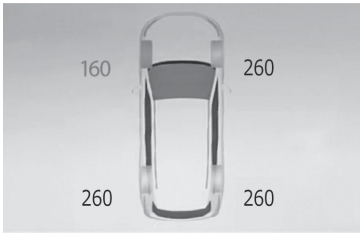
ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

タイヤ空気圧警報システムは状況に応じて 2 種類の警報とタイヤ空気圧警告灯、ブザーでお知らせをします。(→P.639)

▶ **マルチインフォメーションディスプレイ**



▶ **センターディスプレイ**



- “空気圧を調整してください”が表示されたとき

  通常の使用によって、タイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。

- “すみやかに安全な 場所でタイヤ点検”が表示されたとき

  急激にタイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。

  ただし、このシステムはパンク等を検出できない場合があります。

- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をセンターディスプレイに表示できます。(→P.350)

知識

■ 定期的なタイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊“メンテナンスノート”を参照してください。

■ **タイヤ空気圧表示**

- パワースイッチを ON にしたあと、空気圧が表示されるまで 2,3 分かかります。
  また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2,3 分かかります。
- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ **タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況**

- 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
  - 純正ホイール以外を使用したとき
  - 純正装着タイヤ以外に交換したとき
  - 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
  - タイヤチェーンなどを装着しているとき
  - 電波を遮断するフィルムがウィンドウに貼り付けられているとき
  - 車両（特にホイール／ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
  - タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
  - タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
  - タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき
- 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
  - 近くにテレビ塔や発電所／ガソリンスタンド／放送局／大型ディスプレイ／空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
  - 無線機や携帯電話／コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

  電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。
- 停車時は警報開始／警報解除までの時間が長くなる場合があります。
- タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

空気圧バルブ／送信機の装着

⚠ **注意**

■ **タイヤ、ホイール、空気圧バルブ／送信機、バルブキャップの修理／交換**

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。
- レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
  レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

⚠ 注意

- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが腐食し、固着やエアー漏れの原因となります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ タイヤパンク応急修理キットを使用したときは

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。(→P.609)

知識

■ ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。

その場合、約 10 分間走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

タイヤの位置を登録する

タイヤローテーションを行ったときは、タイヤの位置を登録する必要があります。

お客様自身でタイヤ位置を登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることでタイヤ位置は登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

1 **車を安全な場所に駐車し、15 分以上 EV システムを停止します。**

2 **EV システムを始動します。**

車両が動いているときは、タイヤ位置の登録操作はできません。

3 **センターディスプレイで⚙を選択します。**

4 **“車両カスタマイズ”を選択します。**

5 **“タイヤ空気圧”を選択します。**

6 **“タイヤローテーション”を選択します。**

7 **“OK”を選択します。**

マルチインフォメーションディスプレイにタイヤ位置登録中のメッセージが表示されます。タイヤ空気圧表示が“---”になり、タイヤの位置判定を開始します。

8 **約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10～30 分走行します。**

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧の表示と登録完了のメッセージが表示され、タイヤ位置の登録が完了します。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも長時間運転すると登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録ができない場合は、パワースイッチは ON のまま、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直して下さい。

知識

■ タイヤ位置を登録するときは

- 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。
- 車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

■ タイヤ位置登録の操作

- タイヤ位置登録中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的にタイヤ位置判定処理が再開されるため、あらためて登録し直す必要はありません。
- タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■ タイヤ空気圧警報システムのタイヤ位置登録がうまくいかないとき

- 次の場合は、タイヤ位置の登録に時間がかかる場合や、登録ができない場合があります。
  - 約 40km/h 以上で走行していない
  - 未舗装の場所を走行した

  1 時間以上走行しても登録が完了できない場合は、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直してください。
- タイヤ位置登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

タイヤの空気圧を設定する

次のような場合は、タイヤの空気圧をタイヤ空気圧警報システムに設定する必要があります。

- 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき
- タイヤのサイズを変更するなどして、タイヤの設定空気圧を変更したとき

タイヤ空気圧を指定空気圧に調整している場合は、指定空気圧の値を選択して設定します。

指定サイズ以外のタイヤの使用などにより、タイヤ空気圧が指定空気圧以外の場合は、現在の空気圧で設定します。必ず空気圧を適切な値に調整してから設

定操作をしてください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

指定空気圧で設定する

1 EV システムを始動します。

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

2 センターディスプレイで⚙を選択します。

3 “車両カスタマイズ”を選択します。

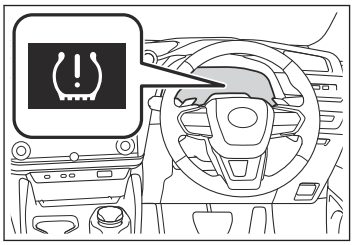
4 “タイヤ空気圧”を選択します。

5 “指定空気圧設定”を選択し、フロントタイヤとリヤタイヤの空気圧を選択します。(→P.614)

6 “OK”を選択します。

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅します。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了のメッセージが表示されます。



知識

■ タイヤ空気圧の設定がうまくいかないとき

- 空気圧設定操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合、設定が開始されていないおそれがありますので、設定手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも空気圧を設定できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

現在の空気圧で設定する

⚠警告

必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

1 タイヤの空気圧を適切な値に調整します。

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。

2 EV システムを始動します。

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

3 センターディスプレイで⚙を選択します。

4 “車両カスタマイズ”を選択します。

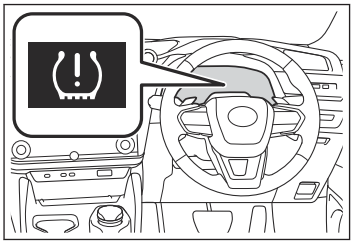
5 “タイヤ空気圧”を選択します。

6 “現在の空気圧を設定”を選択します。

7 “継続”を選択します。

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに設定中のメッセージが表示されます。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了のメッセージが表示されます。



知識

■ タイヤ空気圧警報システムの警報精度

- 現在の空気圧で設定する場合、タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、空気圧設定を実施したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、空気圧設定したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。
- 必ず空気圧を調整した上で、現在の空気圧で設定を実施してください。なお、空気圧の調整および設定操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

■ 空気圧設定の操作

- 空気圧設定中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に設定処理が再開されるため、あらためて設定し直す必要はありません。
- 空気圧設定の必要がない状態で誤って現在の空気圧で設定の操作を行ってしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度指定空気圧で設定もしくは、現在の空気圧で設定で空気圧設定操作を行ってください。

■ タイヤ空気圧の設定がうまくいかないとき

- 通常 2、3 分で終了します。
- 空気圧設定操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合、設定が開始されていないおそれがありますので、設定手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも空気圧を設定できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

ID コードを登録する

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、新しいバルブ／送信機を装着したときは、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

- ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。
- すでに ID コードの登録がされているタイヤセットを使用する場合は、ID 切りかえを行うと短い時間で切りかえることができます。(→P.611)

登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。

1 **車を安全な場所に駐車し、15 分以上 EV システムを停止します。**

2 **EV システムを始動します。**

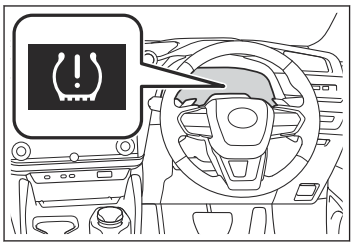
車両が動いているときは、ID コードの登録操作ができません。

3 **センターディスプレイで を選択します。**

4 **“車両カスタマイズ”を選択します。**

5 **“タイヤ空気圧”を選択します。**

6 **セット選択に表示されているセット（“セット 1”または“セット 2”）を確認します。**



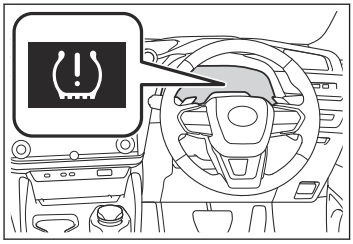
表示されているセットに ID コードを登録します。

登録するセットを変更したい場合は、表示されているセットをタッチし、登録したいセットを選択します。

すでに ID コードが登録されているときは、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに切りかえ中のメッセージが表示されます。

7 **“新規タイヤ登録”を選択します。**

8 **“OK”を選択します。**



タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに登録中のメッセージが表示されます。ID コードの切りかえが中止され、登録を開始します。

ID コードの登録が開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、登録中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が“---”になります。

知識

登録操作時に警告灯が点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。

9 **約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10～30 分走行します。**

登録が完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイに登録完了のメッセージが表示されます。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

知識

■ ID コードの登録をするときは

- 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。
- ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

■ ID コードの登録がうまくいかないとき

- 次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
  - 走行前に約 15 分以上駐車していない
  - 約 40km/h 以上で走行していない
  - 未舗装の場所を走行した
  - 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
  - タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある
- 登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- 1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも ID コードを登録できない場合はレクサス販売店にご依頼ください。

10 **異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧を設定する必要があります。****(→P.607)**

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定するは必要ありません。

ID コードの登録を中止する

ID コードの登録を中止するには、センターディスプレイで“新規タイヤ登録”を再度選択します。

ID コードの登録を中止すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

タイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていません。正しく中止するためには、再度、“新規タイヤ登録”を選択し、警告灯が消灯することを確認してください。

ID コードを切りかえる

この車両は 2 セット分の ID コードを登録することができるタイヤ空気圧警報システムが備わっています。通常使用するタイヤと冬用タイヤの 2 セットを登録しておくと便利です。

- この機能は 2 セット目（セット 2）のタイヤを登録してある場合のみ、切りかえをすることができます。セット 2 のタイヤが登録されていない場合、“セット 2（未登録）”と表示され、選択しても切りかえはできません。

  ID コードの登録はお客様自身で登録することができます。(→P.609)

- ID コードを登録したときのセットでタイヤの交換をしたときのみ切りかえをすることができます。他のセットの ID コードを混在させた場合は作動しません。
- ID コード登録中は、正常に ID コードの切りかえができないおそれがあります。ID コードの登録を中止してから切りかえを行ってください。(→P.611)

1 **切りかえをしたいタイヤセットに交換します。**

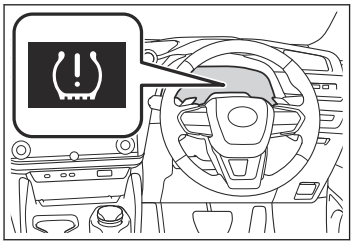
2 **センターディスプレイで⚙を選択します。**

3 **“車両カスタマイズ”を選択します。**

4 **“タイヤ空気圧”を選択します。**

5 **セット選択に表示されているセット（“セット 1”または“セット 2”）をタッチします。**

6 **登録したいセットを選択し、“OK”をタッチします。**



タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、切りかえ中のメッセージが表示され、ID コードの切りかえを開始します。

ID コードの切りかえが開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、切りかえ中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が“---”になります。

約 2 分後に ID コードの切りかえが完了し、タイヤ空気圧警告灯が消灯して、マルチインフォメーションに登録完了のメッセージが表示されます。

約 4 分経過しても切りかえが完了しない場合は、切りかえが完了しないメッセージが表示されます。

装着しているタイヤセットを確認して、切りかえ手順を最初からやり直してください。

7 **異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧の設定が必要です。(→P.607)**

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定するは必要ありません。

8 **タイヤの位置を登録します。(→P.606)**

タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。

⚠ 警告

タイヤの性能を発揮するために適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠ 注意

タイヤ空気圧の点検／調整をしたあとは、タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 電費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

知識

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

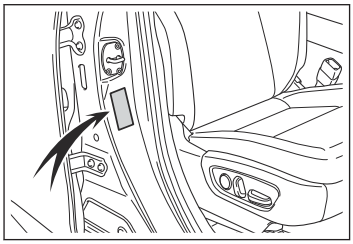
タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。

● 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。

タイヤの指定空気圧の確認

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



- 18 インチタイヤ（前後のタイヤサイズが同じ車両）

  前輪：290kPa（2.9kg/cm^2）*1

  後輪：290kpa（2.9kg/cm^2）*1

- 18 インチタイヤ（前後のタイヤサイズが異なる車両）

  前輪：260kPa（2.6kg/cm^2）*1

  後輪：260kpa（2.6kg/cm^2）*1

- 20 インチタイヤ

  前輪：260kPa（2.6kg/cm^2）*1

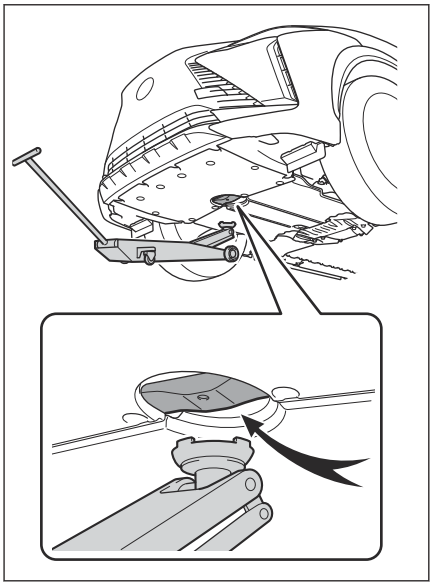
  後輪：240kPa（2.4kg/cm^2）*1

*1: タイヤが冷えているときの空気圧

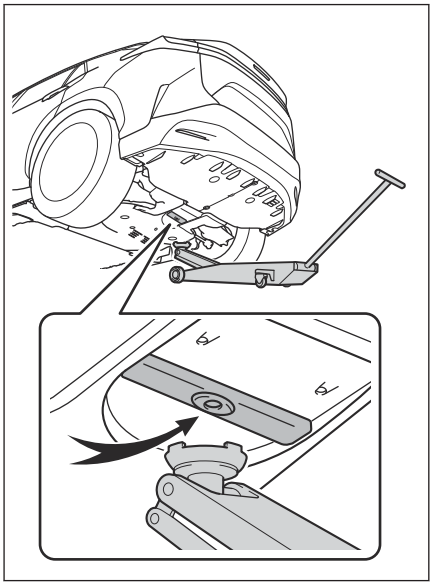
ガレージジャッキを使ったジャッキアップ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

フロント側のジャッキポイントの位置



リヤ側のジャッキポイントの位置



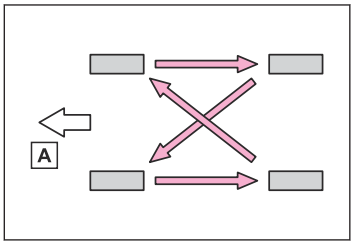
タイヤをローテーションする

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

図で示す順にタイヤのローテーションを行います。

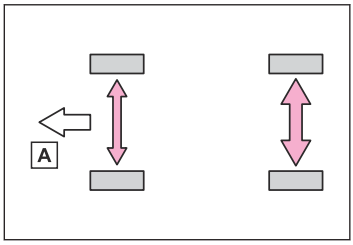
タイヤローテーション後は、確実にタイヤ空気圧警報システムへタイヤ位置の登録の操作を行ってください。(→P.606)

▶ **前後のタイヤサイズが同じ車両**



A 前側

▶ **前後のタイヤサイズが異なる車両**



A 前側

タイヤの交換

ご自身でタイヤを交換するときは、工具とジャッキをご準備ください。 この車両はホイールボルトを使用しています。 工場出荷時に装着されたホイールを使用する場合は、専用のレクサス純正ホイールボルトを使用する必要があります。 ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

ジャッキで車体を持ち上げる前の準備

ジャッキで車体を持ち上げる前に、次のことを行ってください。

1 **地面が固く平らで安全な場所に移動する**

2 **パーキングブレーキをかける**

3 **シフトポジションを P にする**

4 **EV システムを停止する**

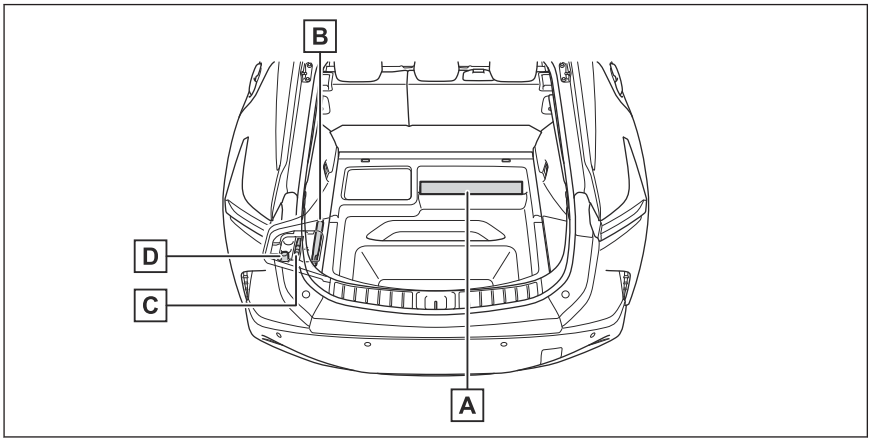
知識

■ 工具とジャッキ

お客様の車にはタイヤパンク応急修理キットが標準装着のため、タイヤ交換に使用する以下の工具とジャッキは搭載されていません。工具とジャッキはレクサス販売店で購入することができます。

- 輪止め
- ジャッキ
- ジャッキハンドル
- ホイールボルトソケット
- ガイドピン
- ホイールボルトレンチ

工具／ジャッキの搭載位置



A 工具袋★

- ジャッキ★
- ジャッキハンドル★
- ホイールボルトレンチ★

B けん引フック

C ガイドピン★

D ホイールボルトソケット★

⚠ 警告

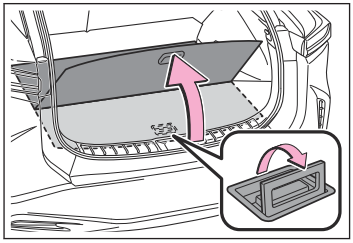
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下するおそれがあります。次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換／タイヤチェーン取り付け／取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ジャッキを取り出す

1　デッキボードを取りはずします。



2　ジャッキを工具袋から取りだします。

タイヤを取りはずす

⚠ 警告

■ タイヤ交換時の注意

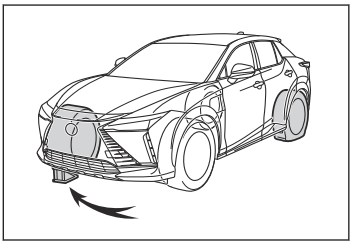
走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。

走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

■ タイヤ交換時のパワーバックドアの設定

タイヤ交換をする際は、パワーバックドアの作動を停止してください。停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。(→P.750)

1　**輪止め**[*1] **をします。**

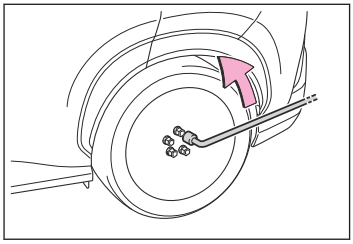


輪止めの位置：

- パンクしたタイヤ：左側前輪
  右側後輪うしろにおいてください。
- パンクしたタイヤ：右側前輪
  左側後輪うしろにおいてください。
- パンクしたタイヤ：左側後輪
  右側前輪前においてください。
- パンクしたタイヤ：右側後輪
  左側前輪前においてください。

*1: 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

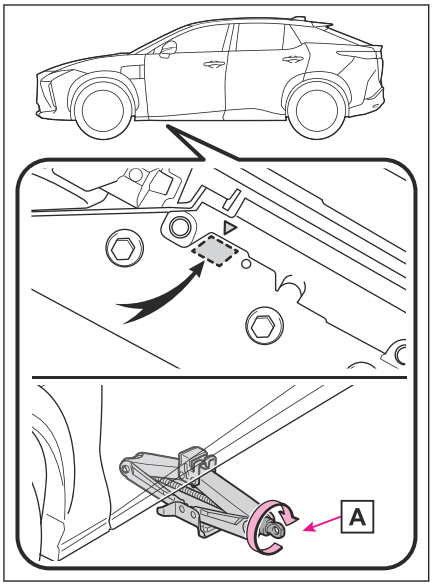
2 **ホイールボルトレンチを使用し、すべてのホイールボルトを少し（約 1 回転）ゆるめます。**



樹脂加飾部品★は取り外さないでください。(→P.578)

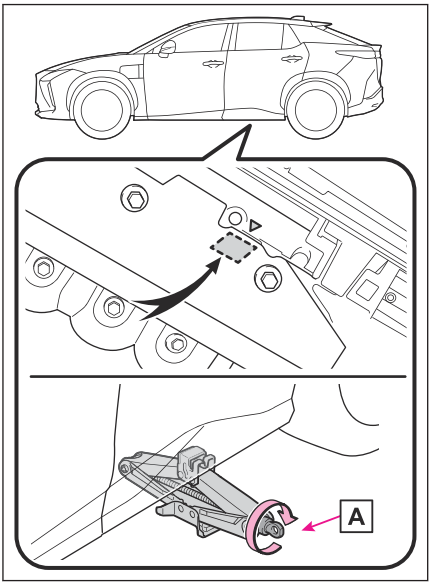
3 **ジャッキのA部を手でまわして、図の位置にしっかりかけます。**

▶ **フロント側**



★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

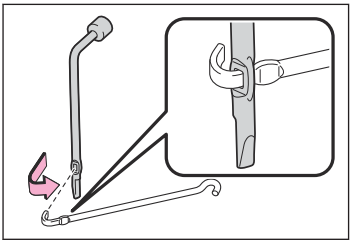
▶ リヤ側



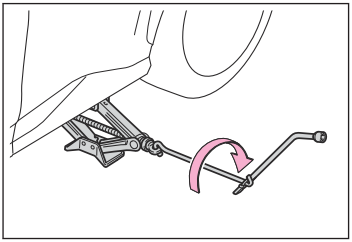
⚠ 警告

ジャッキはジャッキセット位置に正しくかけてください。

4 **ジャッキハンドルにホイールボルトレンチを取り付けます。**



5 **タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げます。**



⚠ 警告

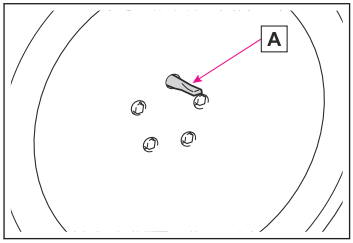
ジャッキを使用するときは、次のことをお守りください。

⚠ 警告

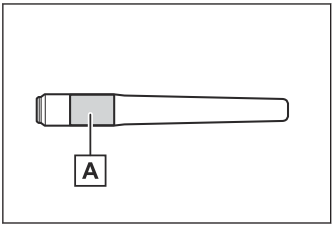
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、EV システムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

6 **最上部にあるホイールボルト 1 本を取りはずし、ガイドピンAを手で締め付けます。**

時計回りに回らなくなるまで締め付けます。



⚠ 警告

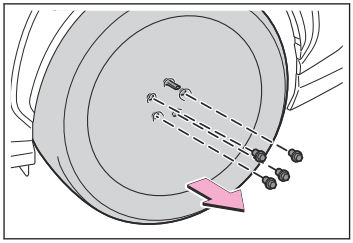


タイヤを交換するときは、ガイドピンを使用してください。

また、ガイドピンは樹脂製のためA部以外にホイールを載せたり、大きな負荷をかけると破損するおそれがあります。

7 **残りのホイールボルトをすべて取りはずし、タイヤを取りはずします。**

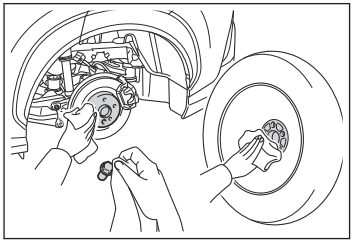
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



タイヤを取り付ける

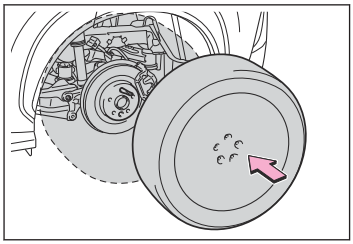
1 **ホイール接触面とホイールボルトの汚れをふき取ります。**

汚れていると、走行中にホイールボルトがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

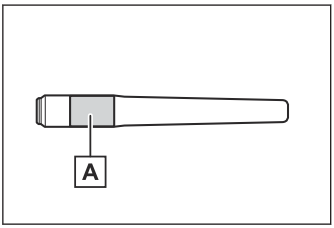


2 **ホイールの穴にガイドピンを通し、タイヤを取り付けます。**

ホイールセンタ穴とハブセンタが嵌合し、ホイールが接触面にあたるまで、しっかり取り付けてください。



⚠ 警告

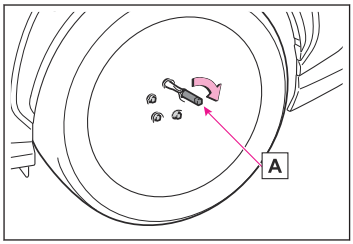


タイヤを交換するときは、ガイドピンを使用してください。

また、ガイドピンは樹脂製のためA部以外にホイールを載せたり、大きな負荷をかけると破損するおそれがあります。

3 **手または、ホイールボルトソケットAを使用し、ホイールボルトを軽く締め付けます。**

ホイールボルトソケットは手による仮締め以外に使用しないでください。



⚠ 警告

次のことをお守りいただかないとホイールボルトがゆるみ、ホイールがはずれ落ちるおそれがあります。

- ホイールとホイールボルトの接触面は、嵌合するように設計されています。工場出荷時に装着されたホイールを使用する場合は、専用のレクサス純正ホイー

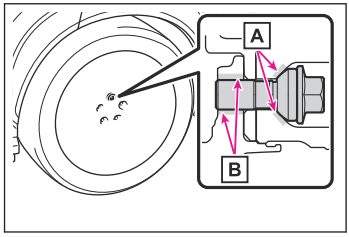
⚠ 警告

ルボルトを使用してください。なおレクサス純正品であっても、他車種および異なる年式／型式のホイールボルトは使用しないでください。また、工場出荷時に装着されたホイールボルトがすべてのホイールに適合するわけではありません。工場出荷時に装着されたホイール以外を取り付けるときは、ホイールの購入先にお問い合わせください。

- ホイールボルトとホイールの球面座部Aにオイルやグリースを塗らないでください。

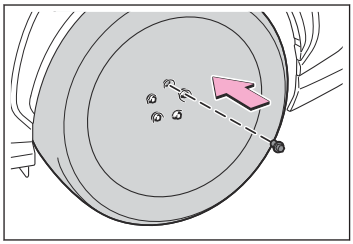
  ホイールボルトを締めるときに必要以上に締め付けられ、ホイールボルトやホイールハブのめねじBが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。

  ホイールボルトを取り付けるときに、オイルやグリースが付いている場合はふき取ってください。

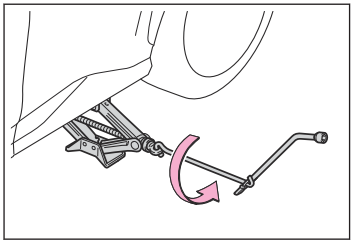


- ホイールボルトのねじ部やホイールハブのめねじ、ホイールのボルト穴につぶれ、亀裂や錆びなどの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

4 **ガイドピンを取り外し、ホイールボルトを手順３同様に軽く締め付けます。**



5 **車体を下げます。**

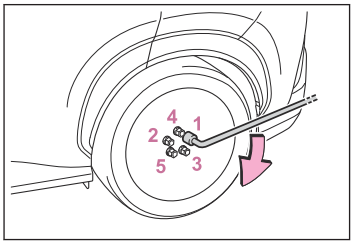


⚠ 警告

車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げてください。

6 **ホイールボルトレンチを使用し、図の番号順でホイールボルトを 2、3 度しっかり締め付けます。**

締め付けトルク：140N・m（1428kgf・cm）



⚠ 警告

ホイールボルトを締め付けるときは、ホイールボルトは過度に締め付けすぎないでください。ホイールボルトやホイールハブのめねじが破損したり、ディスクホイールが損傷する恐れがあります。

7 **すべての工具／ジャッキを収納します。**

⚠ 警告

- ジャッキや工具を使用したあとは走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。

  お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。

9 困ったときの対処方法

9-1. 走行中のトラブルに対応する

走行中にトラブルが発生したときの対応 629

9-2. メーターに警告灯が点灯／点滅または警告メッセージが表示された

警告灯が点灯／点滅した 634

ディスプレイに警告メッセージが表示された 644

9-3. EV システムが始動できない

EV システムの正しい始動方法に従っても始動できない 663

室内灯やヘッドランプが暗く EV システムが始動できない 665

室内灯やヘッドランプが点灯せず EV システムが始動できない 671

ホーンの音が小さく EV システムが始動できない 672

ホーンの音が鳴らず EV システムが始動できない 673

9-4. タイヤがパンクした

タイヤパンク応急修理キットでの補修方法 674

9-5. ドアが開かない、ロックできない

キーをなくした 685

電子キーを使ってドア／窓を操作できない 686

ドア開スイッチでドアを開けることができない 693

リヤドアが内側から開けられない 696

バックドアが開かない 697

9-6. 正常に EV システムが使用できない

充電リッドが開かない 698

正常に充電できないとき 699

正常に急速充電・V2H 充電／V2H 給電できない 701

充電インレットから充電コネクターが抜けない 704

普通充電ケーブルのコントロールユニット上のインジケーターが点灯・点滅した 706

タイマー充電機能が正常に作動しない 707

9-7. EV システムの外部給電が使用できない

DC 外部給電システムが正常に作動しないときは 709

正常に AC 外部給電できないときは 711

9-8. 正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは

正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは 713

9-9. 室内装備の表示灯が点灯または点滅した

おくだけ充電®（ワイヤレス充電器）の充電トレイ上の作動表示灯が点滅した 716

9-10. 車を移動できないとき

EV システム警告メッセージが表示され、車が動かない 718

トランスミッションから異常な音がする 719

レッカー車を使用したけん引 720

車両運搬車を使用する 723

他車を使用したけん引 724

ぬかるみや砂地、雪道から抜け出す 729

9-11. 販売店に連絡する前にチェックしてほしいこと

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない 730

パワースイッチが自動的にOFF になった..... 731

オーバーヒートした..... 732

電装品が使えない、スイッチを押しても動かない..... 735

点灯しないライトがある..... 736

9-12. 災害時に車中泊避難する

車中泊が必要なときは..... 739

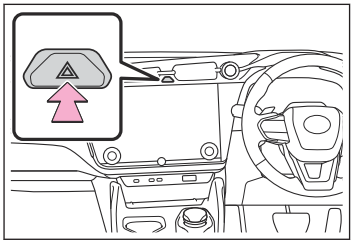
走行中にトラブルが発生したときの対応

非常点滅灯（ハザードランプ）で他の運転手に知らせる

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために非常点滅灯（ハザードランプ）を点滅させてください。

スイッチを押します。

すべての方向指示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。



知識

■ 非常点滅灯（ハザードランプ）

- EV システム停止中（“READY” インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。

  非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒で他の運転手に知らせる

高速道路や踏切などでの故障／事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

知識

■ 発炎筒の交換

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠ 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

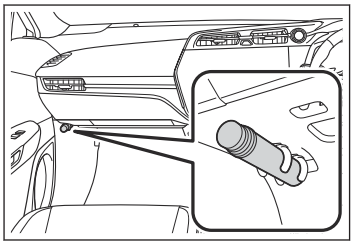
⚠ 警告

■ 発炎筒の取り扱い

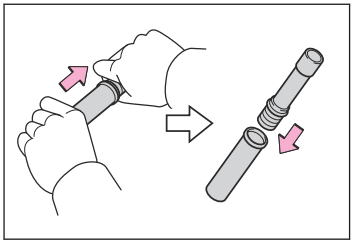
次のことを必ずお守りください。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

1 **助手席足元の発炎筒を取り出します。**



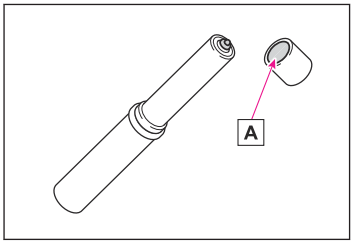
2 **本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込みます。**



3 **先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させます。**

必ず車外で使用してください。

着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



車を緊急停止する

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ず EV システムを停止するときは

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。EV システムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

1 **ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続けます。**

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 **シフトポジションを N にします。**

- シフトポジションが N になった場合：

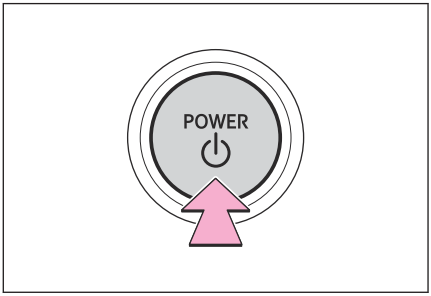
  減速後、車を安全な道路脇に停めます。

  EV システムを停止します。

- シフトポジションが N にならない場合：

  ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。

  パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押して EV システムを停止させます。



3 **車を安全な道路脇に停めます。**

⚠ 警告

走行中に EV システムの緊急停止したあと、走行中に EV システムを再始動させる場合は、パワースイッチを押してください。

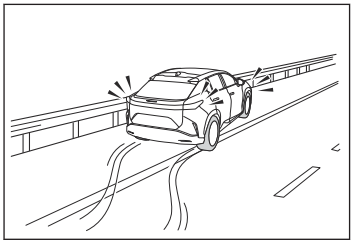
車から避難する

故障したときはすみやかに次の指示に従ってください。

非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

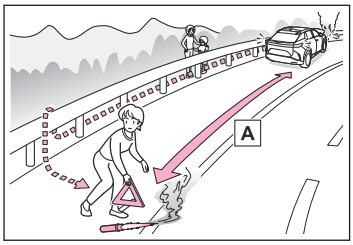
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

高速道路や自動車専用道路上で故障したときは、すみやかに次の指示に従ってください。



1 **同乗者を避難させます。**

2 **車両の 50m 以上後方A に発炎筒と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用します。**



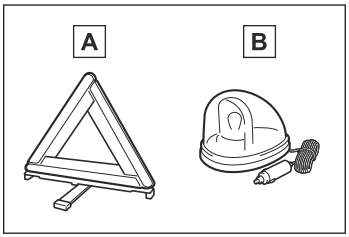
- 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
- 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

3 **その後、ガードレールの外側などに避難します。**

知識

■ 停止表示板／停止表示灯

高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板
B 停止表示灯

停止表示板のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

水没／冠水したときの対処

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車両に留まると危険です。

落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

  車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができます。

知識

■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、モーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー*1 の使用

この車両のフロントウインドウガラスとドアガラスには合わせガラスが使用されております。合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー*1 で割ることができません。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

緊急停止システムの働き

事故により衝撃を受けたときなどは、EV システムを停止して高電圧を遮断します。この場合、EV システムを再始動させることができなくなるためレクサス販売店へご連絡ください。

*1：詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

警告灯が点灯／点滅した

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて対処してください。なお、点灯／点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■ 警告ブザー

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

ブレーキ警告灯（警告ブザー）

症状	原因/対処法
 （赤色）	● ブレーキ液の不足 ● ブレーキ系統の異常 ● **ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

⚠ 警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ブレーキ警告灯（警告ブザー）

症状	原因/対処法
 （黄色）	● 回生ブレーキシステムの異常 ● 電子制御ブレーキシステムの異常 ● パーキングブレーキシステムの異常 ● **ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

⚠ 警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。

⚠ 警告

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

充電警告灯（警告ブザー）

症状	原因/対処法
 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。	充電系統の異常 ● **ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

駆動用電池充電警告灯（警告ブザー）

症状	原因/対処法
 （黄色）	駆動用電池の残量や状態から充電が必要 低温時には、早めの充電を促すために早く点灯することがあります。 ● **駆動用電池を充電してください。****(→P.58, 66)**

EV システム異常警告灯

症状	原因/対処法
	EV システムの異常 ● **ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

症状	原因/対処法
	● SRS エアバッグシステムの異常 ● プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 ● **ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

ABS＆ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）

症状	原因/対処法
	● ABS の異常 ● ブレーキアシストの異常 ● **ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

⚠ 警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ペダル誤操作警告灯*1（警告ブザー）

症状	原因/対処法
	ブザーが鳴った場合： ● ブレーキオーバーライドシステムの異常 ● ドライブスタートコントロールの異常 ● ドライブスタートコントロール作動時 ● **マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**
	ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 ● **アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

症状	原因/対処法
 （赤色）	異形ステアリング非装着車： EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 ● **ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

*1: マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

症状	原因/対処法
 （赤色）	異形ステアリング装着車： マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 “ステアシステムチェック”を含むメッセージが表示された場合： ● 走行時：安全な場所に停車してください。 ● 停車時：ハンドルから手を放してお待ちください。 他のメッセージが表示された場合： パワーステアリングシステム（ステアバイワイヤ）の異常 **● ただちに安全な場所に停止し、レクサス販売店へ連絡してください。**

知識

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザー

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

⚠ 警告

■ パワーステアリング警告灯が赤色に点灯した場合

異形ステアリング非装着車：

操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

異形ステアリング装着車：

- ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
  ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。
- 故障により段階的に車速に制限がかかる場合があります。速やかに停止し、レクサス販売店へ連絡してください。

パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

症状	原因/対処法
 （黄色）	異形ステアリング非装着車： EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **● ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

症状	原因/対処法
 （黄色）	異形ステアリング装着車： パワーステアリングシステム（ステアバイワイヤ）の異常 ● **マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

知識

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザー

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

⚠ 警告

■ パワーステアリング警告灯が黄色に点灯した場合

異形ステアリング非装着車：

操作力補助が制限されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

異形ステアリング装着車：

- ハンドル操作が通常より重くなることがあります。ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。
- 故障により段階的に車速に制限がかかる場合があります。

  速やかに最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。
- パワーステアリング警告灯が黄色に点灯した状態で走行を続けるとパワーステアリング警告灯が赤色に変化する場合があります。速やかに停止し、レクサス販売店へ連絡してください。

運転席／助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）

症状	原因/対処法
	運転席／助手席シートベルトの非着用 ● **シートベルトを着用する** 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。

知識

■ 運転席／助手席シートベルト非着用警告ブザー

運転席／助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）

症状	原因/対処法
	リヤ席シートベルトの非着用 ● **シートベルトを着用する**

知識

■ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー

リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

タイヤ空気圧警告灯（警告ブザー）

症状	原因/対処法
	警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 ● **レクサス販売店で点検を受けてください。**
	警告灯が点灯した場合： 自然要因 ● **タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。**
	警告灯が点灯した場合： タイヤのパンク ● **ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.674）に従ってください。**

知識

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

- パンクしているときは：→P.674

● パンクしていないときは：パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

- タイヤ空気圧警告灯が 1 分間点滅したあとに点灯した場合

  タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

- タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

  タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

  数分たっても警告灯が消灯しない場合は、タイヤ空気圧が適切な値であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの空気圧設定を行ってください。(→P.607)

  空気圧設定を行ってから数分たっても警告灯が消灯しない場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 自然要因によるタイヤ空気圧警報

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

⚠ 警告

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。

● タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合はタイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを修理してください。

● 急ハンドル／急ブレーキを避けてください。タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■ タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

⚠ 注意

■ タイヤ空気圧警報システムについての注意

● 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。

● 構造／メーカー／銘柄／トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

● タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、空気圧設定では解除できません。

PCS 警告灯（警告ブザー）

症状	原因/対処法
	PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 ● **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。

LTA 表示灯（警告ブザー）

症状	原因/対処法
 （黄色）	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常が考えられます。 ● **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

LDA 表示灯（警告ブザー）

症状	原因/対処法
 （黄色）	LDA（レーンディパーチャーアラート）の異常が考えられます。 ● **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

PDA 表示灯（警告ブザー）

症状	原因/対処法
 （黄色）	PDA(プロアクティブドライビングアシスト）の異常が考えられます。 ● **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

レーダークルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

症状	原因/対処法
 （黄色）	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 ● **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

クルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

症状	原因/対処法
 （黄色）	クルーズコントロールの異常が考えられます。 ● **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

運転支援情報表示灯

症状	原因/対処法
	次のシステムに異常が考えられます。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LDA（レーンディパーチャーアラート） ● 後方車両への接近警報 ● 後方車両接近告知 ● セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応） 次のシステムのいずれかが異常、停止、または設定が OFF になっています。 ● PKSB（パーキングサポートブレーキ） ● RCD（リヤカメラディテクション） ● BSM（ブラインドスポットモニター） ● RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ● 安心降車アシスト ● **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

症状	原因/対処法
	クリアランスソナーの異常 ● **ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
	センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない ● **マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

スリップ表示灯

症状	原因/対処法
 （点灯）	● VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ● TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ● ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 ● **ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

パーキングブレーキ表示灯

症状	原因/対処法
 （点滅）	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。 ● **パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。
	パーキングブレーキシステムの異常 ● **ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

症状	原因/対処法
 （点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 ● **ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

ディスプレイに警告メッセージが表示された

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。 処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。 また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯／点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯／点滅したときの対処方法に従ってください。

知識

■ 警告メッセージ

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 警告ブザー

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

販売店での点検を促すメッセージ

原因	対処法
警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。	すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

シフト操作に関するメッセージが表示されたときは

原因	対処法
誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり、ダイヤル式シフトの操作が指示されたりすることがあります。	画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

“EV システム停止のため ハンドルが重くなります”

原因	対処法
走行中に EV システムが停止したときにメッセージが表示されます。	ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

“バッテリー保護のため 自動で電源を OFF しました”

原因	対処法
自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。 (→P.196)	次回 EV システム始動時に、約 5 分間 EV システムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

“N レンジです アクセルを緩めて 希望レンジに 切りかえてください”

原因	対処法
シフトポジションが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。	アクセルペダルから足を離し、シフトポジションを D または R にしてください。

“EV システムが 高温になるため 停車時は ブレーキを 踏んでください”

原因	対処法
上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。	そのままの状態を続けると EV システムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

“補機バッテリー充電システム異常 安全な場所に停車し 取扱書を確認”

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

“EV システム高温 出力制限中です”

原因	対処法
負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。	対処方法に従ってください。（→P.732）

“切替未完了 登録し直してください 取扱説明書を確認”

原因	対処法
タイヤ空気圧警報システムの ID 切りかえができません。	装着しているタイヤセットを確認して、切りかえ手順を最初からやり直してください。（→P.611）

“駆動用電池の点検を 販売店で受けてください”

原因	対処法
駆動用電池の点検／交換時期になったときにメッセージが表示されます。	駆動用電池の点検／交換時期になったときにメッセージが表示されます。すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。 ● 点検を受けないままお車を使用し続けると、EV システムを始動できなくなるおそれがあります。 ● 万一、EV システムが始動できなくなったときは、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

“ヘッドランプシステム 故障 販売店で 点検してください”

原因	対処法
システムに異常があるおそれがあります。	レクサス販売店で点検を受けてください。

“AWD システム高温 高負荷走行を 控えてください” ★

原因	対処法
AWD システムが過熱しています。	EV システムを作動させたまま安全な場所に停車してください。(1) しばらくして表示が消えれば問題ありません。表示が消えないときは、すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

(1) 停車時は表示が消えるまでは EV システムを停止しないでください。

“AWD システム高温 2WD 走行に 切替わりました” ★

原因	対処法
過熱のため AWD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切りかわりました。	EV システムを作動させたまま安全な場所に停車してください。(1) しばらくして表示が消えれば、AWD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

(1) 停車時は表示が消えるまでは EV システムを停止しないでください。

“AWD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検” ★

原因	対処法
AWD システムに異常が発生しています。	すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

“スマートエントリー＆ スタートシステム故障 取扱書を確認”

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

“故障のためブレーキ力が低下 安全な場所に停車して取扱書を確認”

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

“新しいキーが 登録されました 詳しくは販売店に 問い合わせください”

原因	対処法
追加で新しく電子キーが登録された場合、車外からロック解除して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほどつづきます。	電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをレクサス販売店で確認してください。

“EPB が連続で 操作されました しばらく お待ちください”

原因	対処法
短時間に作動をくり返すと、システム過熱防止のために作動制限することがあります。	操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

“EPB 動作が途中で停止しました”

原因	対処法
パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。	レクサス販売店で点検を受けてください。

“EPB 現在 使用できません”

原因	対処法
パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。	レクサス販売店で点検を受けてください。

“ステアシステム故障 速やかに安全な場所に停車！” ★

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

“ステアシステム故障 直ちに販売店に連絡してください” ★

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

“ステアシステム起動中 シフト操作不可 しばらくお待ちください” ★

原因	対処法
パワーステアリング警告灯が黄色に点灯している場合： ステアバイワイヤ専用バッテリーの充電量が低下しています。	そのまま操作せずにお待ちください。 ステアバイワイヤ専用バッテリーの充電が完了するとシステムが起動可能になります。
パワーステアリング警告灯が赤色に点灯している場合： 故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

“システム温度上昇中 ハンドルから手を放して お待ちください” ★

原因	対処法
ステアバイワイヤシステムの温度が上昇しています。	ハンドルから手を放してお待ちください。 10 分程度時間をおいても本メッセージが消えない場合は、レクサス販売店へ連絡してください。

“ステアシステム起動出来ませんでした 再始動してください” ★

原因	対処法
パワーステアリング警告灯が黄色に点灯している場合： ステアバイワイヤシステムが起動していません。	一度パワースイッチを OFF にして、再度 ON にしてください。
パワーステアリング警告灯が赤色に点灯している場合： 故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

“ステアシステムチェック中 ハンドルから手を放してください” ★

原因	対処法
ステアシステムチェック中です。	ハンドルから手を放してお待ちください。 しばらく時間をおいても本メッセージが消えない場合は、レクサス販売店へ連絡してください。

“BrakeHold 故障 ブレーキを踏み解除ください 販売店で点検してください”

原因	対処法
システムに異常があるおそれがあります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

“充電コネクター操作により 充電停止しました”

考えられる原因	対処方法
普通充電中に普通充電コネクターを取りはずした	普通充電中に普通充電コネクターを取りはずすと、充電は中断されます。充電を継続する場合は、再度コネクターを接続してください。
普通充電で満充電になったあと、電力を消費する機能(1)が作動したことで低下した駆動用電池残量を補うための再充電時に、普通充電コネクターを取りはずした	
普通充電中に普通充電コネクターのロック解除ボタンを押した	普通充電中にロック解除ボタンを押し続けると、充電が停止します。充電を続ける場合は、普通充電コネクターを接続し直してください。

(1) 駆動用電池ヒーター（→P.49）・リモートエアコンシステムが作動すると、電力が消費されます。また、マイルームモード（→P.85）の使用も、電力を消費します。

“充電完了しました （駆動用電池温度による制限）”

考えられる原因	対処方法
駆動用電池が高温の状態が続いたため、駆動用電池の保護のために充電が終了した	ご希望の充電量に到達していないときは、駆動用電池が冷えてから再度、充電を行ってください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

“停電または 電源プラグ抜け により 充電停止しました”

考えられる原因	対処方法
外部電源からの電源供給に問題がある	次の点をご確認ください。 ● 電源プラグが抜けていないか ● 手元スイッチが OFF になっていないか ● コントロールユニット上の電源インジケーターが点灯しているか ● ブレーカーが落ちていないか 以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。（充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください。） 電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。レクサス販売店で点検を受けてください。 なお、コントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅している場合は、漏電の可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	● 普通充電器（スタンド）の仕様により、電源供給が停止されることで充電中止となることがあります。例えば、次のような場合があります。普通充電器（スタンド）の取り扱い説明をご確認ください。 • 普通充電器（スタンド）の停止ボタンを押した • 普通充電器（スタンド）にタイマー充電機能がある • 普通充電器（スタンド）が車両のタイマー充電機能に対応していない ● この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。レクサス純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

“充電設備の 要因により 充電停止しました”

考えられる原因	対処方法
普通充電器（スタンド）が車両に適合していない	この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。 レクサス純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。
急速充電器（スタンド）・V2H 機器が故障している	本メッセージが表示された場合は、急速充電器（スタンド）・V2H 機器が故障しているおそれがあるため、その急速充電器（スタンド）・V2H 機器は使用しないでください。 他の急速充電器（スタンド）・V2H 機器での充電が可能かご確認ください。他の急速充電器（スタンド）・V2H 機器で充電しても本メッセージが表示されて充電ができない場合は、数 km 走行してから別の急速充電器（スタンド）・V2H 機器で充電してください。
急速充電器（スタンド）・V2H 機器が車両に適合していない	

“AC 供給電源の 要因により 充電停止しました”

考えられる原因	対処方法
外部電源からの電源供給に問題がある	次の点をご確認ください。 ● 電源プラグがしっかりと挿し込まれているか ● 延長コードを使用したり、分岐用コンセントに接続したりしていないか ● 専用回線に接続されているか ● 停電が発生していないか ● 外部電源の供給電圧が低下していないか 以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。（充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください。） 電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。レクサス販売店で点検を受けてください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。 レクサス純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

“電装品の 電力消費大のため 充電停止しました”

考えられる原因	対処方法
車両の電装品によって電力が消費されている	次の点をご確認の上、再度充電してください。 ● ヘッドランプやオーディオなどが ON になっている場合は、OFF にしてください。 ● パワースイッチを OFF にしてください。 以上を実施しても充電できない場合は、補機バッテリーの充電不足が考えられます。EV システムを約 15 分以上作動させて、補機バッテリーを充電してください。

“システムの 要因により 充電停止しました”

考えられる原因	対処方法
充電システムに異常が発生した	レクサス販売店で点検を受けてください。

“充電システム 確認のため 充電リッドを 閉めてください 取扱書を確認”

考えられる原因	対処方法
急速充電時・V2H 充電／V2H 給電時の充電システムチェックが正常に終了しなかった	この場合は、充電システムチェックが正常に終了するまで、EV システムを始動できなくなります。 P.652 の記載に従って、充電システムのチェックを実施してください。

充電システムのチェックを実施する

1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、パワースイッチを OFF にする

2 急速充電リッドを閉める

3 パワースイッチを ON にする（パワースイッチを 1 回もしくは 2 回押す[*1]）

マルチインフォメーションディスプレイに"パワー ON"と表示されていることを確認してください。

マルチインフォメーションディスプレイに“充電システム 確認中”が表示されたことを確認してください。

充電システムのチェック中は、急速充電リッドを開けないでください。

充電システムチェックが終了すると、パワースイッチが自動で OFF になります。

4 ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯することを確認する

充電システムのチェックを実施しても EV システムを始動できない場合は、レクサス販売店にご連絡ください。

“充電終了時間に 達したため 充電停止しました”

考えられる原因	対処方法
急速充電器（スタンド）の制限時間内に急速充電が完了しなかった	● 急速充電器（スタンド）によっては、一定時間で充電が停止するように、タイマーが設定されている場合があります。急速充電器（スタンド）の管理者に確認してください。
	車両の状態によっては、充電時間が長くなり、制限時間内に急速充電が完了しない場合があります。 ● エアコンやヘッドランプ、オーディオなどの電源が ON のため、消費電力が大きい可能性があります。電装品の電源を OFF にしてから、急速充電を行って下さい。 ● 駆動用電池の温度が低い可能性があります。駆動用電池が温まってから急速充電を行って下さい。

*1：ACC カスタマイズ機能の設定状態により異なります。

“外部給電器または車両の要因により 給電停止しました”

症状	原因 / 対処法
外部給電器に異常が発生している	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。

“補機バッテリー（始動用） 充電不足 取扱書確認ください。”

対処法
数秒後(1)に表示が消えたときは、EV システムが作動した状態を約 15 分以上保持し、補機バッテリーを充電してください。 表示が消えないときは、P.690 の手順で EV システムを始動してください。

(1) 約 6 秒間表示されます。

⚠ 注意

“補機バッテリー（始動用） 充電不足 取扱書確認ください。”がひんぱんに表示されるときは、補機バッテリーが劣化している可能性があります。

その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

“駆動用電池の残量低下により給電停止しました”

原因	対処法
駆動用電池の残量が少なくなった	駆動用電池を充電後、再度非常時給電システムを起動することが可能になります。

“シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し 停車”

原因	対処法
シフト制御システムが故障しています。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

“シフトシステム故障 走行を継続できません”

原因	対処法
シフト制御システムが故障しています。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

“シフトシステム故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

“P スイッチ故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

“シフトシステム不作動 駐車時 パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

“シフトシステム故障 取扱書確認”

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

“シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認”

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

“キーの電池残量が 少なくなっています 電池を 交換してください”

原因	対処法
電子キーの電池残量が少なくなっています。	新しい電池と交換してください。

“機能故障 販売店で点検”

原因	対処法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LDA（レーンディパーチャーアラート） ● LTA（レーントレーシングアシスト） ● LCA（レーンチェンジアシスト） ● AHB（オートマチックハイビーム） ● AHS（アダプティブハイビームシステム） ● レーダークルーズコントロール ● RSA（ロードサインアシスト） ● 発進遅れ告知 ● PDA（プロアクティブドライビングアシスト） ● BSM（ブラインドスポットモニター） ● RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ● 後方車両への接近警報 ● セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応） ● 後方車両接近告知 ● 周辺車両接近時サポート ● 安心降車アシスト ● クリアランスソナー ● PKSB（パーキングサポートブレーキ） ● RCD（リヤカメラディテクション）	すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

“機能停止 取扱書を確認”

原因	対処法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LDA（レーンディパーチャーアラート） ● LTA（レーントレーシングアシスト） ● LCA（レーンチェンジアシスト） ● AHB（オートマチックハイビーム） ● AHS（アダプティブハイビームシステム） ● レーダークルーズコントロール ● RSA（ロードサインアシスト） ● 発進遅れ告知 ● PDA（プロアクティブドライビングアシスト） ● BSM（ブラインドスポットモニター） ● RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ● 後方車両への接近警報 ● セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応） ● 後方車両接近告知 ● 周辺車両接近時サポート ● 安心降車アシスト	画面に表示されているアイコンを確認して、次の対処法に従ってください。 ● 補機バッテリー電圧を確認する ● Lexus Safety System +で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.372） ● バックドアが開いていないか確認してください。

原因	対処法
● クリアランスソナー ● PKSB（パーキングサポートブレーキ） ● RCD（リヤカメラディテクション）	画面に表示されているアイコンを確認して、次の対処法に従ってください。 ● 補機バッテリー電圧を確認する ● Lexus Safety System +で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。(→P.372) ● バックドアが開いていないか確認してください。
センサーが正しく作動しなくなる状況を確認し、該当する場合は改善してください。(→P.470, 461, 476, 450, 538, 456, 532, 535, 541)	● センサーとカメラに付着物がないか確認し、ある場合には取り除いてください。(→P.458, 498) ● 地図情報取得の妨げとなる製品を取り付けている場合は取り除いてください。(例：TV キャンセラーなど) ● センサー周辺のリヤバンパーに付着物がないか確認し、ある場合は取り除いてください。(→P.447) ● センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

“機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認”

原因	対処法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LDA（レーンディパーチャーアラート） ● LTA（レーントレーシングアシスト） ● LCA（レーンチェンジアシスト） ● AHB（オートマチックハイビーム） ● AHS（アダプティブハイビームシステム） ● レーダークルーズコントロール ● RSA（ロードサインアシスト） ● 発進遅れ告知	次の対処法に従ってください。 ● ワイパー機能を使って、フロントウインドウガラスの汚れや付着物を取り除く。 ● エアコン機能を使って、フロントウィンドウガラスの曇りを取り除く。 ● ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

原因	対処法
● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	次の対処法に従ってください。 ● ワイパー機能を使って、フロントウインドウガラスの汚れや付着物を取り除く。 ● エアコン機能を使って、フロントウィンドウガラスの曇りを取り除く。 ● ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

“機能停止 前方カメラ作動温度範囲外 常温までお待ちください”

原因	対処法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LDA（レーンディパーチャーアラート） ● LTA（レーントレーシングアシスト） ● LCA（レーンチェンジアシスト） ● AHB（オートマチックハイビーム） ● AHS（アダプティブハイビームシステム） ● レーダークルーズコントロール ● RSA（ロードサインアシスト） ● 発進遅れ告知 ● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	次の対処法に従ってください。 ● 炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる ● 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります ● 極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

“機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください”

原因	対処法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LTA（レーントレーシングアシスト） ● LCA（レーンチェンジアシスト） ● レーダークルーズコントロール ● 発進遅れ告知 ● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	次の対処法に従ってください。 ● レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.372） ● 砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。 車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

“機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください”

原因	対処法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LTA（レーントレーシングアシスト） ● LCA（レーンチェンジアシスト） ● レーダークルーズコントロール ● 発進遅れ告知 ● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

“機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認”

原因	対処法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LTA（レーントレーシングアシスト） ● LCA（レーンチェンジアシスト） ● レーダークルーズコントロール ● 発進遅れ告知 ● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	次の対処法に従ってください。 ● レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.372） ● レーダの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

“ドライバーモニター作動温度範囲外 常温までお待ちください”

原因	対処法
次のシステムが停止しています。 ● ドライバーモニター ● アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）	ドライバーモニターカメラの温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

“ドライバーモニター使用できません 取扱書確認してください”

原因	対処法
ドライバーモニターカメラのレンズが汚れている可能性があります。	レンズを傷付けないよう乾いたやわらかい布で汚れをふき取ってください。

“条件を満たしていないため 開始できません 取扱書を確認”

原因	対処法
LCA の作動条件を満たしていないため使用できません。（→P.398）	すべての作動条件を満たしているときに、再度方向指示レバーを操作してください。

“クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください”

原因	対処法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● レーダークルーズコントロール ● クルーズコントロール 走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。	走行支援スイッチを短く確実に押してください。

“機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認”

原因	対処法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● RCD（リヤカメラディテクション） ● PKSB（パーキングサポートブレーキ）	後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

“ソナーに水滴、雪等が付着しています”

原因	対処法
クリアランスソナーのセンサーに水滴／氷／雪／泥などが付着していることが考えられます。	この場合はセンサーの水滴／氷／雪／泥などを取り除けば、正常に復帰します。 汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。
低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。	氷が解ければ、正常に復帰します。
水滴／氷／雪／泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられます。	レクサス販売店で点検を受けてください。

“EV システム故障”

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

“アクセル系故障”

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

“プラグイン充電システム故障”

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

“バッテリー系故障”

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

“バッテリ充電不足”

対処法
対処方法に従ってください。（→P.690）

⚠ 注意

■ “バッテリ充電不足”がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

“回生ブレーキ制限中 減速時は ブレーキを踏んでください”

原因	対処法
次のような状況では、回生ブレーキが制限されることがあります。 ● 満充電により、これ以上回生ができないとき ● 駆動用電池の温度が極端に高いとき、または極端に低いとき ● 電気モーターやパワーコントロールユニットの温度が極端に高いとき	ブレーキペダルをしっかり踏んで減速して下さい。

EV システムの正しい始動方法に従っても始動できない

原因	対処法
車両に充電ケーブルが接続している可能性があります。	充電ケーブルを抜いてください。
スマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているため、電子キーが正常に働いていない可能性があります。	カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。
電子キーが節電モードに設定されているため、正常に働いていない可能性があります。	電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。
駆動用電池が電欠している可能性があります。	駆動用電池を充電して下さい。
イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。	● キーが金属製のものに接したり覆われたりしているときは、キーを金属製のものから遠ざけてください。 ● キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているときは、キーを遠ざけてください。
ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。	レクサス販売店にご連絡ください。
電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。	異常の種類によっては、EV システムを一時的な処置でかけることができます。
シフト制御システムに異常がある可能性があります。(1)	レクサス販売店にご連絡ください。
駆動用電池の温度が著しく低い（およそ−30 ℃以下）可能性があります。	外気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

(1) シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

EV システムを緊急始動する

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 **パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引きます。**

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 **シフトポジションが P にあることを確認します。**

3 **パワースイッチを ACC[*1] にします。[*2]**

4 **ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続けます。**

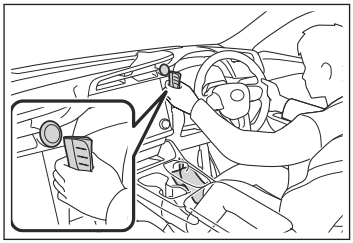
上記の方法で EV システムが始動しても、システムの故障が考えられます。

ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かない状態で EV システムを始動する

1 **シフトポジションが P の状態でブレーキペダルを踏みます。**

2 **図のように、電子キーまたはカードキーでパワースイッチにふれます。**



電子キーを認識するとブザーが鳴り、パワースイッチのモードが ON へ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっている、かつ ACC カスタマイズが ON のときは、ACC へ切りかわります。

3 **ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにが表示されていることを確認します。**

4 **パワースイッチを押します。**

上記の処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

知識

■ EV システムの停止のしかた

通常の EV システム停止のしかたと同様に、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかけて、パワースイッチを押します。

■ 電子キーの電池交換

ここで説明している EV システムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.686)

■ パワースイッチモードの切りかえ

手順 3 でブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、EV システムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.196)

*1: カスタマイズメニューで ON／OFF を切りかえることができます。(→P.767)

*2: ACC がない場合は、パワースイッチを ON にしたあとにパワースイッチを OFF にして、5 秒以内に次の手順を実施してください。

室内灯やヘッドランプが暗く EV システムが始動できない

原因	対処法
補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.665)	ブースターケーブルを使って EV システムを再始動します。(→P.690)
補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。	補機バッテリーのターミナルがゆるんでいないか確認します。

補機バッテリーあがり

⚠ 警告

■ 補機バッテリーを交換するときは

- 液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- 補機バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

補機バッテリーがあがった場合は、P から他のポジションに切りかえることができない可能性があります。

その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。

知識

■ 補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは

- 補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアのロック解除ができない場合があります。

  ロック解除できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーでロック／ロック解除を実施してください。
- 補機バッテリー脱着後、最初の始動操作で EV システム始動ができなかった場合は、電子キーのレクサスエンブレム面で、パワースイッチにふれ、EV システム始動をしてください。
- 車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。

  補機バッテリーあがり時や補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。

  補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。

  補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。
- 異形ステアリング装着車：補機バッテリー端子の取り付け後、パワースイッチを ON にすると、ハンドル操舵角の学習機能が働き、自動的にハンドルが動きますが異常ではありません。マルチインフォメーションディスプレイに表示されるメッセージに従い、手を放してお待ちください。

● 初期設定が必要な機能があります。

■ **補機バッテリーあがりを防ぐために**

● ACC カスタマイズが OFF のときは、パワースイッチが OFF の状態でもマルチメディアシステムに電源が供給されます。

● EV システムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

● 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ **補機バッテリーがあがったときは**

● スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアをロック／ロック解除することや、ドア開スイッチでの操作ができません。メカニカルキーを使って手動リリースハンドルの作動を有効／無効にしてください。手動リリースハンドルの作動を有効にすることでドアを開くことができます。

● コンピューターに記憶されている情報が消去されます。

補機バッテリーがあがったときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

● 初期設定が必要な機能があります。

■ **補機バッテリーの充電**

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。

そのため、車両を長時間放置すると、補機バッテリーがあがって EV システムが始動できなくなるおそれがあります。

（補機バッテリーは EV システムの作動中に自動で充電されます）

■ **補機バッテリーを交換するときは**

● 欧州規格バッテリーを使用してください。

● 交換前と同一のケースサイズ（LN2）、20 時間率容量（20HR）が同等（60Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（345A）以上の補機バッテリーを使用してください。

- 大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
- 補機バッテリーの早期劣化や、最悪の場合には EV システムの始動ができなくなるおそれがあります。
- 20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、EV システムの始動ができなくなるおそれがあります。

詳しくは、レクサス販売店にご相談ください。

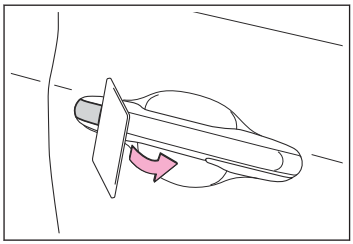
補機バッテリーあがり発生後、車外よりドアをロックできないときは

スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンでドアをロックすることができなくなります。

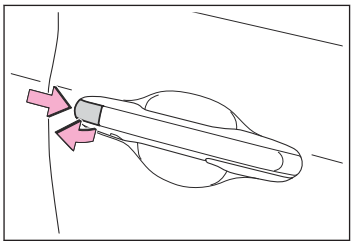
運転席ドアの作動を無効にするには

1 **ドアハンドルのスリット部にプラスチック製のカードなどを挿し込みカバーを浮かせます。**

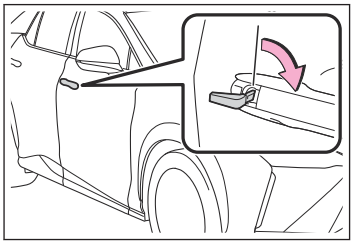
破損を防ぐためにカバーに過度の負荷をかけないでください。



2 **カバー後方を押しながら取りはずします。**



3 **メカニカルキーを使ってロック側にまわし、ドアを無効にします。**

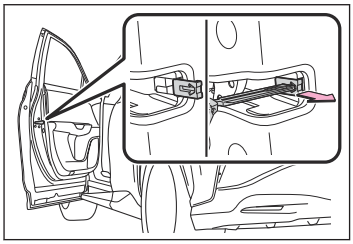


4 **ドアが開かないことを確認してください。**

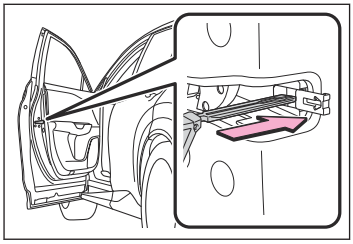
運転席以外のドアの作動を無効にするには

1 **ドアを開き、メカニカルキーを使ってカバーを矢印方向にスライドしてください。**

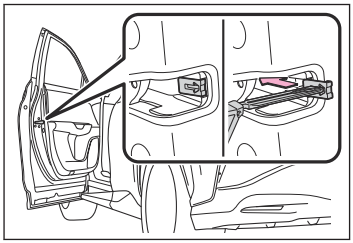
破損を防ぐためにカバーに過度の負荷をかけないでください。



2 **溝にメカニカルキーを挿し込みます。**



3 **メカニカルキーを抜いてからカバーを元の位置にもどしてください。**

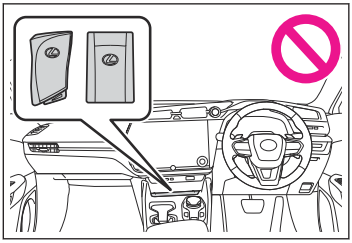


4 **全てのドアが開かないことを確認してください。**

補機バッテリー端子をはずすときは

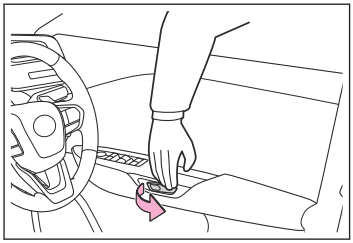
補機バッテリー端子をはずすときは、レクサス販売店にご相談ください。

補機バッテリー端子をはずすとドア開スイッチでドアが開かなくなり、電子キーを車内に閉じ込める可能性があります。



電子キー（メカニカルキー）が車内に閉じ込められることを防止するため、補機バッテリー端子をはずす前に必ず電子キー（メカニカルキー）を携帯してください。

電子キー（メカニカルキー）を携帯しないときは、窓を開けて車内の手動リリースハンドルを操作できるように注意してください。



⚠ 警告

■ 補機バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚／衣服／車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける

  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

知識

■ 補機バッテリー端子をはずすときは

- スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアをロック／ロック解除することや、ドア開スイッチでの操作ができません。

  補機バッテリー端子をはずす前に必ず電子キー（メカニカルキー）を携帯してください。

  電子キー（メカニカルキー）を携帯しないときは、窓を開けて車内の手動リリースハンドルを操作できるようにしてください。
- 補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアのロック解除ができない場合があります。

ロック解除できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーでロック／ロック解除を実施してください。

- 補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。
- 初期設定が必要な機能があります。

室内灯やヘッドランプが点灯せず EV システムが始動できない

原因	対処法
補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.665)	ブースターケーブルを使って EV システムを再始動します。(→P.690) 対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても EV システムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。
補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。	補機バッテリーのターミナルがはずれていないか確認します。 対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても EV システムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。
ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。	レクサス販売店にご連絡ください。

ホーンの音が小さく EV システムが始動できない

原因	対処法
補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.665)	ブースターケーブルを使って EV システムを再始動します。(→P.690)
補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。	補機バッテリーのターミナルがゆるんでいないか確認します。

ホーンの音が鳴らず EV システムが始動できない

原因	対処法
補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.665)	ブースターケーブルを使って EV システムを再始動します。(→P.690) 対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても EV システムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。
補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。	補機バッテリーのターミナルがゆるんでいないか確認します。 対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても EV システムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。
ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。	レクサス販売店にご連絡ください。

タイヤパンク応急修理キットでの補修方法

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤが搭載されていません。タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です） タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理／交換については、レクサス販売店にご相談ください。

⚠ 警告

タイヤがパンクしたまま走行しないでください。

短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。

レクサス販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限がきれているとき

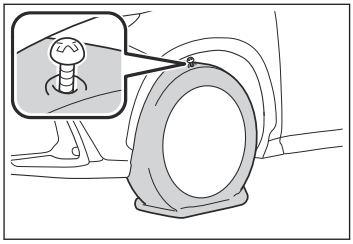
応急修理する前の準備

応急修理する前に、次のことを行ってください。

1 **地面が固く平らで安全な場所に移動する**
2 **パーキングブレーキをかける**
3 **シフトポジションを P にする**
4 **EV システムを停止する**
5 **非常点滅灯を点滅させる（→P.629）**

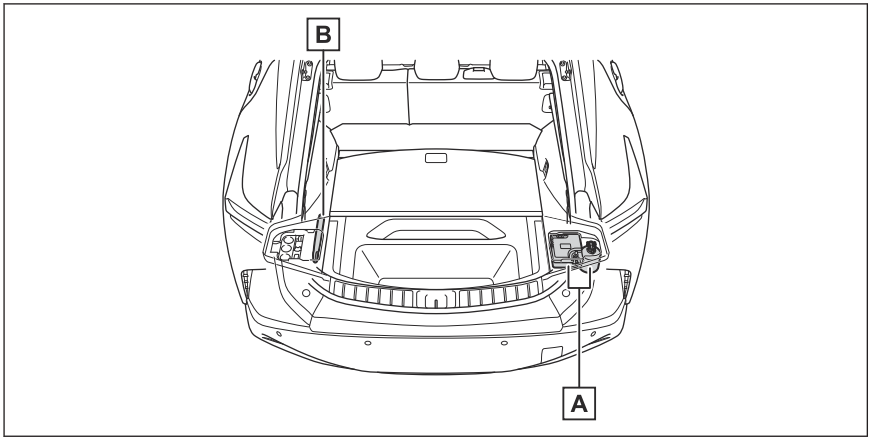
6 タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。



- タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

タイヤパンク応急修理キット／工具の搭載位置



A タイヤパンク修理キット

B けん引フック

⚠ 警告

応急修理キットは指定の位置に収納してください。

急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

⚠ 警告

■ 応急修理キットの取り扱いの注意

- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

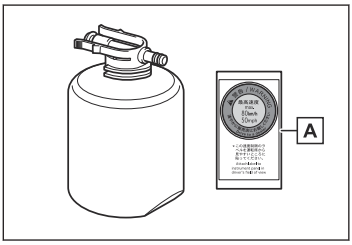
⚠ 警告

- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
  パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク補修液の取り扱い

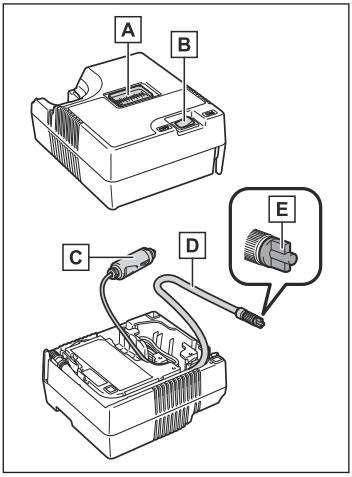
- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

▶ ボトル



A 速度制限ラベル

▶ コンプレッサー



A 空気圧計
B 電源スイッチ
C 電源プラグ
D ホース
E 空気逃がしキャップ

知識

■ 応急修理キット／パンク補修液の取り扱い

- 応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- 応急修理キットのパンク補修液は、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。
  使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。
- パンク補修液は外気温度が−40℃～60℃のときに使用できます。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

■ パンク補修液の点検

パンク補修液には有効期限があります。パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。

有効期限はボトルに表示されています。

有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

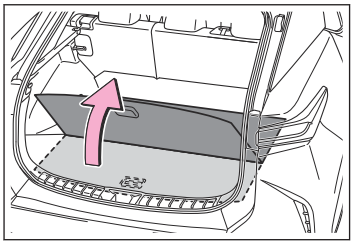
有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■ 補修液を廃棄するとき

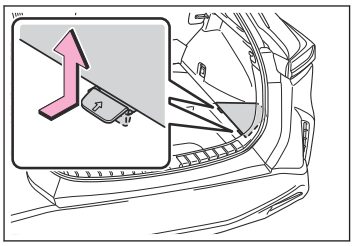
補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、レクサス販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

応急修理キットを取り出す

1 **デッキボードを折りたたみます。**



2 **デッキサイドボードを取りはずします。**



3 **応急修理キットを取り出します。**

パンクしたタイヤを応急修理する

⚠ 警告

応急修理するときは、次のことをお守りください。

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。

  走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。

  手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

⚠ 注意

■ 応急修理をするときの注意

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

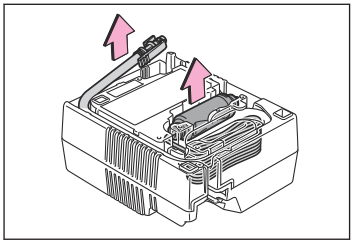
■ 応急修理キット

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- ガソリンがかからないようにしてください。応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解／改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

1 **応急修理キットをから取り出します。**

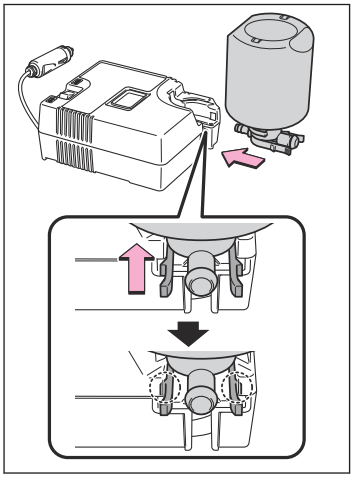
ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。（手順 10 へ）

2 **コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出します。**



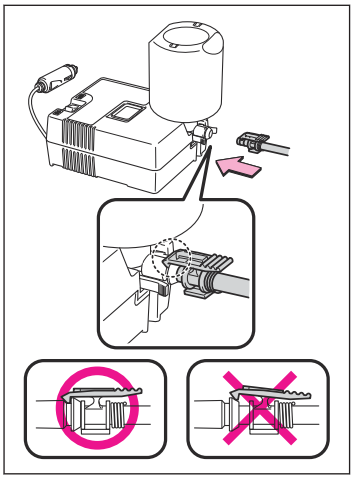
3 **ボトルをコンプレッサーに接続します。**

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入／接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

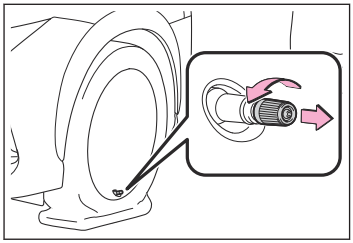


4 **ホースをボトルに取り付けます。**

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

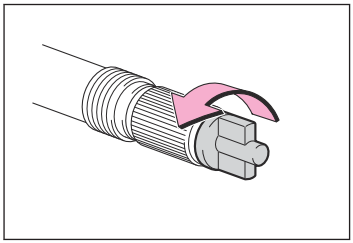


5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずします。



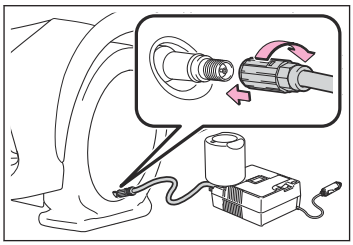
6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずします。

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。



7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続します。

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。

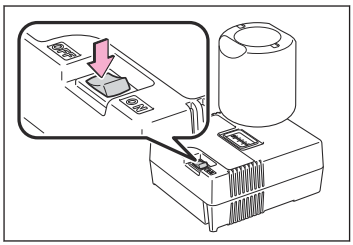


⚠ 警告

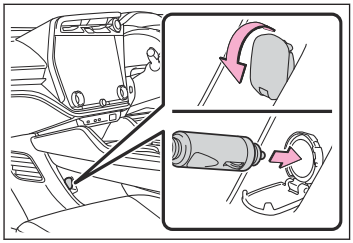
次のことを確認ください。

- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。

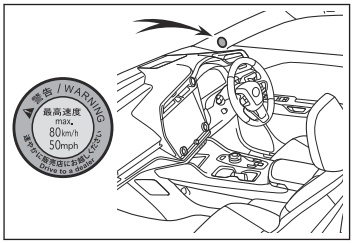
8 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認します。



9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込みます。(→P.303)



10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付けます。

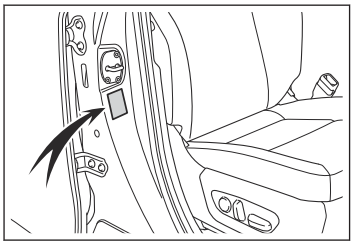


⚠ 警告

速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

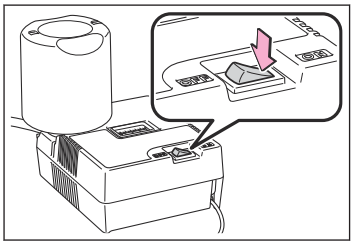
11 タイヤの指定空気圧を確認します。

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P.744)



12 EV システムを始動します。(→P.194)

13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填します。



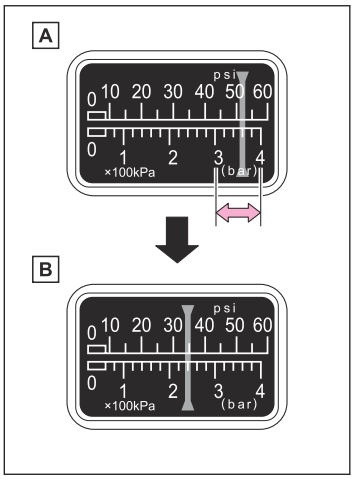
⚠ 警告

次のことをお守りください。

⚠ 警告

- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 40 分以上連続で作動させないでください。応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。
- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
- ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるため、使用中、または使用直後はふれないでください。

14 空気圧が指定空気圧になるまで充填します。



A 一時的に空気圧計が 300～400kPa（3.0～4.0kg/cm^2）まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチを ON にしてから約 1～5 分程度で実際の空気圧になります。

- コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填／確認をくり返してください。
- 充填までに必要な時間は、約 5～20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、レクサス販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→P.684, 744)

15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブから応急修理キットのホースを取りはずします。

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

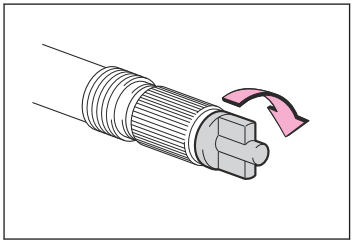
⚠ 警告

充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付けます。

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付けます。

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納します。

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、すみやかに約 5km 程度、速度 80km/h 以下で安全に走行します。

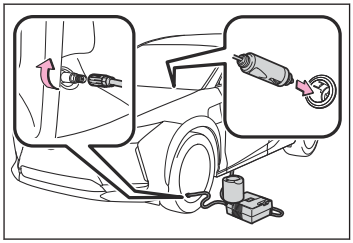
⚠ 警告

補修液を均等に広げるための運転中は、次のことに注意してください。

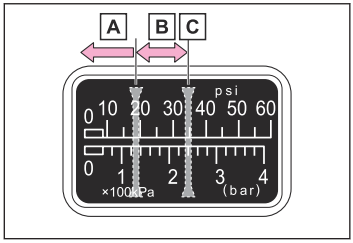
- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
  - タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
  - 空気圧を確認してください。130kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

20 走行後、平坦な場所に停車し、再度応急修理キットを接続します。

応急修理キットを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずします。



21 コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧を確認します。



A 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

B 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順 22 へ

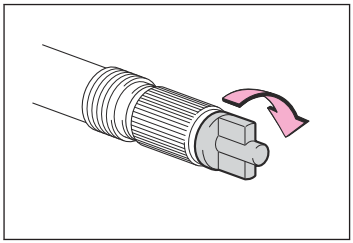
C 空気圧が指定空気圧の場合（→P.744）：手順 23 へ

タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

22 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順 20 から実施します。

23 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付けます。

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納します。

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、約 100km 以内、速度 80km/h 以下でレクサス販売店まで慎重に運転します。

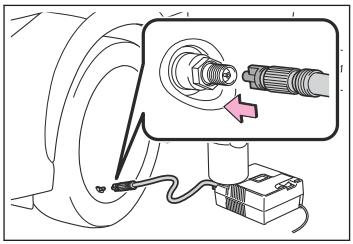
レクサス販売店でタイヤを修理／交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

応急修理したあとは、できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。空気圧が正確に計測できなくなることがあります。

入れすぎてしまった空気を減らす

1 タイヤからホースを取りはずします。

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜きます。



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続します。

4 コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認します。

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

キーをなくした

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

⚠ 注意

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちの上、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

電子キーを使ってドア／窓を操作できない

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。

車両カスタマイズ機能のスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっている可能性があります。

車両カスタマイズ機能で、スマートエントリー＆スタートシステムを作動可能に設定変更してください。

⚠ 注意

スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくときは、付属しているすべての電子キー（カードキー含む）をお持ちください。

電子キーが節電モードに設定されている可能性があります。

節電モードに設定されている場合は、解除してください。

電子キーの電池が切れている可能性があります。

- 電池を交換します。
- メカニカルキーを使って操作します。

補機バッテリーあがりの可能性があります。

ブースターケーブルを使って EV システムを再始動します。

電子キーの電池を交換する

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

カードキーの電池は、レクサス販売店で交換してください。

交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池：CR2032

知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

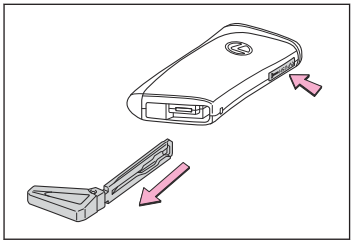
電池はレクサス販売店／時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

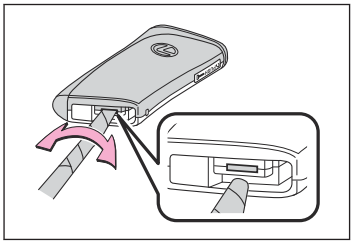
- スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

1 **メカニカルキーを抜きます。**



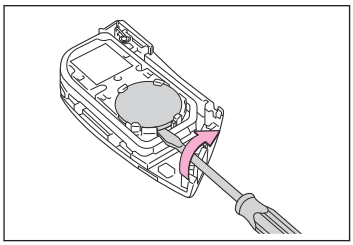
2 **カバーをはずします。**

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 **消耗した電池を取り出します。**

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



⚠ 警告

■ 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

■ 電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない

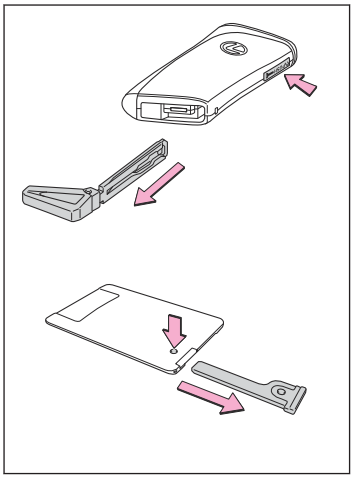
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

メカニカルキーを使って操作する

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときや補機バッテリーがあがったとき、メカニカルキーが必要になります。



⚠ 注意

メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

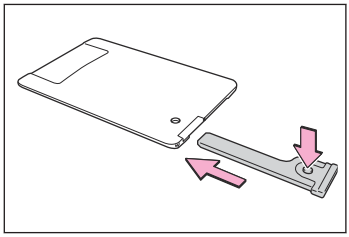
知識

■ **不正キーの使用について**

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりしてロック解除できません。

■ **カードキー**

- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などで解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。
- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



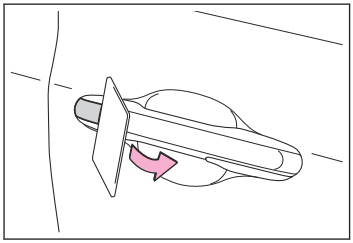
■ **オートアラーム**

メカニカルキーでロックした場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーでロック解除すると、警報が鳴りますのでご注意ください。

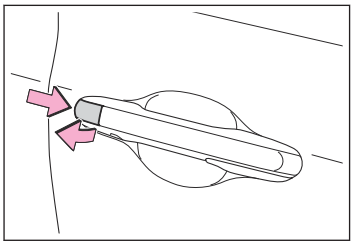
ドアをロック／ロック解除する

1 **ドアハンドルのスリット部にプラスチック製のカードなどを挿し込みカバーを浮かせます。**

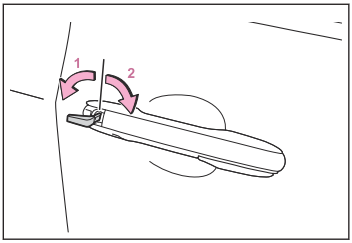
破損を防ぐためにカバーに過度の負荷をかけないでください。



2 **カバー後方を押しながら取りはずします。**



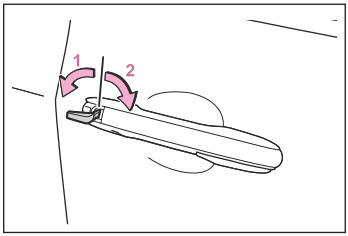
3 **次のようにキーを回します。**



1 全ドアロック解除
2 全ドアロック

知識

■ キー連動機能



1 ドアガラスが開く（まわし続ける）*1
2 ドアガラスが閉まる（まわし続ける）*1

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.749)

⚠ 警告

メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

補機バッテリーがあがったときに EV システムを再始動する

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、手順に従って、EV システムを始動させることができます。

知識

この車両は、押しがけによる始動はできません。

⚠ 警告

■ 補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

*1: レクサス販売店での設定が必要です。

⚠ 警告

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

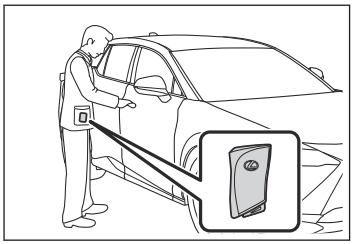
■ 補機バッテリーの取り扱い

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚／衣服／車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受けるまた、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱／ターミナル／その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

1 **電子キーを携帯していることを確認します。**

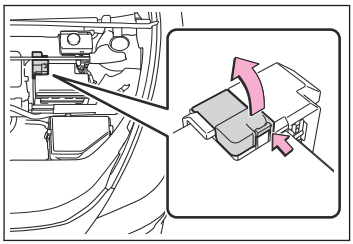
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアがロックされます。（→P.145）



2 **ボンネットを開ける（→P.594）**

3 **バッテリーの＋端子のカバーを開ける**

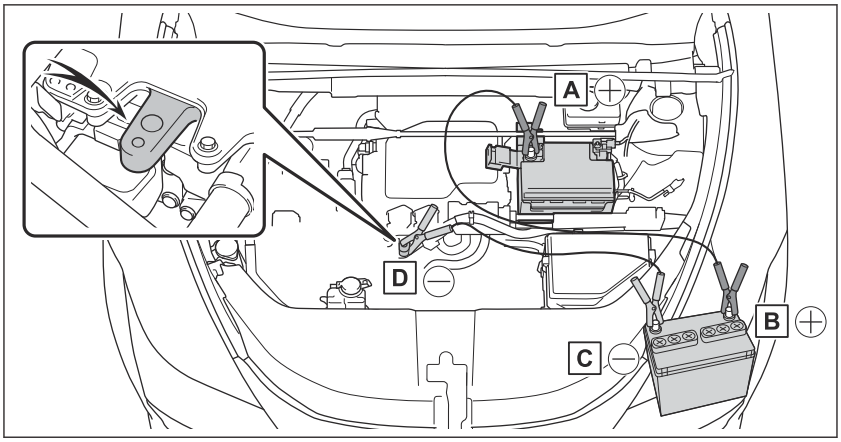
図のように、ツメを押しながら、カバーを開けます



4 **赤色のブースターケーブルを自車の＋端子Aにつなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子Bにつなぎます。その後、黒色のブースターケー**

ブルを救援車のバッテリーのー端子C につなぎ、もう一方の端を金属部D につなぎます。

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



A バッテリーの＋端子（自車）
B バッテリーの＋端子（救援車）
C バッテリーのー端子（救援車）
D 図に示す金属部

⚠ 注意

■ ブースターケーブルの取り扱い

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

5 **救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電します。**

6 **パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉します。**

7 **救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON にしてから EV システムを始動します。**

8 **“READY” インジケーターが点灯することを確認します。**

点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

9 **EV システムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずします。**

10 **バッテリーの＋端子のカバーを閉じる**

EV システムが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

ドア開スイッチでドアを開けることができない

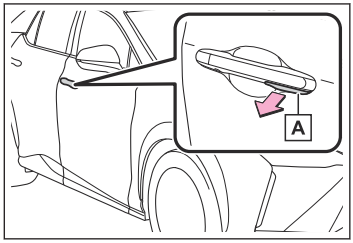
ドア開スイッチでドアを開けることができない場合は、手動リリースハンドルを使用してドアを開けることができます。

手動リリースハンドルを操作するには

⚠ 注意

通常、手動リリースハンドルを用いてドアを開けることはできません。手動リリースハンドルの作動を有効にするためには以下の操作を行ってください。以下の操作を行わずに手動リリースハンドルを強い力で操作すると、破損／変形する恐れがあります。

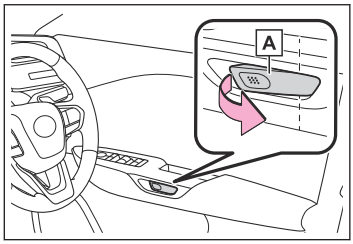
▶ **車外**



手動リリースハンドル A を手前に引いてドアを開きます。通常、手動リリースハンドルではドアを開けることができません。

ドアを開けるには作動を有効にする必要があります。(→P.693)

▶ **車内**



手動リリースハンドル A を手前に 2 回引いてドアを開きます。

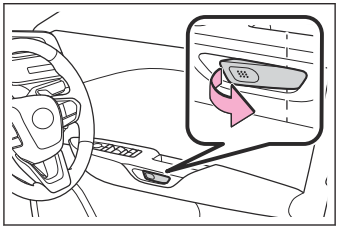
1 回ハンドルを引くと作動が有効になり、再度ハンドルを引くとドアが開きます。

知識

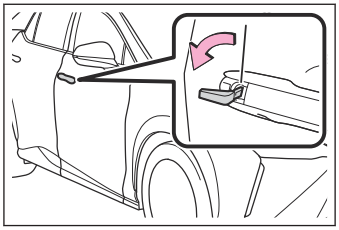
■ **手動リリースハンドルの作動が有効になる条件**

- 衝突時など強い衝撃を受けたとき
  衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。
- ドアがロック解除状態で補機バッテリー電圧が徐々に低下したとき
  低下のしかたによっては、作動しない場合があります。

● 車内から手動リリースハンドルの作動を有効にしたとき



● 車外からメカニカルキーで手動リリースハンドルの作動を有効にしたとき



■ 手動リリースハンドルの作動が無効になる条件

● 車外の手動リリースハンドルは、通常、作動が無効のためドアを開くことができません。

メカニカルキーや手動リリースハンドルで作動を有効にしても、ドア開スイッチでドアを開いたり、ロックすることで自動的に作動が無効になります。

● 車内の手動リリースハンドルは、パワースイッチが ON のとき作動が無効のためドアを開くことができません。

メカニカルキーや手動リリースハンドルで作動を有効にしても、ドア開スイッチでドアを開いたり、ロックすることで自動的に作動が無効になります。

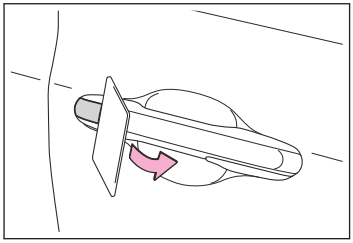
● 車内の手動リリースハンドルは、意図せずドアを開けることを防ぐため、パワースイッチが ON のとき 1 回目の操作後、約 1 秒で自動的に作動が無効になります。

メカニカルキーで車外手動リリースハンドルの作動を有効にするには

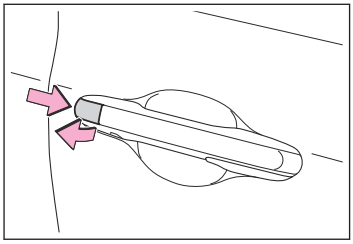
メカニカルキーを使ってドアをロック解除することで手動リリースハンドルの作動を有効にすることができます。(→P.688)

1 **ドアハンドルのスリット部にプラスチック製のカードなどを挿し込みカバーを浮かせます。**

破損を防ぐためにカバーに過度の負荷をかけないでください。



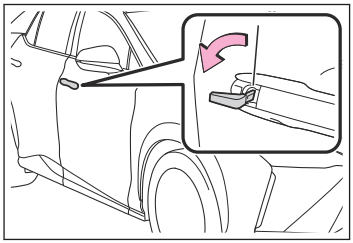
2 **カバー後方を押しながら取りはずします。**



3 **メカニカルキーを使ってロック解除側にまわし、手動リリースハンドルの作動を有効にします。**

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある方溝キーです。

キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。



リヤドアが内側から開けられない

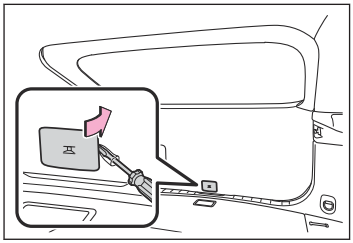
チャイルドプロテクターがかかっている可能性があります。
車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除します。(→P.109)

バックドアが開かない

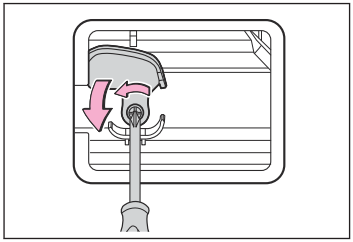
バックドアを内側から開けることができます。

1 **カバーをはずします。**

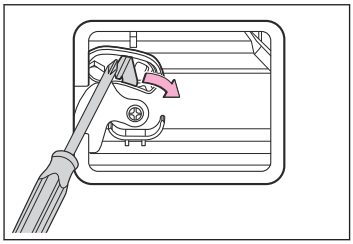
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



2 **ねじをゆるめて、カバーをまわします。**



3 **ドライバーを使って、レバーを押します。**



4 **取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。**

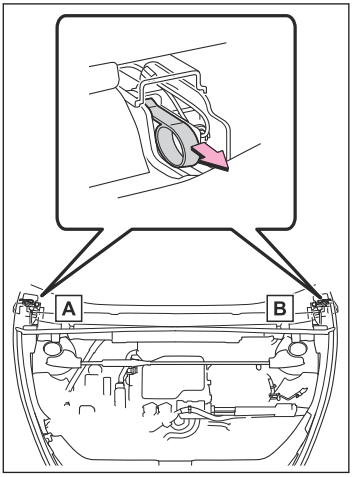
充電リッドが開かない

充電リッドが通常の手順で開かないときは、次の手順で充電リッドのロックを解除することができます。

1 **ボンネットを開ける（→P.594）**

2 **緊急解除レバーのリング部を車両内側方向へ水平に引く**

ロック解除操作完了後、リング部を元の位置へ“ カチッ” と音がするまで押し込み固定してください。



A 普通充電リッド側
B 急速充電リッド側

知識

■ 緊急解除レバーでロック解除するとき

次のことをお守りください。

- リング部に無理な力をかけない
- 水平に引っ張りすぎない

緊急時のみ使用してください。

解消しないときは、すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

正常に充電できないとき

正しい手順に従って作業しても充電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示された場合は、P.644 も併せて参照してください。

正常に普通充電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

電源プラグを外部電源に接続してもコントロールユニット上の電源インジケーターが点灯しない

考えられる原因	対処方法
電源プラグがコンセントに正しく接続されていない	電源プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
停電している	停電の解消後、再度充電してください。
手元スイッチが OFF になっている	手元スイッチが設定されている場合は、スイッチを ON にしてください。
建物側のブレーカーが作動して電気が遮断されている	ブレーカーの接続状態を確認し、異常がない場合はほかのコンセントで充電可能かご確認ください。 ほかのコンセントが近くにない場合はレクサス販売店にご相談ください。 充電できた場合、最初に接続したコンセントの異常が考えられます。建物・設備の管理者、または電気工事業者にご連絡ください。

上記のチェックで解消しない場合、普通充電ケーブル（電源プラグコードを含む）に断線等の可能性がありますので、ただちに充電を中止して、レクサス販売店にご連絡下さい。

コントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅している

考えられる原因	対処方法
漏電検知機能、または自己診断機能が作動して電気が遮断された	電圧が不足している場合や、ノイズの影響を受けた場合などに、エラーインジケーターが点滅することがあります。いったん電源プラグをコンセントから抜き、正常な電源に接続しなおしてください。（→P.706） 充電が開始されない場合は、ただちに充電を中止してレクサス販売店にご連絡ください。

普通充電コネクターを接続しても充電ポートの充電インジケーターが点灯しない

考えられる原因	対処方法
普通充電コネクターが普通充電インレットに確実に接続されていない	普通充電コネクターの接続状態を確認してください。 ● 普通充電コネクターを接続するときは、ロック解除ボタンにふれないように注意し、“ カチッ” と音がするまで挿し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら挿し込むと、正しく接続されないおそれがあります。 ● 普通充電コネクターの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、充電ポートの充電インジケーターが点灯していることを確認してください。 普通充電コネクターが確実に接続されているのに充電ポートの充電インジケーターが点灯しない場合は、システムに異常があるおそれがあります。ただちに充電を中止して、レクサス販売店にご連絡ください。
すでに駆動用電池が満充電になっている	駆動用電池が満充電の場合、充電は行われません。
設定した充電量上限より駆動用電池残量が多い	充電量上限を現在の駆動用電池残量より高い値に設定して、再度充電してください。
普通充電器（スタンド）が作動しない	普通充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。

充電ポートの充電インジケーターが点滅して充電できない

考えられる原因	対処方法
充電ポートの充電インジケーターが通常の速さで点滅しているとき(1)：充電スケジュールが登録されている	設定した時刻になるまでそのままお待ちください。 充電を開始したい場合は、“今すぐ充電” を ON にしてください。(→P.77)
充電ポートの充電インジケーターが速い点滅をしているとき(1)：外部電源、または車両に異常が発生している	パワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示されたメッセージの指示に従って、それぞれ対処してください。(→P.644)

(1) 充電ポートの充電インジケーターの点灯・点滅については、P.37 を参照してください。

正常に急速充電・V2H 充電／V2H 給電できない

急速充電・V2H 充電／V2H 給電が開始しない

考えられる原因	対処方法
急速充電コネクターが車両に正しく接続されていない	急速充電コネクターの接続状態を確認し、コネクターを確実にロックしてください。 接続状態に異常がないのに急速充電・V2H 充電／ V2H 給電が開始されないときは、急速充電器（スタンド）または充電システムに異常がある可能性があります。 ● 急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 ● V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。 ● 急速充電器（スタンド）・V2H 機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店にご連絡ください。
急速充電コネクターが確実にロックされていない	
急速充電器（スタンド）・V2H 機器または車両のセルフチェック機能でエラーが検出された	急速充電器（スタンド）・V2H 機器または充電システムに異常がある可能性があります。 ● 急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 ● V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。 ● 急速充電器（スタンド）・V2H 機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店にご連絡ください。 ● EV システムを始動できなくなった場合は、レクサス販売店にご連絡ください
急速充電器（スタンド）・V2H 機器の電源が OFF になっている	● 急速充電器（スタンド）の管理者に連絡して、電源状態をご確認ください。 ● V2H 機器の取扱説明書を確認するなど、電源状態をご確認ください。
すでに駆動用電池が満充電になっている	駆動用電池が満充電の場合、充電は行われません。
普通充電コネクターも接続している	普通充電と急速充電・V2H 充電／V2H 給電を同時に行うことはできません。
EV システムが始動している	EV システムが始動していると、急速充電・V2H 充電／V2H 給電を開始できません。 また、シフトポジションが P でないと急速充電システムまたは V2H 充電／V2H 給電システムを使用できません。

考えられる原因	対処方法
設定した充電量上限より駆動用電池残量が多い	充電量上限を現在の駆動用電池残量より高い値に設定して、再度充電してください。
繰り返し急速充電・V2H 充電／V2H 給電を行った	EV システムを始動させた状態でしばらく待ってから、EV システムを停止して、再度充電してください。

急速充電・V2H 充電／V2H 給電が途中で停止する

考えられる原因	対処方法
急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイマーが作動した	急速充電器（スタンド）または V2H 機器によっては、一定時間で充電が停止するようにタイマーが設定されている場合があります。 急速充電器（スタンド）の管理者に確認するか、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。
急速充電器（スタンド）・V2H 機器の電源が OFF になった	急速充電器（スタンド）または V2H 機器の電源状態を確認してください。 電源の状態が不明な場合は、急速充電器（スタンド）の管理者に連絡するか、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。
駆動用電池の温度が極端に高い、または極端に低い	極端な高温、または極低温の環境下では、急速充電または V2H 充電／V2H 給電できない場合があります。気温が安定してから急速充電・V2H 充電／V2H 給電を実施してください。
急速充電器（スタンド）・V2H 機器または車両のセルフチェック機能でエラーが検出された	急速充電器（スタンド）・V2H 機器または充電システムに異常がある可能性があります。 ● 急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 ● V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。 ● 急速充電器（スタンド）・V2H 機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店にご連絡ください。 ● EV システムを始動できなくなった場合は、レクサス販売店にご連絡ください。
充電関連部品の温度が高い	充電関連部品の温度が高いと急速充電・V2H 充電／V2H 給電できない場合があります。しばらく時間をあけてから再度急速充電・V2H 充電／V2H 給電をおこなってください。
満充電付近で車両のエアコンや電装品の使用を停止した	車両のエアコンや電装品が OFF の状態で、再度急速充電・V2H 充電／V2H 給電してください。

急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後に EV システムが始動できなくなった

考えられる原因	対処方法
急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後の充電システムチェックが正常に終了しなかった	P.652 の手順でシステムチェックを実施してください。再試行してもシステムチェックが正常に終了しない場合は、レクサス販売店にご連絡ください。
急速充電コネクターが接続されたままになっている	急速充電コネクターが接続されているときは、安全のため、EV システムを始動することができません。(→P.54) 急速充電・V2H 充電／V2H 給電終了後は、すみやかに急速充電コネクターを取りはずしてください。
急速充電システムまたは V2H 充電／V2H 給電システムが故障した	● 故障の原因によっては、システムチェック終了後に EV システムを始動できる場合があります。(→P.652) ● 始動できない場合は、レクサス販売店にご連絡ください。

充電インレットから充電コネクターが抜けない

普通充電コネクターをアンロックできない

通常の操作で普通充電コネクターをアンロックできないときは、コネクターロック緊急解除ワイヤーを操作して、普通充電コネクターをアンロックすることができます。

緊急時以外は、この方法でアンロックさせないでください。

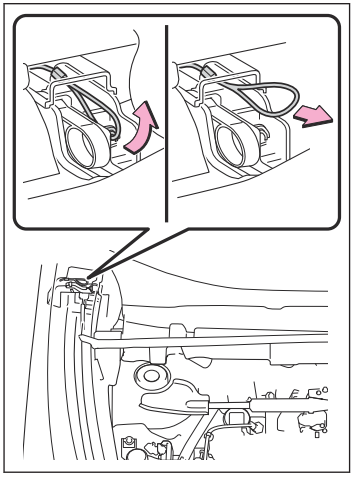
異常が解消しない場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

1 **ボンネットを開ける（→P.594）**

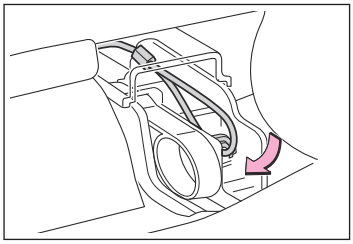
2 **コネクターロック緊急解除ワイヤーを引く**

リングに無理な力をかけたり、引っ張りすぎないようにしてください。

普通充電コネクターがアンロックされ、普通充電コネクターの取りはずしが可能になります。



3 **普通充電コネクターのアンロック後、緊急解除ワイヤーの取手部をアタッチメントに固定する**



急速充電コネクターをアンロックできないとき

- 急速充電コネクターは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器によりロックしています。

  車両のコネクターロック緊急解除ワイヤーで操作を行ってもアンロックはできません。

- 急速充電中・V2H 充電／V2H 給電中は急速充電コネクターをはずすことはできません。はずす必要があるときは急速充電・V2H 充電／V2H 給電を中

止してください。急速充電・V2H 充電／V2H 給電が停止すると急速充電コネクターをはずすことができます。

- 急速充電・V2H 充電／V2H 給電が停止しても急速充電コネクターが抜けない場合、急速充電器（スタンド）・V2H 機器に異常がある可能性があります。
  - 急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。
  - V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。

普通充電ケーブルのコントロールユニット上のインジケーターが点灯・点滅した

充電時に異常が発生したときは、コントロールユニット上のインジケーターの点灯・点滅状態の組み合わせにより、異常の内容をお知らせします。

エラーインジケーターが点灯・点滅したときは、いったん電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに挿し込んで、エラーインジケーターが消灯するか確認してください。

電源インジケーターが点灯し、エラーインジケーターが消灯していれば、そのまま充電が可能です。

それ以外の場合には、次の表に従って対処してください。

状況	電源インジケーター	エラーインジケーター	原因／対処
充電システムエラー	消灯	消灯または点灯	漏電を検知して充電を中断しているか、普通充電ケーブルが故障しています。 →レクサス販売店にご相談ください。
	点灯	点滅	
電源プラグ温度検知異常	点滅	点滅	電源プラグの温度検知部品が故障しています。 →レクサス販売店にご相談ください。
電源プラグ温度上昇検知	点滅	消灯	コンセントと電源プラグとの接触不良などにより、電源プラグの温度上昇を検知しました。 →電源プラグがコンセントに確実に挿し込まれているか確認してください。点滅しつづけても、電流を制限して充電が行われます。
普通充電ケーブル寿命予告	点灯	点滅	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限に近付いています。 →レクサス販売店にご相談ください。
普通充電ケーブル寿命	点灯	点灯	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限をこえています。 →レクサス販売店にご相談ください。

タイマー充電機能が正常に作動しない

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

希望の時刻に充電が開始しない

考えられる原因	対処方法
車両の時刻と曜日が正しく設定されていない	正しい時刻と曜日に設定してください。
車両に普通充電コネクターが接続されていない	タイマー充電機能を使用する際は、あらかじめ普通充電コネクターを接続しておいてください。
設定した開始時刻を過ぎてから普通充電コネクターを接続した	充電モードが“開始”の場合は、設定した開始時刻よりも前に普通充電コネクターを接続してください。 充電モードを“開始終了”に設定した場合は、終了時刻よりも前に普通充電コネクターを接続すれば、開始時刻を過ぎていても充電します。

スマートフォンのアプリケーションから充電スケジュールの変更ができない

考えられる原因	対処方法
スマートフォンが通信圏外にある(1)	電波状態を確認し、通信圏外になっている場合は電波の状況がよい場所へ移動してください。

(1) 次回の充電予定を変更するには、スマートフォン専用アプリが必要です。

充電スケジュールを登録してあるのに充電が開始される

考えられる原因	対処方法
“今すぐ充電” が ON になっている	充電スケジュールを有効にする際は、“今すぐ充電” を OFF に設定してください。(→P.78)
充電スケジュールが OFF になっている	充電スケジュールが OFF に設定されていないか確認してください。(→P.76)
充電モードが「開始・終了」に設定されており、かつ開始時刻と終了時刻のあいだに普通充電コネクターを接続した	充電モードが「開始・終了」のときは、開始時刻を過ぎて普通充電コネクターを接続すると、終了時刻まで充電が実施されます。充電スケジュールを確認してください。
充電ポートの充電インジケーターが通常の速さで点滅しているときに普通充電コネクターを抜き挿しした	充電インジケーターが通常の速さで点滅しているときに普通充電コネクターを抜き挿しすると、充電スケジュールがキャンセルされます(→P.60)。いったん普通充電コネクターを取りはずして、再度、接続し直してください。

考えられる原因	対処方法
マイルームモード、またはリモートエアコンシステムを作動させた	マイルームモード、またはリモートエアコンシステムを作動させると、充電スケジュールが登録されていても、充電が開始されます。充電スケジュールを有効にしたい場合は、それぞれの機能を停止してから、接続し直してください。

DC 外部給電システムが正常に作動しないときは

正しい手順に従って作業しても DC 外部給電が開始されない場合や、給電作業後にエラーを伝えるメッセージが表示された場合は、次の事項をご確認ください。

正常に DC 外部給電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

外部給電モードの選択画面(→P.88)が表示されない

考えられる原因	対処方法
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にしてください。

EV 給電モードを選択できない

考えられる原因	対処方法
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池の残量を確認し(→P.338)、残量が少なくなっているときは、駆動用電池を充電してください。(→P.58, 66)

給電が開始されない

考えられる原因	対処方法
外部給電コネクターがしっかりと接続されていない	外部給電コネクターが急速充電インレットに確実に接続されているか確認してください。
シフトポジションが P 以外にある	シフトポジション表示灯（→P.203）でシフトポジションが P になっていることを確認してください。
開始操作が適切でない	外部給電器によっては、開始操作が通常の手順と異なるものがあります。外部給電器の製造業者または販売業者にご確認ください。
外部給電器に異常が発生している	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。
外部給電器の電源が OFF になっている	

考えられる原因	対処方法
前回使用時に正常終了していない	急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに“充電システム確認のため 充電リッドを閉めてください取扱書を確認” が表示されたときの手順に従い、処置してください（→P.652）。その後、再度開始操作を行ってください。
普通充電・AC 外部給電システムまたは急速充電・V2H 充電/V2H 給電を使用している	普通充電・AC 外部給電システムまたは急速充電・V2H 充電/V2H 給電を終了してから DC 外部給電システムの開始操作を行ってください。
繰り返し DC 外部給電を行った	EV システムを始動させた状態でしばらく待ってから、EV システムを停止して、再度給電してください。
その他	「DC 外部給電作業前の重要確認事項」（→P.88）の手順により、再度開始操作を行ってください。

給電が途中で停止する

考えられる原因	対処方法
外部給電器の電源が何らかの理由で OFF になっている	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。
車両の出力を超過する電気製品を使用している	使用する電気製品を減らして、再度開始操作を行ってください。
外部給電器に異常が発生している	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。

給電後、EV システムが始動しない

考えられる原因	対処方法
車両に外部給電器が接続されている	外部給電器の取扱説明書に従って、外部給電コネクターを取りはずしてください。
給電後に正常終了していない	急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに “ 充電システム確認のため 充電リッドを閉めてください取扱書を確認” が表示されたときの手順に従い、処置してください。（→P.652）

給電後、外部給電コネクターがはずれない

原因	対処法
外部給電コネクターが何らかの理由でロックされている	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。

正常に AC 外部給電できないときは

正しい手順に従って作業しても外部給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常に AC 外部給電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

外部給電モードの選択画面が表示されない

考えられる原因	対処方法
ヴィークルパワーコネクタがしっかりと接続されていない	ヴィークルパワーコネクタを接続してからパワースイッチを ON にする際、しっかりと接続されていないと外部給電モードの選択画面が表示されません。 いったんヴィークルパワーコネクタを取りはずし、再度、"カチッ"と音がするまで確実に挿し込んでください。
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にしてください。
シフトポジションが P 以外にある	シフトポジションが P になっていることを確認してください。

EV 給電モードを選択できない

考えられる原因	対処方法
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池の残量を確認し(→P.338)、残量が少なくなっているときは、駆動用電池を充電してください。(→P.58, 66)
駆動用電池の残量が、給電量下限で設定した値に近い、または設定した値より少ない	給電量下限を現在の駆動用電池残量より低い値に設定して、再度給電してください。

ヴィークルパワーコネクタの電源スイッチを押しても AC 外部給電が開始されない

考えられる原因	対処方法
電源スイッチを 2 回押す間隔が長すぎる、または電源スイッチを 2 回よりも多く押している	電源スイッチは、約 3 秒以内に 2 回連続で押してください。(→P.97)

考えられる原因	対処方法
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
電気製品が故障などで作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、電気製品自体が故障していないか確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。 それでも作動しない場合は電気製品の取扱説明書を確認してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池、車載充電器などが高温になっている	パワースイッチを OFF にし、外気温が下がってから、はじめから操作をやり直してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池、車載充電器などが低温になっている	パワースイッチを OFF にし、外気温が上がってから、はじめから操作をやり直してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、はじめから操作をやり直してください。 ● ピンなどの異物が挿さっていないか ● 飲料水、雨水、雪などが付着していないか ● ほこりやごみが付着していないか
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池の残量を確認してください（→P.338）。 残量が少なくなっているときは、ヴィークルパワーコネクタを取り外し、充電を実施し、駆動用電池の残量を回復させてください（→P.58, 66）。

正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは

正しい手順に従って作業してもアクセサリーコンセントまたは非常時給電システムが使用できない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常にアクセサリーコンセントが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

アクセサリーコンセントが使用できない

考えられる原因	対処法
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池を充電して駆動用電池の残量を回復させてから、再度“1500W コンセント”をタッチしてください。
普通充電または AC 外部給電を実施している	普通充電または AC 外部給電を終了し、充電コネクターまたはヴィークルパワーコネクタを取り外し、はじめから操作をやり直してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池、車載充電器などが高温になっている	外気温が下がってから、再度“1500W コンセント”をタッチしてください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池、車載充電器などが低温になっている	外気温が上がってから、再度“1500W コンセント”をタッチしてください。
電気製品が故障などで作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、電気製品自体が故障していないか確認後、再度“1500W コンセント”をタッチしてください。“1500W コンセント”が点灯しない場合は、一度パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。 それでも作動しない場合は電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているか確認後、再度“1500W コンセント”をタッチしてください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、再度“1500W コンセント”をタッチしてください。 ● ピンなどの異物が挿さっていないか ● 飲料水、雨水、雪などが付着していないか ● ほこりやゴミが付着していないか

以上の処置を行ってもアクセサリーコンセントが使用できない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

正常に非常時給電システムが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

非常時給電システムが使用できない

考えられる原因	対処法
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にしてください。（→P.196） マルチインフォメーションディスプレイに“パワー ON”と表示されていることを確認してください。
“1500W コンセント”をタッチする間隔が長すぎる、または“1500W コンセント”を 3 回よりも多くタッチしている	“1500W コンセント”は 2 秒以上間隔をあけずに 3 回連続でタッチしてください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池、車載充電器などが高温になっている	パワースイッチを OFF にし、外気温が下がってから、はじめから操作をやり直してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池、車載充電器などが低温になっている	パワースイッチを OFF にし、外気温が上がってから、はじめから操作をやり直してください。
電気製品が故障などで作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。それでも作動しない場合は電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。 ● ピンなどの異物が挿さっていないか ● 飲料水、雨水、雪などが付着していないか ● ほこりやゴミが付着していないか

考えられる原因	対処法
普通充電を実施している	普通充電を終了し、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
AC 外部給電を実施している	AC 外部給電を終了し、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
急速充電を実施している	急速充電を終了し、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
DC 外部給電を実施している	DC 外部給電を終了し、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
V2H 給電を実施している	V2H 給電を終了し、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

おくだけ充電®（ワイヤレス充電器）の充電トレイ上の作動表示灯が点滅した

おくだけ充電®（ワイヤレス充電器）の作動表示灯が 1 秒間に 1 回の点滅をくり返す（橙色／緑色）

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ側	センターディスプレイ側	
橙（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	灰	車両とワイヤレス充電器の通信不良 →EV システムが始動しているときは、一度 EV システムを停止し、再始動してください。 パワースイッチのモードが ACC の時は、一度 EV システムを始動してください。（→P.194）
緑（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	非表示	ワイヤレス充電器とマルチメディアシステムの通信異常 →EV システムが始動しているときは、一度 EV システムを停止し、再始動してください。 パワースイッチのモードが ACC の時は、一度 EV システムを始動してください。（→P.194）

橙色と緑色の点灯を交互に繰り返す場合は、P.307 を参照してください

おくだけ充電®（ワイヤレス充電器）の作動表示灯が 3 回連続の点滅をくり返す（橙色）

原因	対処法
以下の原因が考えられます。 ● 異物検知：充電エリア内に金属製の異物があり、異物の異常加熱防止機能が働いた ● 携帯機器のずれ：携帯機器の充電用コイルが充電エリアから外れたことで、異常加熱防止機能が働いた	● 充電エリア内にある異物を取り除いてください。 ● 携帯機器を充電トレイから取り出し、作動表示灯が緑に戻ったことを確認して、充電トレイの中央付近に置き直してください。 また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、外してください。

おくだけ充電®（ワイヤレス充電器）の作動表示灯が 4 回連続の点滅をくり返す（橙色）

原因	対処法
ワイヤレス充電器内の温度上昇が考えられます。	いったん充電を停止し、携帯機器を充電トレイから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。

EV システム警告メッセージが表示され、車が動かない

駆動系の故障が考えられます。

レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

トランスミッションから異常な音がする

駆動系の故障が考えられます。

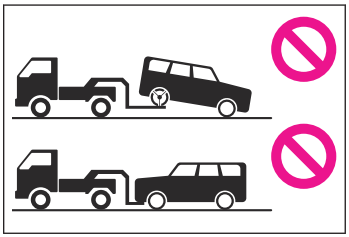
レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

レッカー車を使用したけん引

FF（前輪駆動）をレッカー車でけん引してもらう

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者に依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

⚠ 警告



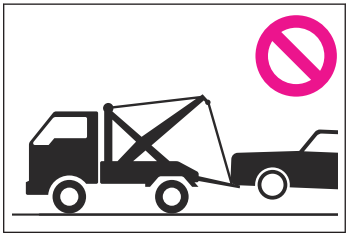
必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。

⚠ 注意

■ 長い下り坂でけん引するとき

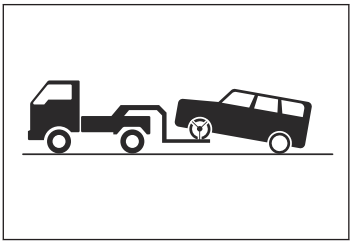
レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき



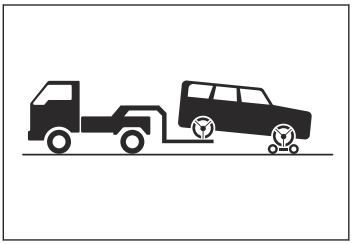
車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

▶ 前向きにけん引するとき



パーキングブレーキを解除します。オートモードを OFF にしてください。（→P.221）

▶ うしろ向きにけん引するとき

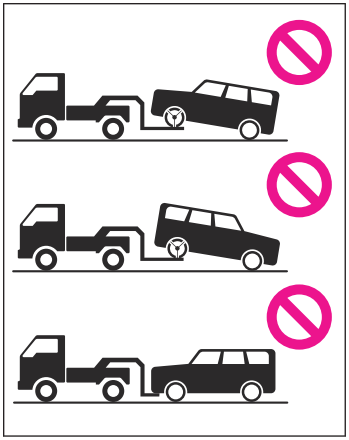


台車を使用して前輪を持ち上げる

AWD（4 輪駆動）をレッカー車でけん引してもらう

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者に依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

⚠ 警告



4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。

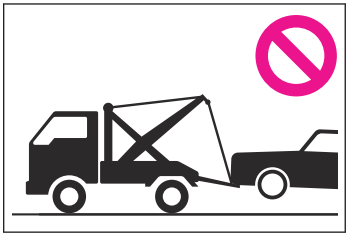
⚠ 注意

■ 長い下り坂でけん引するとき

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

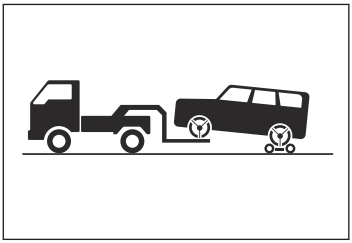
⚠ 注意

■ レッカー車でけん引するとき



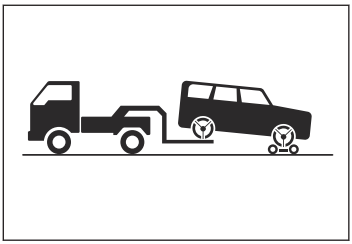
車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

▶ 前向きにけん引するとき



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するとき



台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用する

⚠ 注意

車両運搬車に車を固縛するときは、ケーブル等を過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

車両運搬車で輸送するときは、タイヤ固縛ベルトを使用します。タイヤの固縛方法は、車両運搬車の取扱説明書を確認してください。運搬中の車両の揺れを抑えるため、パーキングブレーキをかけ、パワースイッチを OFF にしてください。

他車を使用したけん引

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者に依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。

レクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常があるとき（→P.644）
- イモビライザーシステムに異常があるとき（→P.144）
- スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき（→P.686）
- 補機バッテリーがあがったとき（→P.690）

他車にけん引してもらう

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

⚠ 警告

パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください

- 運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける
- パワースイッチを OFF にする

⚠ 注意

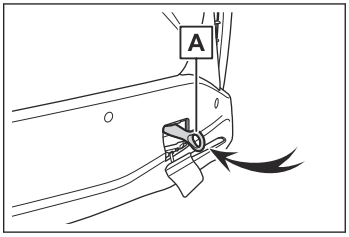
車両の損傷を防ぐために、次のことを必ずお守りください。

- 他車にけん引してもらうときは、必ず前進方向でけん引してもらってください。
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

知識

■ リヤ側けん引フックについて（輸送用フック／緊急用フック）

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するために、または雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



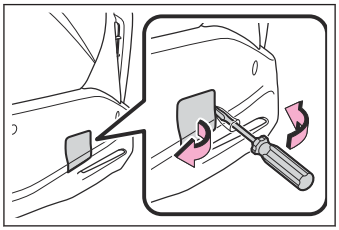
A 輸送用フック／緊急用フック

■ リヤ側けん引フックを取り付けるには

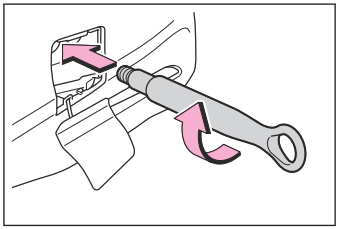
輸送用フック、緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

1. ラゲージルーム内のけん引フックを取り出します（→P.619）
2. 図に示す部分を手で押して隙間を作り、マイナスドライバーを使ってフタをはずします

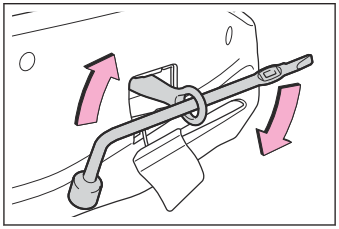
   傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3. けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4. ホイールボルトレンチ*1 や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



⚠ 警告

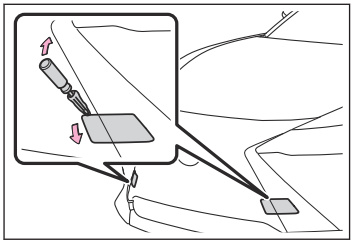
- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

1 **ラゲージルーム内のけん引フックを取り出します。**

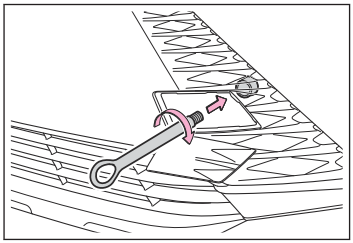
*1：レクサス販売店で購入することができます。

2 **マイナスドライバーを使ってフタをはずします。**

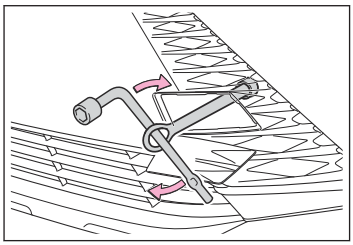
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 **けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締めます。**



4 **ホイールボルトレンチ*1 や金属の固い棒などを使い確実に取り付けます。**



知識

■ けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■ ホイールボルトレンチ

レクサス販売店で購入することができます。

⚠ 警告

けん引フックを車両に取り付けるときは、指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかり取り付けないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

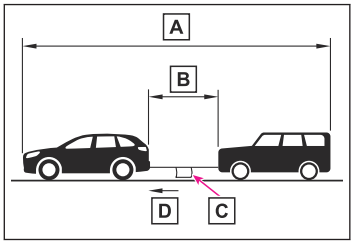
5 **車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかけます。**

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

*1: レクサス販売店で購入することができます。

6 **ロープの中央に白い布を付けます。**

布の大きさ：0.3m 平方（30cm×30cm）以上



A 25m 以内
B 5m 以内
C 白い布
D けん引方向

⚠ 注意

車両の損傷を防ぐために、他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- サスペンション部などにロープをかけない

7 **運転者はけん引される車両に乗り、EV システムを始動します。**

EV システムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

知識

■ 他車にけん引してもらうとき

EV システムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

⚠ 警告

パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください。

- 運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける
- パワースイッチを OFF にする

8 **けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する**

パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

⚠ 警告

けん引してもらうときは、けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

⚠ 注意

他車にけん引してもらうときは、速度は 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。車両が損傷するおそれがあります。

ぬかるみや砂地、雪道から抜け出す

1 パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にして、EV システム停止します。

2 前輪周辺の土や雪を取り除きます。

3 前輪の下に木や石などをあてがいます。

4 EV システムを再始動します。

5 シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏みます。

⚠ 警告

■ 脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ ダイヤル式シフトを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進するおそれや、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

6 脱出しにくいときは、 OFF を押して TRC を OFF にしてください。

以上の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

ウインドウロックスイッチが ON になってるか確認してください。(→P.153)

ウインドウロックスイッチが ON になっていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。

ウインドウロックスイッチを OFF にしてください。

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。(→P.151)

- 車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続ける。または、自動全開の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を実施してください。(→P.730)

挟み込み防止機能／巻き込み防止機能を初期化する

1 **パワースイッチを ON にします。**

2 **パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にします。(→P.152)**

3 **いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で約 6 秒以上引き続けます。**

4 **パワーウインドウスイッチを自動全開の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続けます。**

5 **いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを自動全開の位置で約 4 秒以上押し続けます。**

6 **再度、パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続けます。**

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

パワースイッチが自動的に OFF になった

次の状況のとき、自動電源 OFF 機能が作動します。

- シフトポジションが P にあるとき、約 20 分以上パワースイッチを ACC、または ON（EV システムが始動していない状態）のままにした
- シフトポジションが P およびパワースイッチが ACC、または ON（EV システムが始動していない状態）のときに補機バッテリーの残量が少なくなった

次回 EV システム始動時に、約 5 分間 EV システムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

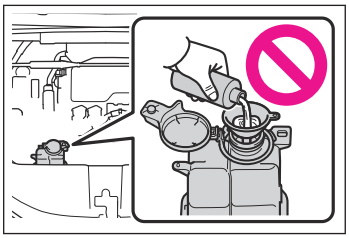
EV システムが作動していないときは、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

オーバーヒートした

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯が点灯した
- スピードが出ないなど EV システムの出力が低下する
- マルチインフォメーションディスプレイに“EV システム高温出力制限中です”が表示される
- モータールームから蒸気が出ている

⚠ 注意



ラジエーターの冷却水は、ラジエーター専用品です。水や他の種類の冷却水を入れると、故障の原因になりますので、絶対に入れないでください。トヨタ純正駆動用バッテリークーラントがない場合は、ただちにレクサス販売店にご連絡ください。

高水温警告灯が点灯したり、マルチインフォメーションディスプレイに“EV システム高温出力制限中です”が表示された

⚠ 警告

■ モータールームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- モータールームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。モータールーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- EV システムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■ 冷却水を入れるとき

EV システムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。EV システムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、EV システムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

⚠ 注意

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水には、水や他の冷却水を補充しないでください。また、冷却水用添加剤は使用しないでください。

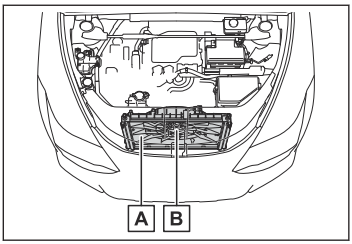
1 **安全な場所に停車し、エアコンを OFF にする**

2 **EV システムが作動している状態で、ボンネットを開ける**

3 **ラジエーター冷却用のファンが作動しているかを確認するファンが作動している場合：“EV システム高温 出力制限中です” 表示が消えるまで待ち、EV システムを停止するファンが作動していない場合：すぐに EV システムを停止し、レクサス販売店に連絡する**

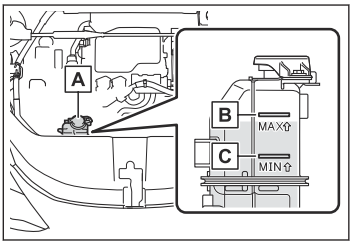
4 **EV システムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する**

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。



A ラジエーター
B ファン

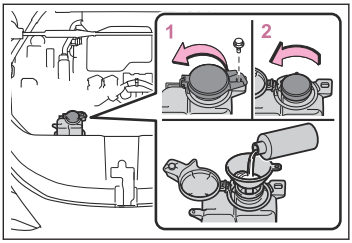
5 **冷却水の量がリザーバータンクの “MAX”（上限）と “MIN”（下限）のあいだにあるかを点検する**



A リザーバータンク
B “MAX”（上限）
C “MIN”（下限）

6 **冷却水が不足している場合は、トヨタ純正駆動用バッテリークーラントを補給する**

冷却水がない場合は、レクサス販売店に連絡してください。



1 ボルトを取りはずしてキャップを開ける
2 リザーバーキャップを開ける

できるだけ早く最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。

電装品が使えない、スイッチを押しても動かない

電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。
ヒューズの点検を行ってください。(→P.736)

点灯しないライトがある

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.665)
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。(→P.736)

対処の方法がわからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

ヒューズの点検／交換をする

⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

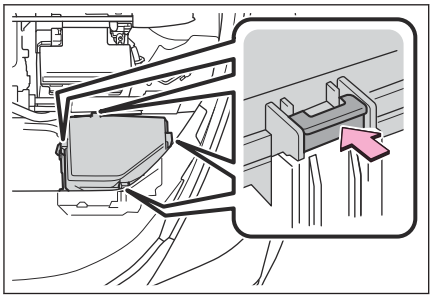
1 **パワースイッチを OFF にします。**

充電コネクターが接続されていないことを確認してください。また、作業中はリモートエアコンシステムを使用しないでください。

2 **ヒューズボックスを開ける**

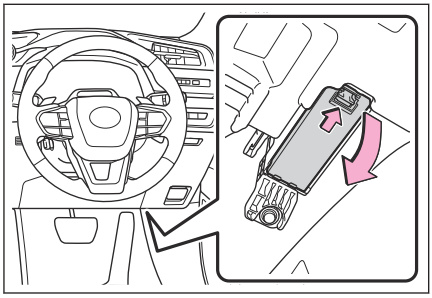
▶ **モータールーム**

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



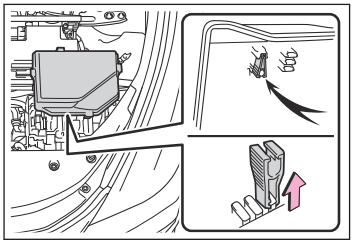
▶ **運転席足元**

ヒューズボックスカバーを取りはずす



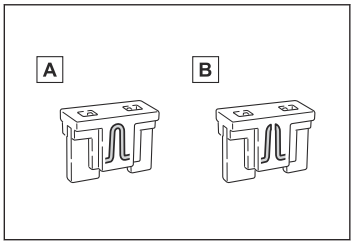
3 **ヒューズを引き抜きます。**

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 **ヒューズが切れていないか点検します。**

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

知識

■ ヒューズを交換したあと

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。

一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

電球（バルブ）の交換

ランプが切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

知識

■ LED ランプについて

すべてのランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

車中泊が必要なときは

⚠ 警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

- 詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

https://lexus.jp/news/bousai/#help_book

10 車の仕様、諸元、装備

10-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（オイル量など）..... 742

10-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能概要 746

設定変更方法 747

車両カスタマイズ設定一覧 748

10-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 768

10-4. フリー／オープンソースソフトウェア

フリー／オープンソースソフトウェア情報 769

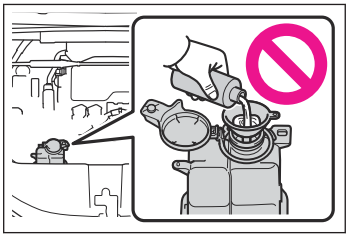
メンテナンスデータ（オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、車の寿命は著しく左右されます。車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

クーリングシステム

指定銘柄	名称	容量（参考値）
弊社純正駆動用バッテリークーラント 凍結保証温度 濃度 50% −35°C	RZ350e	7.0L
	RZ500e	8.5L
	RZ550e	8.7L

⚠ 注意



クーリングシステムへは、弊社純正駆動用バッテリークーラント（以下、純正品）もしくは純正品と同等性能の冷却液をご使用ください。なお、純正品以外を注入した場合、レクサスは駆動用電池の安全性を保証することができません。最悪の場合、電池の短絡や損傷につながる恐れがあります。また、車両から抜き取った冷却液（純正品を含む）は、再使用しないでください。

ヒーターシステム

指定銘柄	容量（参考値）
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 50%　　− 35 ℃	4.1L

フロント eAxle（イーアクスル）

指定銘柄	容量（参考値）
弊社純正 e-トランスアクスルフルード TE(1)	3.0L

(1) 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動／異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤ eAxle（イーアクスル）（AWD 車）

指定銘柄	容量（参考値）
弊社純正 e-トランスアクスルフルード TE(1)	3.0L

(1) 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動／異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル*1

項目	基準値
遊び	1～6mm
踏み込んだときの床板とのすき間(1)	62mm

(1) EV システムが作動している状態で、300N（30.6kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ ブレーキパッド

項目	仕様限度値
ブレーキパッドの厚み	1mm

■ パーキングブレーキ

項目	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 4 秒以内で押したとき	消灯

*1: ブレーキペダルの点検に併せて、EV システムが作動している状態のとき、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯していないことも必ず確認してください。（警告灯が点灯した場合の対処については、P.634 を参照してください）

項目	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 4 秒以内で引いたとき	点灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。（警告灯が点灯した場合の対処については、(→P.634) を参照してください

ウォッシャータンク

容量（参考値）
4.8 L

タイヤ／ホイール

■ サイズ／空気圧

▶ RZ350e（18 インチタイヤ装着車）

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
235/60R18 103H	18 × 7 1/2 J	290 (2.9)	290 (2.9)

▶ RZ350e（20 インチタイヤ装着車）

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
235/50R20 104V	20 × 8 J	260 (2.6)	-
255/45R20 105W	20 × 9 1/2 J	-	240 (2.4)

▶ RZ500e（18 インチタイヤ装着車）

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
235/60R18 103H	18 × 7 1/2 J	260 (2.6)	-
255/55R18 105V	18 × 8 J	-	260 (2.6)

▶ **RZ500e（20 インチタイヤ装着車）**

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
235/50R20 104V	20 × 8 J	260 (2.6)	-
255/45R20 105W	20 × 9 1/2 J	-	240 (2.4)

▶ **RZ550e**

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
235/50R20 104V	20 × 8 J	260 (2.6)	-
255/45R20 105W	20 × 9 1/2 J	-	240 (2.4)

■ **ホイールボルト締め付けトルク**

トルク [N・m (kgf・cm)]
140（1428）

車両仕様

名称	型式	電動機型式	駆動方式
RZ350e	XEBM20	2XM	FF（前輪駆動）
RZ500e RZ550e	XEBM25	2XM	AWD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能概要

車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、センターディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

⚠ 注意

カスタマイズを行うときは、補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に EV システムが作動している状態で実施してください。

設定変更方法

センターディスプレイで設定する

で設定するには

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にします。

1 センターディスプレイの にタッチします。

2 “車両カスタマイズ”または“運転支援”を選択します。

3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択します。

作動／非作動を変更できる機能では、 （作動）／ （非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、バー上のアイコンをスライドしてレベルを調整します。

で設定するには

1 センターディスプレイの を選択する

2 [運転支援]を選択する

3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

作動・非作動の設定は、選択するたびに切りかわります。

作動状態を選択すると、項目が強調表示されます。

知識

■ について

一部の車両カスタマイズ設定は、 からも設定を変更することができます。

車両カスタマイズ設定一覧

A センターディスプレイの画面操作で設定変更可能

B レクサス販売店で設定変更可能

記号の意味: O =変更可能、 — =変更不可能

メーター、マルチインフォメーションディスプレイ

言語や単位などの一部の項目は、センターディスプレイの設定に連動してメーター、マルチインフォメーションディスプレイの表示も変更されます。設定の変更については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
メーター表示タイプ(1)	● タイプ 1 ～ 3	O	—
制動灯表示灯	● あり ● なし	O	—
提案サービス(1)	● あり ● あり（停車中のみ） ● なし	O	O

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

ヘッドアップディスプレイ

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
表示(1)	● ON ● OFF	O	—
表示モード(1)	● 最大 ● 標準 ● 最小	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

ステアリングスイッチ

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
右側ステアリングスイッチお気に入り機能(1)	● 画面切りかえ／ 調整 ● ドライブモードセレクトスイッチ ● オーディオ ● 空調 ● カスタム	O	—
左側ステアリングスイッチお気に入り機能(1)	● オーディオ ● 空調 ● カスタム	O	—
スイッチセンサー高感度モード（防寒手袋モード）(1)	● あり ● なし	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

ドアロック

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ドアロックスイッチインジケーターの点灯時間	● 30 秒 ● 60 秒 ● 600 秒 ● 1200 秒	—	O
車内ドア開スイッチ作動の調整（ドアを開ける機能の調整）	● 短 ● 中 ● 長	—	O
車内ドア開スイッチ操作時のマルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー吹鳴する機能の設定	● あり ● なし	—	O

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
車内外ドア開スイッチの操作方式設定	● スイッチ押下時 ● 0.6 秒 ● 車内からの操作：0.6 秒 車外からの操作：スイッチ押下時 ● 車内からの操作：スイッチ押下時 車外からの操作：0.6 秒	—	O
メカニカルキーによるロック解除	● 1 回で全ドア解除 ● 1 回で運転席ドアロック解除、連続 2 回で全ドアロック解除	—	O
シフトポジションを P 以外にしたときの全ドアロック（シフト操作連動ドアロック）(1)	● あり ● なし	O	O
シフトポジションを P にしたときの全ドアロック解除（シフト操作連動アンロック）(1)	● あり ● なし	O	O
運転席ドアを開けたときの全ドアロック解除（運転席ドア開連動アンロック）(1)(2)	● あり ● なし	O	O

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

(2) パワースイッチを OFF にしてから 45 秒以内に、運転席ドアを開けると全ドアがロック解除されます。

セキュリティ

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
侵入／傾斜センサー	● ON ● OFF	O	—

パワーバックドア

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
バックドア自動開停止位置	● お好みの位置（高さ）で停止 (1) ● 開度 1 ～ 5	O	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
パワーバックドア機能	● あり ● なし	O	—
ブザー音量	● レベル 1～3	O	—
キックセンサ作動	● あり ● なし	O	—
キックセンサ作動確認ブザー	● あり ● なし	—	O
ワイヤレスリモコンのバックドア解除ボタン操作（ロック時ボタン 1 回操作アンロック）	● あり ● なし	—	O
クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能設定	● あり ● なし	—	O
ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能	● あり ● なし	—	O

(1) バックドア下部のスイッチ操作で設定します。

スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
作動の合図（ブザー音）	● レクサスブザー ● 通常ブザー	—	O
作動の合図（ブザー音量調整）(1)	● レベル 1～7 ● OFF	O	O
作動の合図（非常点滅灯）(1)	● あり ● なし	O	O
ロック解除後、ドアを開けなかったときの自動ロックまでの時間(1)	● 30 秒 ● 60 秒 ● 120 秒	—	O
半ドア警告ブザー	● あり ● なし	—	O

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

スマートエントリー＆スタートシステム

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
スマートエントリー＆スタートシステム	● あり ● なし	O	O
ロック解除されるドアの選択(1)	● 全席ロック解除 ● 運転席のみロック解除	O	O
連続ロック操作の有効回数	● 2 回 ● 無制限	—	O
全席ロック解除までのドアハンドル保持時間	● 非作動 ● 1.5 秒 ● 2.0 秒 ● 2.5 秒	—	O
降車オートロック機能	● あり ● なし	—	O
パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能	● あり ● なし	—	O
接近時オートアンロック機能	● あり ● なし	—	O

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

リヤシートリマインダー

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
後席置忘れ防止の表示	● あり ● なし	O	O

ワイヤレスドアロック

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ロック解除時の操作(1)	● 1 回で全ドアロック解除 ● 1 回で運転席ドアロック解除、連続 2 回で全ドアロック解除	O	O
パワーバックドアロック解除時の操作	● 1 回押し ● 2 回押し ● 1 回押し続ける（短） ● 1 回押し続ける（長） ● 非作動	—	O

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

ドライビングポジションメモリー

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
降車時の運転席シート移動量調節(1)	● 標準 ● 少なめ ● OFF	O	O
ハンドルの作動(1)	● テレスコピックのみ ● チルトのみ ● チルト＆テレスコピック ● なし	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

ドアミラー

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
オート電動格納作動	● ドアのロック／ロック解除と連動 ● パワースイッチと連動 ● OFF	—	O

パワーウインドウ

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
メカニカルキー連動開閉機能	● あり ● なし	—	O
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	● あり ● なし	—	O

ASC（アクティブサウンドコントロール）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ASC（アクティブサウンドコントロール）の音量	● 大 ● 中 ● 小 ● なし	O	—

ランプ自動点灯／消灯システム

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ライトセンサーの感度調整(1)	● -2～＋2	O	O
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	● あり ● なし	—	O
ランプ消し忘れ防止機能	● パワースイッチを OFF にする ● パワースイッチを OFF にして運転席ドアを開ける	—	O

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

ランプ

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
LED デイタイムランニングランプ	● あり ● なし	—	O
おもてなし照明の制御	● あり ● なし	—	O

アダプティブハイビームシステム

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
アダプティブハイビームシステム	● ON ● OFF(1)	—	O
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	● 15 km/h ● 30 km/h ● 40 km/h	—	O
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	● ON ● OFF	—	O
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	● ON ● OFF	—	O
発進時のコーナーリングランプ点灯	● ON ● OFF	—	O
雨天時用のハイビーム配光制御	● ON ● OFF	—	O
市街地用の配光制御	● ON ● OFF	—	O
マルチウェザーライトの作動	● ON ● OFF	—	O

(1) オートマティックハイビームとして作動します。(→P.233)

マルチウェザーライト

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
リヤフォグランプ点灯時のマルチウェザーライトの作動	● あり ● なし	—	O

プリクラッシュセーフティ

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
プリクラッシュセーフティ	● ON ● OFF	O	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
警報タイミング(1)	● 遅い ● 標準 ● 早い	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

フロントクロストラフィックアラート

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
フロントクロストラフィックアラート	● ON ● OFF	O	—
注意喚起タイミング(1)	● 遅い ● 標準 ● 早い	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

レーンディパーチャーアラート（LDA）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
レーンディパーチャーアラート(LDA)(1)	● ON ● OFF	O	—
警報タイミング(1)	● 標準 ● 早い	O	—
警報手段(1)	● ハンドル振動 ● ブザー	O	—
低車速支援(1)	● ON ● OFF	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

レーンチェンジアシスト

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
レーンチェンジアシスト(1)	● ON ● OFF	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

レーダークルーズコントロール（DRCC）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
再発進可能時間延長(1)	● ON ● OFF	O	—
加速度設定(1)	● 弱 ● 中 ● 強	O	—
速度設定（短押し）(1)	● 1 km/h ● 5 km/h ● 10 km/h	O	—
速度設定（長押し）(1)	● 1 km/h ● 5 km/h ● 10 km/h	O	—
ガイド文言表示(1)	● ON ● OFF	O	—
カーブ速度抑制(1)	● OFF ● 弱 ● 中 ● 強	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

プロアクティブドライビングアシスト

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
プロアクティブドライビングアシスト（PDA）(1)	● ON ● OFF	O	—
支援感度(1)	● 低い ● 中間 ● 高い	O	—
操舵アシスト（SA）(1)(2)	● ON ● OFF	O	—
減速アシスト（DA）(1)	● ON ● OFF	O	—
障害物先読みアシスト（OAA）(1)	● ON ● OFF	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。
(2) 異形ステアリング非装着車

発進遅れ告知

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
先行車(1)	● ON ● OFF	O	—
信号(1)	● ON ● OFF	O	—
告知タイミング(1)	● 遅い ● 標準 ● 早い	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

ロードサインアシスト

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ロードサインアシスト(1)	● ON ● OFF	O	—
速度標識超過告知方法(1)	● 無 ● 表示 ● 表示とブザー	O	—
その他告知方法(1)	● 無 ● 表示 ● 表示とブザー	O	—
速度超過告知車速(1)	● 2 km/h ● 5 km/h ● 10 km/h	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

休憩提案

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
休憩提案	● ON ● OFF	O	—

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
アドバンスト ドライブ(1)	● ON ● OFF	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

ドライバーモニター

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
注意喚起(1)	● ON ● OFF	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

後方車両接近告知

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
後方車両接近告知機能(1)	● あり ● なし	O	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）(1)	● 遅い ● 標準 ● 早い	—	O

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

周辺車両接近時サポート

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
周辺車両接近時サポート機能(1)	● あり ● なし	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

ITS Connect

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
支援タイミング	● 遅い ● 早い	O	—
信号情報	● ON ● OFF	O	—
道路環境情報	● ON ● OFF	O	—
緊急車両通知	● ON ● OFF	O	—
通信利用型クルーズ	● ON ● OFF	O	—

クリアランスソナー

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
クリアランスソナー機能(1)	● あり ● なし	O	—
ブザー音量(1)(2)	● 小 ● 中 ● 大	O	—
フロントセンターセ ンサーの検知開始距離(3)	● 近い ● 標準	O	—
リアセンターセ ンサーの検知開始距離(3)	● 近い ● 標準	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

(2) クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています

(3) パノラミックビューモニターの設定画面で設定を変更できます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

駐車支援音量*1

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
駐車支援音量(1)	● 大 ● 中 ● 小	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

BSM（ブラインドスポットモニター）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ブラインドスポットモニター機能	● あり ● なし	O	—
ドアミラーインジケーターの明るさ(1)	● 暗い ● 明るい	O	—

*1: 駐車支援音量は、クリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音の一括音量調整機能です。

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
接近車両を知らせるタイミング（感度）(1)	● 遅い ● 標準 ● 早い	O	—
ブザー警報(1)	● あり ● なし	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

安心降車アシスト

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
安心降車アシスト機能	● On ● Off	O	—
ドアミラーインジケーター表示(1)	● あり ● なし	O	—
接近車両検知の感度(1)	● 低い ● 中間 ● 高い	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
リヤクロストラフィックアラート機能	● On ● Off	O	—
リヤクロストラフィックアラート作動時のブザー音量(1)(2)	● 小 ● 中 ● 大	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

(2) クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

RCD（リヤカメラディテクション）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
RCD 機能(1)	● ON ● OFF	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能(1)	● ON ● OFF	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

Lexus Teammate Advanced Park

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
Remote Park	● あり ● なし	O	—
音声案内	● あり ● なし	O	—
速度モード	● 遅め ● 標準 ● 速め	O	—
障害物回避距離	● 標準 ● 遠い	O	—
優先駐車方法	● 並列 ● 縦列	O	—
優先駐車向き	● 前向き ● バック	O	—
優先出庫方向（並列）	● 右 ● 左	O	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
優先出庫方向（縦列）	● 右 ● 左	O	—
駐車時の映像	● ワイド ● ノーマル	O	—
出庫時の映像	● ノーマル ● ワイド	O	—
駐車進路調整	● −3（内側）～3（外側）	O	—
道幅調整	● 標準 ● やや狭い ● 狭い	O	—
駐車位置調整（前向き）	● −3（後）～3（前）	O	—
駐車位置調整（バック）	● −3（後）～3（前）	O	—
後部取付部品設定	● 取付なし ● 10cm ● 20cm ● 30cm ● 40cm	O	—
登録した場所の消去	—	O	—

ドライブモードセレクトスイッチ

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
カスタムモード時のパワートレーン制御	● Normal ● Sport ● Eco ● Range	O	—
カスタムモード時のステアリング制御	● Normal ● Sport	O	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
カスタムモード時のエアコン作動	● Normal ● Eco ● Range	O	—

エアコン

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる（内外気切替 AUTO スイッチ連動）(1)	● する ● しない	O	O
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる（エアコン AUTO スイッチ連動）(1)	● する ● しない	O	O
ステアリングヒーター AUTO モード時の温度調整(1)(2)	● 標準 ● −2（涼しめ）～＋ 2（暖かめ）	O	O
運転席自動シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度調整(1)	● 標準 ● −2（涼しめ）～＋ 2（暖かめ）	O	O
助手席自動シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度調整(1)	● 標準 ● −2（涼しめ）～＋ 2（暖かめ）	O	O

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

(2) センターディスプレイには“作動時間” と表示される場合がありますが、温度調整の設定項目になります。

イルミネーション

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
室内灯の消灯までの時間(1)	● OFF ● 7.5 秒 ● 15 秒 ● 30 秒	O	O
パワースイッチ OFF 後の作動	● あり ● なし	—	O

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
接近時の照明の点灯	● あり ● なし	—	O
ロック解除時の照明の点灯	● あり ● なし	—	O
車室内足元照明の点灯	● あり ● なし	—	O
ドアトリム照明、インサイドハンドル照明、小物入れ照明の点灯	● あり ● なし	—	O
アウトサイドドアハンドル照明の消灯までの時間(1)	● OFF ● 7.5 秒 ● 15 秒 ● 30 秒	O	O
接近時のアウトサイドドアハンドル照明の点灯	● あり ● なし	—	O
ロック解除時のアウトサイドドアハンドル照明の点灯	● あり ● なし	—	O
ドアを開けた時のアウトサイドドアハンドルの点灯	● あり ● なし	—	O
アウトサイドドアハンドルの消灯時のフェードアウト	● 短い ● 長い	—	O
ロック後の室内外照明の点灯	● あり ● なし	—	O
照明色の選択(1)	● シルキーホワイト ● カスタム	O	—
輝度の調整(1)	● 任意の輝度 ● 最大の輝度	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

充電システム

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
充電電流(1)	● 8A ● 16A ● 24A ● Max	O	—
充電量上限	● 50% ● 60% ● 70% ● 80% ● 90% ● Full	O	—
急速充電電力	● 50 kW ● 75 kW ● 100 kW ● 125 kW ● Max	O	—
電池冷却	● あり ● なし	O	—

(1) 100V での充電時には、この設定は反映されません。(→P.61)

ドライブスタートコントロール

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
後退速度の抑制制御(1)	● あり ● なし	O	—

(1)「なし」に変更しても、パワースイッチを ON にするたびに「あり」に戻ります。

パワースイッチ

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ACC カスタマイズ ACC の ON／OFF を切りかえる	● ON ● OFF	O	—

初期設定が必要な項目

補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワーバックドア	● 補機バッテリーの充電／交換後の再接続時	P.161
バックガイドモニター	● 補機バッテリーの充電／交換後の再接続時	別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照
パノラミックビューモニター	● 補機バッテリーの充電／交換後の再接続時	別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照
タイヤ空気圧警報システム	● 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき ● タイヤのサイズを変更するなどして、タイヤの設定空気圧を変更したとき	P.604
クリアランスソナー	補機バッテリーを脱着した時やあがったとき	P.458
パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）	補機バッテリーを脱着した時やあがったとき	P.483

フリー／オープンソースソフトウェア情報

ウォーターポンプ

AWD 向けインバータウォータポンプは、オープンソースソフトウェアのライセンスが適応されたソフトウェアを含みます。

このようなオープンソフトウェアのライセンス情報は以下の URL で入手することができます。

This product (inverter water pump for AWD vehicles) includes software that is licensed under open-source software.

You can find license information for this free and open-source software at the following URL.

https://www.aisin.com/info/ewp/license001.html

デジタルキー

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/dkey/toyota/

計器類

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/meter/toyota/

ITS Connect

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/v2x/toyota/

補足

不正改造防止や車両データの記録などの補足情報

不正改造の防止

- レクサスが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するといった車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

  また、このような改造は Lexus Safety System +のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。

  ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店へご相談ください。
  - タイヤ／ディスクホイール／ホイール取り付けボルトの交換

    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - 電装品／無線機の取り付け／取りはずし

    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

    RF 送信機の取り付けについては、(→P.773)も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席／助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。

  視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

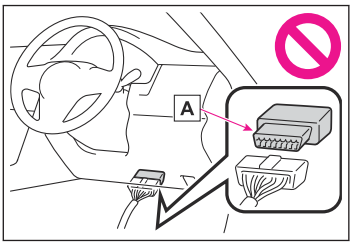
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

レクサス純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してレクサスは保証いたしません。

運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

故障診断コネクターなどへの電装品の取り付け禁止



故障診断コネクターAなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、補機バッテリーがあがったりするといった思わぬトラブルを招くおそれがあります。

車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されています。

■ コンピューター（マルチメディアシステム除く）に記録されるデータ*1

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（電気モーター回転数、アクセルペダルの操作状況／ブレーキペダルの操作状況、車速など）
- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される、車両の挙動に関する基本的なデータも含みます）
- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方／後方／周辺／ドライバーモニターのカメラの画像）*2
- 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名／性別／年齢等）は車両に記録されません。

■ Lexus Safety System +によるデータの記録／個人情報の取扱いについて

トヨタ自動車は、Lexus Safety System+により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- EV システム始動後の一定のタイミング

*1: グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

*2: 車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかはレクサス販売店にお問い合わせください。

Lexus Safety System+によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取扱いについての詳細は、G-Link ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

車両に記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信などがあります。以下、これらを「個別サービス」といいます）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Lexus Safety System+によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。レクサス以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がレクサスに代わり、レクサスから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。
- 自動運転／先進安全／地図関連技術のための研究開発（技術／商品開発／品質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合
- 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- レクサスと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

知識

車両に記録されている画像データおよびそれに付随する一部のデータは、レクサス販売店にて、消去することが可能です。

また、画像データを記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Lexus Safety System +によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My LEXUS より停止いただけます。詳細は、My LEXUS のマイページをご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。

EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

- EDR データの情報開示

  次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

  - お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
  - 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
  - レクサスが訴訟で使用する場合

  ただし、レクサスは

  - データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
  - 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けに関する注意

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EV システム
- EFI コンピュータ
- Lexus Safety System +
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域／電力レベル／アンテナ位置／取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊“メンテナンスノート”に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

レクサス販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.543）の機能が利用可能になります。詳細については、レクサス販売店にお問い合わせください。

アクセサリーパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。

ご購入いただきましたアクセサリーパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。

商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。

なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなう CO2 排出量の低減が見込まれます。

持続可能な社会を構築するためにレクサスはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリーパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。

URL:https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html

なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、レクサス販売店にご相談ください。

QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

高電圧部品に貼り付けられている記号について

パワーコントロールユニットなどの高電圧部位には、取り扱いに注意することを示すラベルが貼付されている場合があります。

記号の示す意味は次のとおりです。

記号	意味
	危険であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。
	手で触れてはいけない部位であることを示しています。
	高温部位であることを示しています。

A

A/C
エアコン を参照
ABS
アンチロックブレーキシステム を参照
ACA
アクティブコーナリングアシスト を参照
Advanced Park..... 492
操作.....501
AHB.....233
AHS.....229
AWD
オールホイールドライブ を参照

D

DIRECT4
電気式 AWD システム を参照

E

E-Four
電気式 AWD システム を参照
EDR
イベントデータレコーダー を参照
EPS
エレクトリックパワーステアリング を参照

F

FCTA..... 413

I

ISOFIX
アイソフィックス／イソフィックス を参照
ITS Connect..... 562,565,566
通信利用型レーダークルーズコントロール..... 429

L

LCA..... 398
LDA
レーンディパーチャーアラート を参照
Lexus Safety System +..... 370
Lexus Safety System +
LDA（レーンディパーチャーアラート）. 402
PCS（プリクラッシュセーフティ）382
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）..... 407
ドライバーモニター（どらいばーもにたー）..... 380
レーダークルーズコントロール.....422
LTA.....393

P

PCS..... 382
PCS
プリクラッシュセーフティ を参照
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）.....407
PKSB（パーキングサポートブレーキ）479

R

RCD
リヤカメラディテクション を参照
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....467
RSA..... 418

S

S-Flow
フロント席集中送風モード.....275
S-VSC
ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール を参照
SYNC スイッチ
シンクロスイッチ を参照

T

TRC
トラクションコントロール を参照

V

VSC
ビークルスタビリティコントロール を参照

あ

ITS Connect..... 562,565,566
アウターミラー.....190
アウターミラー（ドアミラー）
ミラーヒーター..... 249
アウトサイドドアハンドル照明.....292
アクセサリーコンセント 313
アクセサリーモード..... 196
アクティブコーナリングアシスト（ACA）
.....360
足元照明.....292
アダプティブハイビームシステム.....229
アドバンスト ドライブ（渋滞時支援） 441
アラーム
オートアラーム 145
アラーム
警告ブザー..... 634
安心降車アシスト.....452
アンチロックブレーキシステム（ABS）
ABS＆ブレーキアシスト警告灯.....636
アンチロックブレーキシステム（ABS）..
.....360
アンテナ（スマートエントリー＆スタート システム） 128

い

イグニッションスイッチ（パワースイッチ）
EV システム始動のしかた..... 194
モードの切りかえ..... 196
位置交換.....617
イベントデータレコーダー（EDR）. 773
イモビライザーシステム..... 144
インサイドハンドル照明..... 292
インジケーター.....334
インジケーター（表示灯）
エラーインジケーター.....41,706
充電インジケーター（普通充電ケーブル）.....41
電源インジケーター..... 41
普通充電インジケーター（普通充電ポート）..... 37
普通充電ケーブル..... 41
インテリアランプ.....293
インナーミラー.....182,183
リヤカメラウォッシャー.....246
イーアクスル
メンテナンスデータ..... 742,743
EV システム.....24
運転のアドバイス..... 32
オーバーヒート..... 732
回生ブレーキ..... 24
急速充電のしかた..... 66
緊急始動機能..... 663
緊急停止システム..... 30,633
高電圧部位..... 27
サービスプラグ..... 27
事故が発生したとき..... 27
始動できないときは.....
.....663,665,671-673
始動方法..... 194
車両接近通報装置..... 26
注意.....27
電気モーター..... 24
電欠になったとき..... 30
特徴.....24
特有の音と振動..... 25

パワースイッチ（イグニッションスイッチ）.....194
普通充電のしかた.....58
補機バッテリーがあがった.....665
メンテナンス・修理・廃車するとき.25

う

ウインドウ
ウォッシャー.....244
リヤウィンドウデフォッガー.....248
ウインドウロックスイッチ.....153
ウォッシャー.....244
液の補給.....596
スイッチ.....244
タンク容量.....744
冬の前の準備・点検.....250
ウォーニングランプ
警告灯.....332,634
雨滴感知式ワイパー.....242
運転
寒冷時の運転.....252
走行可能距離.....34
電気自動車運転のアドバイス.....32
運転席／助手席シートベルト非着用警告灯.....638

え

エアコン
「ナノイー X」.....275
オートエアコン.....274
曇り取り.....247
フィルターの清掃.....597
フロント席集中送風モード（S-Flow）.....275
マイルームモード.....85
エアコン・デフォッガー.....274
エコ空調モード.....275
M モード.....208
M モード
操作.....208
エレクトリックパワーステアリング
パワーステアリング警告灯....636,637
エレクトリックパワーステアリング（EPS）.....360

お

お子さまを乗せるとき 109
お子さまの安全のために 109
チャイルドシート 110
チャイルドシートの取り付け 110
オドメーター
機能.....338
切りかえ／リセット.....342
オートアラーム 145
オートエアコン.....274
オートマチックハイビーム.....233
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）
作動.....228
オーバーヒート.....732
オープナー
ボンネット.....594

か

外気温度表示.....338
回生ブレーキ.....25
外部給電.....87
給電口.....88
外部電源供給システム.....87
カスタマイズ機能.....746
型式.....745
カメラ
ドライバーモニター.....380
白線認識用カメラ（LDA）.....402
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）.....248

寒冷時の運転.....252
カーテシランプ
位置.....292
カードキー.....124
カーペット
洗浄.....591
フロアマットの取り付け方.....22

き

給油口
給油口が開けられない.....698
緊急始動機能（EV システム）.....663
緊急時の対処
EV システムが始動できない.....663,665,671-673
オーバーヒートした..... 732
キーの電池が切れた..... 664,686
車から避難する..... 631
車を緊急停止する..... 630
警告灯が点灯／点滅した.....634
車中泊が必要なときは.....739
車両運搬車を使用する.....723
水没／冠水したときの対処.....632
タイヤがパンクした..... 674
他車を使用したけん引.....724
ディスプレイに警告メッセージが表示された..... 644
電子キーが正常に働かない.....664
発炎筒.....629
補機バッテリーがあがった.....665
レッカー車を使用したけん引.....720
緊急停止システム.....30,633
緊急ブレーキシグナル..... 360
キー..... 124
EV システムが始動できない.....663,665,671-673
キーレスエントリー..... 128
キーをなくした..... 685
正常に働かない..... 664,686
電子キー..... 124
電池が切れた..... 686
キーレスエントリー
スマートエントリー＆スタートシステム..... 128

く

空気圧（タイヤ）.....744
メンテナンスデータ..... 744
区間距離計.....338
駆動用電池
充電について..... 35
搭載位置..... 24
バッテリープレコンディショニング. 80
駆動用電池残量計.....338
曇り取り
フロントガラス..... 247
ミラーヒーター..... 249
リヤウィンドウデフォッガー.....248
クラクション（ホーン）..... 258
クリアランスソナー.....458
クリアランスソナー OFF 表示灯... 642
操作.....459
クリアランスランプ（車幅灯）.....224
ランプスイッチ..... 224
車を緊急停止する.....630
クルーズコントロール..... 422,433
レーダークルーズコントロール..... 422
クーリングシステム
メンテナンスデータ..... 742

け

警音器（ホーン）..... 258
計器類（メーター）
警告灯.....332
計器類（メーター）..... 338
照度調整..... 355

表示灯.....334
表示内容.....347
ヘッドアップディスプレイ.....345
マルチインフォメーションディスプレイ.....343
警告灯..... 332,634
EV システム異常警告灯.....635
運転支援情報表示灯..... 642
運転席／助手席シートベルト非着用警告灯.....638
LTA 表示灯.....641
LDA 表示灯..... 641
ABS＆ブレーキアシスト警告灯.....636
駆動用電池充電警告灯.....635
クリアランスソナー OFF 表示灯... 642
充電警告灯..... 635
スリップ表示灯..... 643
タイヤ空気圧警告灯..... 639
パワーステアリング警告灯....636,637
パーキングブレーキ表示灯.....643
PCS 警告灯..... 641
ブレーキ警告灯..... 634
プロアクティブドライビングアシスト表示灯..... 641
リヤ席シートベルト非着用警告灯.. 639
レーダークルーズコントロール表示灯.. 641
警告ブザー.....634
衝突警報.....383
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 428
半ドア.....136
プリクラッシュブレーキ.....383
窓開.....151
警告メッセージ.....644
警告ラベル（EV システム）..... 27
傾斜センサー（オートアラーム）.....147
けん引
車両運搬車を使用する.....723
他車を使用したけん引.....724
レッカー車を使用したけん引.....720

こ

交換
タイヤ.....618
電球（バルブ）..... 738
ヒューズ.....736
工具..... 619
降車オートロック機能..... 140
航続可能距離.....338
後退速度の抑制制御（ドライブスタートコントロール）..... 551
後退灯
電球（バルブ）の交換.....738
高電圧部位.....27
後方車両接近告知.....530
後方車両への接近警報..... 537
子供専用シート 110
子供専用シート
取り付け方..... 111
子どもを車に乗せる
チャイルドプロテクター.....109
発炎筒の取り扱いに関する警告.....629
子どもを乗せるとき
ウインドウロックスイッチ.....153
シートベルトの着用..... 179
補機バッテリーに関する警告.....690
コンライト（自動点灯／消灯装置）..224
コーナリングランプ..... 228
電球（バルブ）の交換.....738
ランプ.....228

さ

サイド方向指示灯／非常点滅灯
電球（バルブ）の交換.....738

サイドミラー.....**190**
サイドミラー（ドアミラー）
ミラーヒーター..... 249
サンバイザー.....**238**
サービスプラグ.....**27**

し

事故が発生したとき（EV システムの注意）
.....**27**
始動のしかた.....**194**
シフトポジション
インタラクティブマニュアルドライブ..
..... 208
シフトポジションの使用目的..... 202
シフトポジションの切りかえ..... 203
シフトレンジの切りかえ..... 215
車中泊が必要なときは..... **739**
ジャッキ
ガレージジャッキ..... 615
車載ジャッキ..... 619
ジャッキハンドル.....**619**
車幅灯（スモールランプ）..... **224**
ランプスイッチ..... 224
車両型式.....**745**
車両仕様（スペック）..... **742**
車両接近通報装置.....**26**
車両データの記録.....**771**
充電
急速充電.....66
車載充電器.....58
充電装備.....35
充電に関するアドバイス.....52
充電に関する警告..... 58,66
充電のしかた..... 58,66
充電方法.....49
充電リッドの開閉..... 36
正常に急速充電・V2H 充電／V2H 給電
できない..... 701
正常に充電できない..... 699,700
タイマー充電機能..... 72
電源について..... 45,49
バッテリープレコンディショニング. 80
V2H 充電.....66
普通充電.....58
普通充電ケーブル..... 39
マイルームモード..... 85
充電ケーブル（普通充電ケーブル）
安全機能.....41
インジケーター..... 41
コントロールユニット.....40
充電ケーブルに関する警告.....39
普通充電コネクターを解錠できないとき
.....43
充電ポート
急速充電リッド..... 35
充電リッドの開閉..... 36
普通充電コネクターの施錠・解錠.... 43
普通充電リッド..... 35
周辺車両接近時サポート..... **533**
衝撃感知ドアロック解除システム.....**140**
仕様（車両仕様）.....**742**
初期化..... **768**
初期設定.....**768**
侵入センサー（オートアラーム）.....**147**
シート..... **175,176**
シート
チャイルドシート 110
シート
調整.....175
パワーイージーアクセスシステム.. 268
ヘッドレスト..... 176
メモリーコール機能..... 269,271
シートヒーター.....**284**
シートベルト
緊急時シートベルト固定機構.....180

子どもの着用..... 179
シートベルト非着用警告灯....638,639
高さ調節..... 181
着ける／はずす..... 180
手入れ.....591
シートベルト非着用警告灯..... 638,639
シートベルトプリテンショナー
機能.....552
シートベンチレーター..... 286

す

スイッチ
メーター操作..... 347
PKSB.....480
TRC OFF.....360
VSC OFF.....360
ウインドウロック..... 153
ウォッシャー..... 244
M モードスイッチ.....208
クリアランスソナー..... 459
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）.....424
SYNC スイッチ..... 274
侵入・傾斜センサー OFF.....147
調整.....175
ドアミラー..... 190
ドアロック..... 141
ハザードランプ..... 629
パドルシフトスイッチ.....208,215
パワーウインドウ..... 152
ハンドル位置調整..... 182
ホーン（警音器）..... 258
マルチウェザーライト.....254
ランプ.....224
リヤカメラディテクション.....475
レーダークルーズコントロール.....422,424
ワイパー.....242
ステアバイワイヤ.....360
ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール（S-VSC）. 360
ステアリングヒーター..... 283
ステアリングホイール..... 182
ステアリングホイール（ハンドル）
パワーイージーアクセスシステム.. 268
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル.....360
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 250
スピードメーター.....338
スペック（車両仕様）..... 742
スマートエントリー＆スタートシステム.....128
アンテナの位置..... 128
EV システムの始動方法..... 194
カスタマイズ設定..... 746
緊急始動機能..... 663
正常に働かない..... 686
正常に働かないとき..... 664
節電機能.....124
ドアのロック／ロック解除.....140
バックドアの解錠..... 161
スモールランプ（車幅灯）..... 224
ランプスイッチ..... 224
スリップ表示灯.....360

せ

清掃..... 586
シートベルト..... 591
ホイール／ホイールキャップ.....577
マットクリア塗装..... 581
制動灯
緊急ブレーキシグナル.....360
セカンダリーコリジョンブレーキ.....360,540
積算距離計.....338
セキュリティインジケーター..... 144

セキュリティインジケーター 145
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 428
センサー
インナーミラー..... 239
雨滴感知センサー..... 243
LDA（レーンディパーチャーアラート）..... 402
侵入・傾斜センサー..... 147
ライトセンサー..... 224
洗車..... 586
前照灯（ヘッドランプ）..... 224
ライトセンサー..... 224
ランプ消し忘れ防止機能..... 226
ランプスイッチ..... 224
センターコンソール照明..... 292

そ

走行時間..... 349,354
送信機..... 605
速度計..... 338

た

タイマー充電機能..... 72
タイヤ
空気圧..... 613,744
交換..... 618
タイヤがパンクした..... 674
チェーン..... 250
冬用タイヤ..... 250
ホイールサイズ..... 744
ローテーション..... 617
タイヤ空気圧警報システム..... 604
ID コードを切りかえる..... 611
ID コードを登録する..... 609
空気圧バルブ／送信機..... 605
警告メッセージ..... 645
タイヤ空気圧警告灯..... 639
タイヤの位置を登録する..... 606
タイヤの空気圧を設定する..... 607
タイヤチェーン..... 250

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 250
チャイルドシート 110
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け 121
シートベルトでの固定 119
選択方法 110
チャイルドプロテクター..... 109
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）
冬季の注意..... 252

つ

通信利用型レーダークルーズコントロール..... 429
ツール..... 619

て

ディスプレイ
レーダークルーズコントロール..... 424
手入れ..... 581,586
外装..... 581,586
シートベルト..... 591
ホイール／ホイールキャップ..... 577
マットクリア塗装..... 581
デジタルインナーミラー..... 183
リヤカメラウォッシャー..... 246
デジタルキー 133
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）..... 248
電気式 AWD システム（DIRECT4） 360
電気式 AWD システム（E-Four）... 360
電気モーター..... 24
電球（バルブ）
交換..... 738
電欠になったとき..... 30

点検..... **602**
点検基準値（メンテナンスデータ）..**742**
電子キー.....**124**
作動範囲..... 128
正常に働かないとき..... 664
節電機能..... 124
電池が切れた..... 664,686
電池交換..... 686
電池交換（キー） **686**
電費..... **348,349,354**
テールランプ（尾灯） **224**
ランプスイッチ..... 224

と

ドア
クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能..... 143
衝撃感知ドアロック解除システム.. 140
スマートエントリー＆スタートシステム..... 128
チャイルドプロテクター..... 109
ドアロックスイッチ..... 141
開かない..... 693
ドアガラス
開閉しない..... 730
ドアカーテシランプ
位置..... 292
ドアトリム照明..... **292**
ドアミラー..... **190**
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 467
安心降車アシスト..... 452
格納のしかた..... 191
操作..... 190
BSM（ブラインドスポットモニター）.. 446
ミラーヒーター..... 249
盗難防止装置
イモビライザーシステム..... 144
盗難防止装置
オートアラーム 145
時計..... **338**
トップテザーアンカレッジ **122**
ドライバー異常時対応システム.....**438**
ドライビングポジションメモリー
ポジションメモリー..... 269
メモリーコール機能..... 269,271
ドライブスタートコントロール
急発進の抑制制御..... 551
後退速度の抑制制御..... 551
トラクションコントロール（TRC）..**360**
トランスミッション
シフトダウン制限警告ブザー..... 215
操作..... 202
メンテナンスデータ..... 742
トリップメーター
機能..... 338
切りかえ／リセット..... 342

な

「ナノイー X」 **275**

に

荷物
積むときの注意..... 155

は

ハイビーム（ヘッドランプ） **224**
ランプスイッチ..... 224
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換..... 738
挟み込み防止機能..... **151**

パワーバックドア..... 156
ハザードランプ
スイッチ.....629
発炎筒..... 629
バックドア.....156
開かない.....697
発進遅れ告知機能.....416
BEV（バッテリーエレクトリックビークル）..... 24
バッテリー（駆動用電池）
バッテリープレコンディショニング. 80
バッテリープレコンディショニング....80
バッテリー（補機バッテリー）
搭載位置.....594
補機バッテリーがあがった.....665
バッテリー（駆動用電池）
充電について..... 35
搭載位置..... 24
パドルシフトスイッチ..... 208,215
バルブ（電球）.....738
パワーウインドウ
ウインドウロックスイッチ.....153
操作.....152
ドアロック連動ドアガラス開閉機能.....
.....153
挟み込み防止機能..... 151
パワースイッチ
車を緊急停止する..... 630
パワーステアリング..... 360
パワーステアリング警告灯....636,637
パワーバックドア.....156
挟み込み防止機能..... 156
バックドア自動開停止位置調整..... 172
バックドア予約ロック機能.....171
ハンズフリーパワーバックドア..... 167
パワー（イグニッション）スイッチ
EV システム始動のしかた..... 194
モードの切りかえ..... 196
パンクした
タイヤパンク応急修理キット.....674
番号灯
電球（バルブ）の交換.....738
番号灯（ライセンスプレートランプ）224
ランプスイッチ..... 224
ハンズフリーパワーバックドア.....167
ハンドル.....182
位置調整..... 182
ハンドル（ステアリングホイール）
パワーイージーアクセスシステム.. 268
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....487
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 489
**パーキングサポートブレーキ（静止物）..
.....483**
パーキングブレーキ..... 218
冬季の注意..... 252
パーキングブレーキ表示灯.....643
未解除走行時警告ブザー.....218
パーソナルランプ..... 294

ひ

非常時給電システム 313
非常点滅灯.....629
尾灯（テールランプ）..... 224
ランプスイッチ..... 224
尾灯／制動灯
電球（バルブ）の交換.....738
ヒューズ
交換.....736
表示灯..... 334
日よけ（サンバイザー）..... 238
ヒルスタートアシストコントロール..360

ビークルスタビリティコントロール（VSC）.....360
ヒーター
エアコン・デフォッガー.....274
駆動用電池.....49
ミラーヒーター.....249

ふ

V2H 給電.....66
フォグランプ.....256
輻射ヒーター.....284
ブザー
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....428
ドライバーモニター.....380
窓開警告.....151
普通充電ケーブル
安全機能.....41
インジケーター.....41,706
コントロールユニット.....40
充電ケーブルに関する警告.....39
普通充電コネクターを解錠できないとき.....43
普通充電コネクターをロック解除できないとき.....704
普通充電コネクターの施錠・解錠.....43
フック
フロアマット固定フック.....22
冬の前の準備（寒冷時の運転）.....250
冬用タイヤ.....250
フューエルリッド（給油口）
給油口が開かない.....698
BSM（ブラインドスポットモニター）446
プリクラッシュセーフティ.....382
PCS 警告灯.....641
プリクラッシュセーフティ（PCS）
機能.....382
ブレーキ
回生ブレーキ.....24
緊急ブレーキシグナル.....360
ブレーキ警告灯.....634
メンテナンスデータ.....743
ブレーキアシスト.....360
ブレーキアシスト
ABS＆ブレーキアシスト警告灯.....636
ブレーキフルード.....743
ブレーキホールド
警告メッセージ.....649
ブレーキホールド作動表示灯.....643
フロアマット.....22
フロントクロストラフィックアラート.....413
フロントシート.....175
調整.....175
パワーイージーアクセスシステム..268
ヘッドレスト.....176
メモリーコール機能.....269,271
フロントフォグランプ
電球（バルブ）の交換.....738
フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブ）
電球（バルブ）の交換.....738
ブースターケーブルのつなぎ方.....690

へ

ヘッドアップディスプレイ.....345
ヘッドランプ.....224
クリーナー.....244
電球（バルブ）の交換.....738
ライトセンサー.....224
ランプ消し忘れ防止機能.....226
ランプスイッチ.....224
ヘッドランプオートレベリングシステム.....228
ヘッドレスト.....176

ほ

ホイール
交換……618
メンテナンスデータ……744
ホイールボルトレンチ……619
補機バッテリー
搭載位置……594
補機バッテリーがあがった……665
補機バッテリーがあがった……686
保証……774
ボンネット……594
開け方……594
ホーン（警音器）……258

ま

マイセッティング……266
マイルームモード……85
巻き込み防止機能……151
Max cool……275
Max heat……275
マットクリア塗装のお手入れ……581,586,588
マルチインフォメーションディスプレイ……343
警告メッセージ……644
操作……347
レーダークルーズコントロール……424
マルチウェザーライト……254
スイッチ……254

み

ミラー
インナーミラー……182
デジタルインナーミラー……183
ドアミラー……190
ミラーヒーター……249
リヤカメラウォッシャー……246

め

メモリーコール機能……269,271
メンテナンスデータ……742
メーター（計器類）……338
警告灯……332
照度調整……355
表示灯……334
表示内容……347
ヘッドアップディスプレイ……345
マルチインフォメーションディスプレイ……343

も

モータールーム……594
モータールームから蒸気が出ている……732
モーター（電気モーター）……24

ゆ

油脂類……742
ユーザーカスタマイズ機能……746

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）224
ランプスイッチ……224
ラジエーター
オーバーヒート……732
ランプ
ハザードランプ……629
ヘッドランプ（前照灯）……224
ライトセンサー……224
ランプ消し忘れ防止機能……226
リヤフォグランプ……256
ランプ消し忘れ防止機能……226

り

リバース連動機能..... **190**
リヤウィンドウデフォッガー
フロントガラス..... 248
リヤカメラディテクション
操作.....475
リヤシート.....**176**
ヘッドレスト..... 176
リヤ席シートベルト非着用警告灯.....**639**
リヤドア
内側から開けられない.....696
リヤフォグランプ..... **256**
電球（バルブ）の交換.....738
リヤ方向指示灯／非常点滅灯
電球（バルブ）の交換.....738

る

ルームミラー.....**182,183**
リヤカメラウォッシャー.....246

れ

冷却水..... **742**
冬の前の準備..... 250
メンテナンスデータ..... 742
冷却装置（クーリングシステム）.....**742**
メンテナンスデータ..... 742
レクサスクライメイトコンシェルジュ.....
.....**273**
レバー
ボンネット解除..... 594
レーダークルーズコントロール.....**422**
警告メッセージ..... 424
接近警報.....428
レーンチェンジアシスト..... **398**
レーンディパーチャーアラート（LDA）..
.....**402**
レーントレーシングアシスト..... **393**

ろ

ロック
ウインドウロック..... 153
スマートエントリー＆スタートシステム..... 128
ロードサインアシスト..... **418**

わ

ワイパー＆ウォッシャー..... **242,244**
ウォッシャー液の補充.....596
ワイヤレスリモコン
作動の合図..... 140
節電機能..... 124
電池交換.....686
ドアのロック／ロック解除.....141
半ドア警告ブザー..... 136

「個人情報保護方針」については、https://lexus.jp にて掲載しております。



Publication No. M46139V
01-2611
RZ550e / RZ500e / RZ350e